

事後調査報告書

(工事中その2)

(案)

仙台市岩切山崎今市東土地区画整理事業

令和7年1月

仙台市岩切山崎今市東土地区画整理組合

目 次

1. 対象事業の概要	1
1.1 事業者の名称及び所在地	1
1.2 対象事業の名称、種類及び目的	1
1.3 事業実施の位置	1
1.4 事業の進捗状況及び事業計画変更の経緯	7
1.5 事業の内容	8
1.6 工事計画	62
2. 関係地域の範囲	74
3. 環境の保全及び創造のための措置の実施状況	76
4. 事後調査計画	86
4.1 事後調査の内容	86
4.2 事後調査のスケジュール	100
4.3 事後調査報告書の提出時期	104
5. 事後調査結果及び予測結果の検証	104
5.1 大気質	104
5.2 騒音	131
5.3 振動	145
5.4 地盤沈下(地下水の変化)	152
5.5 廃棄物等	161
5.6 温室効果ガス等	164
6. 環境影響評価事後調査の委託を受けた者の名称等	170

資料編

1. 対象事業の概要

1.1 事業者の名称及び所在地

事業者：仙台市岩切山崎今市東土地区画整理組合

代表者：高野 秀策

所在地：仙台市宮城野区岩切字今市東65番地

電話番号：022-396-0040

1.2 対象事業の名称、種類及び目的

1.2.1 事業の名称

仙台市岩切山崎今市東土地区画整理事業（以下、「本事業」という。）

1.2.2 事業の種類

土地区画整理事業

1.2.3 事業の目的等

事業区域は、区域中央を南北に縦断する主要地方道仙台松島線（以下、「仙台松島線」という。）の沿線において、病院や業務・サービス施設等の立地が進んでいる。また、区域内の市道沿線においてもクリニックや店舗等の他、戸建住宅（一部アパート）が点在しており、周辺地区を含む既存市街地と一体的な土地利用の展開、地域全体の利便性・快適性にも寄与する都市施設の整備が重要かつ不可欠となっている。

さらに東日本旅客鉄道株式会社（以下、「JR」という。）東北本線を挟んだ東側エリアで進行中の仙台貨物ターミナル駅移転計画（図1-1参照）と併せたまちづくりの整備が望まれている。

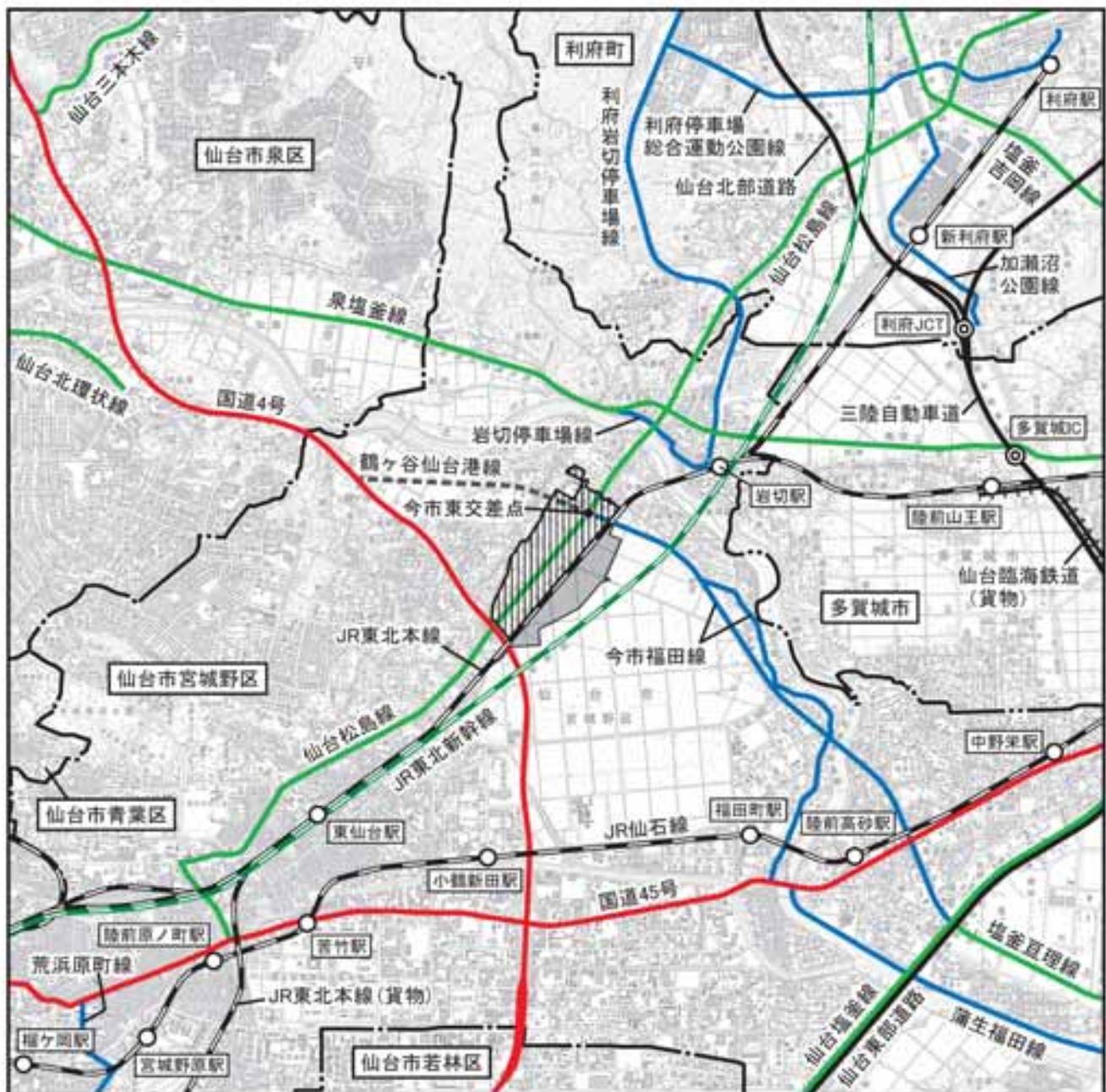
このことから、本事業は、交通利便性を活かした物流拠点の形成を図るとともに、道路等の公共施設の整備改善及び宅地の利用度を高めることにより健全で良好な市街地を形成するものとし、商業等の生活利便施設の誘致に加え、既存の小学校、医療施設等との連携によって質の高い居住環境を整備し、安全・安心で活力のあるまちづくりを目指す。

1.3 事業実施の位置

事業区域は、仙台市中心部から北東約6kmに位置し、東西約0.4km、南北約1.3kmの面積約48.3haの区域である。

事業区域の東側はJR東北本線に接しており、JR東北本線東仙台駅と岩切駅との間に位置している。また、南側は国道4号に、西側及び北側は既存市街地に接しており、中央には、仙台松島線が南北に縦断している。都市計画道路鶴ヶ谷仙台港線のうち塩釜亘理線及び県道今市福田線は既に現道として利用されており、県道今市福田線は事業区域北部を東西に通って西端は仙台松島線に接続している。都市計画道路鶴ヶ谷仙台港線のうち今市東交差点以西は、未整備である。

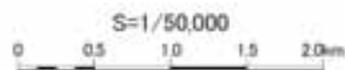
事業区域の位置は図1-1及び写真1-1に、周辺の状況は写真1-2(1)～(3)に示すとおりである。



凡例

- | | | | |
|---|--------|---|-----------------|
|  | 事業区域 |  | JR新幹線 |
|  | 市町界 |  | JR在来線 |
|  | 区界 |  | 仙台臨海鉄道 |
|  | 高速道路 |  | 仙台貨物ターミナル駅移転計画地 |
|  | 国道 | | |
|  | 主要地方道 | | |
|  | 県道 | | |
|  | 都市計画道路 | | |

図1-1 事業区域の位置







No.1 岩切小学校西側門（南方向）



No.2 事業区域西側（南東方向）



No.3 デイリーヤマザキ仙台今市東店（北方向）



No.4 夢広場ニューセブン利府街道店（東方向）



No.5 仙台東脳神経外科病院（南東方向）



No.6 国道4号跨線橋（北東方向）

No.1～5：令和6年5月29日撮影

No.6：令和6年6月14日撮影

写真1-2(1) 事業区域及び周辺の状況（No.1～6）



No.7 国道4号跨線橋（北方向）



No.8 事業区域南側（北東方向）



No.9 事業区域西側（西方向）



No.10 事業区域西側（北東方向）



No.11 事業区域西側（北方向）



No.12 事業区域西側（西方向）

No.7～8：令和6年6月14日撮影
No.9～12：令和6年5月14日撮影

写真1-2(2) 事業区域及び周辺の状況（No.7～12）



No.13 事業区域西側（北西方向）



No.14 事業区域西側（南西方向）



No.15 今市福田線跨線橋（南西方向）



No.15 今市福田線跨線橋（北西方向）



No.16 JA仙台農業倉庫東側（南方向）

No.13～14,16：令和6年5月14日撮影
No.15：令和6年5月29日撮影

写真1-2(3) 事業区域及び周辺の状況（No.13～16）

1.4 事業の進捗状況及び事業計画変更の経緯

本事業は、環境影響評価書（以下、「評価書」という。）の提出後に、社会情勢の変化や事業採算性を踏まえ、関係機関との協議のうえ土地利用計画等の見直しを行った。評価書記載事項以降の事業の進捗状況及び事業計画変更の経緯は以下に示すとおりである。

なお、事業計画の変更に伴い、再予測・評価が必要となる可能性がある項目について、その必要性の有無を検討した結果、再予測・評価が必要となる項目はなかった。直近の「第3回変更」（変更内容は下記に示す。）における検討の詳細は、「事後調査報告書（工事中その1）仙台市岩切山崎今市東土地区画整理事業」（令和6年3月、仙台市岩切山崎今市東土地区画整理組合）に記載済みである。

令和2年5月15日	: 仙塩広域都市計画 区域区分の変更（市街化区域への編入）、用途地域の変更 告示
令和2年6月2日	: 評価書及び評価書要約書の公告、縦覧開始 （縦覧期間：令和2年6月2日～7月1日）
令和2年10月	: 事業計画の変更 （第1回変更：令和2年度第4回環境影響評価審査会で報告） ・土地利用計画の変更 ・交通量の変更 ・調整池形状の変更 ・土工量の増加
令和3年3月3日	: 組合設立認可
令和3年3月20日	: 組合設立（第1回総会開催）
令和3年4月1日	: 準備工（組合事務所設置、現場事務所設置、測量等）
令和3年6月21日	: 工事着手（土砂の搬入等）
令和4年7月～令和5年6月	: 工事中断
令和5年7月13日	: 工事再開
令和5年7月18日	: 事業計画の変更 （第2回変更：令和5年度第1回環境影響評価審査会で報告） ・事業工程の変更（工事の中断） ・工事計画（搬出入ルート）の変更 ・事後調査計画の変更
令和6年3月	: 事業計画の変更 （第3回変更：令和5年度第5回環境影響評価審査会で報告） ・土地利用計画の変更 ・公園・緑地計画の変更 ・交通量の変更 ・調整池の形状等の変更 ・造成計画の変更 事後調査報告書（工事中その1）の公告、縦覧開始 （縦覧期間：令和6年3月29日～4月30日）

1.5 事業の内容

1.5.1 基本方針

本事業によるまちづくりのイメージは、図1-2に示すとおりである。

各土地利用計画に基づいて、①流通業務用地（工業地）②沿道サービス・業務施設用地（商業地）③住宅地の3つのゾーンを設定し、それぞれの「調和と相乗効果」をテーマとして、付加価値の高い土地利用の実現、適切な企業誘致や上質な環境整備を目指す。

(1) 流通業務用地（工業地）

多賀城ICや仙台港ICにも至近であり、仙台都市圏高速環状ネットワーク「ぐるっ都・仙台」の利用により仙台塩釜港や仙台空港ともアクセスできるといった交通利便性、さらにJR貨物の仙台貨物ターミナル駅が隣接地区に移転予定であることを踏まえ、物流施設を中心とする機能集積を図る。

(2) 沿道サービス・業務施設用地（商業地）

既存の病院や店舗の営業環境を保全しつつ、区域内の居住者や就業者等の利便性向上のほか、近隣地域に対する“顔”（賑わいや情報発信）としての機能の導入を検討し、食品スーパーや飲食店舗等を中心に集積を図る。

(3) 住宅地

周辺の既存市街地との調和を図るとともに、安全な道路計画や快適な生活を実現する環境整備に取り組み、安心して生活できるゆとりある居住環境の形成を図る。



注) 評価書時点の図である。

図1-2 まちづくりのイメージ図

1.5.2 事業概要

本事業の概要は、表1-1に示すとおりである。なお、評価書公告以降に、3回の事業計画変更を行っており、その経緯は、「1.4 事業の進捗状況及び事業計画変更の経緯」に示したとおりである。なお、これ以降、第3回変更後の計画を「現計画」とする。

表1-1 本事業の概要

項目	概要	
	評価書	現計画
事業名称	仙台市岩切山崎今市東土地区画整理事業	
種類	土地区画整理事業	
位置	仙台市宮城野区岩切一丁目 外	
面積	約48.6ha	約48.1ha
主要用途	宅地（住宅地、物流用地）	
計画戸数	約240戸（一戸あたり約200㎡）	
計画人口	約576人（一戸あたり約2.4人）	
人口密度	約11.9人/ha	12.0人/ha
工事予定期間	令和3年1月～令和6年6月	令和3年1月～令和9年3月*
保留地処分期間	令和3年12月～令和6年9月 （処分後建築物の建設可能）	令和6年4月～令和9年3月* （処分後建築物の建設可能）
環境影響評価を実施することになった要件	仙台市環境影響評価条例第2条第3項第19号（平成10年12月16日、仙台市条例第44号）	
	地域区分：A地域 対象事業の要件：施行地区（土地区画整理法第2条第4項に規定する施行地区） の面積が10ヘクタール以上であるもの	

※ 令和6年11月時点の予定である。

1.5.3 土地利用計画

土地利用ごとの面積は表1-2に、土地利用計画図は図1-3(1)～(2)に示すとおりである。

事業区域面積は、現計画では評価書と比較し約0.5haの減少となった。土地利用別にみると、近隣サービス施設用地は約1.0haの減少、住宅用地は約0.9haの増加、流通業務施設用地は約0.7haの増加などとなった。

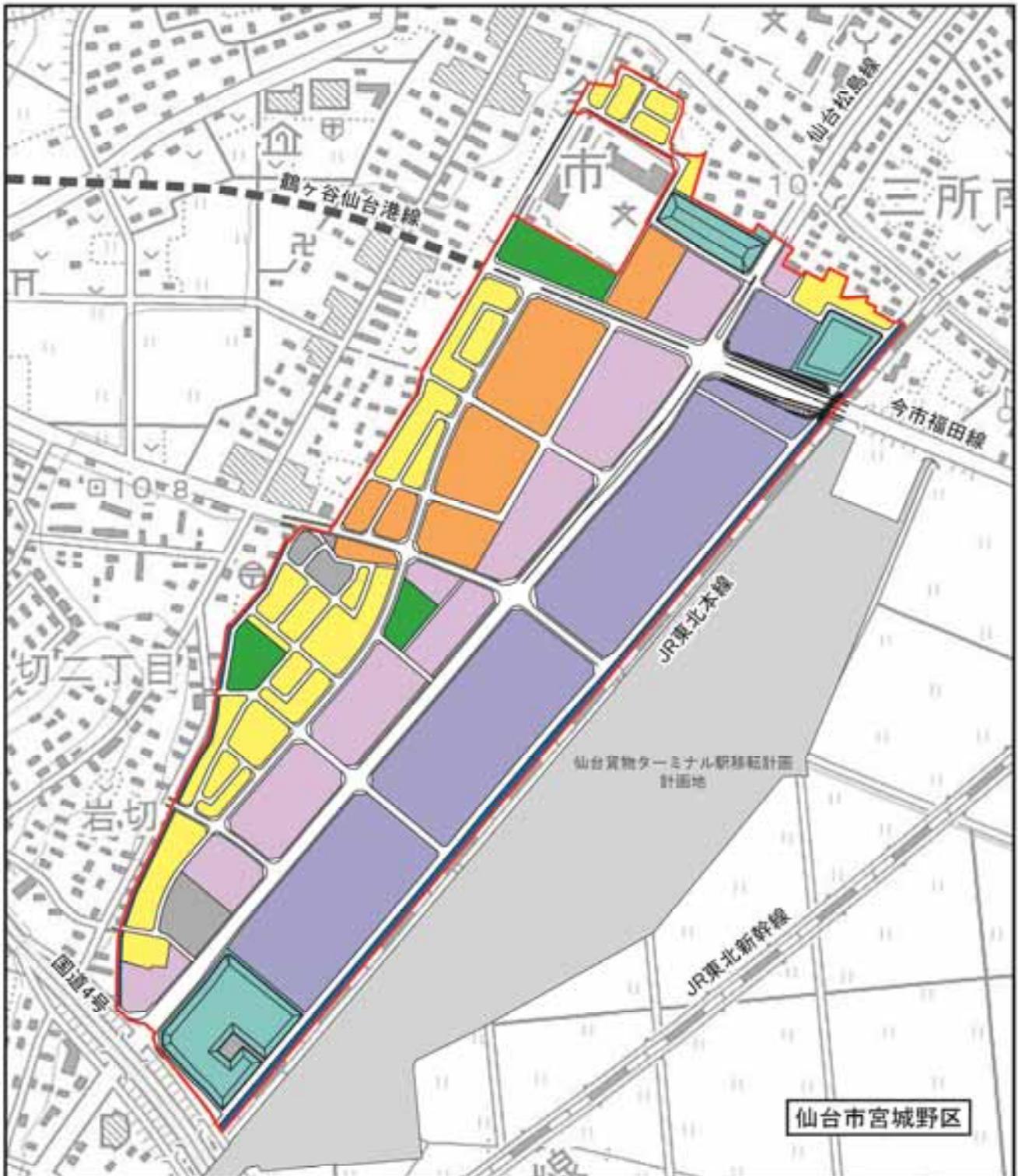
なお、土地利用計画の変更に伴う計画人口の変更はない。

表1-2 土地利用計画

土地利用	評価書		現計画		
	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	評価書 からの差 (ha)
沿道サービス・業務施設用地	約7.5	約15.4	約8.1	約16.8	約+0.6
流通業務施設用地	約13.0	約26.7	約13.7	約28.5	約+0.7
近隣サービス施設用地	約4.6	約9.5	約3.6	約7.5	約-1.0
住宅用地	約5.6	約11.5	約6.5	約13.5	約+0.9
公益施設用地	約0.9	約1.9	約1.0	約2.1	約+0.1
公園	約1.5	約3.0	約0.9	約1.9	約-0.6
道路	約11.4	約23.5	約11.9	約24.7	約+0.5
水路	約0.9	約1.9	約0.5	約1.0	約-0.4
調整池	約3.2	約6.6	約1.9	約4.0	約-1.3
計	約48.6	100.0	約48.1	100.0	約-0.5

注1) 沿道サービス施設：ドライブイン、ガソリンスタンド、飲食店等の幹線道路沿いに位置する施設

注2) 近隣サービス施設：スーパーマーケット、ドラッグストア等の周辺住民のためのサービス施設



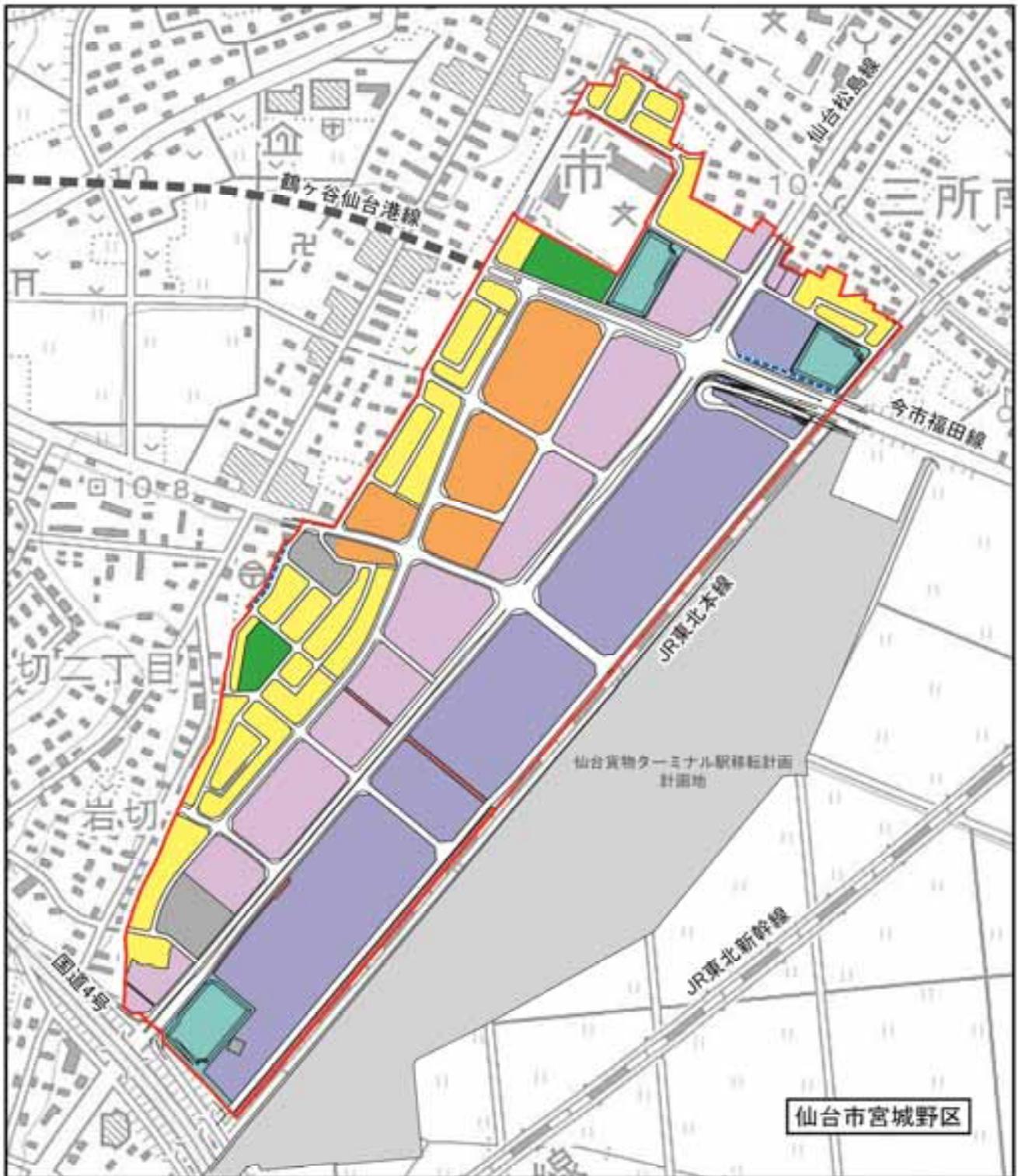
凡例

- | | | | |
|------------|---------------|--------|-----|
| 事業予定区域 | 沿道サービス・業務施設用地 | 公益施設用地 | 調整池 |
| 流通業務施設用地 | 公園 | 都市計画道路 | |
| 近隣サービス施設用地 | 道路 | 水路 | |
| 住宅用地 | | | |

図1-3(1) 土地利用計画図【評価書】

S=1/7,500
0 100 200 300 400m

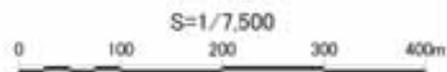




凡例

- | | | | |
|------------|---------------|----------|---------|
| 事業区域 | 沿道サービス・業務施設用地 | 公益施設用地 | 水路(下水道) |
| 流通業務施設用地 | 公園 | 調整池 | 都市計画道路 |
| 近隣サービス施設用地 | 道路 | 水路(農業用水) | |
| 住宅用地 | | | |

図1-3(2) 土地利用計画図【現計画】



1.5.4 交通計画

(1) 発生交通量

本事業の実施による計画（発生）交通量は表1-3に、走行ルート別交通量は図1-4(1)～(2)に示すとおりである。

現計画では、沿道サービス・業務施設用地の面積が増加したことから、評価書と比較し、平日は計83台/日、休日は計8台/日の増加となった。内訳は、流通（通勤）の関連車両は、平日62台/日、休日6台/日の増加、流通（物流）の関連車両は、平日21台/日、休日2台/日の増加である。また、走行ルート別にみると、増加分が最も多くなるのは、平日は国道4号線を南に向かうルートの34台/日、休日は同ルートの3台/日であった。大型車の増加分が最も多くなるのは、平日は国道4号線を南に向かうルートの9台/日、休日は同ルート及び今市福田線の1台/日であった。

なお、商業については、評価書において設定した建築面積1.8haに変更はないため、計画（発生）交通量に変化はない。また、住宅についても、建築面積は増加するものの、計画人口には変更がないことから、計画（発生）交通量に変化はない。

交通対策として、4交差点の構造改良や信号現示の見直し、滞留長の延長等の対策を講じることに評価書からの変更はない。また、道路計画にも変更はない。

表1-3 本事業の実施による計画（発生）交通量

単位：台/日

用途※	評価書		現計画 ()内は、評価書からの差		備考
	平日	休日	平日	休日	
商業	4,780	6,387	4,780 (± 0)	6,387 (± 0)	
住宅	435	435	435 (+ 0)	435 (+ 0)	
流通（通勤）	570	57	632 (+62)	63 (+ 6)	
流通（物流）	197	20	218 (+21)	22 (+ 2)	全て大型車（普通貨物車）
計	5,982	6,899	6,065 (+83)	6,907 (+ 8)	

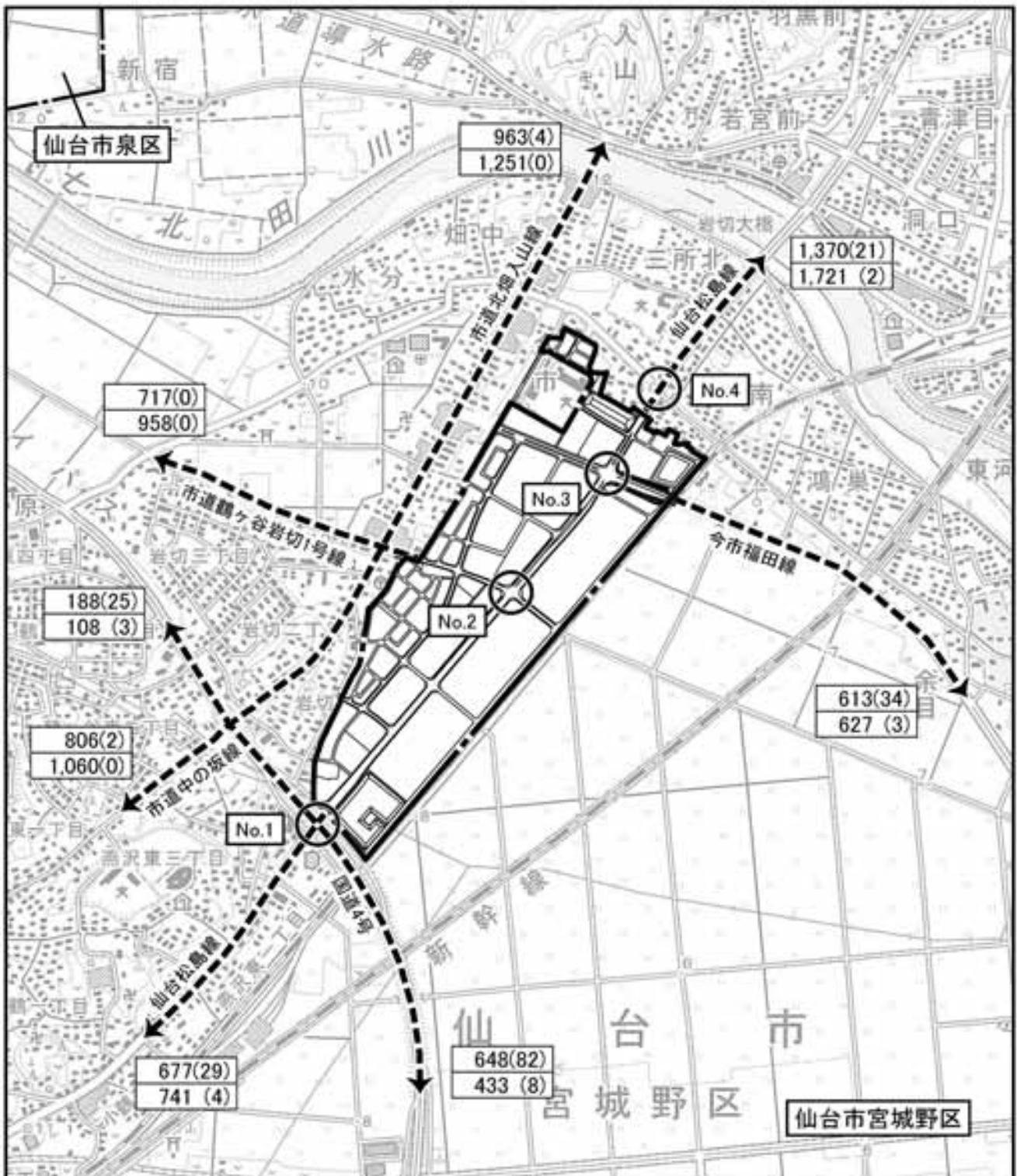
注) 数値は四捨五入しているため、図3-2(1)～(2)に示す台数と整合がとれないことがある。

※ 本事業の土地利用区分での以下に該当する。

商業：近隣サービス施設用地

住宅：住宅用地

流通：沿道サービス・業務施設用地 + 流通業務施設用地



凡例

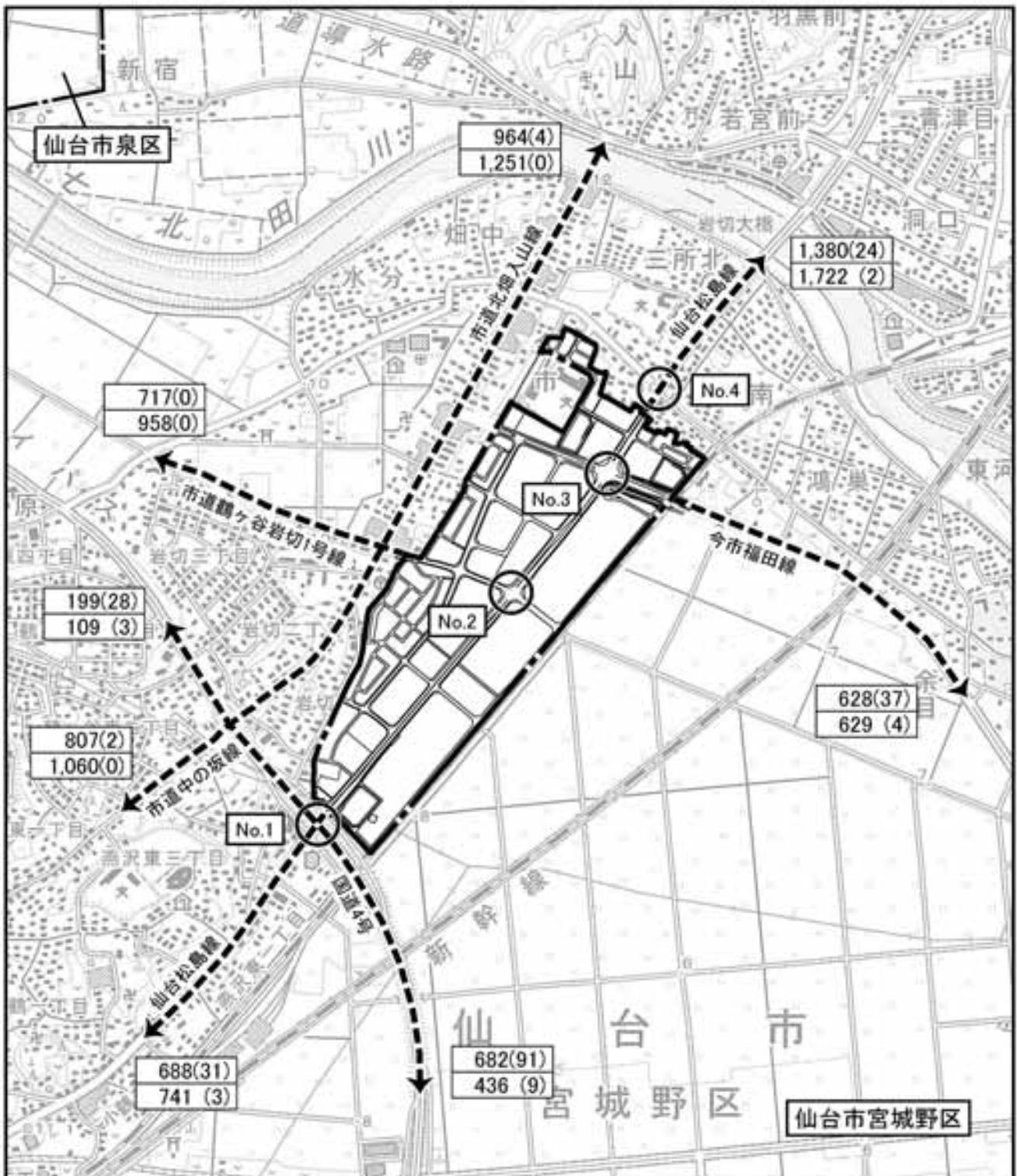
- 事業予定区域
- 区界
- 想定される主要な走行ルート

- 50(5) 発生交通量 (台/日)
- 50(5) 平日 ()内:大型車(内数)
- 50(5) 休日
- 解析対象交差点

注) 交差点No.は、表1-4~6に対応する。

図1-4(1)
施設関連車両走行ルート、発生交通量
及び交通解析対象交差点【評価書】





凡例

--- 事業区域

--- 区界

--- 想定される主要な走行ルート

50(5) 発生交通量 (台/日)

50(5) 平日 ()内:大型車(内数)

○ 解析対象交差点

注) 交差点No.は、表1-4~6に対応する。

図1-4(2)
施設関連車両走行ルート、発生交通量
及び交通解析対象交差点【現計画】

S=1/15,000
0 100 200 300 400 500m



(2) 交通対策

仙台松島線において、現況（評価書時点）で交通渋滞が発生している中、隣接する仙台貨物ターミナル駅移転計画や本事業の実施により、更なる交通負荷が懸念される。このことから、円滑な交通処理を図るため、図1-4(1)～(2)に示した4交差点の交通解析を実施し、関係機関と協議の上、構造改良や信号現示の見直し、滞留長^{*1}の延長等の対策を講じる。

交通解析の結果は、表1-4～6に示すとおりであり、交差点需要率^{*2}が0.9を上回る交差点はないが、交通容量比^{*3}が1.0を上回る車線があり、交差点処理能力が低下することから対策を検討する。

対策として、No.1交差点における利府方面からの流入については、現況（評価書時点）の交通状況を悪化させないように、直進方向・左折方向それぞれの車線に進入しやすくするための左折車線の滞留長延長を計画する。また、交通容量比のさらなる改善について、引き続き関係機関との協議を進めるものとする。

No.2交差点及びNo.4交差点については、最適な青信号時間へ見直し、No.3交差点については、十字交差点化による最適な青信号時間へ見直しと併せて利府方面からの流入車線に左折専用車線を設置することで、交通容量比の低減を図る。事業区域内の交差点において、必要滞留長が不足する車線においては、対策として、滞留長の延長等を行う計画である。なお、No.4交差点は事業区域外であり、本事業における交差点構造の改良はできない。

また、道路交通の流れに関する対策として、仙台松島線東側の流通業務用地への直接の乗入の制限や、中央分離帯が一部切れている部分の閉塞による右折制限等により直進車両の阻害要因を排除することを検討する。

表1-4 交差点解析結果（交差点需要率）

交差点番号	現況 (評価書時点)	本事業実施後	
		対策前	対策後
No.1	0.737	0.774	0.758
No.2	0.702	0.894	0.894
No.3	0.860	0.898	0.839
No.4	0.801	0.842	0.842

注1) 交差点番号は、図1-4(1)～(2)に対応する。

注2) 交差点需要率が0.9を超えると交差点が飽和状態となり、信号が1巡しても車を捌くことができないことを示す。

^{*1} 交差点において、信号が「赤」から「青」に変わる瞬間の停止線から最後尾停車車両までの距離

^{*2} 単位時間内に交差点が信号で処理できる交通量に対し、実際に流入する交通量の比率

^{*3} 車線個々の交通容量に対する交通量の比率。車線ごとに円滑な処理が可能かを示すものである。

表1-5 交差点解析結果（交通容量比）

交差点番号	流入方面	車線	現況 (評価書時点)	本事業実施後	
				対策前	対策後
No.1	利府	左	0.564	0.598	0.667
		左直	1.099	1.142	1.099
No.2	岩切	右	0.222	0.217	0.243
	利府	右	0.527	2.038	0.989
	東仙台	右	0.511	0.114	0.057
No.3	利府	左			0.193
		左直	1.005	1.084	0.989
		右		0.480	0.480
	田子	左	0.324	0.625	0.625
		右	0.936	0.907	0.907
	東仙台	右	0.644	0.974	0.974
No.4	利府	左直	0.971	1.025	0.937
		右	0.486	0.493	0.534
	東仙台	左直	1.021	1.077	0.985

注1) 交差点番号は、図1-4(1)~(2)に対応する。

注2) 解析結果は主要箇所を表示しており、関係機関協議により変更の可能性がある。

注3) 網掛けは、交通容量比1.0を超えていることを示しており、青信号時間内に捌ききれない状態を示す。

表1-6 交差点解析結果（滞留長）

単位：m

交差点番号	流入方面	車線	必要滞留長			現況 (評価書時点) 滞留長	計画 滞留長
			現況 (評価書時点)	本事業実施後			
				対策前	対策後		
No.1	利府	左	99.6	105.6	117.9	90.0	120.0
		左直	—	—	—	—	—
No.2	岩切	右	37.7	55.3	55.3	45.0	56.0
	利府	右	40.5	115.6	115.6	30.0	120.0
	東仙台	右	38.4	10.6	10.6	18.0	30.0
No.3	利府	左	-	—	100.5	—	101.0
		左直	—	—	—	—	—
		右	—	65.2	65.2	—	70.0
	田子	左	54.9	85.4	85.4	30.0	86.0
		右	131.0	142.4	142.4	70.0	150.0
	東仙台	右	54.9	85.6	85.6	35.0	90.0
No.4	利府	左直	—	—	—	—	—
		右	38.2	38.5	38.5	35.0	—
	東仙台	左直	—	—	—	—	—

注1) 交差点番号は、図1-4(1)~(2)に対応する。

注2) 解析結果は主要箇所を表示しており、関係機関協議により変更の可能性がある。

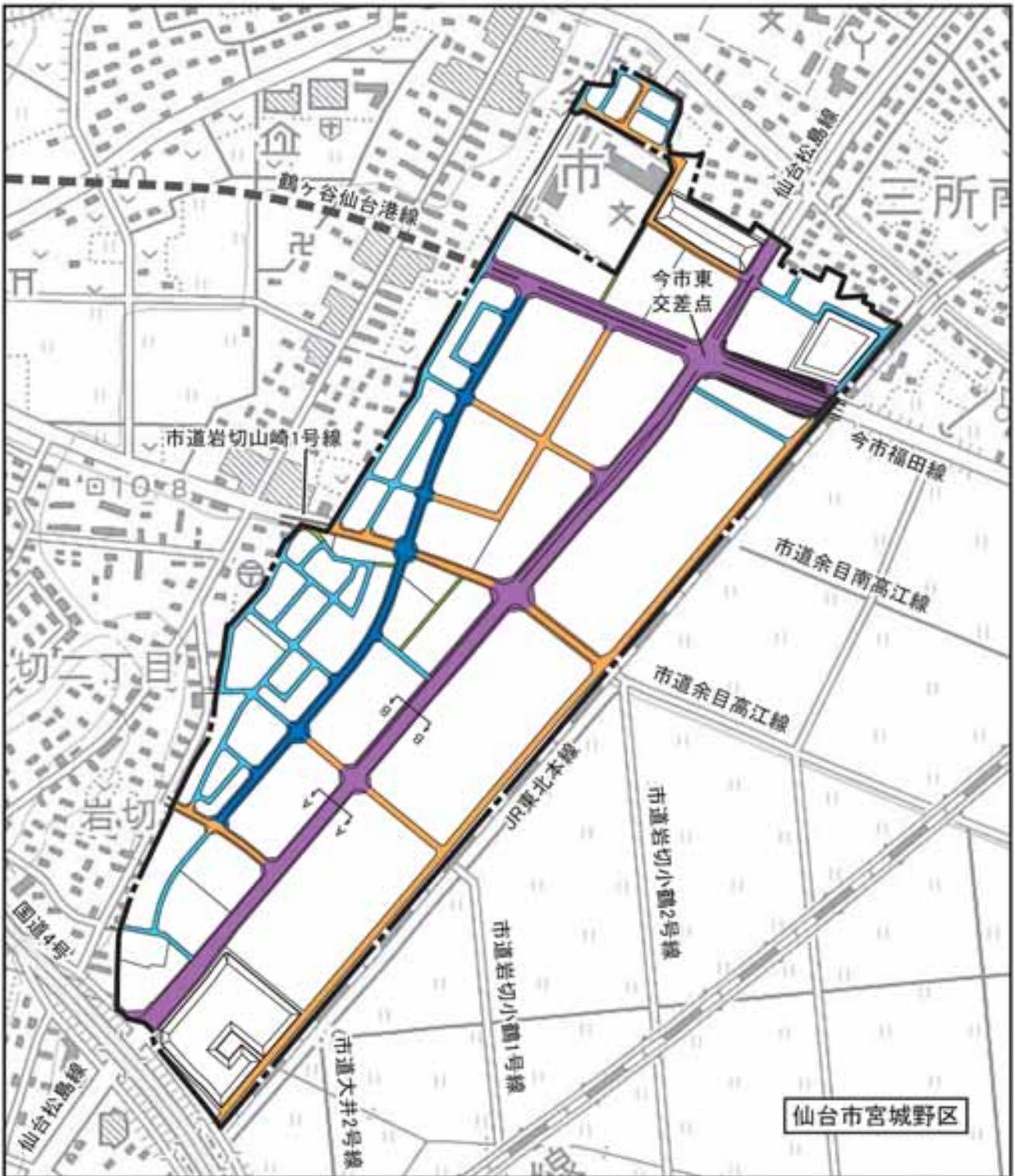
注3) 網掛けは、現況（評価書時点）滞留長を超えていることを示す。

1.5.5 道路計画

事業区域内の道路計画は図1-5(1)～(2)に、道路の断面構成は図1-6(1)～(6)に示すとおりである。

事業区域の中央を南北に縦断する仙台松島線を骨格道路とし、その西側に並行して14m道路の補助幹線道路を配置する。さらに、事業区域内においては、都市計画道路鶴ヶ谷仙台港線のうち、今市東交差点以東は既に県道今市福田線として利用されており、将来的には今市東交差点以西も整備される計画であることから、それを考慮し、事業区域内の今市福田線及びその延長上を25m道路とする計画である。

また、事業区域周辺道路に配慮し、区画道路を接続する計画である。なお、現計画では、評価書から一部区画道路の線形の変更があったが、大きな変更はない。また、断面構成に変更はない。

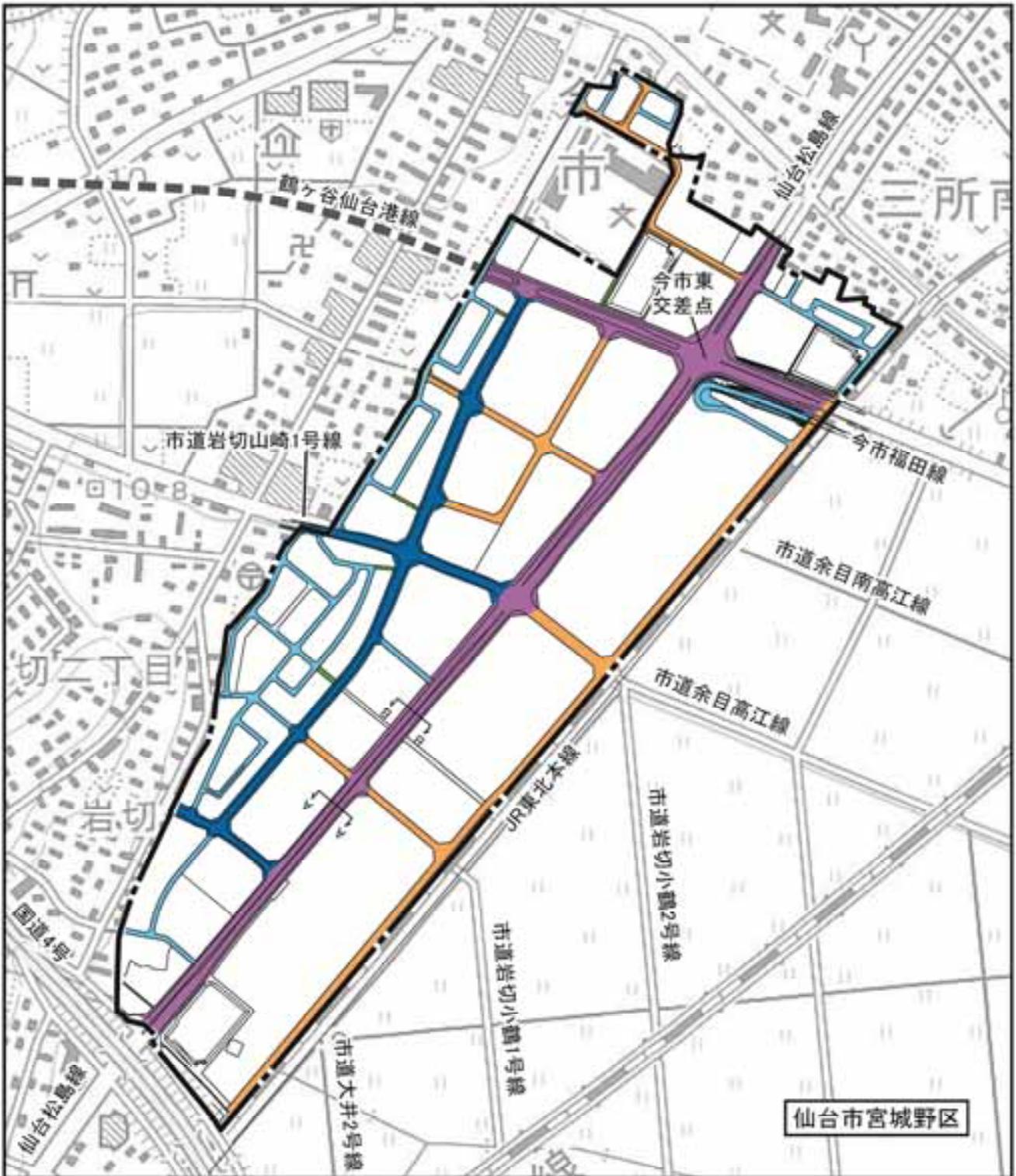


凡例

- 事業区域
- 幹線道路 (W=21~25m)
- 補助幹線道路 (W=14m)
- 区画幹線道路 (W=9~15m)
- 区画道路 (W=6~8m)
- 自転車歩行者道路 (W=4~6m)
- 都市計画道路

図1-5(1) 道路整備計画図【評価書】





凡例

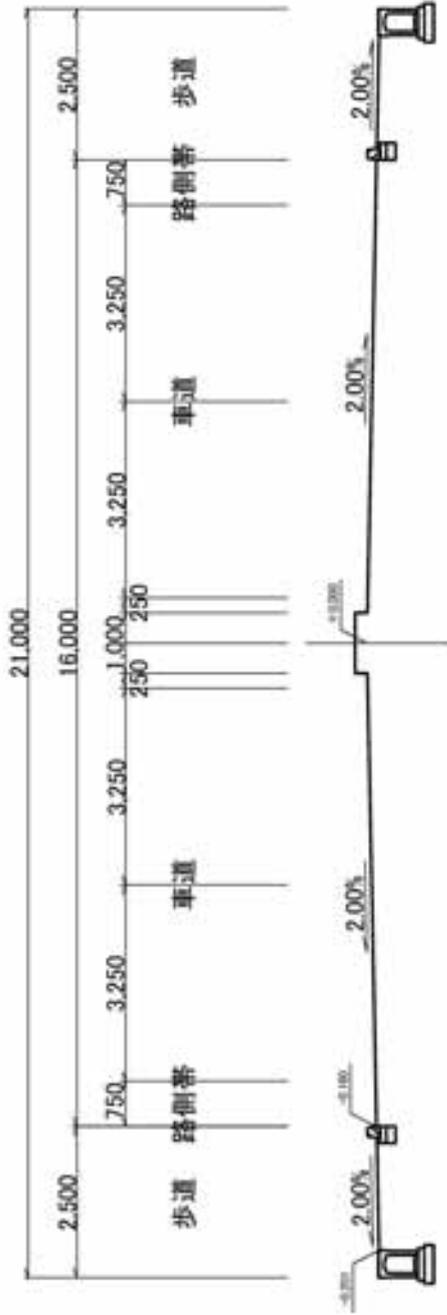
- 事業区域
- 幹線道路 (W=21~25m)
- 補助幹線道路 (W=12~14m)
- 区画幹線道路 (W=9~15m)
- 区画道路 (W=6~8m)
- 自転車歩行者道路 (W=4~6m)
- 都市計画道路

図1-5(2) 道路整備計画図【現計画】

S=1/7,500
0 100 200 300 400m



幹線道路 県道 仙台松島線（一般部） W=21.0m 【A-A断面】



幹線道路 県道 仙台松島線（下水用地拡張部） W=21.0m 【B-B断面】

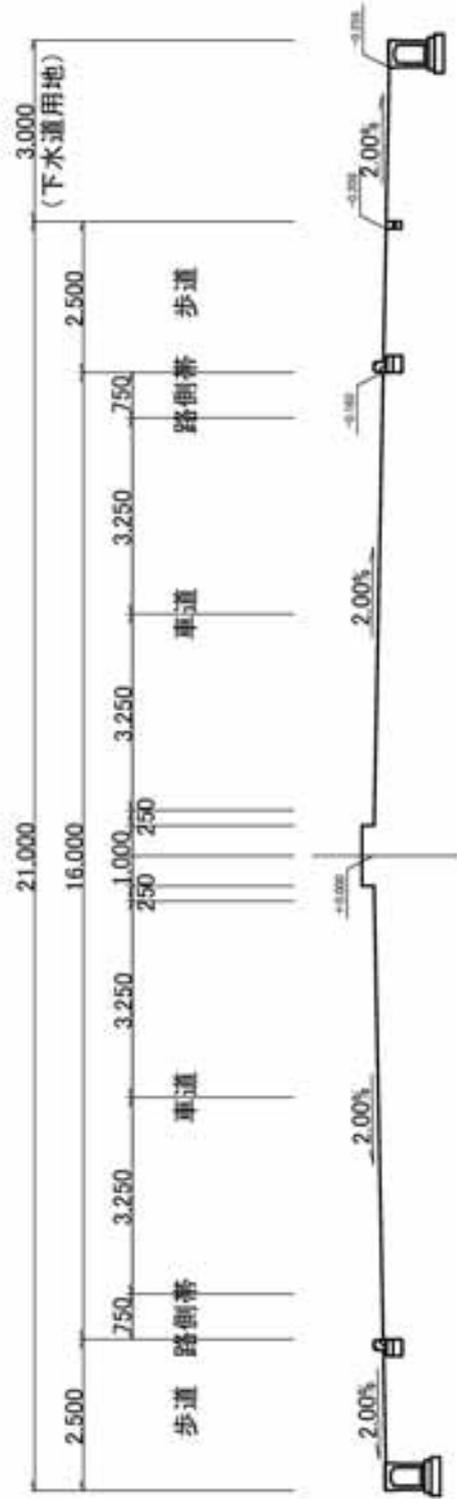
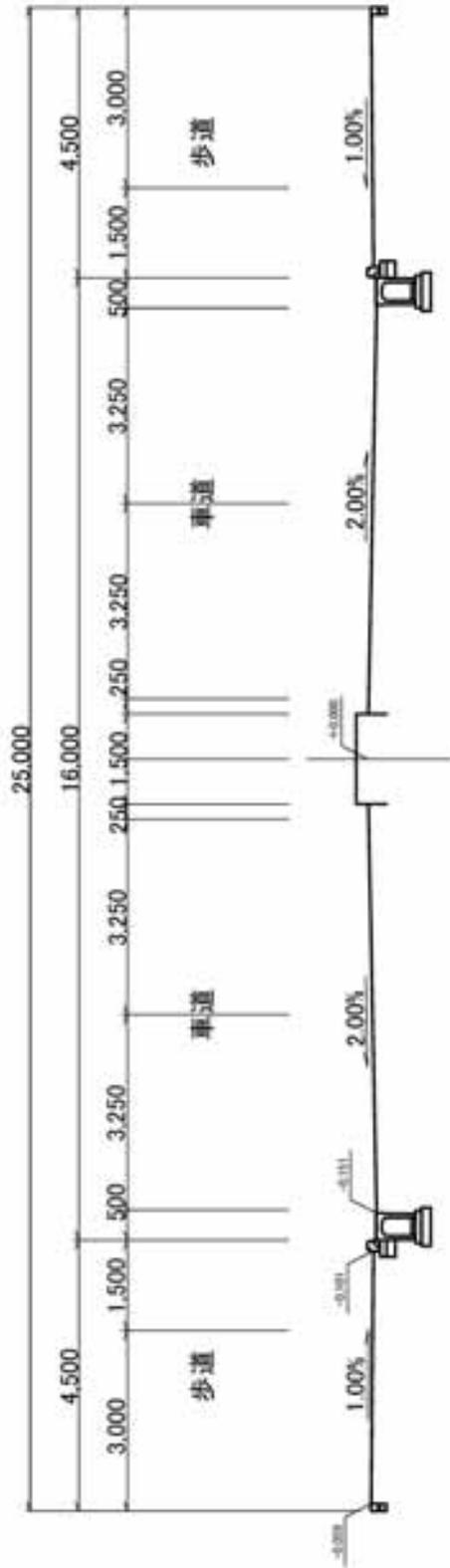


図1-6(1) 道路標準断面図（幹線道路）【評価書】

幹線道路 市道 今市福田線 W=25.0m



補助幹線道路 W=14.0m

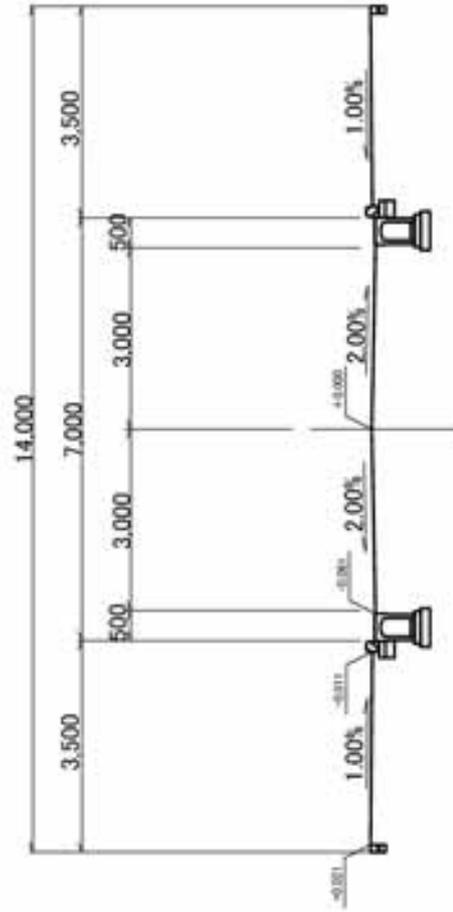
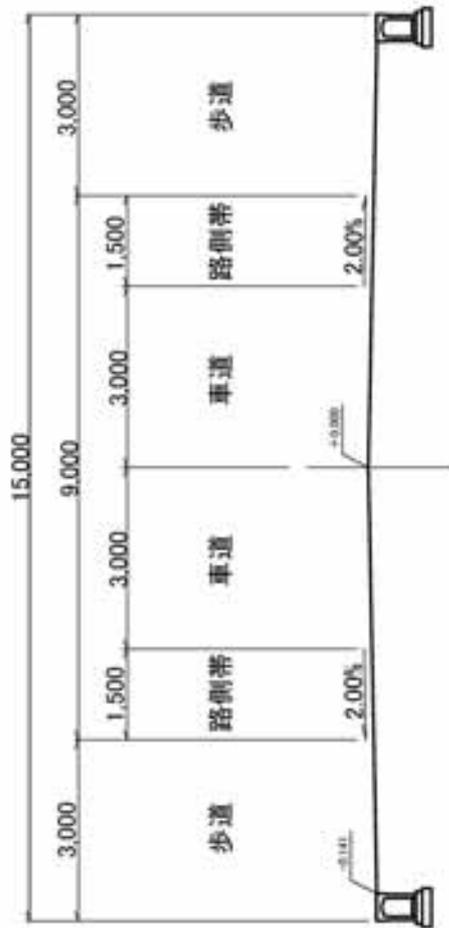
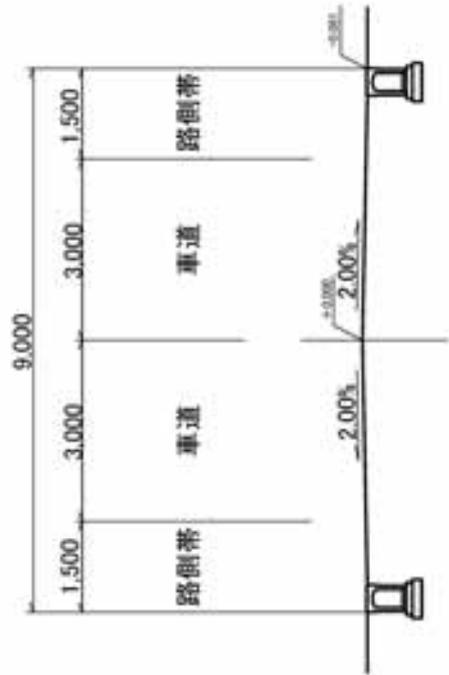


図1-6(2) 道路標準断面図（幹線道路、補助幹線道路）【評価書】

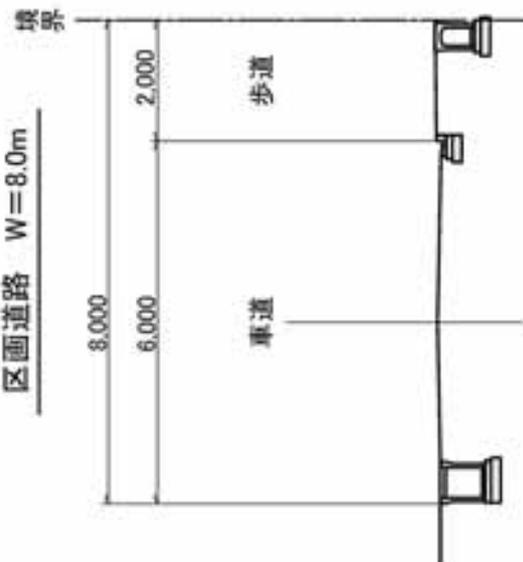
区画幹線道路 W=15.0m



区画幹線道路 W=9.0m



区画道路 W=8.0m

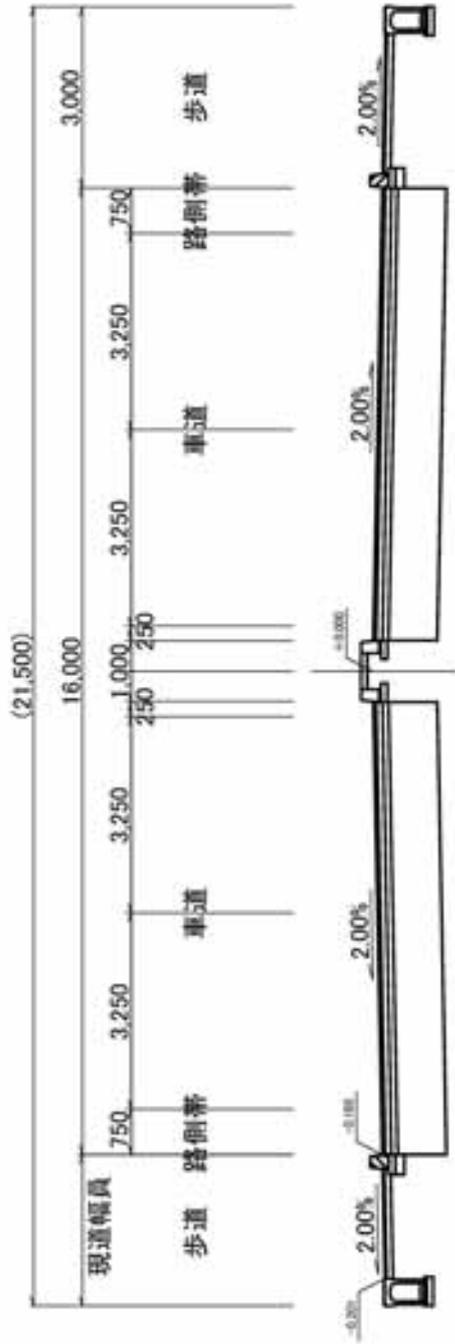


自転車歩行者道路 W=6.0m



図1-6(3) 道路標準断面図(区画幹線道路、区画道路、自転車歩行者道路)【評価書】

幹線道路 県道 仙台松島線（一般部） W=21.0m



幹線道路 県道 仙台松島線（付加車線部） W=25.0m

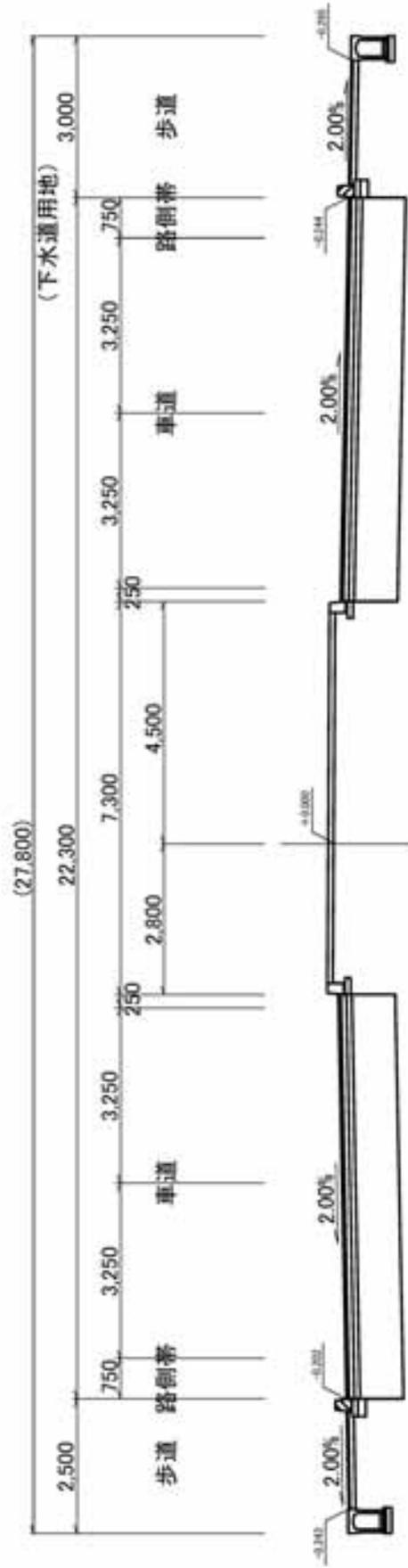
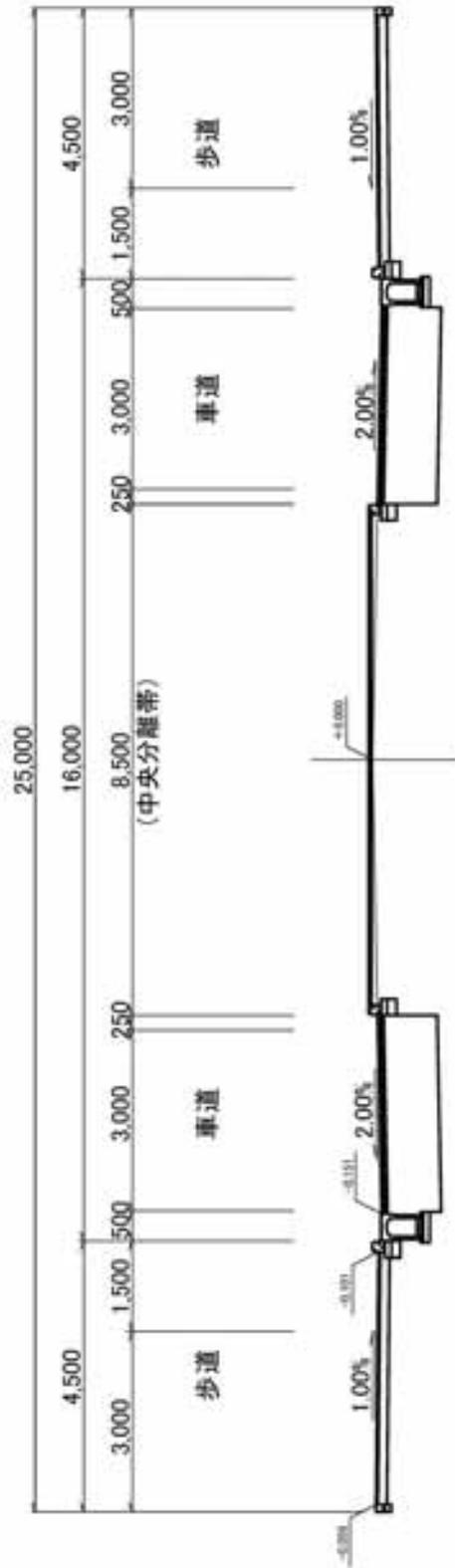


図1-6(4) 道路標準断面図（幹線道路）【現計画】

幹線道路 市道 鶴ヶ谷仙台港線 W=25.0m



幹線道路 市道 鶴ヶ谷仙台港線 (付加車線部) W=28.0m

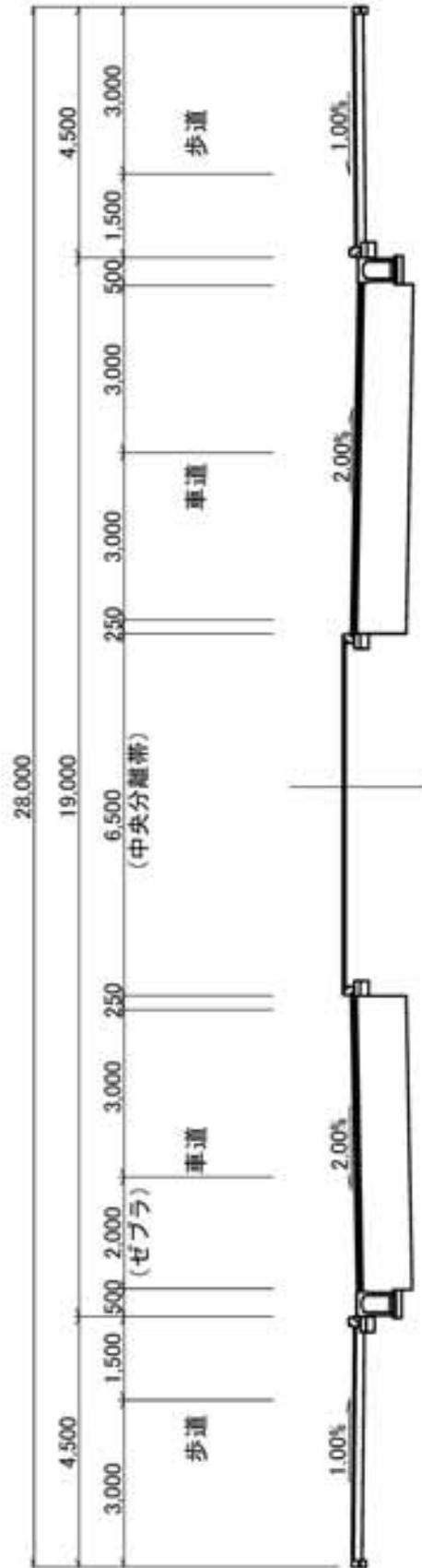
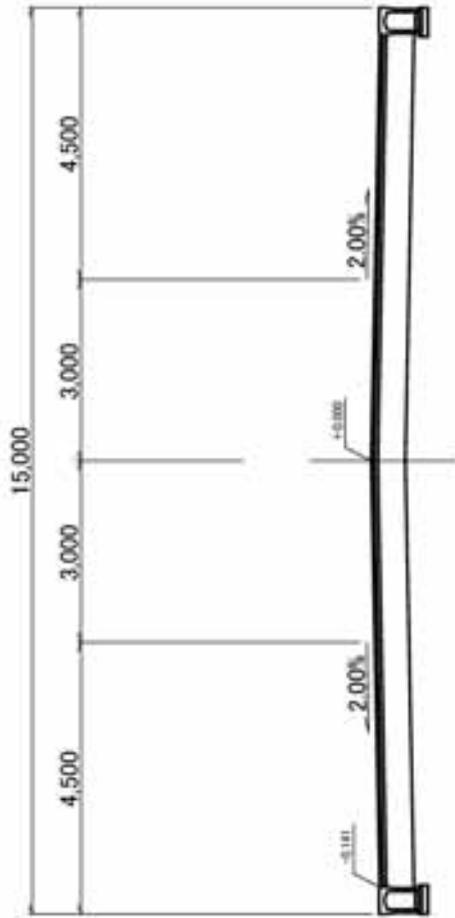
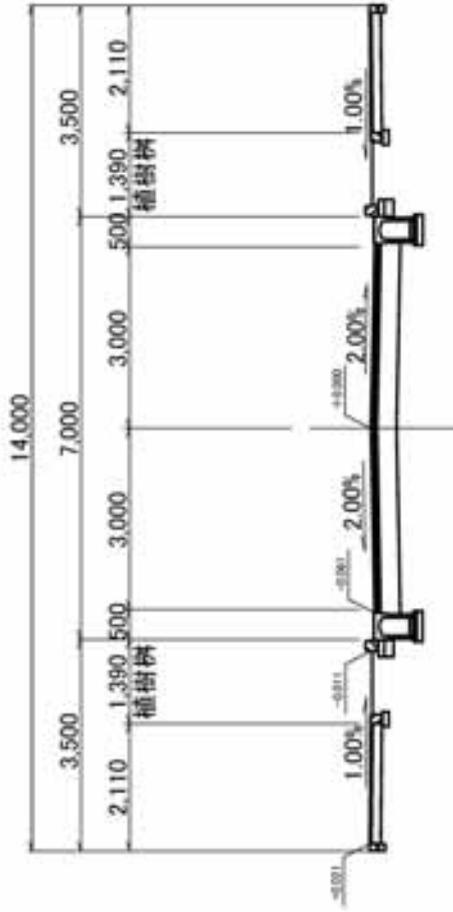


図1-6(5) 道路標準断面図 (幹線道路、補助幹線道路) 【現計画】

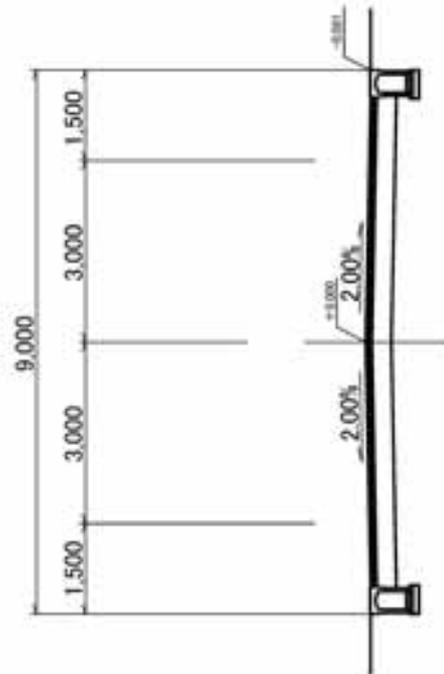
区画幹線道路 W=15.0m



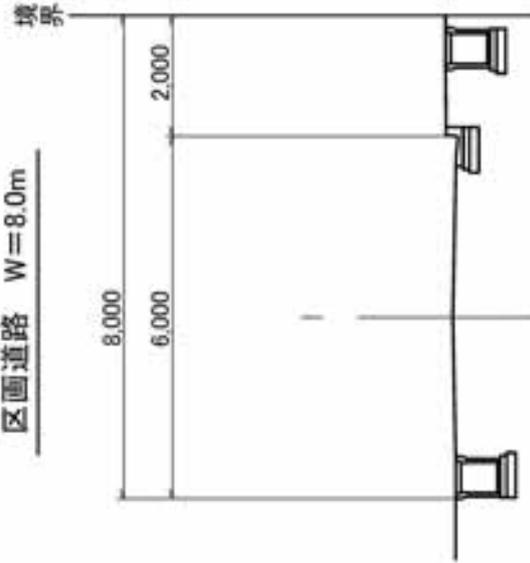
補助幹線道路 W=14.0m



区画幹線道路 W=9.0m



区画道路 W=8.0m



自転車歩行者道路 W=6.0m

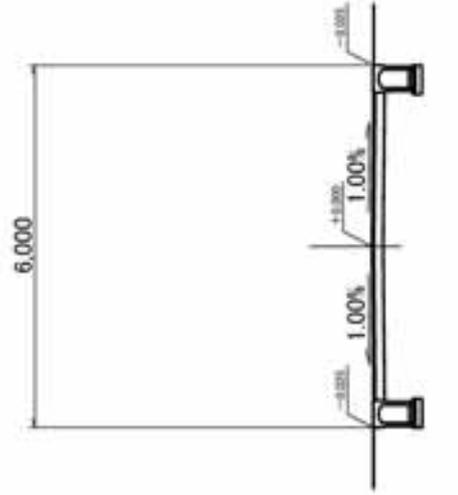


図1-6(6) 道路標準断面図 (区画幹線道路、補助幹線道路、区画道路、自転車歩行者道路) 【現計画】

1.5.6 公園・緑地計画

(1) 公園計画

1) 公園の配置

街区公園の配置は図1-7(1)～(2)に示すとおりである。

評価書では、住宅用地が誘致距離（事業区域外の公園を含む、各公園の端部から250m）の範囲に含まれるよう、事業区域内に3ヶ所配置する計画であったが、「2)公園の必要面積」に示すとおり、公園の必要面積が減少したことから、現計画では、公園配置を変更するとともに、1ヶ所削減し2ヶ所とした。

2) 公園の必要面積

本事業の公園用地は、評価書では「公園面積の合計が人口1人あたり3㎡以上、かつ、施行地区面積の3%以上となるように定める」との土地区画整理法施行規則に基づき、表1-7(1)に示すとおり、両方を満たす面積1.46ha以上の1.47haを確保する計画であった。

現在、流通業務施設用地（一部除く）が用途地域として工業専用地域に位置付けられており、沿道サービス・業務施設用地の準工業地域と合わせて、事業区域（48.1ha）の73.8%が非可住（居住者ゼロ）エリアとなることから、土地区画整理法施行規則第9条第6号のただし書きを適用している。

この適用を受けて、現計画では、事業区域面積48.1haから工業専用地域の面積約17.9haを除いた地区約30.2haを対象として、人口1人あたり3㎡以上及び当該面積の3%以上の両方を満たす面積約0.9haの公園を設置する計画となった（表1-7(2)参照）。

表1-7(1) 公園の必要面積【評価書】

【人口1人あたり3㎡以上】

計画人口 (①)	必要面積原単位 (②)	必要面積 (①×②)
576人	3㎡/人	0.17ha

【施行地区面積の3%以上】

地区面積 (③)	必要面積原単位 (④)	必要面積 (③×④)
48.6ha	3%	1.46ha

⇒両方を満たす面積：1.46ha

表1-7(2) 公園の必要面積【現計画】

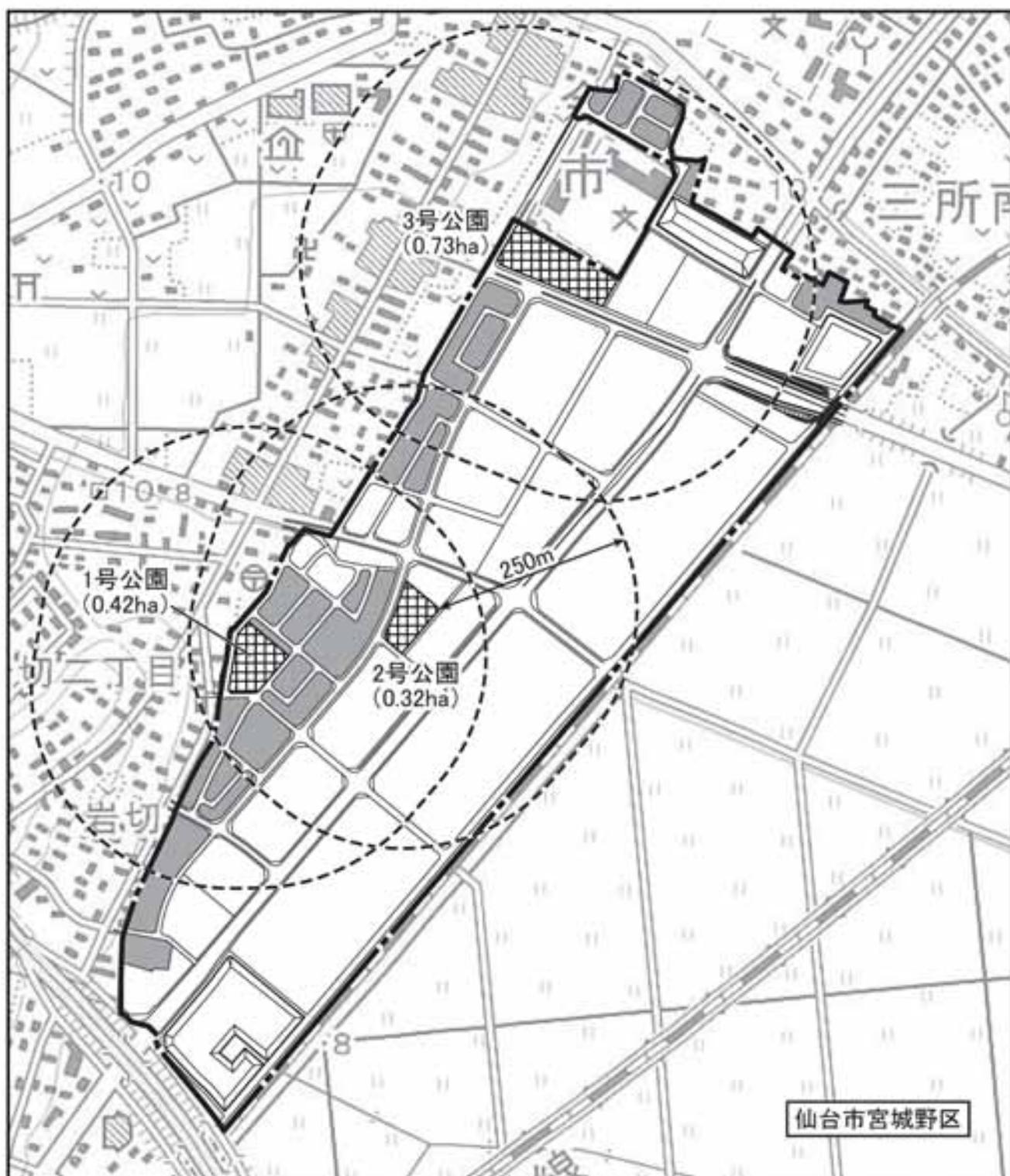
【人口1人あたり3㎡以上】

計画人口 (①)	必要面積原単位 (②)	必要面積 (①×②)
576人	3㎡/人	0.173ha

【施行地区面積の3%以上】

地区面積 (③)	必要面積原単位 (④)	必要面積 (③×④)
30.2ha	3%	0.906ha

⇒両方を満たす面積：0.9ha



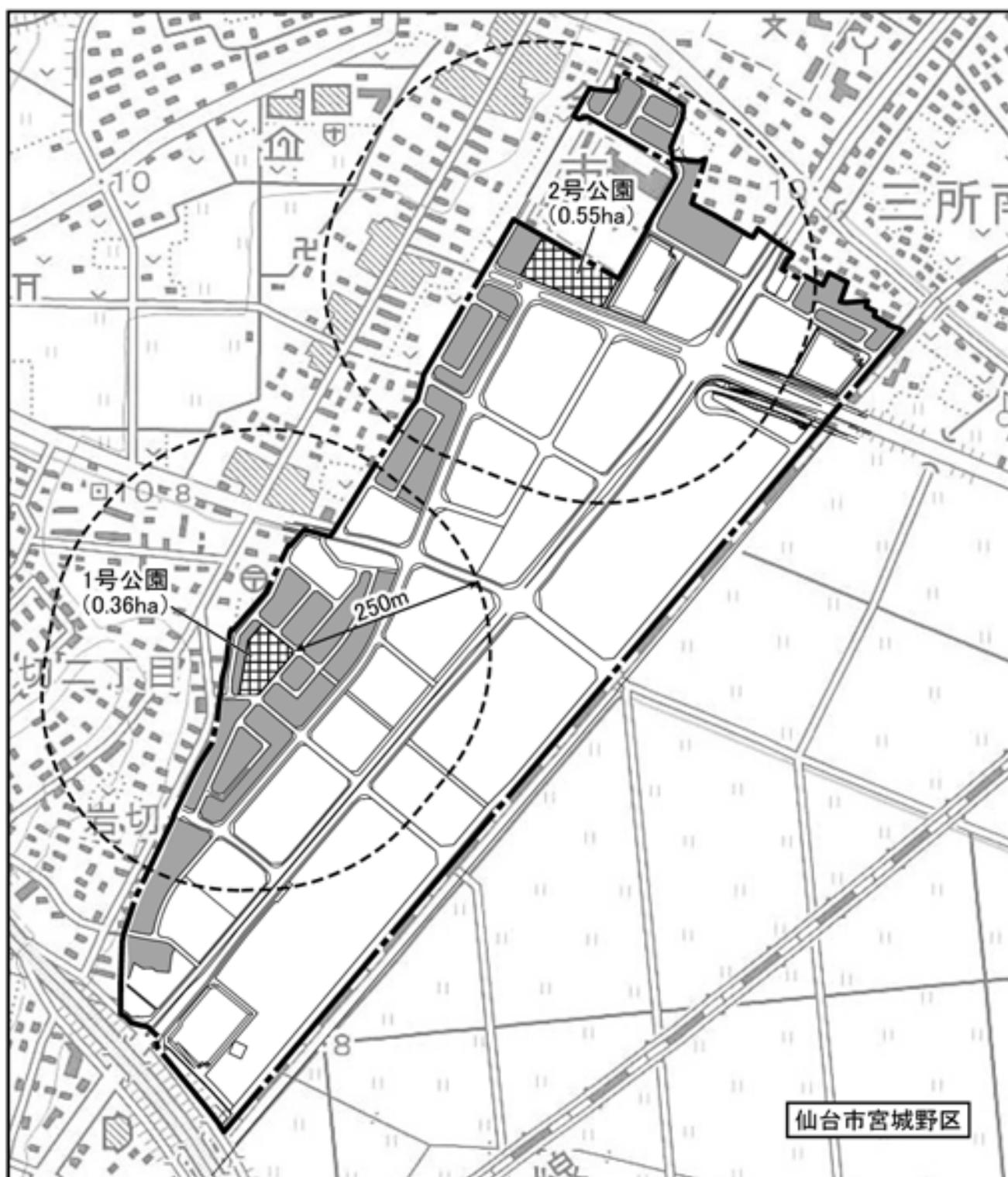
凡例

- 事業予定区域
- ▣ 公園
- 公園誘致範囲
- 住宅地

図1-7(1) 公園配置計画図【評価書】

S=1/7,500
0 100 200 300 400m





凡 例

- 事業区域
- ▨ 公園
- 公園誘致範囲
- 住宅地

図1-7(2) 公園配置計画図【現計画】

S=1/7,500

0 100 200 300 400m



(2) 緑化計画

緑化計画図は図1-9(1)～(2)に、パース図は図1-8に示すとおりである。

1) 緑化の考え方

本事業においては、これまで農地等によって構成されていた「風景」としての緑地から、生活空間に息づく「身近な緑」への転換を実現するため、仙台市との協議・調整のもと、緑のネットワーク形成に向けて、主に幹線道路や補助幹線道路における緑化を重点的に実施していく。また、仙台市の「杜の都の環境をつくる条例」に基づく緑化計画が適用され、都市計画法による用途地域ごとの法定建ぺい率に応じて必要な緑化率を確保することが定められていることから、流通業務施設用地や沿道サービス・近隣サービス施設用地などの大規模宅地における効果的で質の高い緑の創出のため、公共性の高いスペースである接道部分の緑化を誘導・促進する。

調整池については、洪水流出の抑制を目的とする施設ではあるものの、緑化についても検討する。幹線道路から見える辺（第1～3調整池共通）や第2調整池の小学校に近接する辺に植栽を行い、道路沿道からの目隠し修景とするとともに、幹線道路沿線の街区に施された緑地帯等との連続性を確保する。なお、周辺の環境との調和が図られるように、防護柵の色彩・デザインに配慮する。

住宅用地においては、都市計画法の地区計画制度を導入する際に、統一感のある低木（生垣）や印象的な中高木（シンボルツリー）等の設置を可能な限り促進するとともに、地区計画に緑化の位置づけを行うことを検討する。

きめ細かい景観の統一を図ること、流通業務施設用地、沿道サービス・業務施設用地と住宅地の相互環境の維持を図ることを目的として、地権者の方々とルールを取り決めるための環境形成ガイドラインを策定することを検討する。

緑化面積として、流通業務施設用地、沿道サービス・業務施設用地等（宅地部）において約4.3haを確保する。また、街路樹及び調整池周囲の植栽については、約0.1haの確保を検討し、管理者と協議を図る。

2) 地区計画や事業での対応

新規に整備する都市計画道路や区域内の幹線道路・補助幹線道路に付帯する歩道において、地域の気候や風土に合った植栽等による身近に「感じるみどり」により、快適な歩行者動線を確保する。

大規模街区を形成する流通業務施設用地については、壁面後退等により敷地内にオープンスペースを確保し、適切な位置で緑化を推進する。特に仙台松島線の接道部分にボリュームある緑を配置することにより、これまでの田園風景に代わる「見るみどり」がまちの輪郭を意識させる景観を形成する。長大な壁面やその色彩が周囲に圧迫感を与えないように一定の制限を検討するほか、緩衝帯として積極的に緑地を配置し、街区ごとの相互環境の維持を図る。

商業地や住宅地のエリアでは、準幹線道路沿いの街路樹や公園等の身近な緑の整備を計画している。各宅地内においては、環境形成ガイドライン等による自主的な植栽等のルールや地区計画による条件を付すなどし、宅地の接道部分に低木の植栽（生垣）や中高木（シンボルツリー）の設置を促すなど、統一感のある景観の創出に努めるほか、近景の創造の観点で

も緑化の検討をしていく。

住宅地においては、街区公園や歩道の緑環境と併せて、自らの手で育む「触れるみどり」の整備も推進する。

3) 植栽予定樹種

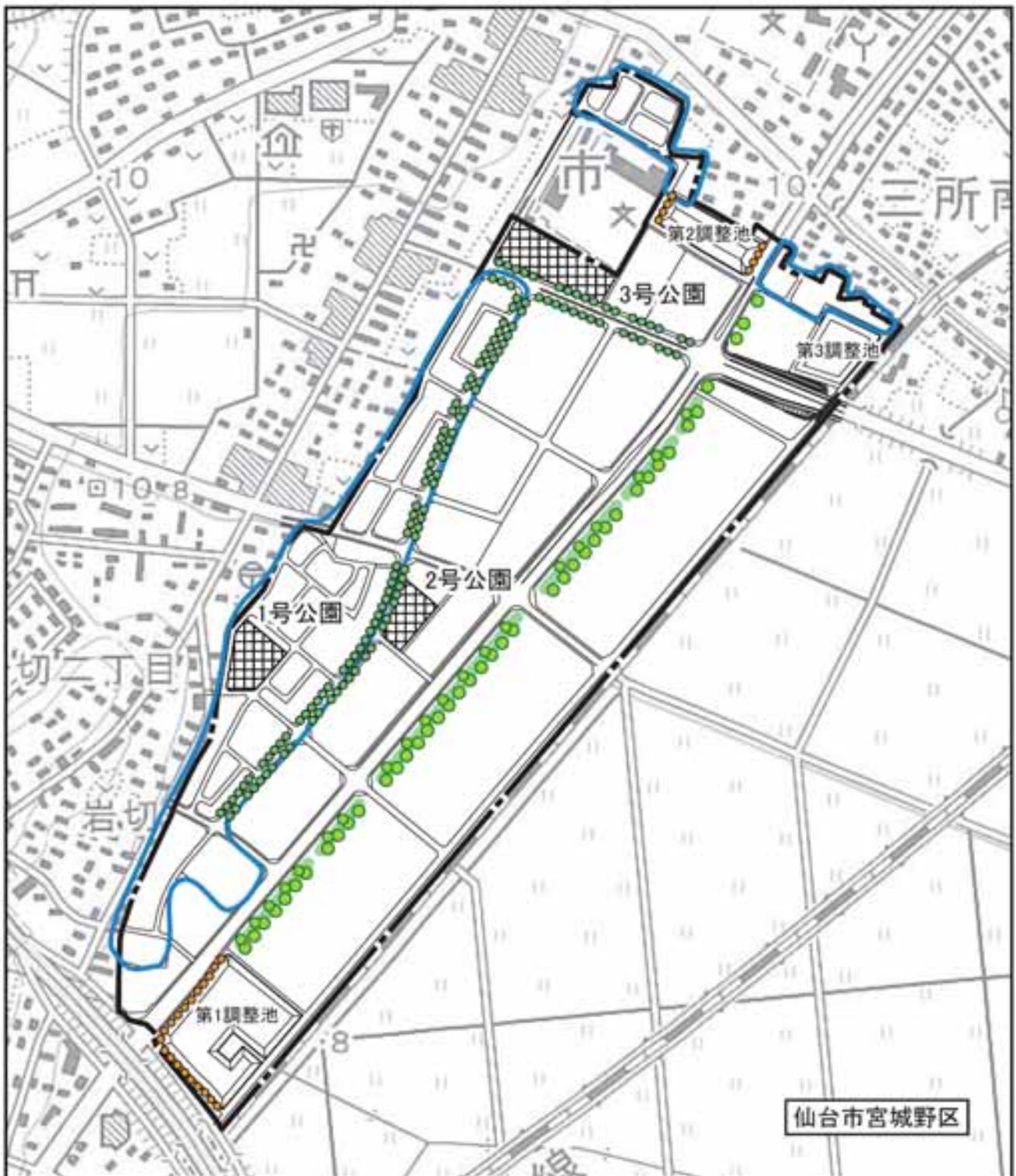
仙台市事業となる街区公園については、道路の街路樹等との緑のネットワーク形成に向けて、事業区域の地域特性に適した樹木、地被類の植栽や芝生緑化の実施を要望する。

事業者が植栽する街路樹等については、「仙台市街路樹マニュアル」（平成22年4月、仙台市）を参考にしつつ、事業区域及びその周辺における生態系等の調査の結果から、広葉樹を主体に、できる限り地域に由来する在来種を選定する計画とし、緑の質の向上に努めることとする。



※ 事業区域北側より南方面を望む
注) 評価書時点の図である。

図1-8 パース図

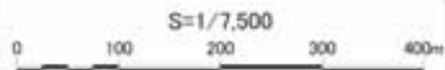


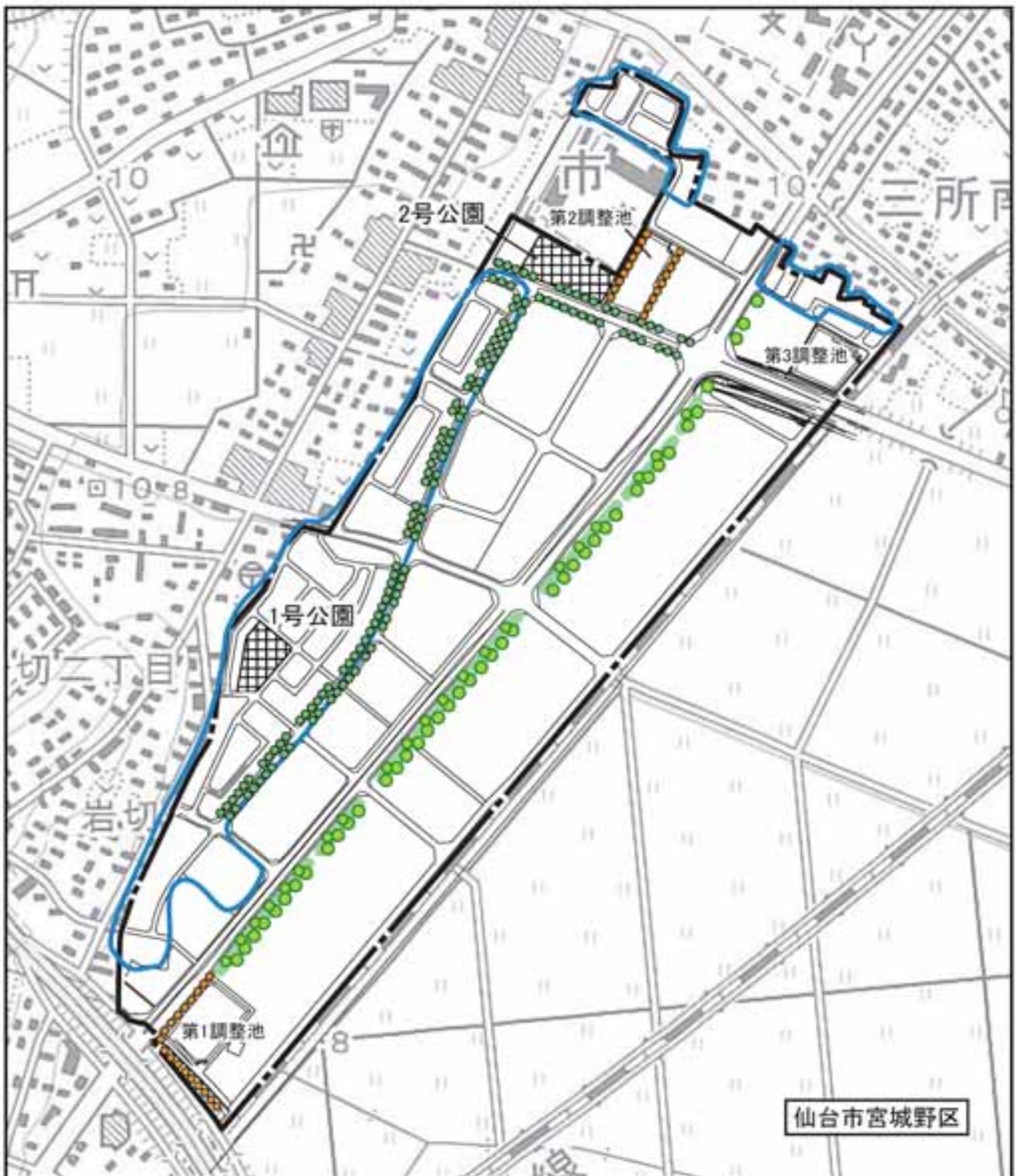
仙台市宮城野区

凡例

- 事業予定区域
- 公園
- 街路樹
- 植栽（目隠し修景）
- 緑地帯
- 植栽ルールを検討するエリア

図1-9(1) 緑化計画図【評価書】





仙台市宮城野区

凡例

--- 事業区域

▣ 公園

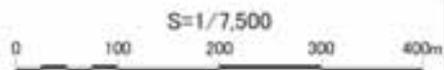
○ 街路樹

● 植栽 (目隠し修景)

○ 緑地帯

○ 植栽ルールを検討するエリア

図1-9(2) 緑化計画図【現計画】



1.5.7 給水計画

仙台市水道事業者から供給を受け、道路敷地内に水道管を敷設し、各戸に上水を供給する計画である。

1.5.8 汚水排水計画

汚水排水計画図は、図1-10に示すとおりである。

道路敷地内に敷設する汚水排水管より事業区域内を通過する既存の汚水本管に放流し、南蒲生浄化センターで終末処理される計画であり、評価書からの変更はない。

1.5.9 雨水排水計画

(1) 雨水排水計画

雨水排水計画は、図1-11(1)～(2)に示すとおりである。

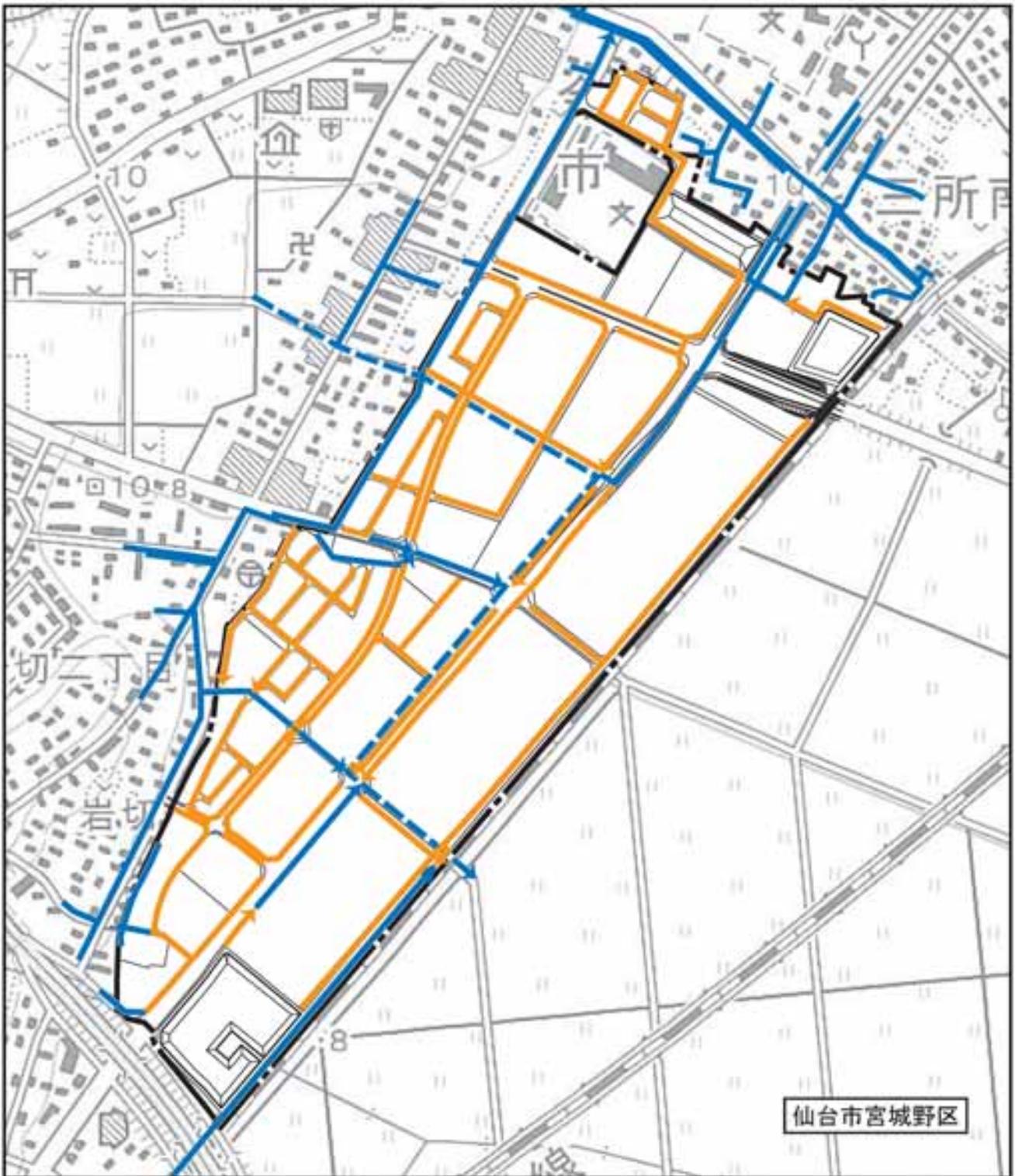
現況（評価書時点）では、事業区域の面積の約54%を水田が占めており、雨水の流出抑制を担っている。本事業による水田等の市街化により雨水流出量が増加し、事業区域下流に洪水発生が高まることが考えられる。それを防ぐため、雨水流出抑制対策として、調整池を設置する。

事業区域からの雨水排水は、道路敷地内に敷設する雨水排水管から調整池を経由し、既存水路へ放流する計画である。

事業区域は、現況（評価書時点）では市道岩切山崎1号線を境に南北に流域が分かれており、区域に降った雨及び上流から流入する雨水は、区域東側のJR東北本線沿いに設置されている排水路により、北側は岩切雨水幹線及び水車堀を経由して梅田川へ、南側は高野川から梅田川へ流入する。

本事業においては、現況（評価書時点）の河川流域を考慮し、現況（評価書時点）と同様の流域とするが、都市化に伴う雨水流出量の増加に対応するため、事業区域内に3ヶ所の調整池を設置し、下流水路への放流量の抑制を図るものとする。

現計画では、新設通過管の一部の配置が変わったものの、評価書からの大きな変更はない。



仙台市宮城野区

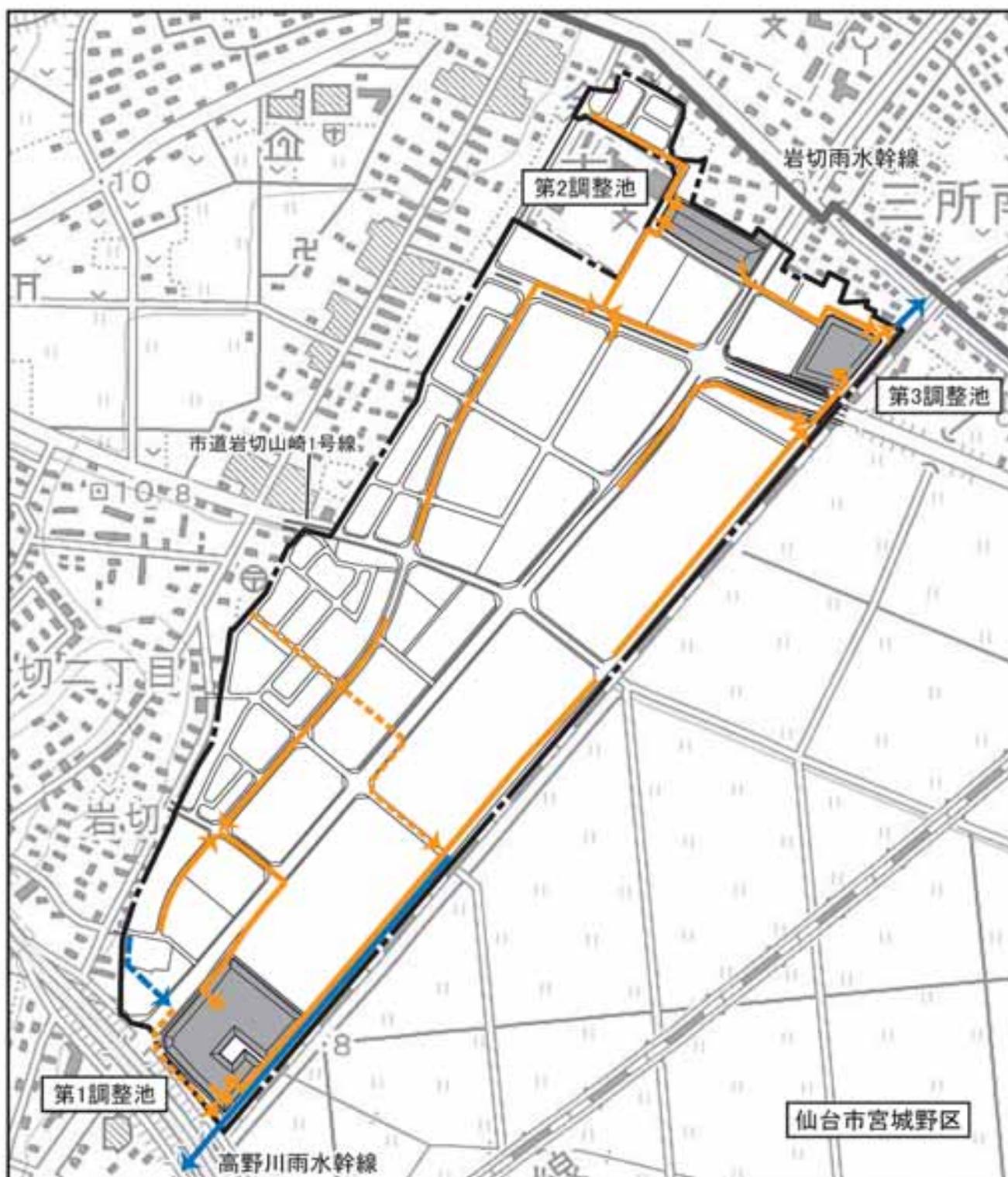
凡例

- 事業予定区域
- ← 汚水排水管（新設）
- ← 汚水排水管（既設枝管）
- ← 汚水排水管（既設本管（汚水幹線））

図1-10 汚水排水計画図【評価書】

S=1/7,500
0 100 200 300 400m

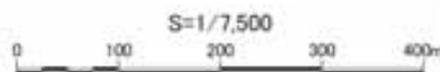


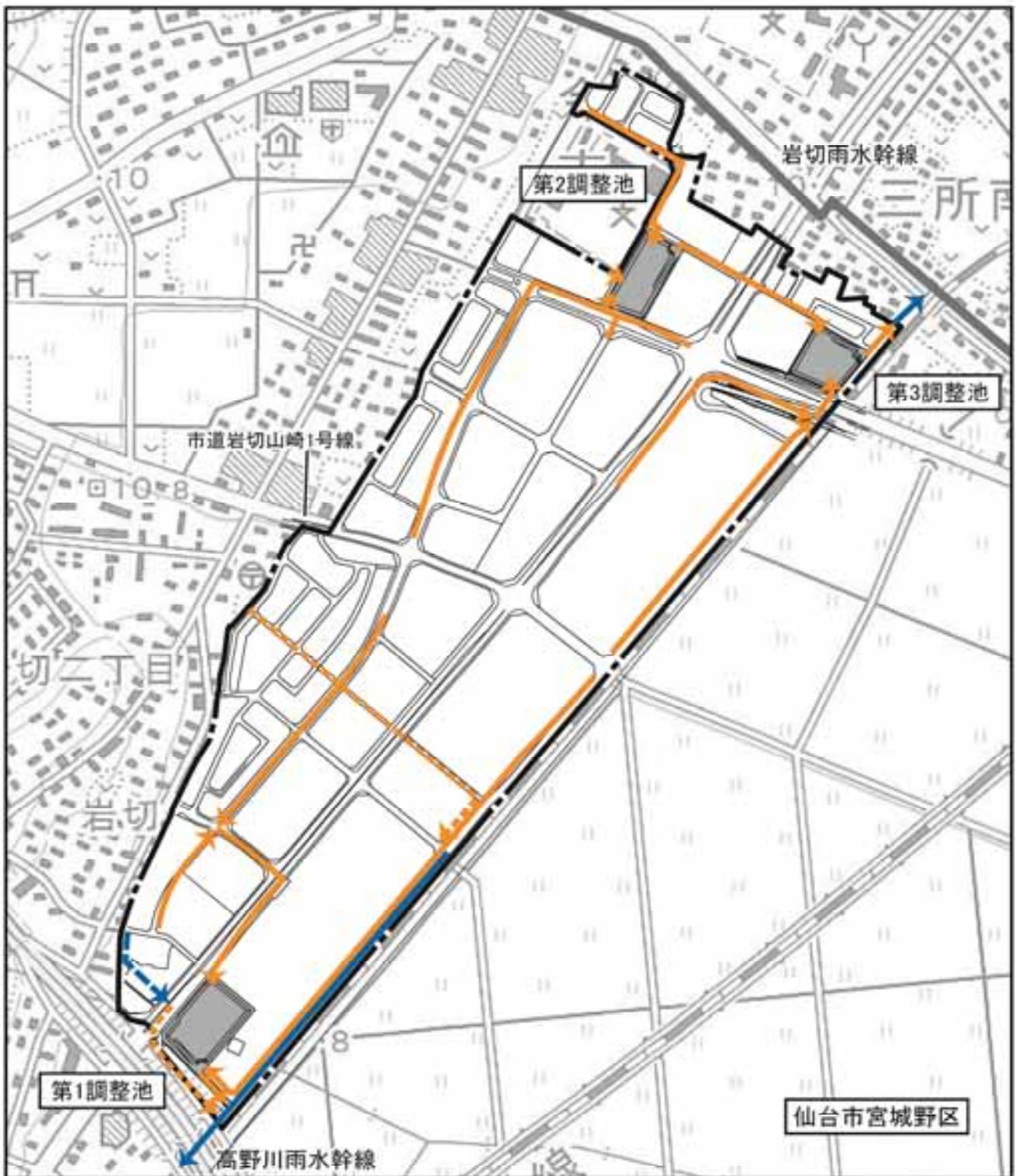


凡 例

- 事業予定区域
- ← 雨水排水管（既設）
- ← 雨水排水管（新設）
- ← 雨水排水管（新設通過管）
- ← 雨水排水路（既設）
- 調整池

図1-11(1) 雨水排水計画図【評価書】

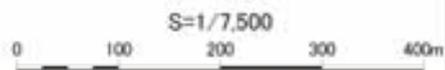




凡 例

- 事業区域
- ← 雨水排水管（既設）
- ← 雨水排水管（新設）
- ← 雨水排水管（新設通過管）
- ← 雨水排水路（既設）
- 調整池

図1-11(2) 雨水排水計画図【現計画】



(2) 調整池計画

調整池は、「宮城県防災調整池設置指導要綱」に基づき、単位流出抑制容量を750m³/ha（50年確率降雨強度相当）とし、調整池は掘込式とした。

調整池からの許容放流量は、放流先の水路における最小流下能力地点の比流量に基づき、算出した。調整池の調節容量は表1-8(1)～(2)に、許容放流量は表1-9(1)～(2)に示すとおりである。また、調整池の流域区分図は図1-12(1)～(2)に、計画平面・断面図は図1-13(1)～(2)、図1-14(1)～(2)及び図1-15(1)～(2)に示すとおりである。

評価書では管理用通路やポンプ施設などの詳細設計は未確定であったが、評価書以降に調整池設計の熟度を上げて算出を行い、宮城県河川課及び仙台市下水道計画課との協議を行った結果、現計画では調節池容量を減らすこととなった。許容放流量については、評価書では岩切小学校区域*からの排水量も加味し、岩切小学校区域を含めた流域面積より算出していたが、直接流出区域の排水は調整池を経由しないため、流出量の調整が不可能となった。そのため、現計画では、流域面積に対する許容放流量から直接流出区域における流出増分を差し引くことにより、調整池からの放流量をより絞る計画とした。また、土地利用計画の変更に伴い、計画宅地高さとの関係から第1調整池流域が一部直接流出区域となる等の調整池設計の検討及び関係機関との協議を行った結果、調整池の位置及び形状等も変更となった。

表1-8(1) 調整池の調節容量【評価書】

	事業区域面積 ^{※1} (ha)	調節容量(m ³)	調整池容量(m ³)	放流先
第1調整池	24.2	約18,150	約19,160	高野川雨水幹線
第2調整池	17.5 ^{※2}	約13,130	約14,210	岩切雨水幹線
第3調整池	9.3	約6,980	約8,110	岩切雨水幹線
単位流出抑制容量：750m ³ /ha（平地部・恒久防災調整池）				

※1 評価書においては「流域面積」としていたが、調節容量の算出に用いるのは事業区域面積である。なお、評価書においては、事業区域面積と流域面積は同範囲・同面積であった。

※2 岩切小学校を含む。

表1-8(2) 調整池の調節容量【現計画】

	事業区域面積 ^{※1} (ha)	調節容量(m ³)	調整池容量(m ³)	放流先
第1調整池	23.77	約17,830	約18,370	高野川雨水幹線
第2調整池	15.14 ^{※2}	約11,360	約16,910	岩切雨水幹線
第3調整池	9.20	約6,900	約10,810	岩切雨水幹線
単位流出抑制容量：750m ³ /ha（平地部・恒久防災調整池）				

※1 事業区域面積＝流域面積＋直接流出区域面積である。

※2 岩切小学校を含まない。

* 岩切小学校は、事業区域外であるが、その排水は、農業排水路を経て事業区域内に入る。

そのため、調節容量の算出においては、評価書においては、その面積（2.08ha）を含めて算出していた。その後、宮城県河川課より、「単位流出抑制容量に乗じるのは事業区域面積とすること」との指導があり、小学校用地は本事業による形質変更がなく流量の変化もないことから、現計画では小学校の面積を除外して算出した。

一方、許容放流量の算出においては、小学校の排水は、本事業実施後においても事業区域内へ流下し、調整池に流入することから、下流のネック点（排水機場のポンプ）における比流量に対しては、小学校の面積も含めて算出した。

表1-9(1) 調整池の許容放流量【評価書】

	流域面積(ha)	比流量(m ³ /s/ha)	許容放流量(m ³ /s)
第1調整池	24.2	0.023	0.557
第2調整池	17.5	0.017	0.298
第3調整池	9.3	0.017	0.158

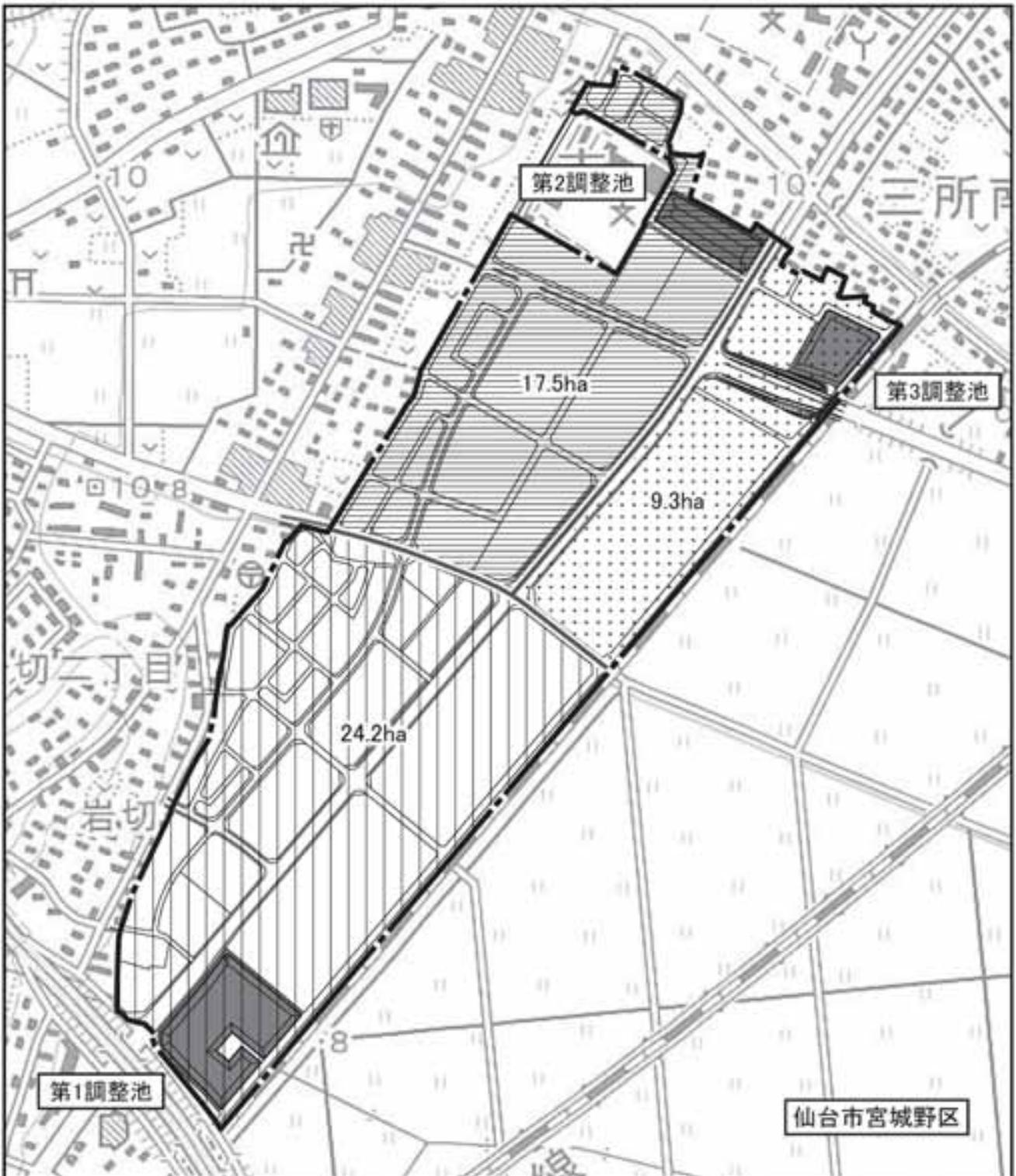
表1-9(2) 調整池の許容放流量【現計画】

	流域面積(ha) ①	比流量(m ³ /s/ha) ②	直接流出量(m ³ /s) ③	許容放流量(m ³ /s) ①×②-③
第1調整池	20.03 ^{※1}	0.036	0.132	0.589
第2調整池	18.33 ^{※2}	0.017	0.010	0.302
第3調整池	9.27 ^{※3}	0.017	0.003	0.155

※1 仙台松島線の道路高さと計画宅地高さの関係から、事業区域中央部に直接流出区域ができ、第1調整池の流域面積からその分を減じている。許容放水量の算出にあたっては、直接流出区域の流出量を減じている。

※2 岩切小学校及び小学校西側の住宅地は事業区域外であるが、その排水は事業区域内に入ることから、許容放水量の算出にあたっては、岩切小学校及び住宅地の合計面積（3.43ha）を流域面積に加算している。そのため、図1-12(2)に示す流域面積とは異なる。

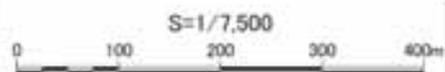
※3 第3調整池南側の田は事業区域外であるが、その排水は事業区域内に入ることから、許容放水量の算出にあたっては、田の面積（0.14ha）を流域面積に加算している。そのため、図1-12(2)に示す流域面積とは異なる。

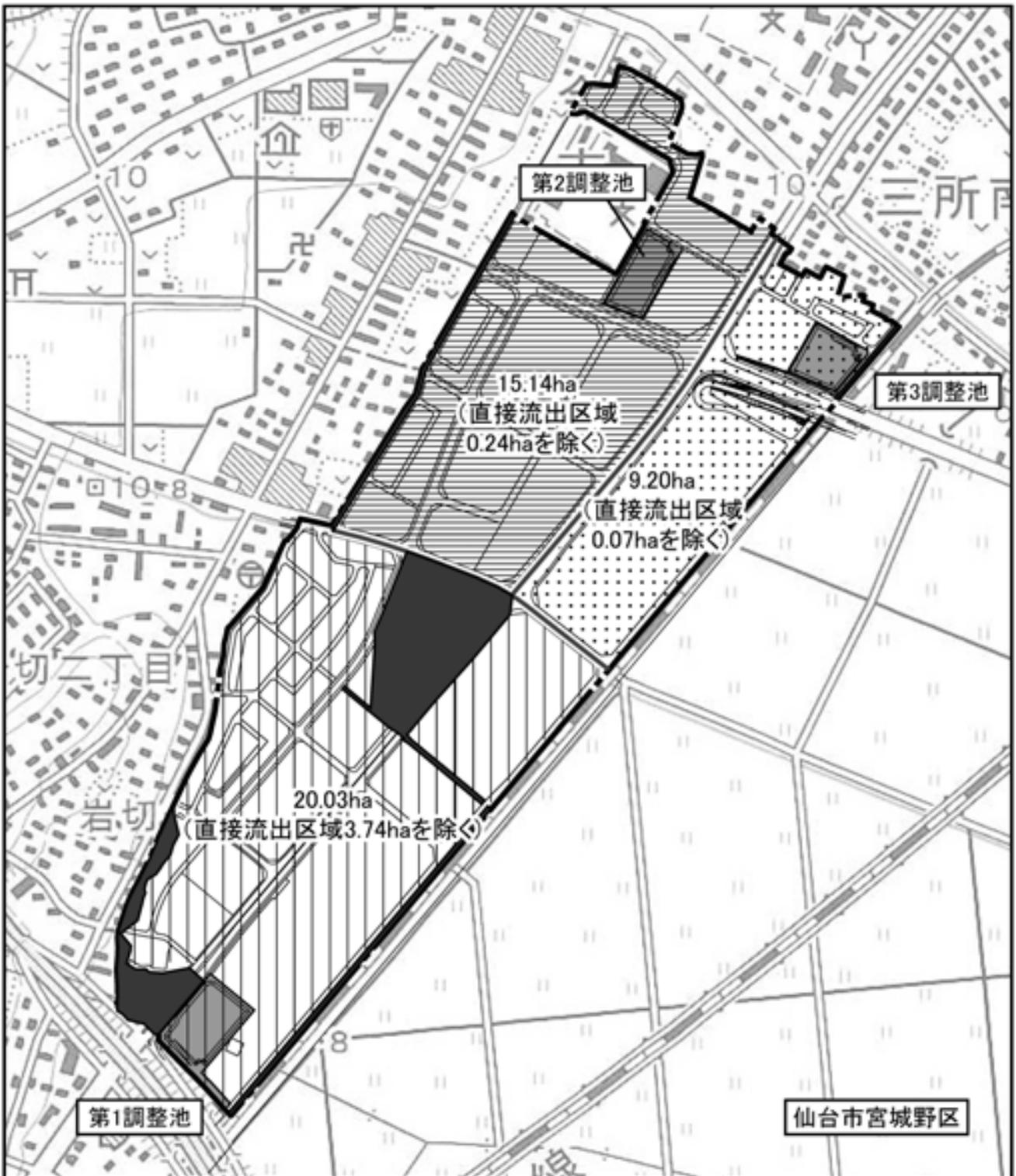


凡例

- | | |
|------------|-----------|
| --- 事業予定区域 | ▨ 第1調整池流域 |
| — 流域区分界 | ▨ 第2調整池流域 |
| | ▨ 第3調整池流域 |

図1-12(1) 調整池流域区分図【評価書】





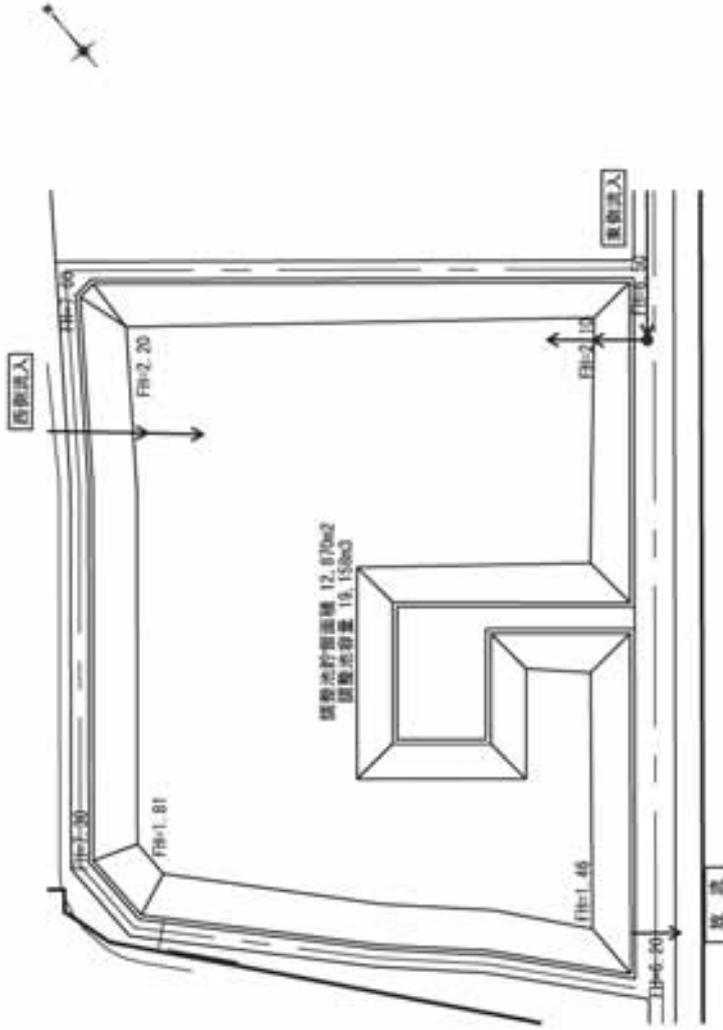
凡例

- | | |
|----------|-----------|
| --- 事業区域 | ▤ 第1調整池流域 |
| — 流域区分界 | ▥ 第2調整池流域 |
| ■ 調整池 | ▦ 第3調整池流域 |
| | ■ 直接流出区域 |

図1-12(2) 調整池流域区分図【現計画】



防災調整池平面図



防災調整池一般断面図

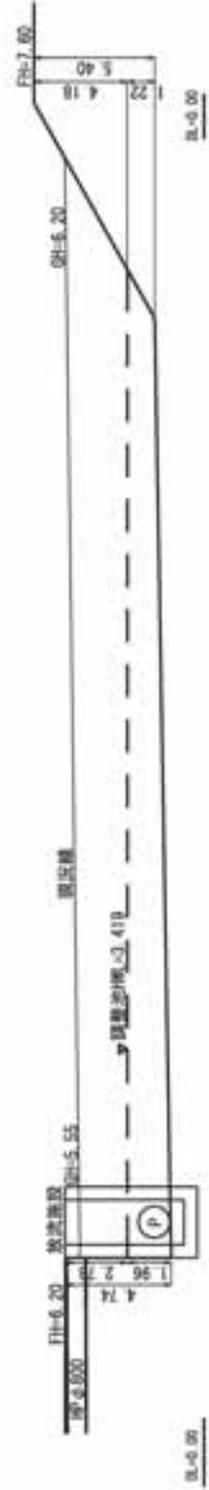
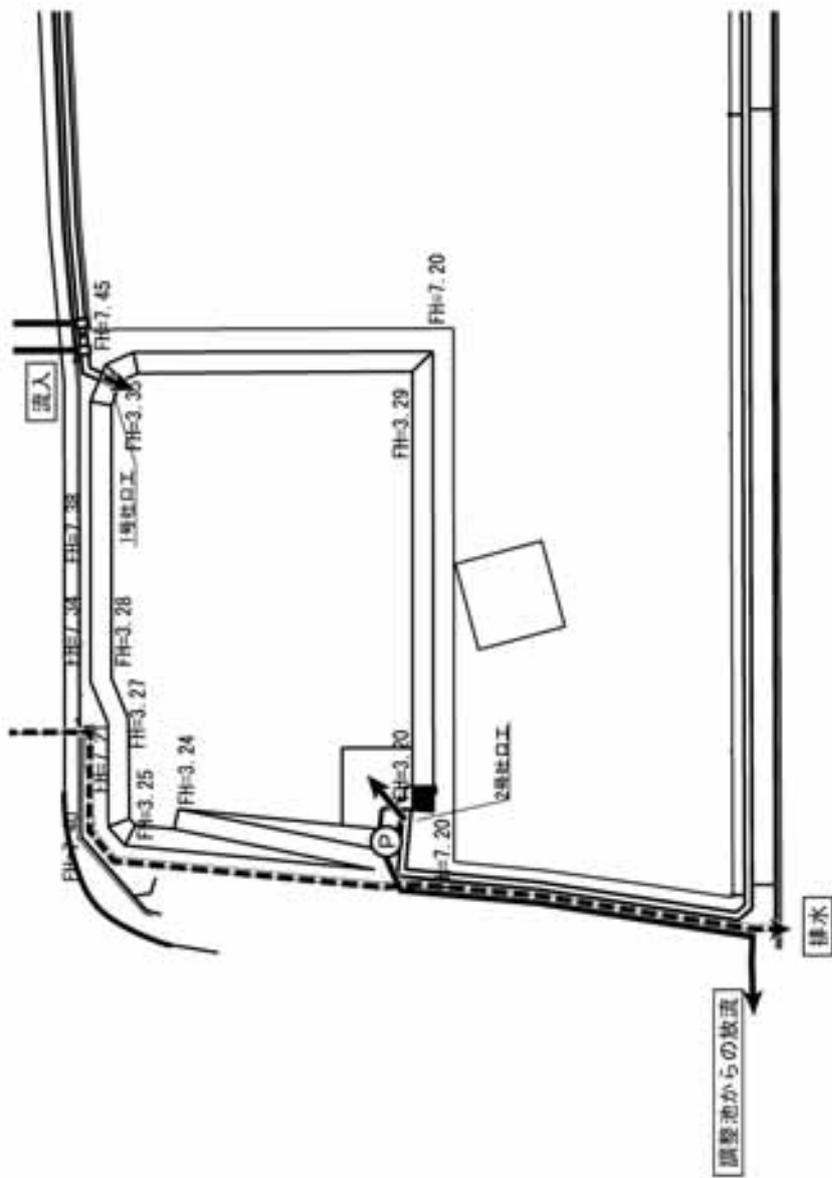


図1-13(1) 調整池計画平面・断面図 (第1調整池) 【評価書】

第1調整池平面図



断面図

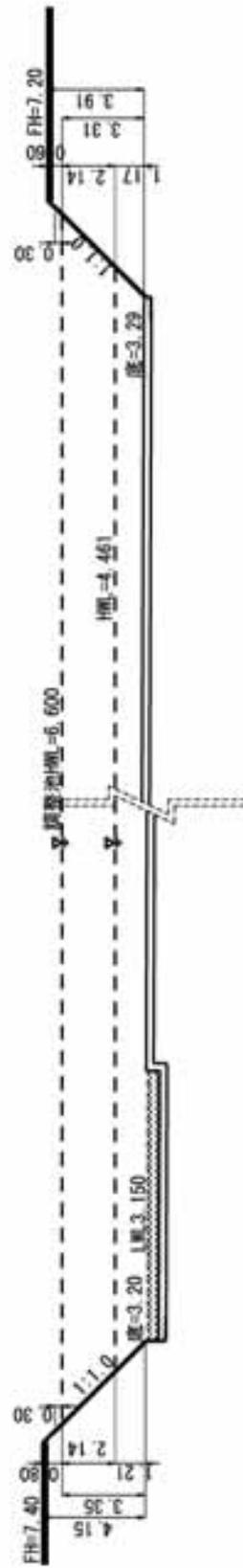
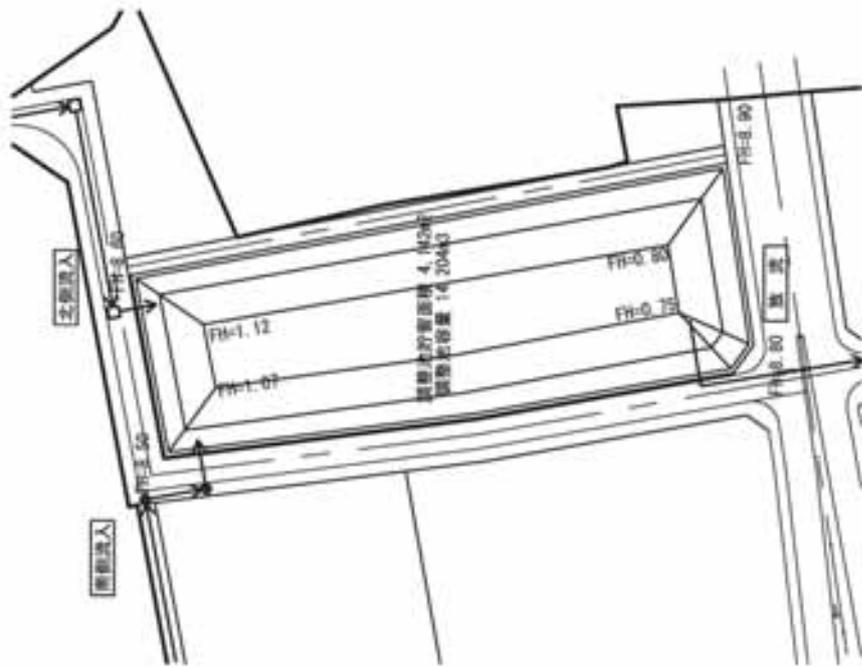


図1-13(2) 調整池計画平面・断面図 (第1調整池) 【現計画】

《第2調整池 福田町流域》

防災調整池平面図



防災調整池一般断面図

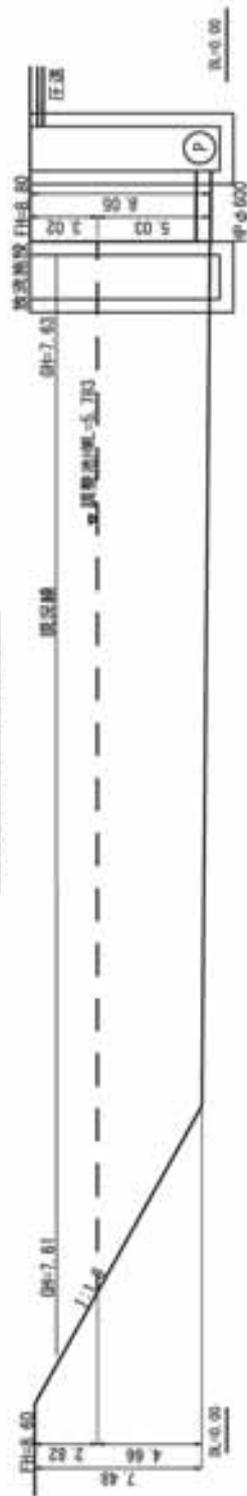
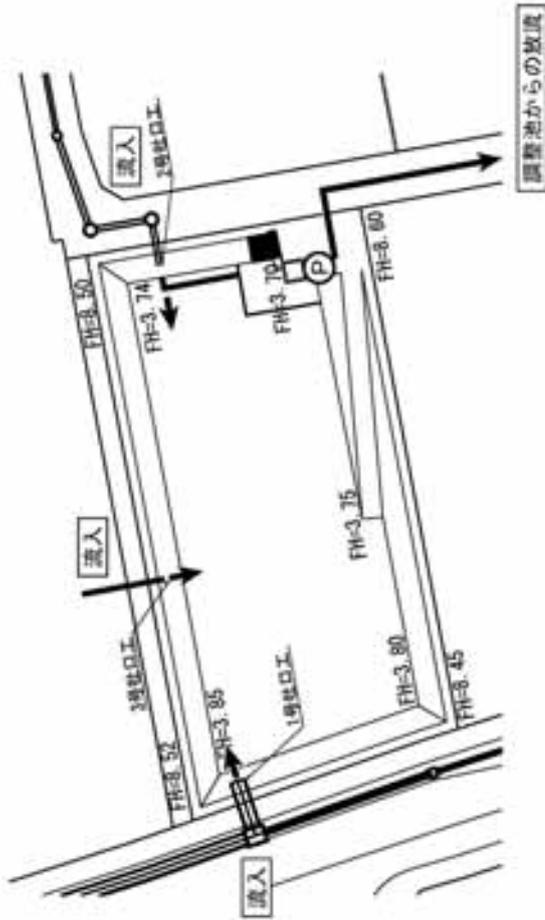


図1-14(1) 調整池計画平面・断面図 (第2調整池) 【評価書】

第2調整池平面図



断面図

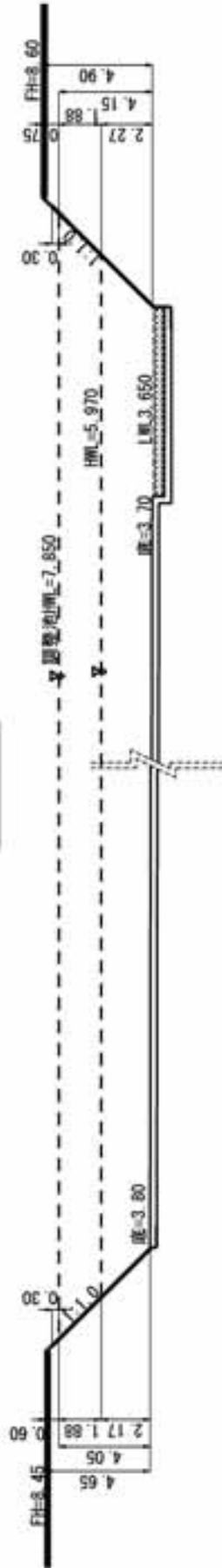
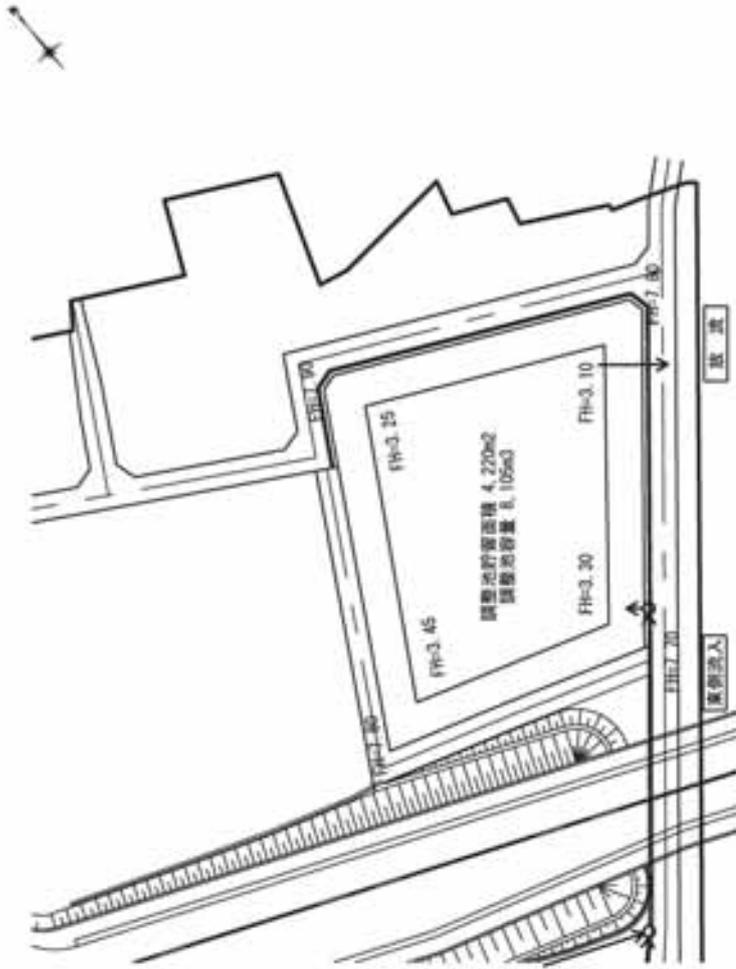
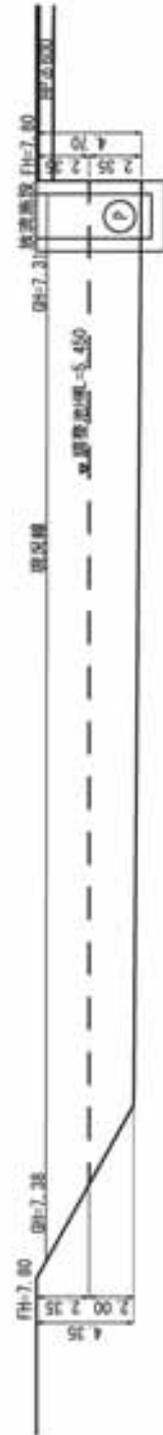


図1-14(2) 調整池計画平面・断面図 (第2調整池) 【現計画】

防災調整池平面図



防災調整池一般断面図

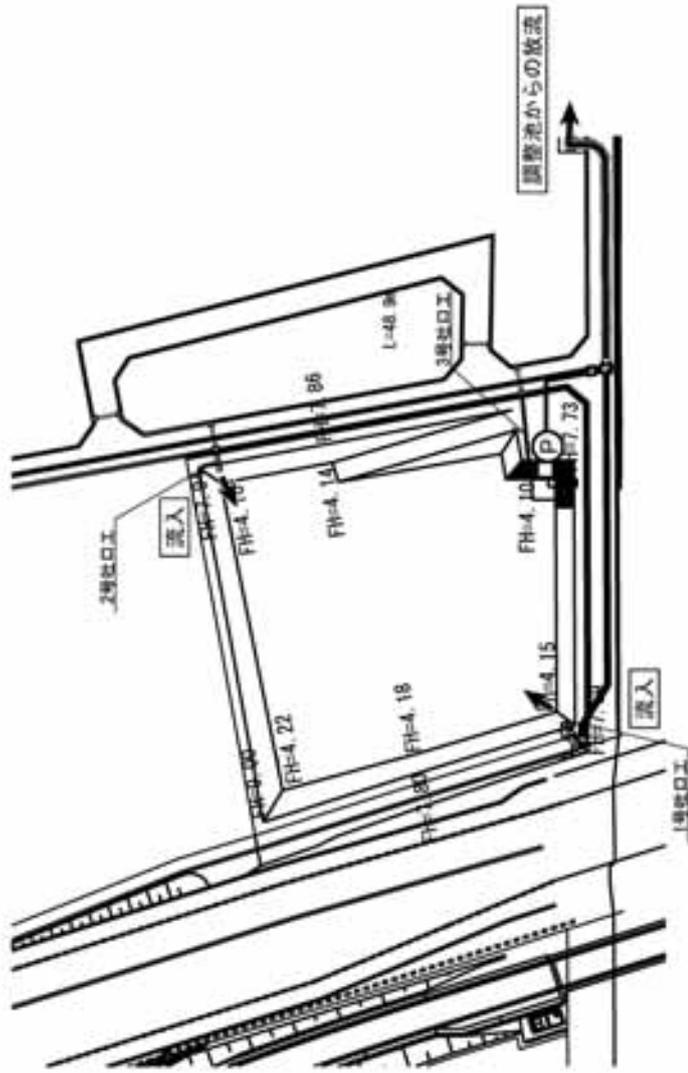


1/100

1/100

図1-15(1) 調整池計画平面・断面図 (第3調整池) 【評価書】

第3調整池平面図



断面図

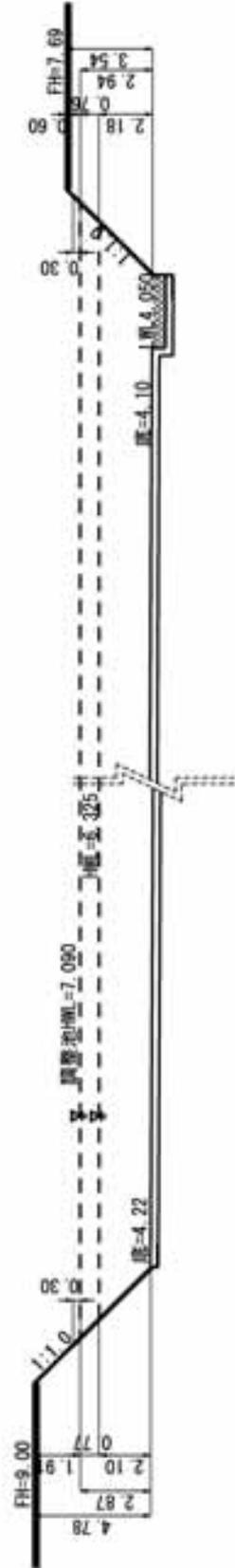


図1-15(2) 調整池計画平面・断面図 (第3調整池) 【現計画】

(3) 農業用排水計画

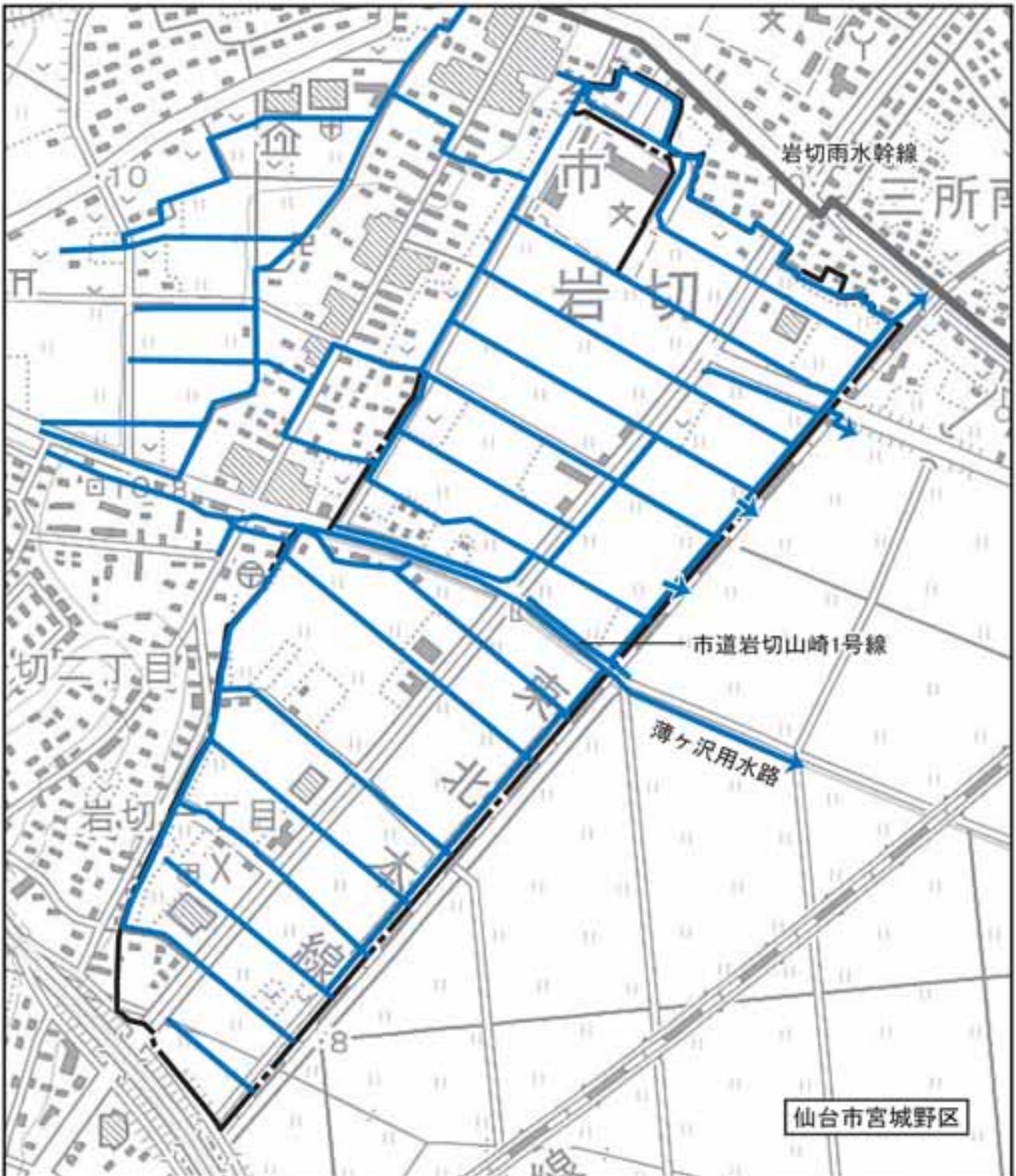
工事着手前の農業用水路は図1-16(1)に、令和5年10月時点の農業用水路は図1-16(2)に、計画農業用水路は図1-16(3)～(4)に示すとおりである。

事業区域内の農地は全て宅地化されるため、農業用排水路は基本的に廃止とする。

しかし、下流に農地が存在するため、市道岩切山崎1号線に埋設されている薄ヶ沢用水路を残存させることとし、薄ヶ沢用水路から供給できない区域（図1-16(3)～(4)参照）には、事業区域内の用水路の付け替えを行い供給する計画である。

現計画では新設農業用水路の一部の配置が変わったものの、評価書からの大きな変更はない。

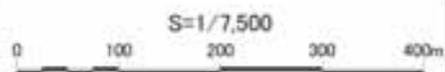
なお、事業区域下流において、高野川雨水幹線を農業用水として利用している区域が一部存在している。

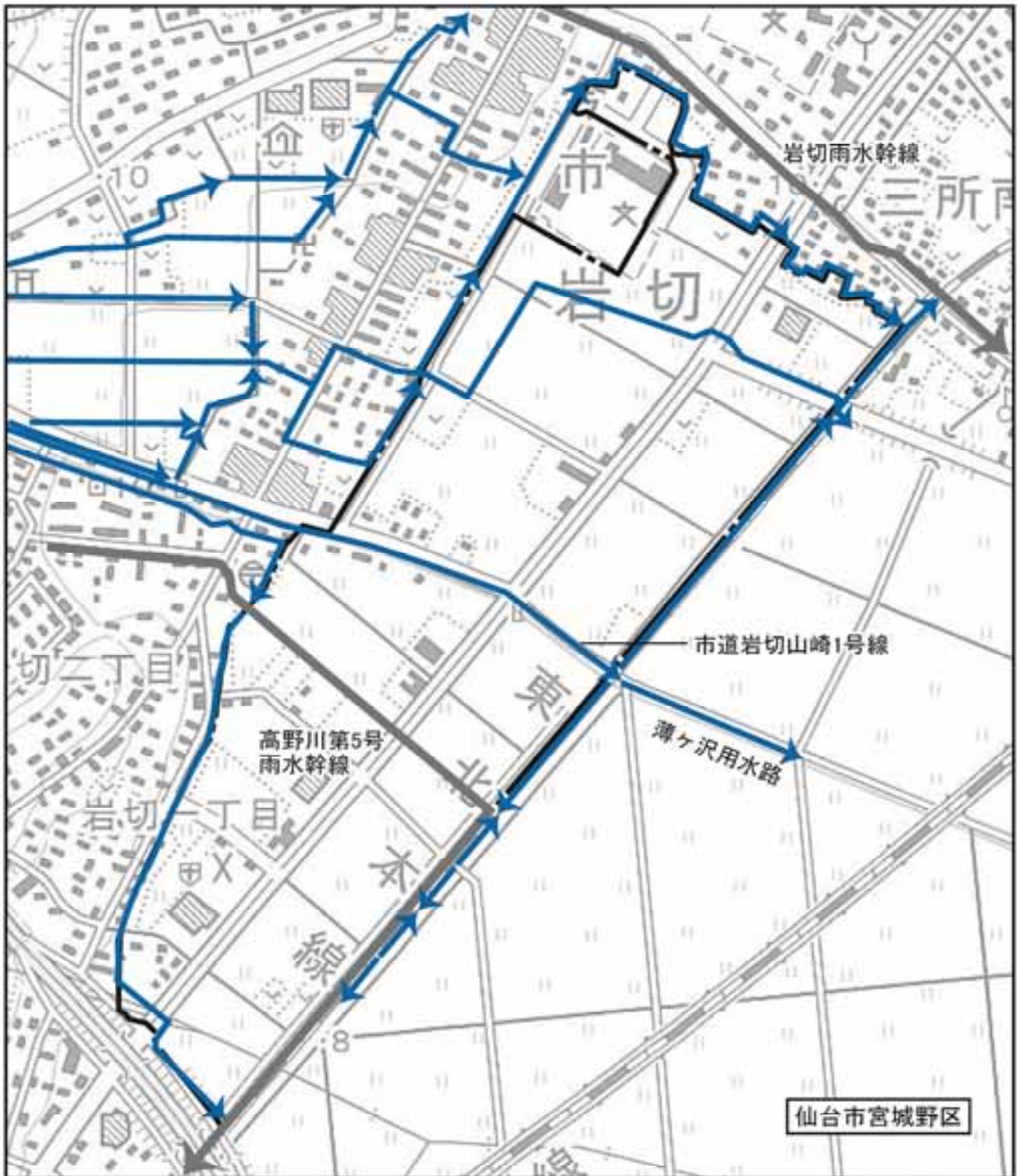


凡 例

- 事業区域
- ← 農業用水路（工事着手前）

図1-16(1) 工事着手前の農業用水路配置図



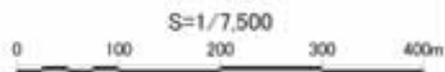


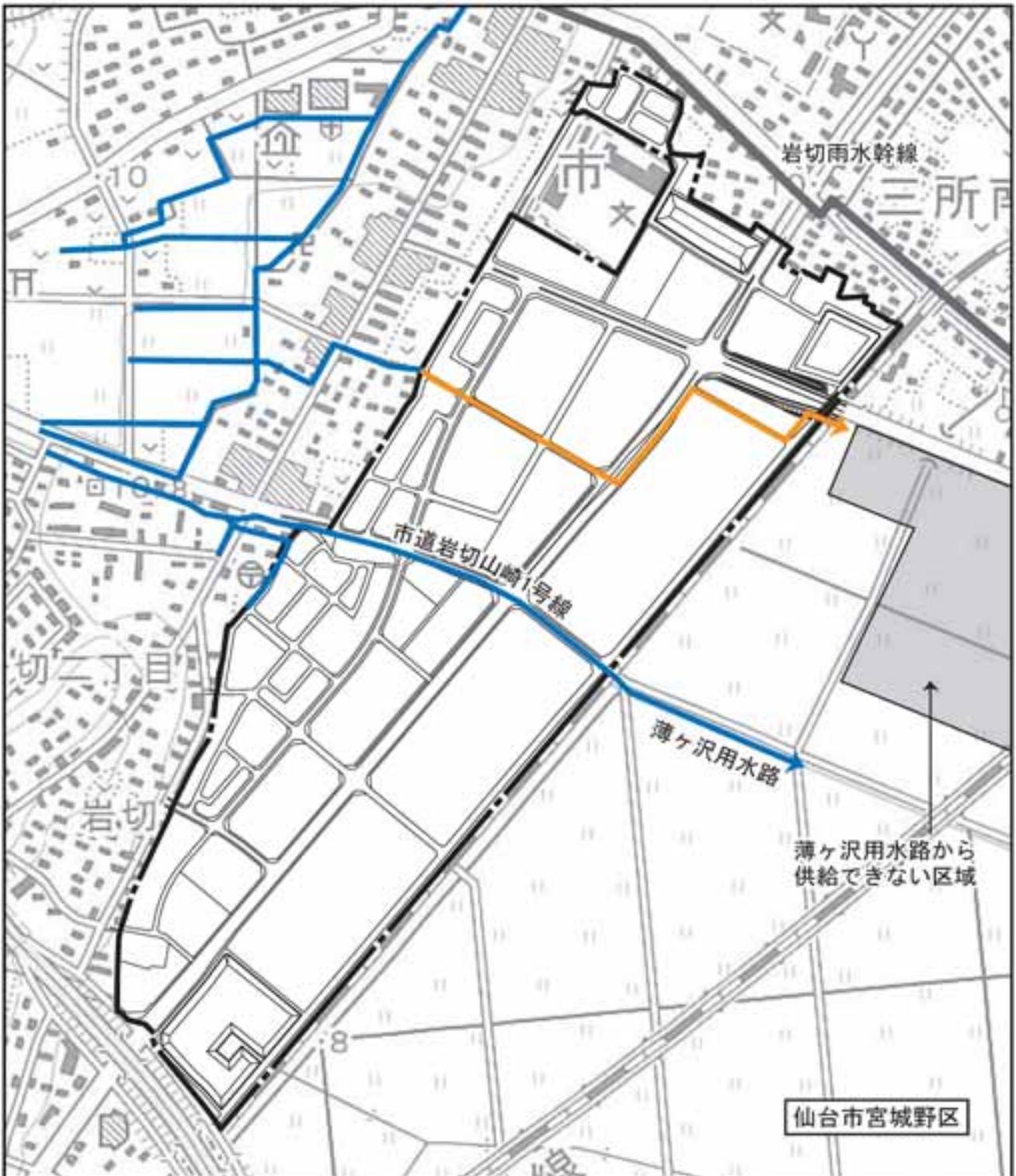
凡例

- 事業区域
- ← 農業用水路（工事中）

注) 令和5年10月現在

図1-16(2) 工事中の農業用水路配置図



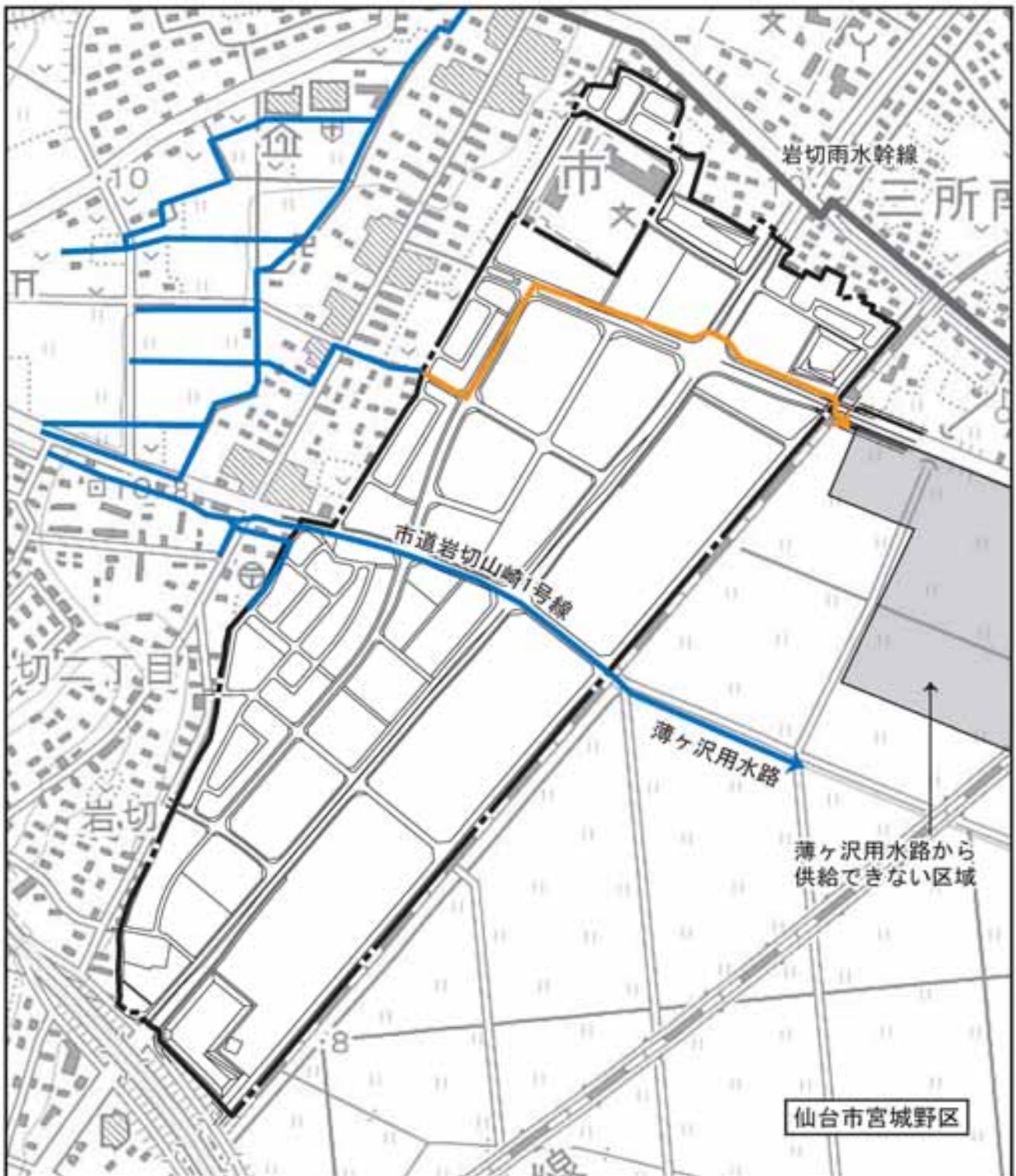


凡例

- 事業予定区域
- ← 農業用水路（新設）
- ← 農業用水路（既存）

図1-16(3) 計画農業用水路配置図【評価書】

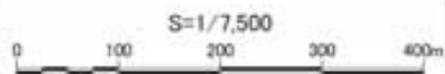




凡例

- 事業区域
- ← 農業用水路（新設）
- ← 農業用水路（既存）

図1-16(4) 計画農業用水路配置図【現計画】



1.5.10 造成計画

本事業における造成計画は、平均盛土厚は約1.0m、宅盤と計画道路の高低差は、最大で約0.5mであり、盛土法面は生じない計画である。なお、本事業によって発生した切土は場内の盛土として利用するため、残土は発生しない。

事業区域における地質調査の結果、地下水位は現況(評価書時点)地盤より約1m下にあり、沖積層が5~20m程度堆積しており、圧密沈下が想定されるため、沈下量を考慮し、70cmの余盛を行い、沈下を促進させて残留沈下量の軽減を図る。また、盛土中及び盛土後において沈下板による沈下量を測定し、沈下を確認して計画盛土高さを確保する。

また、隣接する鉄道、家屋等への引き込み沈下等の影響を検討し、必要に応じて縁切り対策を講じる。下水の人孔や調整池の擁壁などの構造物の沈下に対する影響に対しては、解析結果を踏まえて地盤改良等を実施する。

土質調査結果に対し「宅地の液状化可能性に係る技術指針」(国土交通省、平成25年4月1日)による判定を行った結果、液状化の「顕著な被害の可能性が高い」地点が現況(評価書時点)地形の一部に確認されたが、東日本大震災において事業区域内では液状化は発生していない。盛土をすることにより液状化の可能性は下がることから、特段の対策は行わないこととした。

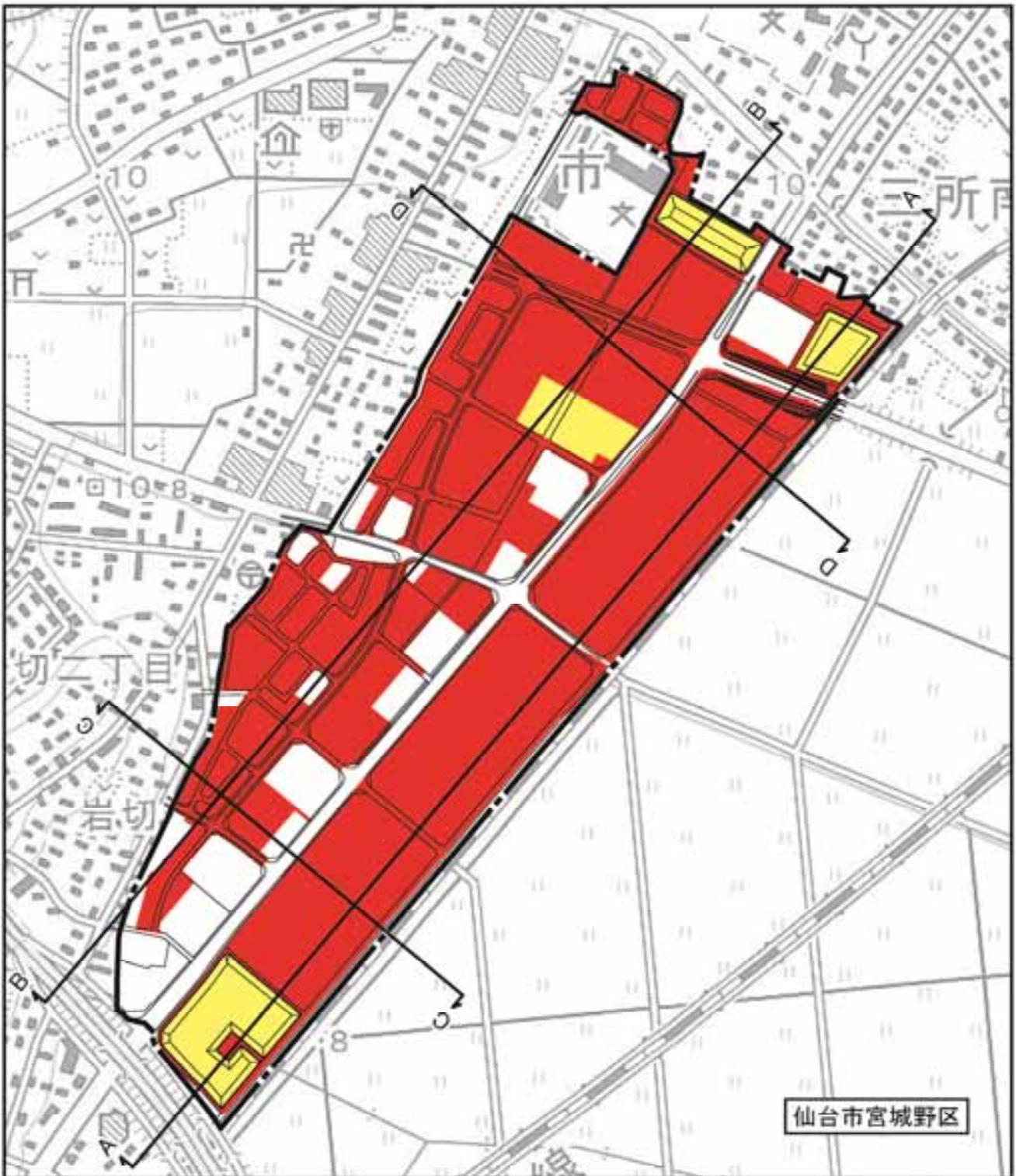
盛土材の土取場については、宅地の盛土に適した品質の土の採取地の中から極力事業区域に近い場所を選定し、盛土材搬入に際しては、事業区域の出入口に洗浄装置を設置するとともに、土取場においても同様の装置を設置し、公道の汚れ防止に留意する。

また、本事業においては、仮設沈砂池に堆積した土砂を盛土材として再利用する計画であるが、その際には、「建設発生土利用技術マニュアル」に基づき、含水比低下や粒度調整などの土壌改良を行う。含水比低下については、天日乾燥を行い、現場密度が最大乾燥密度の90%以上を目標に締固めを行うこととする。また、粒度調整については、コーン指数400kN/m²以上を目標に、土取場から採取した盛土材と混合を行うこととする。土砂と混合する盛土材には、宅地の盛土に適した品質の土を採取する計画である。

また、土地改良区や地権者の聞き取り等によると、本事業により盛土造成する農地に工場、事業場などの利用履歴はなく、土壌汚染の恐れのある区域は確認されなかった。

現計画では、第2調整池の位置が評価書から変更になり、調整池容量が増加した。また、評価書では主に調整池工による切土を切土量としていたが、現計画では工事の内容がより具体的になったため、調整池工以外の汚水雨水排水工等による掘削土量も算入した。このことから、構造物工事による掘削土量が増加した。一方、評価書と比較し、盛土量は24,312m³増加した。ただし、切土及び構造物工事による掘削土は事業区域内において盛土材として転用することから、搬入土量としては評価書と比較し54,180m³の減少となった。

造成計画平面図は図1-17(1)~(2)に、造成計画断面図は図1-18(1)~(2)に、土工量の変更は表1-10(1)~(2)に示すとおりである。



仙台市宮城野区

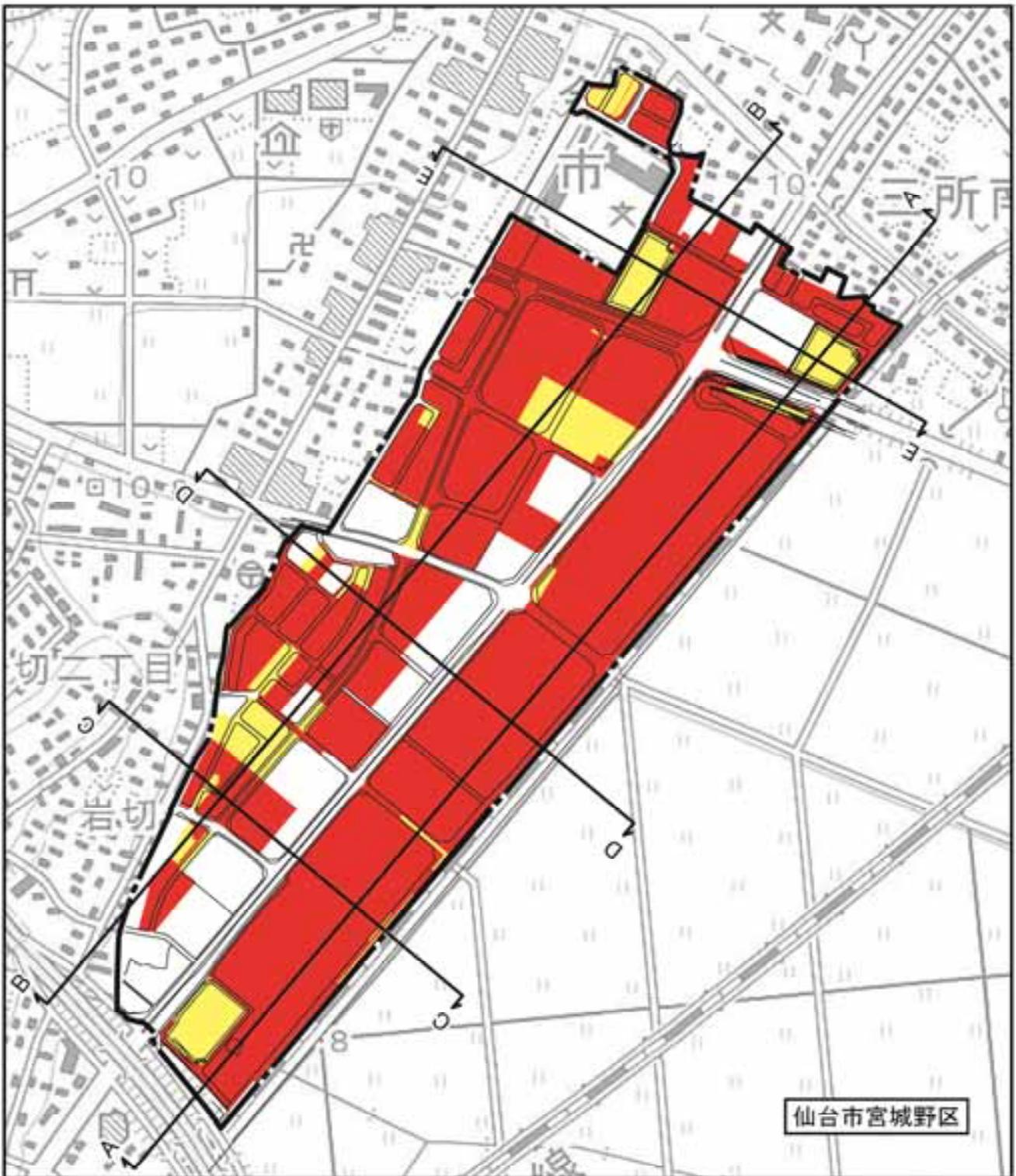
凡例

- 事業予定区域
- 切土部
- 盛土部
- ↔ 断面位置

図1-17(1) 造成計画平面図【評価書】

S=1/7,500
0 100 200 300 400m

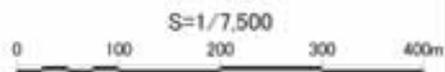




凡例

- 事業区域
- 切土部
- 盛土部
- ↕ 断面位置

図1-17(2) 造成計画平面図【現計画】



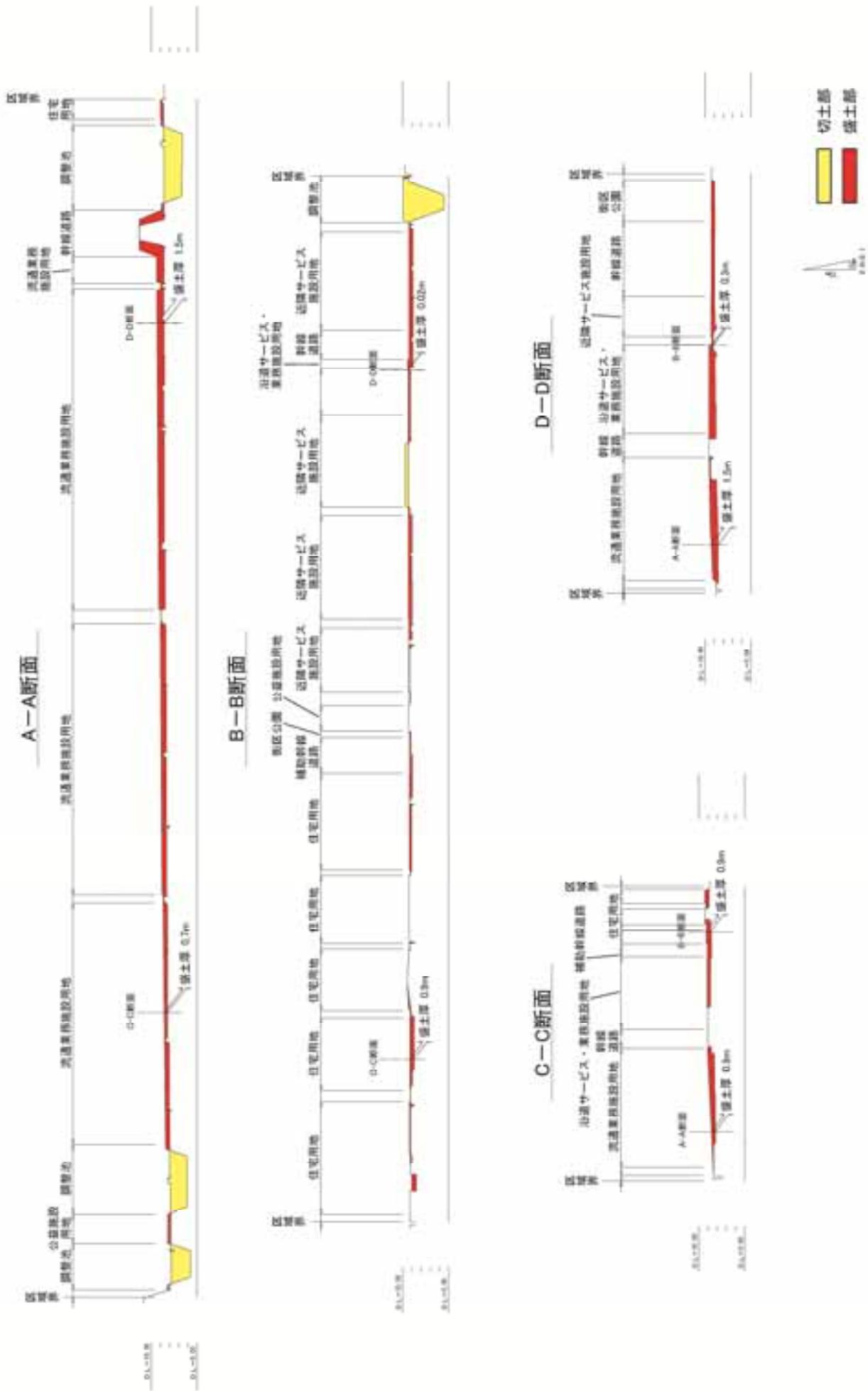


図1-18(1) 造成計画断面図【評価書】

表1-10(1) 土工量【評価書】

項目		1工区	2工区	3工区	4工区	合計
盛土面積 (ha)		4.6	9.6	7.7	6.5	28.4
土工量 (m ³)	盛土量 (m ³) ①	59,750	122,300	98,200	83,300	363,550
	地区内切土量 (m ³) ②	0	15,000	20,000	8,000	43,000
	地区外からの搬入量 (m ³) ③=①-②	59,750	107,300	78,200	75,300	320,550

注) 工区区分は、図1-20に示す。

表1-10(2) 土工量【現計画】

項目		1~4工区合計	備考
盛土面積 (ha)		32.5	
土工量 (m ³)	盛土量 (m ³) ①	387,862	
	地区内切土量 (m ³) ②	2,673	
	構造物工事による掘削土量 (m ³) ③	118,819	調整池工による43,411m ³ を含む
	地区外からの搬入量 (m ³) ④=①-②-③ (評価書からの差)	266,370 (-54,180)	

注) 工区ごとの土工量は、現時点では集計していない。

1.5.11 仮設防災計画

濁水は、仮設排水路により仮設沈砂池に流入させたのち、そこで沈砂をさせることにより、土工事による土砂流出を防ぎ、事業区域外への濁水の影響を軽減させることとする。仮設沈砂池は地形上、堀込式となるため、上水をポンプアップし、圧送配管を通してJR東北本線沿いの既設水路に放流する計画である。圧送管は水田など現況（評価書時点）地盤に埋設することとし、県道仙台松島線の横断については、耕作停止とともに不要となった点在する既設の横断埋設管の中に圧送管を配管する。

工事期間中の設計堆砂量は $300\text{m}^3/\text{ha}/\text{年}$ とし、1ヶ月に1回排砂し、その土砂は、盛土材として再利用する計画である。仮設沈砂池の設置計画は、表1-11に示すとおりである。

事業区域内には、各工区に仮設沈砂池を設置し、土工事開始から事業区域内に新設する調整池が整備されるまで利用する。第4工区については、盛土構造である今市福田線を境に流域が分かれるため、それぞれの流域に1ヶ所ずつ設置する計画である。

なお、仮設沈砂池は工事の進捗に応じて設置するものとし、現時点では、図1-19に示すとおり、2ヶ所の水田跡地を仮設沈砂池代わりに利用して、濁水を既存の農業排水路や道路横断埋設管により東側の水路に排水している。

表1-11 仮設沈砂池計画一覧

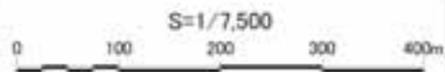
項目	記号	単位	1号沈砂池	2号沈砂池	3号沈砂池	4号沈砂池	5号沈砂池	摘要
造成面積	A	ha	4.6	10.9	9.2	5.6	1.4	計32ha
流域面積	A	ha	12.5	15.1	11.7	6.6	2.7	計49ha
必要堆砂量	Vs1	m^3	115	273	230	140	35	
下流許容放流量	Qc	m^3/s	0.288	0.257	0.269	0.112	0.046	比流量より算定
雨水調整必要容量	V	m^3	5,231	7,514	4,896	3,284	1,344	
必要容量	ΣV	m^3	5,346	7,787	5,126	3,424	1,379	$V+Vs1$
計画容量	V	m^3	5,625	8,100	5,250	3,600	1,500	$L \times B \times h$
縦長	L	m	75	90	70	60	50	
横長	B	m	50	60	50	40	20	
洪水吐流量	Qm	m^3/s	0.432	0.386	0.404	0.168	0.069	$Qc \times 1.5$
計画堆砂位	h1	m	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
有効水位	h2	m	1.40	1.40	1.40	1.40	1.40	
越流高さ	h3	m	0.13	0.12	0.13	0.07	0.04	
H.W.Lの水位	h	m	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	$h1+h2$
H.H.W.Lの水位	h0	m	1.63	1.62	1.63	1.57	1.54	$h+h3$
余裕高	h4	m	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60	
沈砂池の深さ	H	m	2.23	2.22	2.23	2.17	2.14	$h0+h4$
流水断面積	WA	m^2	6.60	7.35	6.32	2.81	0.78	
平均流速	Va	m/s	0.04	0.03	0.04	0.04	0.06	<0.3
沈砂池内の滞留時間	T	sec	1720	2574	1643	1508	845	>30sec



凡例

- 事業区域
- 流域界
- ← 放流先
- ← 既設水路
- 仮設沈砂池

图1-19 仮設沈砂池配置图



1.5.12 事業工程計画

本事業の工程は、表1-12(1)～(2)に示すとおりである。事業区域については、市街化区域編入のための手続きが進められており、令和2年5月15日に都市計画変更（市街化区域編入）が行われた。

また、予定では、令和2年12月に組合が設立され、令和3年1月に着工、令和6年6月まで42ヶ月間の工事とし、工事完了後は、換地処分・登記を経て、令和8年3月の組合解散としていた。

しかし、事業認可が令和3年3月と遅れたため、工事開始は令和3年6月となった。その後、土地利用計画や調整池及び公園などの変更に伴う関係機関との協議や各種手続きに時間を要したことから、実施設計の見直しができず、令和4年7月より工事が中断された。

その後、事業計画変更の調整が概ね確定できたことから、実施設計の見直しを行い、令和5年6月末で実施設計協議が締結された。令和5年7月からは本格的な工事が再開され、工事終了は令和9年3月、組合解散は令和11年1月の予定である。

工事は図1-20に示す4工区に分けて行い、工事が完了した工区から順次保留地処分を行う予定である。なお、隣接事業（仙台貨物ターミナル駅移転計画）の工事については、見直しが行われており、令和11年度まで予定されている。

表1-12(1) 事業工程【評価書】

工程	年度	平成29	平成30	平成31	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8
都市計画		■			■						
基本計画・基本設計		■	■	■							
環境影響評価			■	■	■						
事業認可					■						
実施設計・換地設計					■	■	■				
工事・保留地処分					令和3年1月	■	■	■	令和6年6月		
換地計画・処分・登記									■	■	
組合解散											■
隣接事業(仙台貨物ターミナル駅移転計画)工事※	平成30年2月	■	■	■	■	■	■	令和5年2月			

※「仙台貨物ターミナル駅移転計画の概要」（平成31年4月26日、JR貨物・宮城県）（事業説明会説明資料）より

表1-12(2) 事業工程【令和6年11月時点】

工程	年度	平成29	平成30	平成31	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和11
都市計画		■			■									
基本計画・基本設計		■	■	■										
環境影響評価			■	■	■									
事業認可					■									
実施設計・換地設計					■	■	■							
工事・保留地処分					令和3年4月	■	令和4年7月～令和5年6月 中断	■	■	■	■	■		
換地計画・処分・登記											■	■		
組合解散														■
隣接事業(仙台貨物ターミナル駅移転計画)工事※	平成30年2月	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	令和11年度完了予定	

※「事後調査報告書（工事中その1）－仙台貨物ターミナル駅移転計画－」（令和6年3月、日本貨物鉄道株式会社）

1.6 工事計画

1.6.1 工事工程及び使用重機等

本事業の工事工程は表1-14(1)～(2)に、主な使用重機等は表1-13に、工事工区区分は図1-20に示すとおりである。

表1-13 主な使用重機等

工種	主な使用重機等
仮設沈砂池工	ラフテレーンクレーン、バックホウ、ダンプトラック等
盛土工	バックホウ、ブルドーザ、振動ローラ、ダンプトラック等
本設調整池工	ラフテレーンクレーン、バックホウ、ブルドーザ、振動ローラ等
排水工	ラフテレーンクレーン、バックホウ、ダンプトラック、ハンドローラ等
道路工	バックホウ、アスファルトフィニッシャー、タイヤローラ、ハンドローラ等

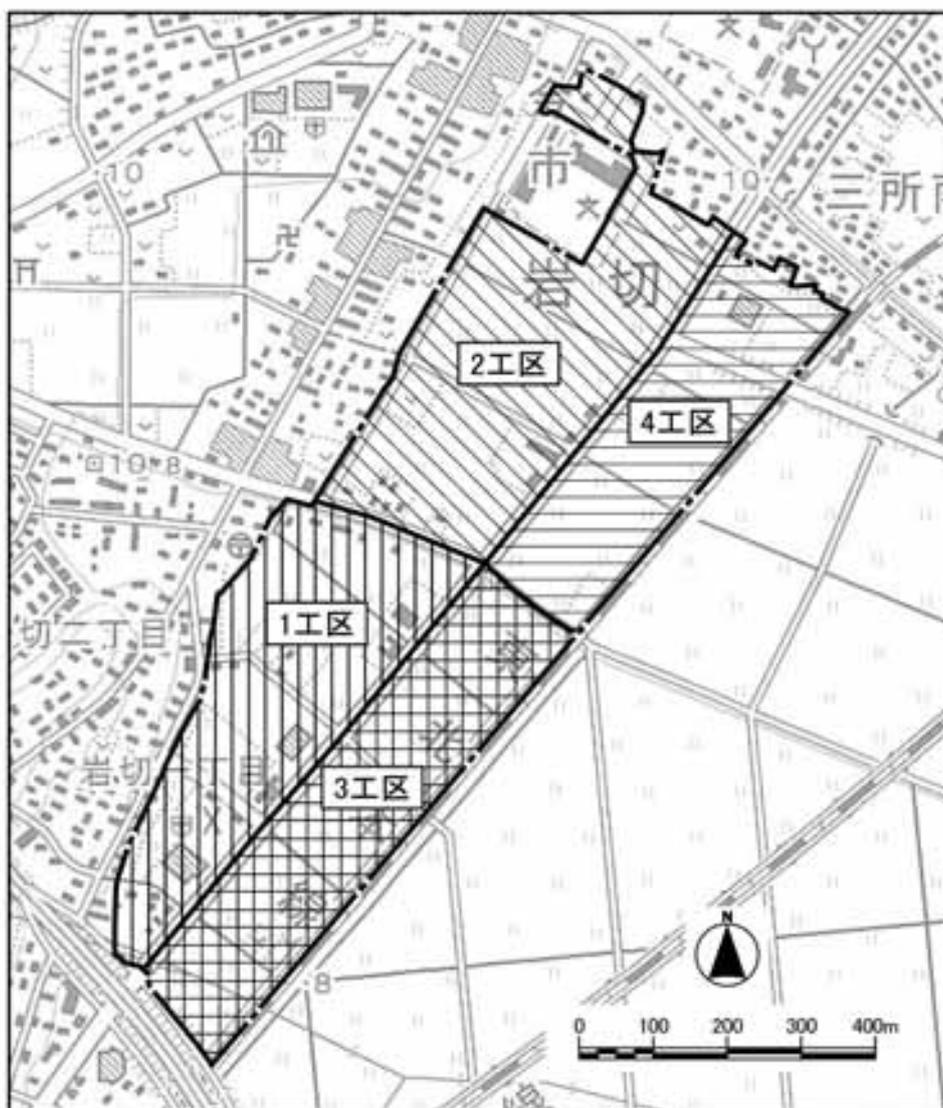


図1-20 工事工区区分及び工事期間

表1-14(1) 工事工程【評価書】

工事月数		令和2												令和3												令和4												令和5												令和6																																																																																																																																																																																																											
年度		1						2						3						4						5						6						7						8						9						10						11						12						13						14						15						16						17						18						19						20						21						22						23						24						25						26						27						28						29						30						31						32						33						34						35						36						37						38						39						40						41						42					
月		11		12		1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3		4		5		6																																																																																																																																																																					
仮設工事		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
①工区		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
仮設沈砂池工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
盛土工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
水路工・管渠工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
道路工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
②工区		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
仮設沈砂池工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
盛土工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
本設調整池工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
水路工・管渠工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
道路工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
③工区		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
仮設沈砂池工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
盛土工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
本設調整池工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
水路工・管渠工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
道路工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
④工区		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
仮設沈砂池工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
盛土工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
本設調整池工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
水路工・管渠工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
道路工		[Gantt chart bars]																																																																																																																																																																																																																																																											
計		[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																											
月稼働台数 (台/月)	建設機械		[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	ラフテレーンクレーン	50t	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
		25t	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	バックホウ	0.8m3級	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
		0.45m3級	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	ブルドーザ	21t級	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
		4~7t級	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	振動ローラ	10t	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	ダンプトラック	10t(場内)	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
		4t,2t(場内)	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	モーターグレーダー		[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	タイヤローラ	10t	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	ハンドローラ	600kg	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	アスファルトフィニッシャー	3.2~6.0m	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
日稼働台数 (台/日)	建設機械		[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	ラフテレーンクレーン	50t	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
		25t	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	バックホウ	0.8m3級	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
		0.45m3級	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	ブルドーザ	21t級	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
		4~7t級	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	振動ローラ	10t	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	ダンプトラック	10t(場内)	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
		4t,2t(場内)	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	モーターグレーダー		[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	タイヤローラ	10t	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	ハンドローラ	600kg	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
	アスファルトフィニッシャー	3.2~6.0m	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																										
工事用車両		[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																											
ダンプトラック	10t(土取場A)	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																											
	10t(土取場B)	[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																											
通勤車両(職員含む)		[Summary row]																																																																																																																																																																																																																																																											

注)「使用収益開始」とは、仮換地指定した土地において、換地先の道路やライフラインの整備が完了して、実際に宅地の利用(建築着工等)が可能となることをいう。

■ : 工事用車両台数、通勤車両台数が最大となる時期を示す。

(空白ページ)

(空白ページ)

1.6.2 工事管理計画

工事管理計画は、以下に示すとおりである。具体的な内容は工事着手前に関係住民及び関係機関と十分な協議を行い、工事中の安全確保と環境の保全を図る計画である。

(1) 安全対策

工事実施に先立ち、指揮・命令系統の組織表を作成し、責任体制を明確にするとともに、外部からの問い合わせにも、適切かつ迅速に対応できるようにする。

工事用車両は、登下校時間帯の出入りを可能な限り少なくするとともに車両の運行が一時的に集中しないよう工程の平準化に努める。工事用車両ゲート及び工事用車両走行ルート上の主な交差点には、適宜、交通誘導員等を配置し、通行人の安全確保と交通渋滞の緩和に努める。また、工事用車両の走行は、定められたルートを走行するよう周知徹底させる。

作業員には工事着手前に新規入場者教育を行うと共に、工事開始後は、毎日、作業開始前に危険予知活動や作業前点検を行うことによって労働災害の発生防止に努める。

また、工事用車両の運転者には随時安全教育を実施し、交通法規の遵守及び安全運転の実施を徹底させる。

(2) 環境保全対策

工事関係者用の仮設建物は、給排水施設に接続できる場所を選定し、排水は公共下水道に流すとともに、事業区域内に仮設トイレを設置し、給排水施設以外の場所に汚水を排水することがないようにする。

環境保全対象となる病院等には必要に応じて防音効果が見込まれる仮囲いを設置するほか、工事実施に先立ち、事業区域内の家屋や事務所あるいは外周部において必要な箇所に土砂流出防止柵や防塵ネットなどを設置する。

工事期間中は、粉じんの飛散等が発生しないよう事業区域や周辺道路への散水・清掃等を十分に行うとともに、工事用車両出入口にはタイヤ洗浄機を設置し、車輪の清掃を行い一般道路の汚れを防止する。また、排出ガス対策型、低騒音・低振動型の重機の採用に努めるとともに、工事工程を平準化し、工事用車両及び重機等の運転者へは、無用なアイドリングや空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう指導・教育を徹底する等、大気汚染物質及び温室効果ガスの排出量を抑制し、騒音及び振動を低減するための措置を講じる。

(3) 廃棄物等処理計画

建設副産物（建設発生土等及び建設産業廃棄物）の処理にあたっては、「資源の有効な利用促進に関する法律（リサイクル法）」、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（通称「建設リサイクル法」）及び「仙台市発注工事における建設副産物適正処理推進要綱」に従い処理する。また、事業区域内において発生した一般廃棄物についても、分別収集を行い、リサイクル等再資源化に努める。

廃棄物の回収及び処理を委託する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の関係法令に基づき、仙台市の許可業者に委託するものとし、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付し、適切に処理されることを監視する。

伐採した樹木については、再資源化率を向上させる措置として、チップ化による再利用を行い、廃棄物量及び二酸化炭素排出量の削減に努める。

また、コンクリート型枠は、極力、非木質のものを採用し、基礎工事や地下躯体工事においては、計画的に型枠を転用することに努める。

(4) 作業日及び作業時間

作業日及び作業時間は、原則として午前8時から午後5時まで（昼休み及び休憩計2時間を含む）の7時間とし、土曜日及び日曜日は原則として作業を行わない。なお、祝日は作業を行う。

(5) 工所用車両の運行計画

本事業に係る工所用車両の走行台数は、評価書においては、1日あたりの最大台数は400台/日、その時期は工事着手後4～6ヶ月目及び8～20ヶ月目を想定していた（表1-14(1)参照）。現計画では、次に述べるとおり、工所用車両ルートの変更があったものの、評価書と比較し搬入土量は減少していることから（「1.5 事業の内容 1.5.10 造成計画」（p.53参照））、工所用車両についても最大で400台/日であることに変更はない。ピーク時期は、令和6年6月～9月である。

また、工所用車両の走行ルートは図1-21～22に示すとおりである。評価書時点では、土取場が不確定であったため、土取場予定地Aと土取場予定地Bの2ヶ所を想定していたが、現計画では土取場①～③に変更し、事業区域に搬出入するルートは北側からの1ルートとなった。土取場予定地Aは事業採算性の関係から土砂の搬出入先として選定しないこととなった。

ダンプトラックによる搬出入は、通学時間帯の午前7時30分から午前8時30分の間は行わない。また、仙台方向への朝の通勤時間帯の渋滞を考慮して、搬入は午前9時以降とする。

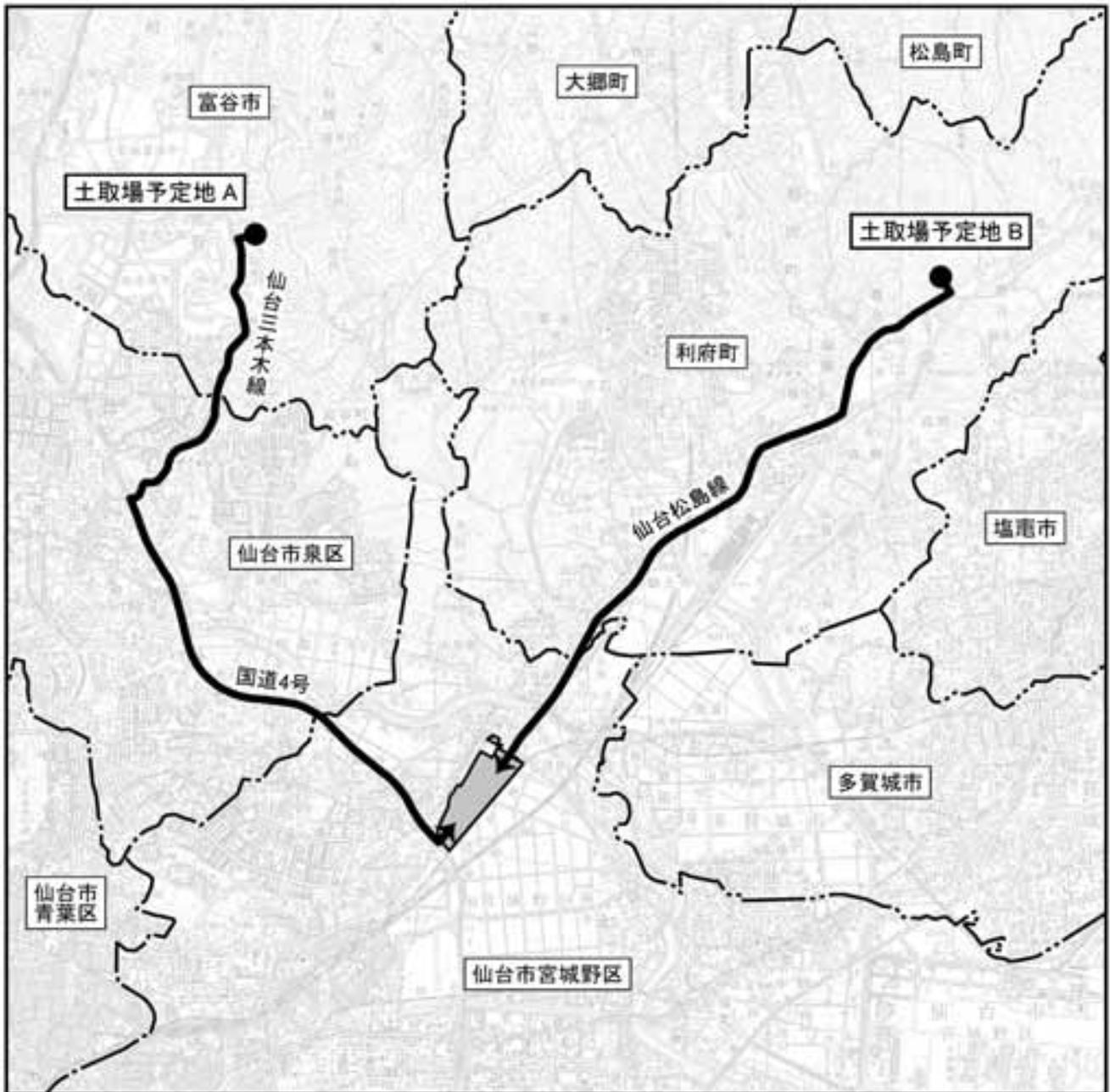
工所用ゲート及び主な走行ルート上の交差部には、適宜、交通誘導員を配置し、一般車両の走行の妨げにならないように誘導する。工所用車両には事業名、元請会社名を記載したダンプマスクを装着し、所在を明らかにして運行する計画である。また、運転者への安全教育を徹底し、運行時間や走行ルート及び走行ルート上の注意事項を記載したハザードマップを配布、常備させ、事業区域外においての交通法規の遵守及び安全運転の実施を徹底させるとともに、定期的に運行経路パトロールを行い確認する計画である。

(6) 通勤用車両の運行計画

本事業に係る通勤用車両の台数は、評価書においては、1日あたりの最大台数は80台/日、その時期は工事着手後16～26ヶ月目を想定していた（表1-14(1)参照）。その後も台数の変更はない。

通勤用車両の走行ルートは図1-23に示すとおりであり、駐車場は、1工区の中央付近に1ヶ所設置する予定である。なお、工所用ゲート及び主な走行ルート上の交差部には、適宜、交通誘導員を配置し、一般車両の走行の妨げにならないように誘導する。

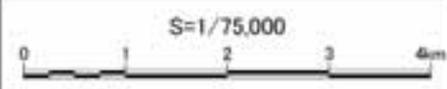
運転者へは、走行ルートや運行時間等を周知すると共に、安全教育を徹底し、事業区域外においての交通法規の遵守及び安全運転の実施を徹底させる計画である。

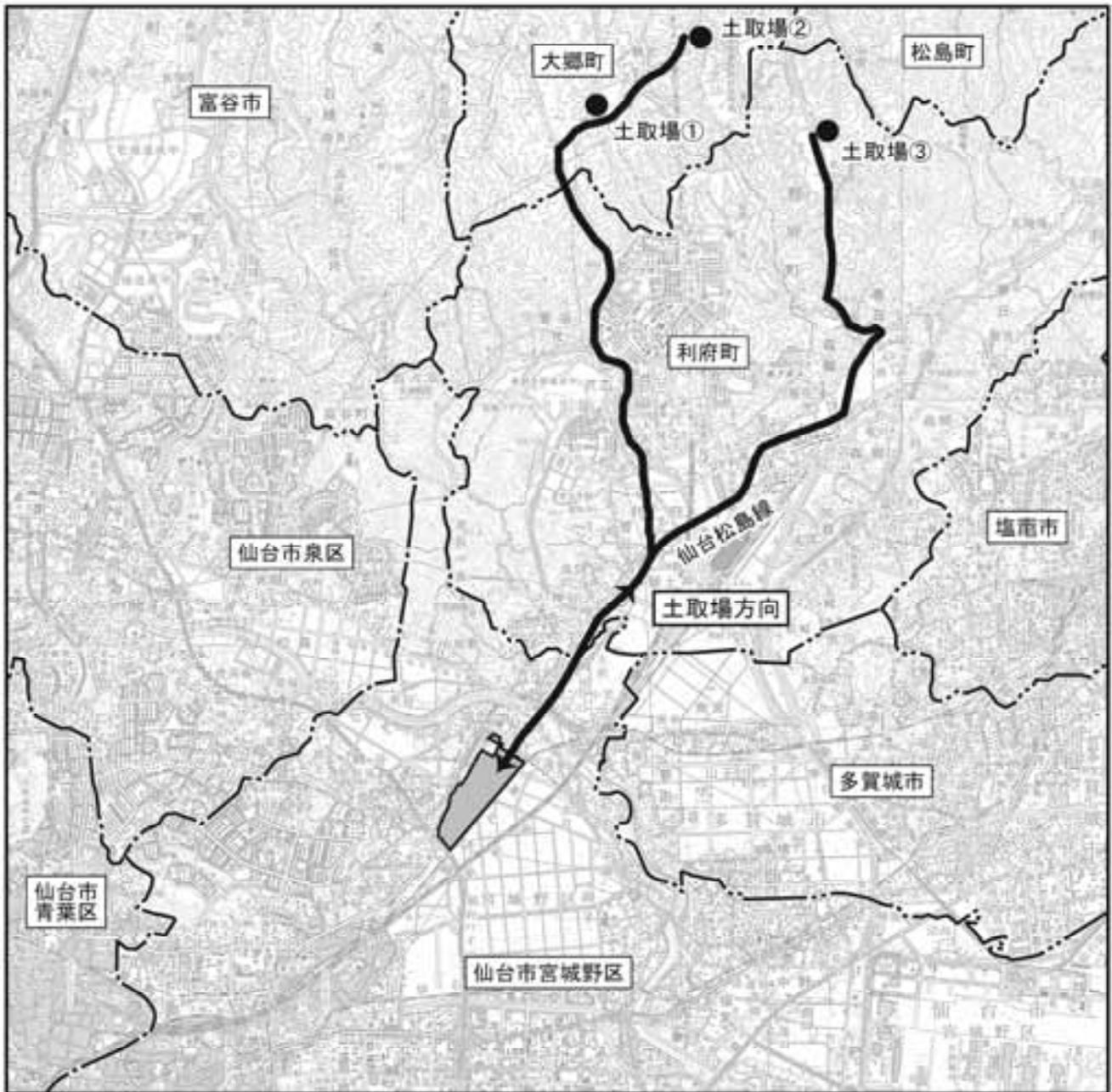


凡例

- 事業予定区域
- 市町界
- 区界
- 土取場予定地
- 工事用車両ルート

図1-21(1) 工事用車両ルート(広域)【評価書】

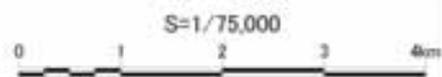


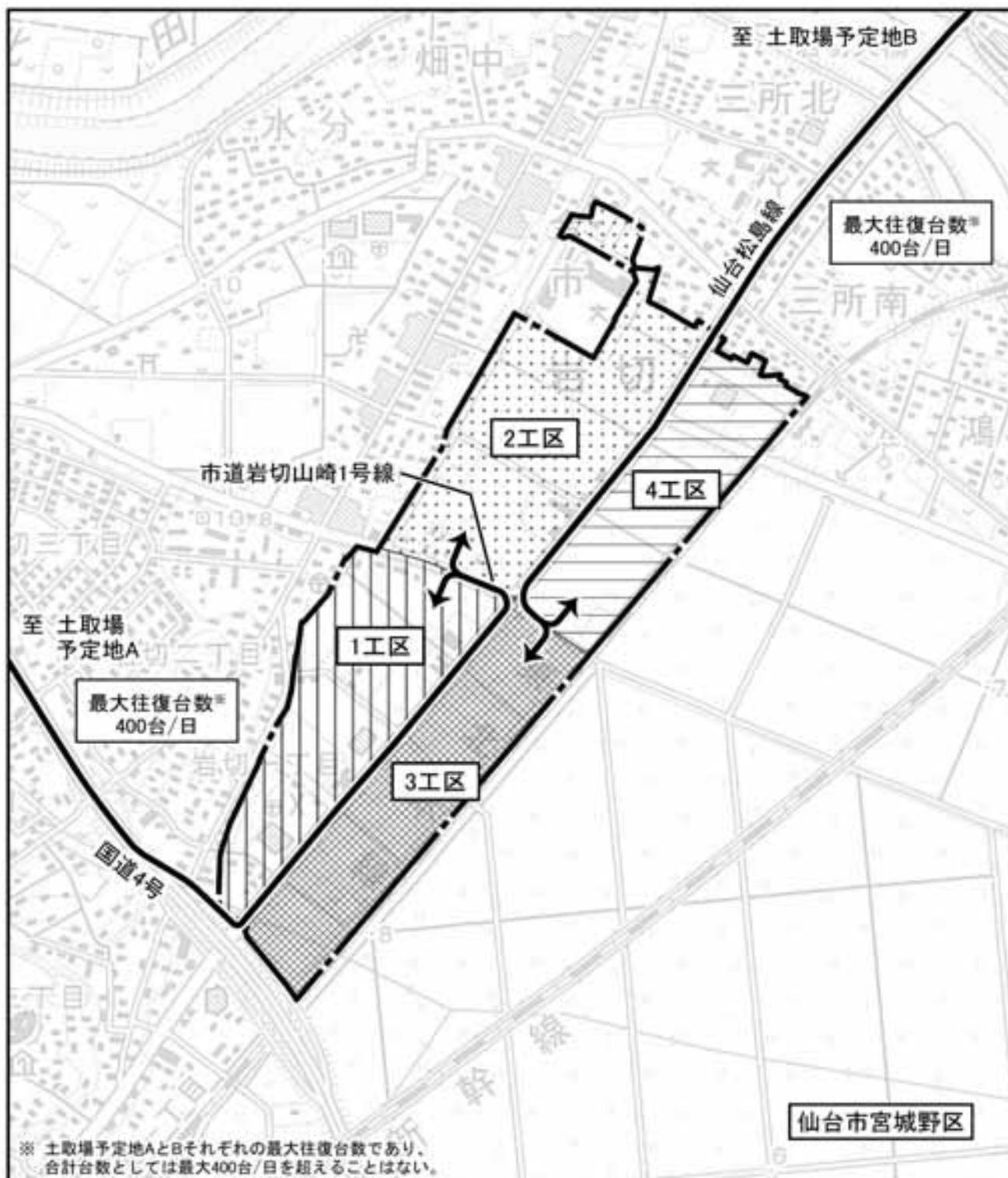


凡例

-  事業区域
-  市町界
-  区界
-  土取場
-  工事用車両ルート

図1-21(2) 工事用車両ルート(広域)【現計画】

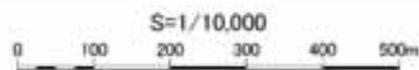


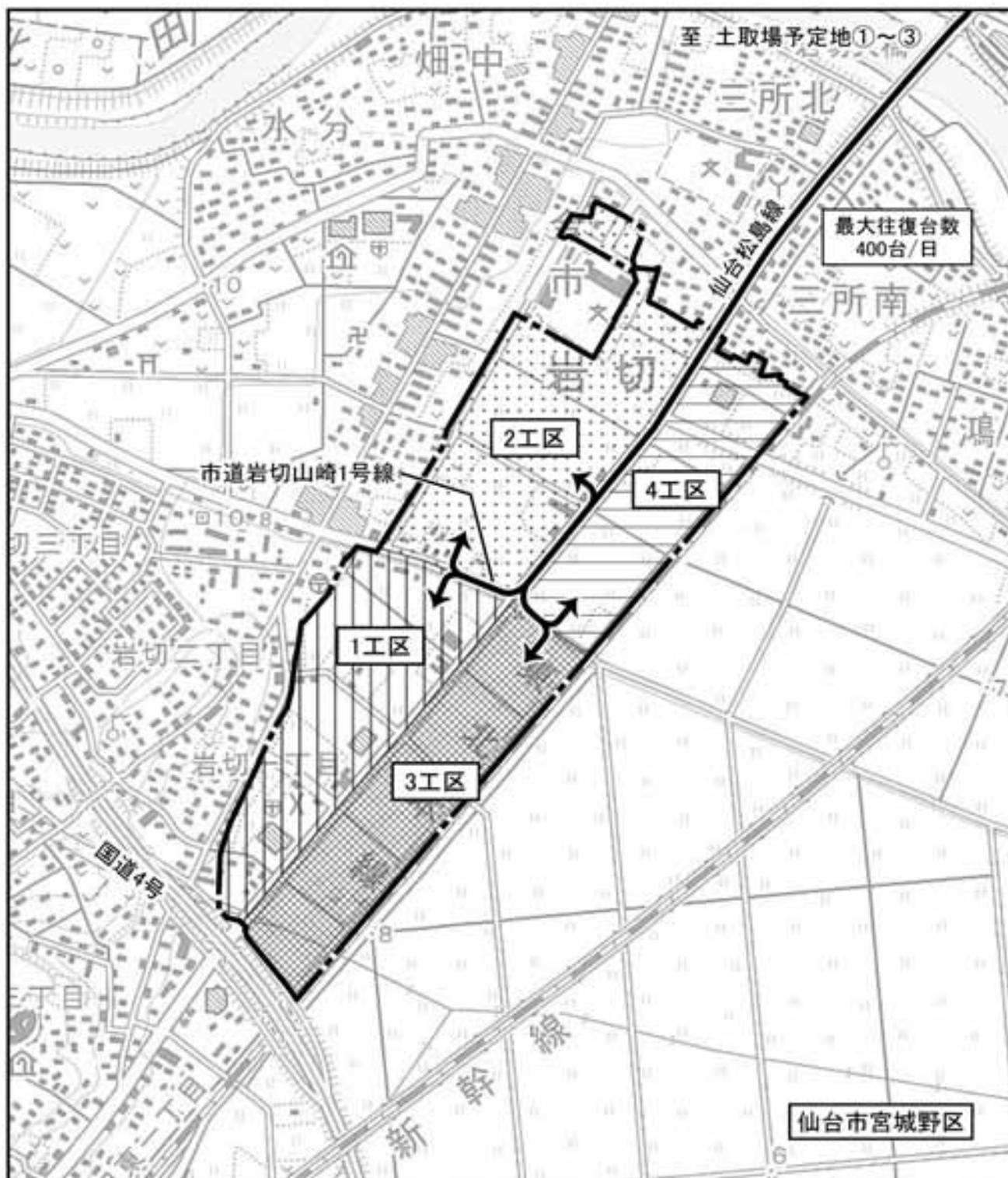


凡例

- 事業予定区域
- ➔ 工事用車両ルート

図1-22(1)
工事用車両ルート(事業区域内)【評価書】

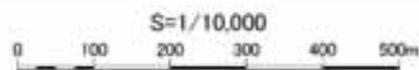


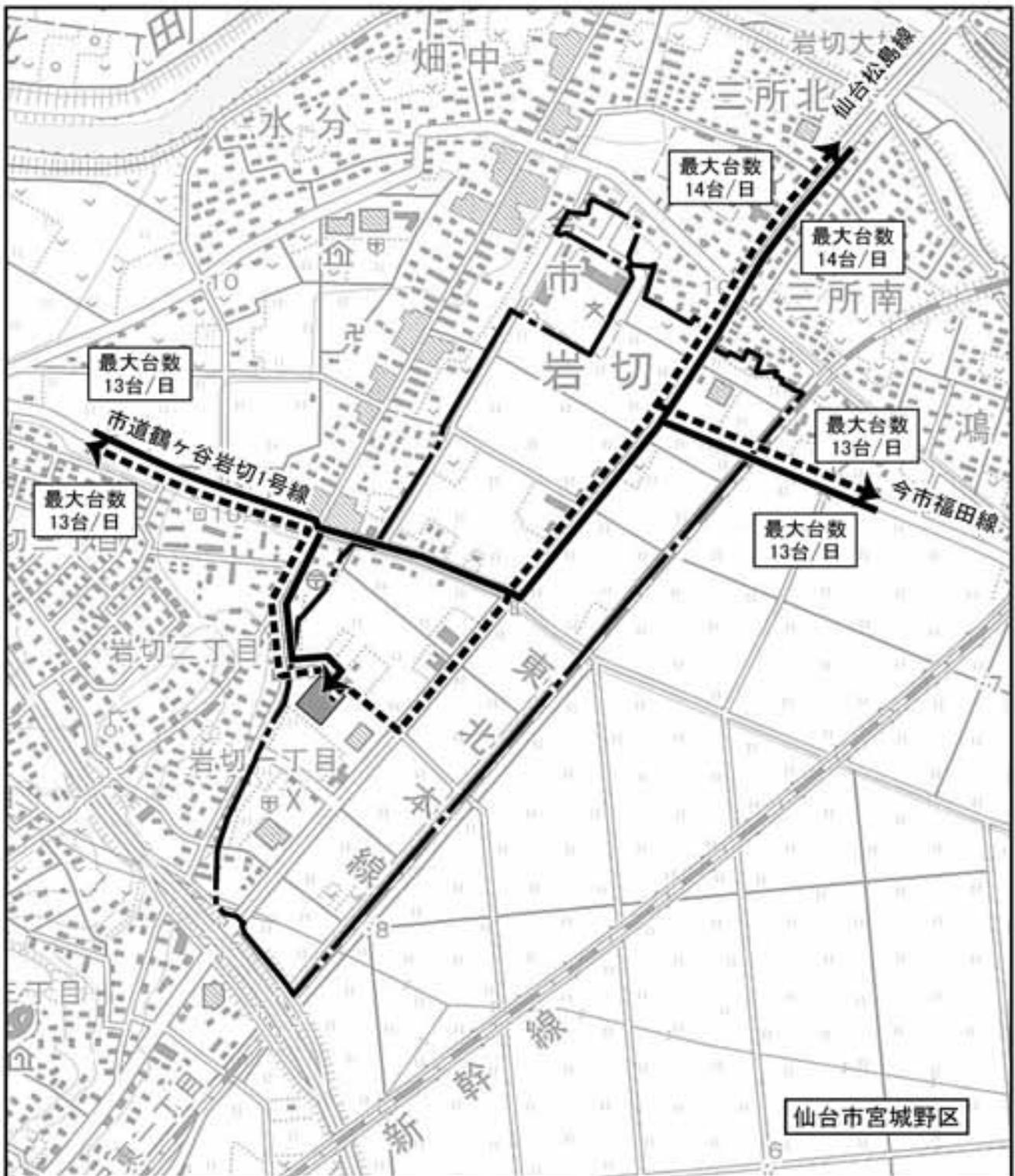


凡例

- 事業区域
- 工事用車両ルート

図1-22(2)
工事用車両ルート(事業区域内)【現計画】

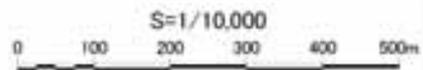




凡例

- 事業区域
- ← 通勤用車両ルート（出勤）
- ←- 通勤用車両ルート（退勤）
- 通勤用車両駐車場

図1-23 通勤用車両ルート



2. 関係地域の範囲

関係地域の範囲は、環境影響評価項目のうち、最も広い範囲に影響が及ぶと考えられる景観の予測範囲（約1,500m）を参考に、事業区域から1,500mと設定した。各選定項目の調査・予測範囲は、表2-1に示すとおりである。

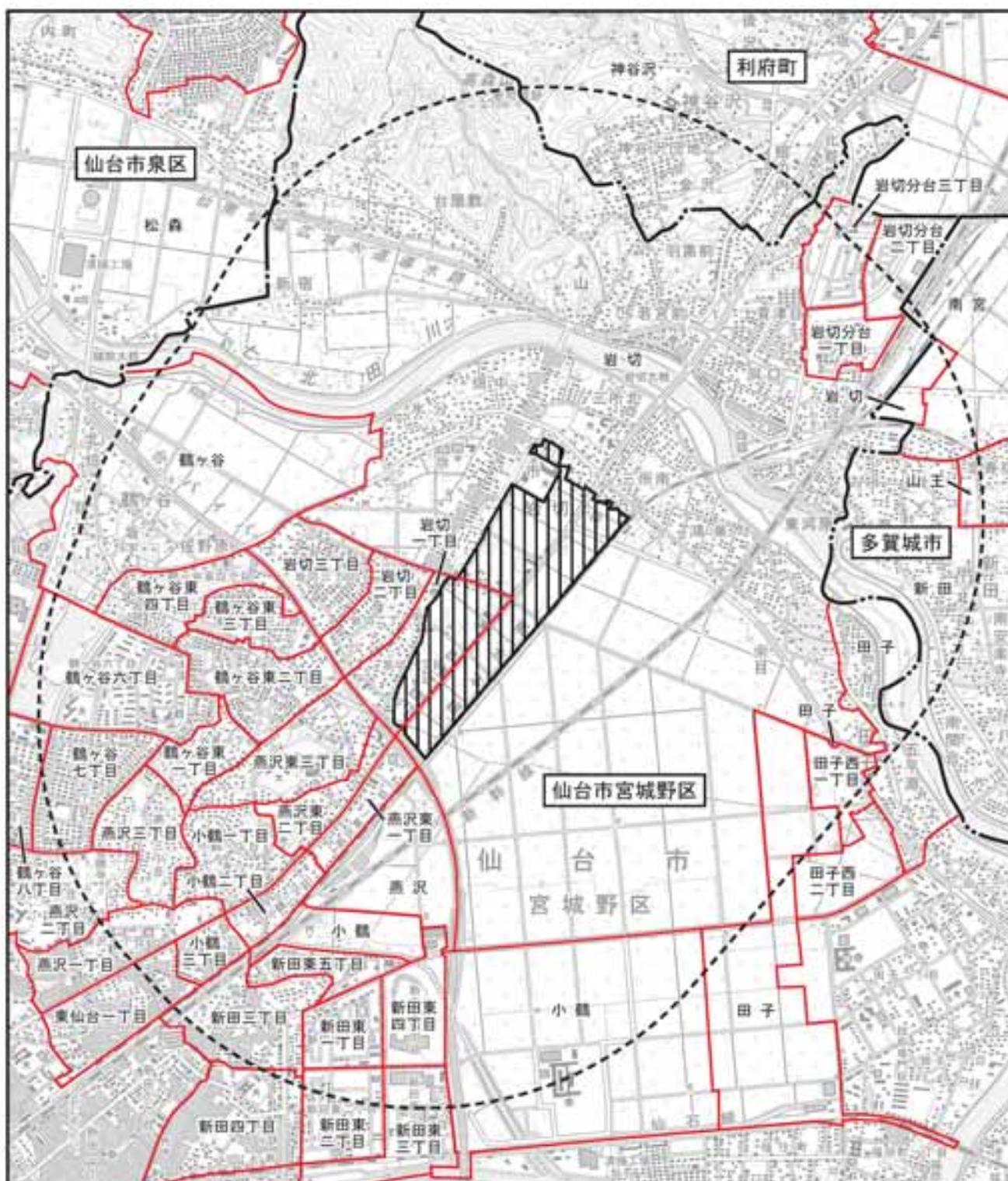
また、関係地域の範囲及び該当する町丁名は、表2-2及び図2-1に示すとおりである。

表2-1 調査・予測範囲等の考え方

項目	調査・予測範囲等の考え方	敷地境界からの距離
大気質	本事業による大気質への影響が想定される地域とし、工事中の重機の稼働及び工事用車両の走行、供用後の関連車両の走行による排出ガスの影響が考えられる範囲とする。	約500m
騒音・振動	本事業による騒音・振動の影響が想定される地域とし、工事中の重機の稼働及び工事用車両の走行、供用後の関連車両の走行による騒音・振動の影響が考えられる範囲とする。	約200m
水質 (水の濁り)	本事業における盛土・掘削等により、事業区域周辺の水路の水質への影響が考えられる範囲とする。	約200m
水象 (河川流)	本事業における改変後の地形及び構造物等の出現により、事業区域周辺の水象への影響が考えられる範囲とする。	約200m
地形・地質 (土地の安定性)	本事業における盛土等により、地形・地質に影響が考えられる範囲とする。	約200m
地盤沈下	本事業における盛土等により、地盤沈下の影響が考えられる範囲とする。	約200m
植物	本事業による植物の生育環境への影響が考えられる範囲とする。	約200m
動物	本事業による動物の生息環境への影響が考えられる範囲とする。	約200m
生態系	本事業による生態系への影響が考えられる範囲とする。	約200m
景観	本事業による景観への影響が考えられる範囲とする。	約1,500m
廃棄物等 (廃棄物)	本事業により事業区域からの廃棄物等の発生が考えられる地域とする。	事業区域内
温室効果ガス等	本事業により事業区域からの温室効果ガス等の発生が考えられる地域とする。	事業区域内

表2-2 関係地域

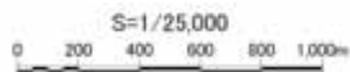
市区町名	町丁目名
仙台市宮城野区	岩切、岩切一丁目、岩切二丁目、岩切三丁目、岩切分台一丁目、岩切分台二丁目、岩切分台三丁目、田子、田子西一丁目、田子西二丁目、小鶴、小鶴一丁目、小鶴二丁目、小鶴三丁目、新田東一丁目、新田東二丁目、新田東三丁目、新田東四丁目、新田東五丁目、新田三丁目、新田四丁目、東仙台一丁目、燕沢、燕沢東一丁目、燕沢東二丁目、燕沢東三丁目、燕沢一丁目、燕沢二丁目、燕沢三丁目、鶴ヶ谷東一丁目、鶴ヶ谷東二丁目、鶴ヶ谷東三丁目、鶴ヶ谷東四丁目、鶴ヶ谷六丁目、鶴ヶ谷七丁目、鶴ヶ谷八丁目、鶴ヶ谷
仙台市泉区	松森
多賀城市	南宮、岩切、山王、新田
利府町	神谷沢



凡例

- | | |
|--|--|
|  事業区域 |  関係地域の範囲(事業区域から1,500mの範囲) |
|  市町界 |  関係地域の町丁目界 |
|  区界 | |

図2-1 関係地域の範囲



3. 環境の保全及び創造のための措置の実施状況

環境の保全及び創造のための措置（以下、「環境保全措置」という）及びその実施状況は、表3-1～7に示すとおりであり、今後も状況に応じて継続あるいは追加の検討をしていくこととする。

表3-1(1) 環境保全措置の実施状況（大気質）

	評価書で検討した環境保全措置	実施状況
資材等の運搬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用車両の点検・整備を十分に行う。 	<p>工事用車両は、法定点検が行われたものを採用し、毎日の使用前点検を行い、整備不良による排出ガスの増加がないように努めている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用車両については、低排出ガス認定自動車の採用に努める。 	<p>工事用車両の約96%で低排出ガス認定自動車を採用している。</p>  <p>写真3-1 低排出ガス車の採用</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事の実施にあたっては、過積載の防止を指導し、影響の低減を図る。 	<p>トラックの過積載の確認を行って防止を図っている。</p>  <p>写真3-2 過積載の確認状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事計画の策定にあたっては、工事用車両が一時的に集中しないよう工事を平準化し、計画的かつ効率的な運行を行う等、環境の保全に努める。 	<p>工事計画の策定にあたっては、全体工程を踏まえつつ毎日の朝礼、協力会社との作業打合せ、工程会議において工程管理を行い、工事用車両が特定の場所、日、時間帯に集中しないよう平準化に努めている。</p>  <p>写真3-3 毎日の朝礼の状況</p>	

表3-1(2) 環境保全措置の実施状況（大気質）

	評価書で検討した保全措置	実施状況
資材等の運搬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用車両等のアイドリングや無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう、入場前教育や作業前ミーティングにおいて、工事関係者に対し指導・教育を徹底する。 	<p>新規入場者教育を行っており、その中において工事用車両のアイドリングや無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう指導・教育を行っている。</p>  <p>写真3-4 新規入場者教育の状況</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用車両の走行を円滑にするために交通誘導を実施する。 	<p>工事用車両の走行を円滑にするため、交通誘導員を配置している。</p>  <p>写真3-5 交通誘導員の配置</p>
重機の稼働	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重機等の使用に際しては点検・整備を十分に行う。 ・ 排出ガス対策型の建設機械の使用に努める。 	<p>重機等は、法定点検が行われたものを採用し、毎日の使用前点検を行い、整備不良による排出ガスの増加がないように努めている。</p> <p>ブルドーザ等、排出ガス対策型の建設機械を採用している。汎用性が高い規格のバックホウについては、全て排出ガス対策型を採用している。</p>  <p>写真3-6 排出ガス対策型建設機械の採用</p>

表3-1(3) 環境保全措置の実施状況（大気質）

	評価書で検討した保全措置	実施状況
重機の稼働	<ul style="list-style-type: none"> ・工事を平準化し、計画的かつ効率的な運行を行う等、環境の保全に努める。 	<p>工事計画の策定にあたっては、全体工程を踏まえつつ、毎日の朝礼、協力会社との作業打合せ、工程会議において工程管理を行い、工事用車両が特定の場所、日、時間帯に集中しないよう平準化に努めている。 (写真3-3参照)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・重機等のアイドリングや無用な空ぶかし、急加速等の高負荷運転をしないよう、入場前教育や作業前ミーティングにおいて、工事関係者に対し指導・教育を徹底する。 	<p>新規入場者教育を行っており、その中において重機等のアイドリングや無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう指導・教育を行っている。 (写真3-4参照)</p>
盛土・掘削等	<ul style="list-style-type: none"> ・工事期間中は、事業区域内の家屋や事務所あるいは外周部に、必要に応じて防塵ネットを設置する。 	<p>造成工事期間中、民家に近接する事業区域境界付近に防塵ネットを設置しており、今後も、粉じんが飛散しうる期間中は継続して設置する。</p>  <p>写真3-7 防塵ネットの設置</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・工事期間中には、粉じんの飛散等が発生しないよう事業予定区域や周辺道路への散水・清掃等を十分に行う。 	<p>事業区域から出る車両のタイヤ洗浄により、周辺道路への粉じんの飛散を低減させているが、飛散が確認された場合には都度清掃を行っている。</p>  <p>写真3-8 周辺道路の清掃の状況</p>

表3-1(4) 環境保全措置の実施状況（大気質）

	評価書で検討した保全措置	実施状況
盛土・掘削等	<ul style="list-style-type: none"> 吹き流し等により、砂ぼこりが立つ条件（風速5.5m/s以上）が予想される場合は、工事区域へ散水する。 	<p>砂ぼこりが予想される日には、工事区域に散水を行っている。</p>  <p>写真3-9 散水の状況</p>
	<ul style="list-style-type: none"> タイヤ洗浄装置等を用いて地区内から地区外へ出る車両のタイヤを洗浄する。 	<p>泥落とし装置やタイヤ洗浄装置（洗車プール）によりタイヤの洗浄を行っている。</p>  <p>写真3-10 泥落とし装置の設置</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 段階的施工により施工箇所を分散する。 	<p>施工区域を4工区に分け、その中でも段階的に施工を行っている。</p>  <p>写真3-11 段階的施工の状況</p>

表3-2 環境保全措置の実施状況（騒音）

	評価書で検討した保全措置	実施状況
資材等の運搬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事車両の点検・整備を十分に行う。 	<p>工事車両は、法定点検が行われたものを採用し、毎日の使用前点検を行い、整備不良による排出ガスの増加がないように努めている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事計画の策定にあたっては、工事車両が一時的に集中しないよう工事を平準化し、計画的かつ効率的な運行を行う等、環境の保全に努める。 	<p>工事計画の策定にあたっては、全体工程を踏まえつつ、毎日の朝礼、協力会社との作業打合せ、工程会議において工程管理を行い、工事車両が特定の場所、日、時間帯に集中しないよう平準化に努めている。 (写真3-3参照)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事の実施にあたっては、過積載の防止を指導し、影響の低減を図る。 ・ 工事車両等のアイドリングや無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう、入場前教育や作業前ミーティングにおいて、工事関係者に対し指導・教育を徹底する。 	<p>トラックの過積載の確認を行って防止を図っている。新規入場者教育を行っており、その中において工事車両のアイドリングや無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう指導・教育を行っている。 (写真3-4参照)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事車両の走行を円滑にするために交通誘導を実施する。 	<p>工事車両の走行を円滑にするため、交通誘導員を配置している。 (写真3-5参照)</p>
重機の稼働	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重機等の使用に際しては点検・整備を十分に行う。 	<p>重機等は、法定点検が行われたものを採用し、毎日の使用前点検を行い、整備不良による排出ガスの増加がないように努めている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事を平準化し、計画的かつ効率的な運行を行う等、環境の保全に努める。 	<p>工事計画の策定にあたっては、全体工程を踏まえつつ毎日の朝礼、協力会社との作業打合せ、工程会議において工程管理を行い、工事車両が特定の場所、日、時間帯に集中しないよう平準化に努めている。 (写真3-3参照)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重機等のアイドリングや無用な空ぶかし、急加速等の高負荷運転をしないよう、入場前教育や作業前ミーティングにおいて、工事関係者に対し指導・教育を徹底する。 	<p>新規入場者教育を行っており、その中において工事車両のアイドリングや無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう指導・教育を行っている。 (写真3-4参照)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低騒音型の重機等の採用に努める。 	<p>低騒音型の重機を採用した。</p>  <p>写真3-12 低騒音型重機の採用</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保全対象となる病院等には必要に応じて防音効果が見込まれる仮囲いを設置する。 	<p>現時点では、同時に稼働している重機はバックホウ2台程度や場内走行用のダンプトラック数台などであり、周辺的一般交通の影響の方が大きい状況であるが、必要に応じて仮設防音パネルを設置する予定である。</p>

表3-3 環境保全措置の実施状況（振動）

	評価書で検討した保全措置	実施状況
資材等の運搬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用車両の点検・整備を十分に行う。 	<p>工事用車両は、法定点検が行われたものを採用し、毎日の使用前点検を行い、整備不良による排出ガスの増加がないように努めている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事計画の策定にあたっては、工事用車両が一時的に集中しないよう工事を平準化し、計画的かつ効率的な運行を行う等、環境の保全に努める。 	<p>工事計画の策定にあたっては、全体工程を踏まえつつ、毎日の朝礼、協力会社との作業打合せ、工程会議において工程管理を行い、工事用車両が特定の場所、日、時間帯に集中しないよう平準化に努めている。 (写真3-3参照)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事の実施にあたっては、過積載の防止を指導し、影響の低減を図る。 ・ 工事用車両等のアイドリングや無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう、入場前教育や作業前ミーティングにおいて、工事関係者に対し指導・教育を徹底する。 	<p>新規入場者教育を行っており、その中において工事用車両のアイドリングや無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう指導・教育を行っている。 (写真3-4参照)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用車両の走行を円滑にするために交通誘導を実施する。 	<p>工事用車両の走行を円滑にするため、交通誘導員を配置している。 (写真3-5参照)</p>
重機の稼働	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重機等の使用に際しては点検・整備を十分に行う。 	<p>重機等は、法定点検が行われたものを採用し、毎日の使用前点検を行い、整備不良による負荷の増加がないように努めている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低振動型建設機械の使用に努める。 	<p>低振動型建設機械は機種が非常に少なく、入手も困難であることから、現時点では採用に至っていないが、周辺への振動の影響を低減させるため、配置などには配慮して工事を行っている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事を平準化し、計画的かつ効率的な運行を行う等、環境の保全に努める。 	<p>工事計画の策定にあたっては、全体工程を踏まえつつ毎日の朝礼、協力会社との作業打合せ、工程会議において工程管理を行い、工事用車両が特定の場所、日、時間帯に集中しないよう平準化に努めている。 (写真3-3参照)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重機等のアイドリングや無用な空ぶかし、急加速等の高負荷運転をしないよう、入場前教育や作業前ミーティングにおいて、工事関係者に対し指導・教育を徹底する。 	<p>新規入場者教育を行っており、その中において工事用車両のアイドリングや無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう指導・教育を行っている。 (写真3-4参照)</p>

表3-5 環境保全措置の実施状況（水質）

	評価書で検討した保全措置	実施状況
盛土・掘削等	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設沈砂池を早期に整備して、表水のみ排水路に排出することで濁水の影響を極力抑える。 ・仮設沈砂池に堆積した土砂は、1ヶ月に1回排砂する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設沈砂池を早期に整備して、表水のみ排水路に排出することで濁水の影響を極力抑えた。 ・仮設沈砂池に堆積した土砂は、1ヶ月に1回排砂した。  <p>写真3-13 仮設沈砂池の設置</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・長期間の裸地となることで土砂の流出の可能性が生じる箇所は、必要に応じてシート等で覆い濁水発生の抑制に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期間の裸地となることで土砂の流出の可能性が生じる箇所は、必要に応じてシート等で覆い濁水発生の抑制に努めた。

表3-4 環境保全措置の実施状況（地盤沈下）

	評価書で検討した保全措置	実施状況
盛土・掘削等	<ul style="list-style-type: none"> ・工事期間中、事業区域の地盤高を測量し、動態観測を行う等、その変動を把握しながら工事を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画地盤高を測量して、変動高さを把握する動態観測を行いながら工事を進めた。

表3-5 環境保全措置の実施状況（動物・生態系）

	評価書で検討した保全措置	実施状況
資材等の運搬、重機の稼働、盛土・掘削等	<ul style="list-style-type: none"> ・造成工事を段階的に施工することから、移動能力のある種については事業区域周辺に逃避させることができる。また、工事の規模を徐々に大きくすることで、騒音等へのコンディショニング（馴化）の効果も期待できる。 	<p>施工区域を4工区に分け、その中でも段階的に施工を行った。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・重機の稼働や工事用車両の走行による騒音の発生や、大気汚染物質の発生を抑制するため、アイドリングストップや過負荷運転の防止に努め、事業区域周辺地域も含めた動物の生息環境への影響の低減を図る。 	<p>新規入場者教育を行っており、その中において工事用車両のアイドリングや無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう指導・教育を行っている。 (写真3-4参照)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両は、国道4号及び仙台松島線等の事業区域に接続する幹線道路を走行する計画であり、このルート以外の事業区域東側の水田地帯を走行しないよう周知徹底を図り、ロードキルに配慮する。 	<p>工事計画の策定にあたっては、全体工程を踏まえつつ毎日の朝礼、協力会社との作業打合せ、工程会議において工程管理を行い、工事用車両が特定の場所、日、時間帯に集中しないよう平準化に努めている。 (写真3-3参照)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業区域の下流域に生息する両生類、魚類、底生動物及びそれらを餌にしている水鳥やコウモリ類等への影響を低減するために、造成工事の初期段階から仮設沈砂池を設置することにより、濁水の発生を抑制する。 	<p>造成工事の初期に仮設沈砂池を設置し濁水発生の抑制に努めている。 (写真3-13参照)</p>

表3-6 環境保全措置の実施状況（廃棄物等）

	評価書で検討した保全措置	実施状況
盛土・掘削等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事現場で発生した一般廃棄物についても分別収集を行い、リサイクル等再資源化に努める。 	<p>一般廃棄物も分別収集し、リサイクル等の再資源に努めた。</p>  <p>写真3-14 一般廃棄物の分別収集</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土工事により仮設沈砂池に堆積した土砂は、盛土材として再利用する。 	<p>仮設沈砂池に堆積した土砂は盛土材として再利用した。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用する部材等は、工場等での一部加工品や完成品を可能な限り採用し、廃棄物等の抑制に努める。 	<p>部材等は加工品や完成品を可能な限り採用し、廃棄物等の抑制に努めた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物等が混入しないように掘削土置場と廃棄物置場を区分する。 	<p>廃棄物等が混入しないように廃棄物置場を区分した。</p>  <p>写真3-15 産業廃棄物置場の状況</p>

表3-7 環境保全措置の実施状況（温室効果ガス等）

	評価書で検討した保全措置	実施状況
資材等の運搬	・ 工事用車両の点検・整備を十分に行う。	工事用車両は、法定点検が行われたものを採用し、毎日の使用前点検を行い、整備不良による排出ガスの増加がないように努めている。
	・ 工事用車両については、燃費基準達成車の採用に努める。	工事用車両は、燃費基準達成車を採用した。 (写真3-1参照)
	・ 工事用車両の走行を円滑にするために走行経路及び時間帯に配慮する。	新規入場者教育を行っており、その中において工事用車両のアイドリングや無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう指導・教育を行っている。 (写真3-4参照)
	・ 工事関係者に対して、入場前教育や作業前ミーティングにおいて、工事用車両等のアイドリングや無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう指導・教育を徹底する。	工事計画の策定にあたっては、全体工程を踏まえつつ、協力会社との作業打合せ、工程会議において工程管理を行い、工事用車両が特定の場所、日、時間帯に集中しないよう平準化に努めている。 (写真3-3参照)
重機の稼働	・ 重機等の点検・整備を十分に行う。	重機等は、法定点検が行われたものを採用し、毎日の使用前点検を行い、整備不良による排出ガスの増加がないように努めている。
	・ 重機の稼働については、省エネモードでの作業に努める。	新規入場者教育を行っており、その中において重機の高負荷運転を避け、可能な範囲で省エネモードを使用するよう指導・教育を行っている。 (写真3-4参照)
	・ 工事関係者に対して、入場前教育や作業前ミーティングにおいて、重機等のアイドリングや無用な空ぶかし、急加速等の高負荷運転をしないよう指導・教育を徹底する。	新規入場者教育を行っており、その中において工事用車両のアイドリングや無用な空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう指導・教育を行っている。 (写真3-4参照)

4. 事後調査計画

4.1 事後調査の内容

事後調査の内容は、表4-1～13及び表4-14に示すとおりである。

評価書においては、工事中の事後調査項目として、大気質、騒音、振動、水質、地盤沈下、動物、生態系、廃棄物等、温室効果ガスを選定しており、第1回（工事中その1）の事後調査では、工事用車両の走行や重機の稼働に伴うピーク時（工事開始後18ヶ月目：令和4年8月）の事後調査（大気、騒音、振動）を予定していた。しかしながら、工事は令和3年4月から令和4年6月までの15ヶ月間実施された後、令和4年7月から令和5年6月までの12ヶ月間中断となった。そのため、大気、騒音、振動の事後調査を予定していた時期に工事用車両の走行及び重機が稼働していなかった。

工事再開後、重機の稼働については、稼働台数がピークになると予定していた令和6年5月に調査を実施した。しかしながら、調査実施後に工事台帳等で改めて確認したところ、工事の進捗や天候等の状況から、稼働台数のピーク時期は令和6年3月が変わっており、調査期間には既にピーク時期を過ぎていたことが判明した。工事用車両の走行については、令和5年12月時点では、工事再開後の令和6年6～9月にピークになるとしていた。しかしながら、工事の進捗等から令和5年9月～令和6年3月に前倒しになることが令和6年2月に判明したため、令和6年3月に調査を実施した。

また、水質についても、造成面積が最大となる時期として、令和5年2月（工事開始後26ヶ月目）に事後調査を計画していたが、工事中断の時期と重なり、造成面積としては最大面積となっていなかったことから、事後調査（晴天時）は工事再開後の令和6年6月に実施した。ただし、降雨時の調査は、調査に適した降雨量の日がなかったため、令和6年11月末時点で実施できていない。そのため、今後の適時に調査を実施し、晴天時調査と併せて「工事中その3」で報告することとする。

地盤沈下（地下水位）、廃棄物、温室効果ガスについては、工事開始（令和3年4月）から連続して調査を実施した。

以上のことから、調査項目及び調査期間は以下のとおりとした。なお、事後調査により環境影響の程度が著しいことが明らかになった場合には、関係機関と連携を図り、必要な措置を講ずるものとする。

・第1回（工事中その1）

大気質（粉じん）、廃棄物等及び温室効果ガス等については、令和3年4月から工事中断前の令和4年6月までの期間に調査した。地盤沈下（地下水の変化）については、連続観測であることから、令和3年4月から令和4年8月までの期間に調査した。動物及び生態系については、四季の調査を連続して実施するため、令和3年10月（秋季）から工事中断中の令和4年8月（夏季）までの期間に調査した。

・第2回（工事中その2）

工事中その1で予定していた大気質、騒音、振動のほか、地盤沈下（地下水の変化）廃棄物等及び温室効果ガス等について令和4年7月から令和6年7月までの期間に調査した。

- ・ 第3回（工事中その3）

工事中その1で予定していた水質のほか、大気質（粉じんのみ）、地盤沈下（地下水の変化）、廃棄物等及び温室効果ガス等について令和6年8月から令和9年3月までの期間に調査する。ただし、晴天時の水質調査は、令和6年6月に実施済みである。

- ・ 第4回（供用時）

大気質、騒音、振動、水象、地形・地質、地盤沈下（地下水の変化）、植物、動物、生態系、景観及び温室効果ガス等について令和9年4月から令和10年4月までの期間に調査する。

表4-1(1) 事後調査の内容（大気質）

	調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等		
工事による影響	工事用車両の走行	・二酸化窒素	現地調査の方法に準拠した（公定法及び簡易法）。 ・測定高さ：1.5m	事業区域近隣1地点（公定法・簡易法）及び工事用車両の走行ルート沿道3地点（簡易法）とした（図4-1参照）。 【No.A】（公定法・簡易法） 【No.3～5 ^{※1} 】（簡易法）	工事用車両の走行台数が最大となる令和6年3月の1回とした。 ・1回×7日間連続	
		・浮遊粒子状物質	現地調査の方法に準拠した。 ・測定高さ：3.0m	事業区域近隣1地点とした（図4-1参照）。 【No.A】		
		・風向・風速	現地調査の方法に準拠した。 ・測定高さ：10.0m			
		・交通量	現地調査の方法に準拠した。	工事用車両の走行ルート沿道3地点とした（図4-1参照）。 【No.3～5 [※] 】		工事用車両の走行台数が最大となる令和6年3月の平日1回（24時間）とした。
		・工事用車両台数 ・工事用車両の走行経路	現地調査及び工事記録の確認等を行った。また、必要に応じてヒアリング調査を行った。	工事用車両出入口地点とした。		
	重機の稼働	・二酸化窒素	現地調査の方法に準拠した（公定法）。 ・測定高さ：1.5m	保全対象4地点及び最大着地濃度出現地点付近1地点とした（図4-1参照）。	重機の稼働台数が最大となる令和6年5月の1回とした。 ^{※2} ・1回×7日間連続	
		・浮遊粒子状物質	現地調査の方法に準拠した（公定法）。 ・測定高さ：3.0m	【No.①～⑤】		
		・風向・風速	現地調査の方法に準拠した。 ・測定高さ：10.0m	事業区域近隣1地点とした（図4-1参照）。 【No.①】		
		・重機の稼働台数	工事記録の確認等を行った。また、必要に応じてヒアリング調査を行った。	事業区域内とした。		
	工事による複合的影響	・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質	現地調査の方法に準拠した（公定法）。 ・二酸化窒素（測定高さ：1.5m） ・浮遊粒子状物質（測定高さ：3.0m）	保全対象4地点とした（図4-1参照）。 【No.A～D】	予測結果において重機の負荷が大きいことから、重機の稼働台数が最大となる令和6年5月の1回とした。 ^{※2} ・1回×7日間連続	
盛土・掘削等		・粉じん	岩切測定局の風向・風速結果を整理する。	事業区域から約200mの範囲とする。		工事期間中とする。
	環境保全措置の実施状況	現地調査及び実施記録の確認等を行った。また、必要に応じてヒアリング調査を行った。	事業区域内とした。	予測結果において重機の負荷が大きいことから、重機の稼働台数が最大となる令和6年5月の1回とした。 ^{※2}		

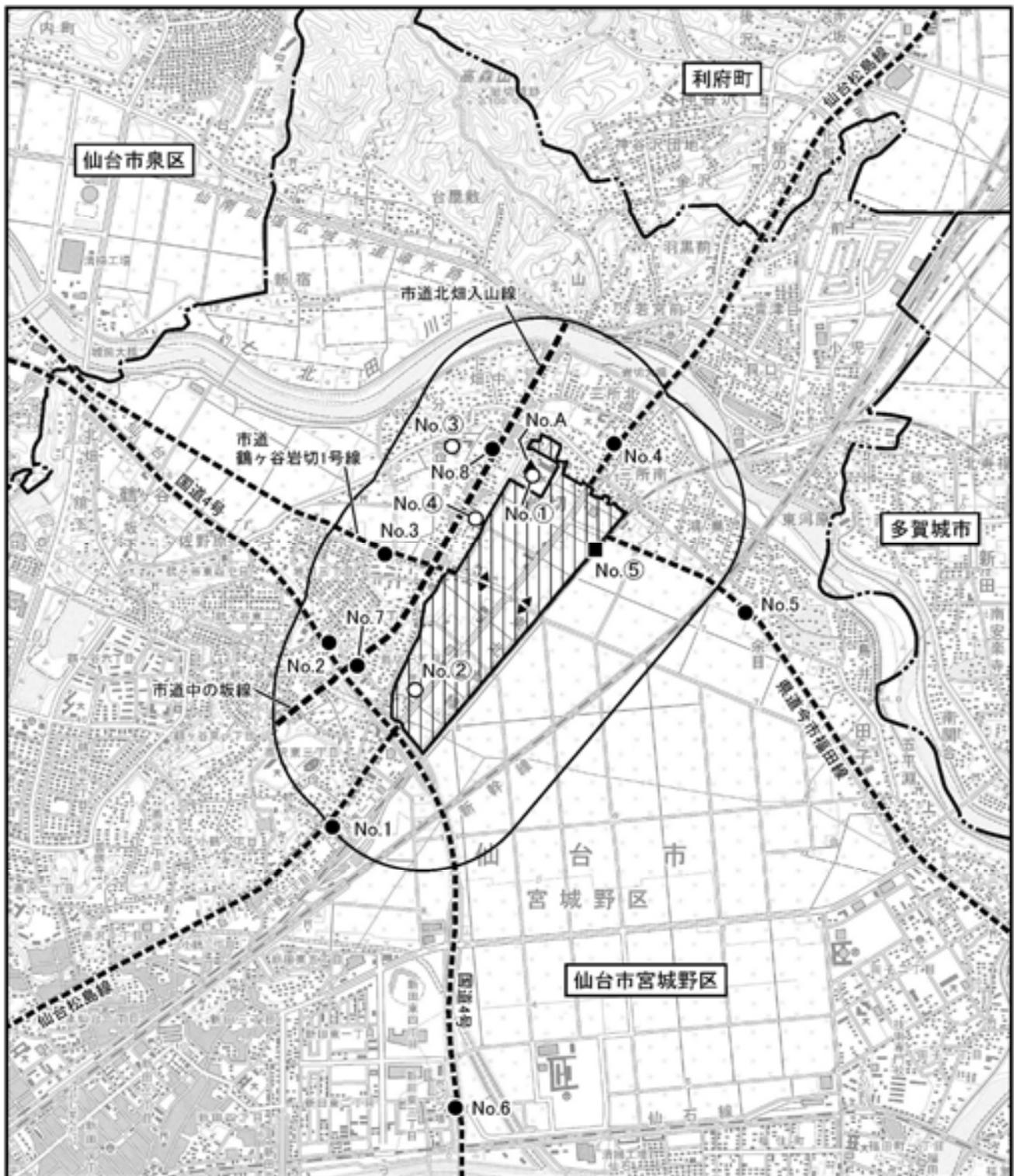
注) 太枠は、本報告書で報告する項目である。

※1 評価書において調査地点としていたNo.2地点は、工事用車両ルートの変更により工事用車両が走行しないこととなったため、調査地点から除外した。

※2 調査実施後に工事台帳等で確認したところ、既に重機の稼働のピーク時期を過ぎていたことが判明した（p.86参照）。

表4-1(2) 事後調査の内容（大気質）

	調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等	
供用による影響	施設関連車両の走行	・二酸化窒素	現地調査の方法に準拠する（公定法及び簡易法）。 ・測定高さ：1.5m	事業区域近隣1地点（公定法・簡易法）及び関連車両の走行ルート沿道8地点（簡易法）とする（図4-1参照）。 【No.A】 （公定法・簡易法） 【No.1～8】 （簡易法）	想定される施設の事業活動が定常となる時期（組合解散前）の令和10年2月とする。 ・1回×7日間
		・浮遊粒子状物質	現地調査の方法に準拠する（公定法）。 ・測定高さ：3.0m	事業区域近隣1地点とする（図4-1参照）。 【No.A】	
		・風向・風速	現地調査の方法に準拠する。 ・測定高さ：10.0m		
		・交通量	現地調査の方法に準拠する。	二酸化窒素の調査地点のうち、関連車両の走行ルート沿道8地点とする（図4-1参照）。 【No.1～8】	
	環境保全措置の実施状況	現地調査及び実施記録の確認等を行う。また、必要に応じてヒアリング調査を行う。	事業区域内とする。	想定される施設の事業活動が定常となる時期（組合解散前）の令和10年2月の1回とする。	



凡例

- ▭ 事業区域
- 市町界
- - - 区界
- 事後調査地域(事業区域から500mの範囲)
- 想定される主要な走行ルート

注) 図中の番号は、表4-1(1)~(2)に対応する。

▲ 事業区域近隣	No.A	岩切小学校	● 道路沿道	No.8	市道北畑入山線	
	No.1	仙台松島線		○ 保全対象	No.①	岩切小学校
	No.2	国道4号			No.②	仙台東脳神経外科医院
	No.3	市道鶴ヶ谷岩切1号線			No.③	岩切病院
	No.4	仙台松島線			No.④	事業区域西側民家
	No.5	県道今市福田線			No.⑤	最大着地濃度出現地点付近
	No.6	国道4号		■ -	-	-
No.7	市道中の坂線	▲ -	-	-	工事用車両出入口	

※No.AとNo.①は、同位置である。

図4-1 事後調査地点の位置 (大気質)



表4-2 事後調査の内容（騒音）

		調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	工事用車両の走行	・騒音レベル	現地調査の方法に準拠した。 ・測定高さ1.2m	工事用車両の走行ルート沿道3地点とした（図4-2参照）。 【No.3～5 ^{※1} 】	工事用車両の走行台数が最大となる令和6年3月の1回とした。 ・平日1回（7時～19時）
		・交通量	現地調査の方法に準拠した。		
		・工事用車両台数 ・工事用車両の走行経路	工事記録の確認を行った。また、必要に応じてヒアリング調査を行った。	工事用車両出入口地点とした。	工事用車両の走行台数が最大となる令和6年3月の1回とした。
	重機の稼働	・騒音レベル	現地調査の方法に準拠した。 ・測定高さ1.2m	保全対象4地点及び最大騒音レベル出現地点付近1地点とした（図4-2参照）。 【No.①～⑤】	重機の稼働台数が最大となる令和6年5月の1回とした。 ^{※2} ・平日1回（7時～19時）
	合意的な影響の複	・騒音レベル	現地調査の方法に準拠した。 ・測定高さ1.2m	保全対象4地点とした（図4-2参照）。 【地点①～④】	予測結果において重機の負荷が大きいことから、重機の稼働台数が最大となる令和6年5月の1回とした。 ^{※2} ・平日1回（7時～19時）
	環境保全措置の実施状況	現地調査及び実施記録の確認等を行った。また、必要に応じてヒアリング調査を行った。	事業区域内とした。	予測結果において重機の負荷が大きいことから、重機の稼働台数が最大となる令和6年5月の1回とした。 ^{※2}	
供用による影響	施設関連車両の走行	・騒音レベル	現地調査の方法に準拠する。 ・測定高さ1.2m	施設関連車両の走行ルート沿道8地点とする（図4-2参照）。 【No.1～8】	施設の事業活動が定常となる時期（組合解散前）の令和10年2月とする。 ・平日1回（24時間）
		・交通量	現地調査の方法に準拠する。		
	環境保全措置の実施状況	現地調査及び実施記録の確認等を行う。また、必要に応じてヒアリング調査を行う。	事業区域内とする。	想定される施設の事業活動が定常となる時期（組合解散前）の令和10年2月の1回とする。	

注) 太枠は、本報告書で報告する項目である。

※1 評価書において調査地点としていたNo.2地点は、工事用車両ルートの変更により工事用車両が走行しないこととなったため、調査地点から除外した。

※2 調査実施後に工事台帳等で確認したところ、既に重機の稼働のピーク時期を過ぎていたことが判明した（p.86参照）。

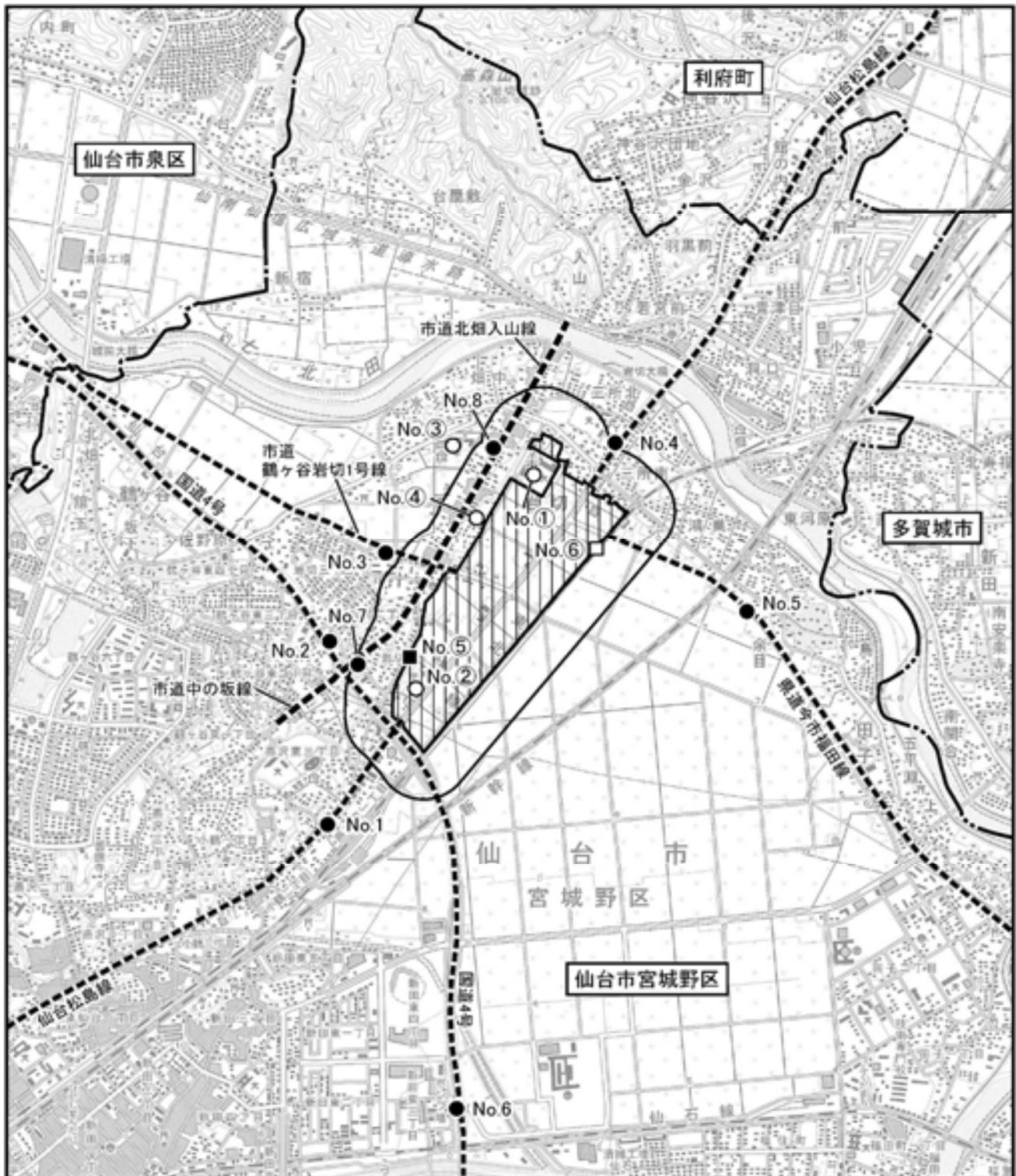
表4-3 事後調査の内容（振動）

		調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	工事用車両の走行	・振動レベル	現地調査の方法に準拠した。	工事用車両の走行ルート沿道3地点とした（図4-2参照）。	工事用車両の走行台数が最大となる令和6年3月の1回とした。 ・平日1回（7時～19時）
		・交通量	現地調査の方法に準拠した。		
		・工事用車両台数 ・工事用車両の走行経路	工事記録の確認を行った。また、必要に応じてヒアリング調査を行った。	工事用車両出入口地点とした。	工事用車両の走行台数が最大となる令和6年3月の1回とした。
	重機の稼働	・振動レベル	現地調査の方法に準拠した。	保全対象4地点及び最大振動レベル出現地点付近1地点とした（図4-2参照）。	重機の稼働台数が最大となる令和6年5月の1回とした。※2 ・平日1回（7時～19時）
	合的工事による複	・振動レベル	現地調査の方法に準拠した。	保全対象4地点とした（図4-2参照）。	予測結果において重機の負荷が大きいことから、重機の稼働台数が最大となる令和6年5月の1回とした。※2 ・平日1回（7時～19時）
	環境保全措置の実施状況	現地調査及び実施記録の確認等を行った。また、必要に応じてヒアリング調査を行った。	事業区域内とした。	予測結果において重機の負荷が大きいことから、重機の稼働台数が最大となる令和6年5月の1回とした。※2	
供用による影響	走行施設関連車両の	・振動レベル	現地調査の方法に準拠する。	施設関連車両の走行ルート沿道8地点とする（図4-2参照）。	想定される施設の事業活動が定常となる時期（組合解散前）の令和10年2月とする。 ・平日1回（24時間）
		・交通量	現地調査の方法に準拠する。		
	環境保全措置の実施状況	現地調査及び実施記録の確認等を行う。また、必要に応じてヒアリング調査を行う。	事業区域内とする。	想定される施設の事業活動が定常となる時期（組合解散前）の令和10年2月の1回とする。	

注) 太枠は、本報告書で報告する項目である。

※1 評価書において調査地点としていたNo.2地点は、工事用車両ルートの変更により工事用車両が走行しないこととなったため、調査地点から除外した。

※2 調査実施後に工事台帳等で確認したところ、既に重機の稼働のピーク時期を過ぎていたことが判明した（p.86参照）。



凡例

- 事業区域
- 市町界
- 区界
- 事後調査地域(事業区域から200mの範囲)
- 想定される主要な走行ルート

注) 図中の番号は、表4-2~3に対応する。

● 道路沿道	No.1	仙台松島線	○ 保全対象	No.①	岩切小学校
	No.2	国道4号		No.②	仙台東脳神経外科医院
	No.3	市道鶴ヶ谷岩切1号線		No.③	岩切病院
	No.4	仙台松島線		No.④	事業区域西側民家
	No.5	県道今市福田線		No.⑤	最大騒音レベル 出現地点付近(騒音)
	No.6	国道4号		No.⑥	最大振動レベル 出現地点付近(振動)
	No.7	市道中の坂線			
	No.8	市道北畑入山線			

図4-2 事後調査地点の位置(騒音、振動)

S=1/25,000
0 200 400 600 800 1,000m



表4-4 事後調査の内容（水質）

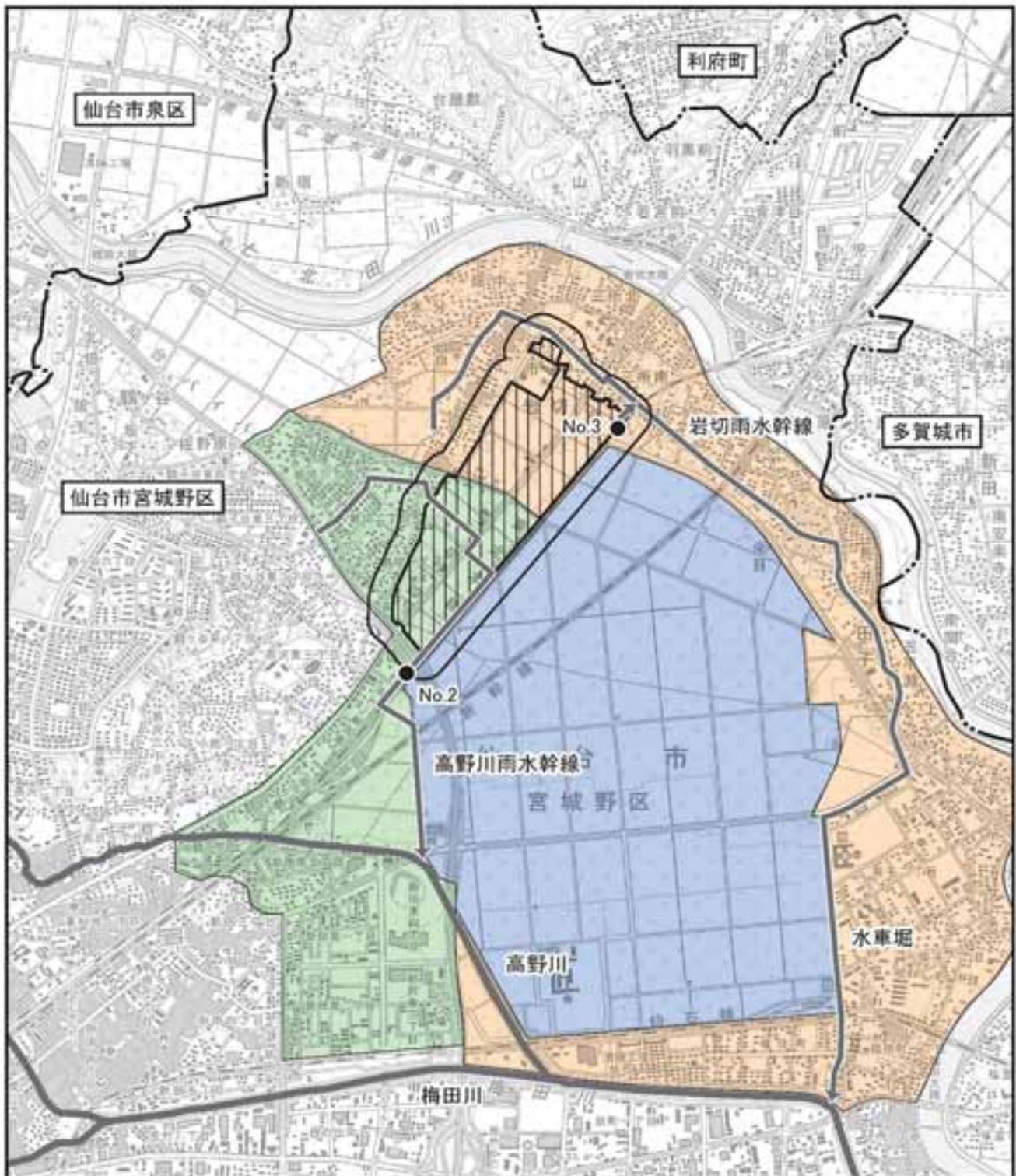
		調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	盛土・掘削等	・水の濁り（浮遊物質量(SS)）	現地調査の方法に準拠した。	仮設沈砂池からの排水が流入する水路2地点とした（図4-3参照）。 【No.2】：南側の水路 【No.3】：北側の水路	造成面積が最大となる期間のうち、晴天時及び降雨時の各1回とする。 ・晴天時：令和6年6月 ・降雨時：令和7年4～6月
	環境保全措置の実施状況		現地調査及び実施記録の確認等を行った。また、必要に応じてヒアリング調査を行った。	事業区域内とした。	造成面積が最大となる期間とした。

表4-5 事後調査の内容（水象）

		調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
存在による影響	工改変後の地形及び	・雨水流出量 ・地下浸透量	設計図書等により土地利用別面積から平均流出係数を求める。	事業区域内とする。	工事完了後（組合解散前）の令和10年2月とする。
	環境保全措置の実施状況		現地調査及び実施記録の確認等を行う。		

表4-6 事後調査の内容（地形・地質）

		調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
存在による影響	工改変後の地形及び	・土地の安定性（地盤の液化化）	設計図書等により改変後の地形の状況を整理する。	事業区域内とする。	工事完了後の令和9年4月とする。
	環境保全措置の実施状況		現地調査及び実施記録の確認等を行う。		



凡例

- | | |
|---|--|
|  事業区域 |  都市下水道区域 (雨水) |
|  市町界 |  高野川排水流域 |
|  区界 |  仙台貨物ターミナル駅雨水排水流域 |
|  河川・水路 |  事後調査地域 (事業区域から100mの範囲) |
| |  事後調査地点 |

注) 図中の番号は、表4-4に対応する。

図4-3 事後調査地点の位置 (水質)

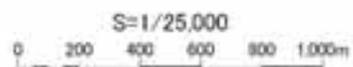


表4-7 事後調査の内容（地盤沈下）

		調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	盛土・掘削等	・地盤沈下	水準測量結果及び設計図書等を整理する。	事業区域内とする。	造成工事開始前の令和3年4月（準備工）及び工事完了後の令和9年4月とする。
		・地下水の変化	現地調査の方法に準拠する。	現地調査で観測した地点とする。	工事(造成)期間全体（令和3年6月～令和9年3月）とする。
	環境保全措置の実施状況		現地調査及び実施記録の確認等を行う。	事業区域内とする。	工事(造成)期間全体（令和3年6月～令和9年3月）とする。
存在による影響	改変後の地形	・地盤沈下	水準測量結果及び設計図書等を整理する。	事業区域内とする。	工事完了後の令和9年4月とする。
		環境保全措置の実施状況		現地調査及び実施記録の確認等を行う。	

注) 太枠は、本報告書で報告する項目である。

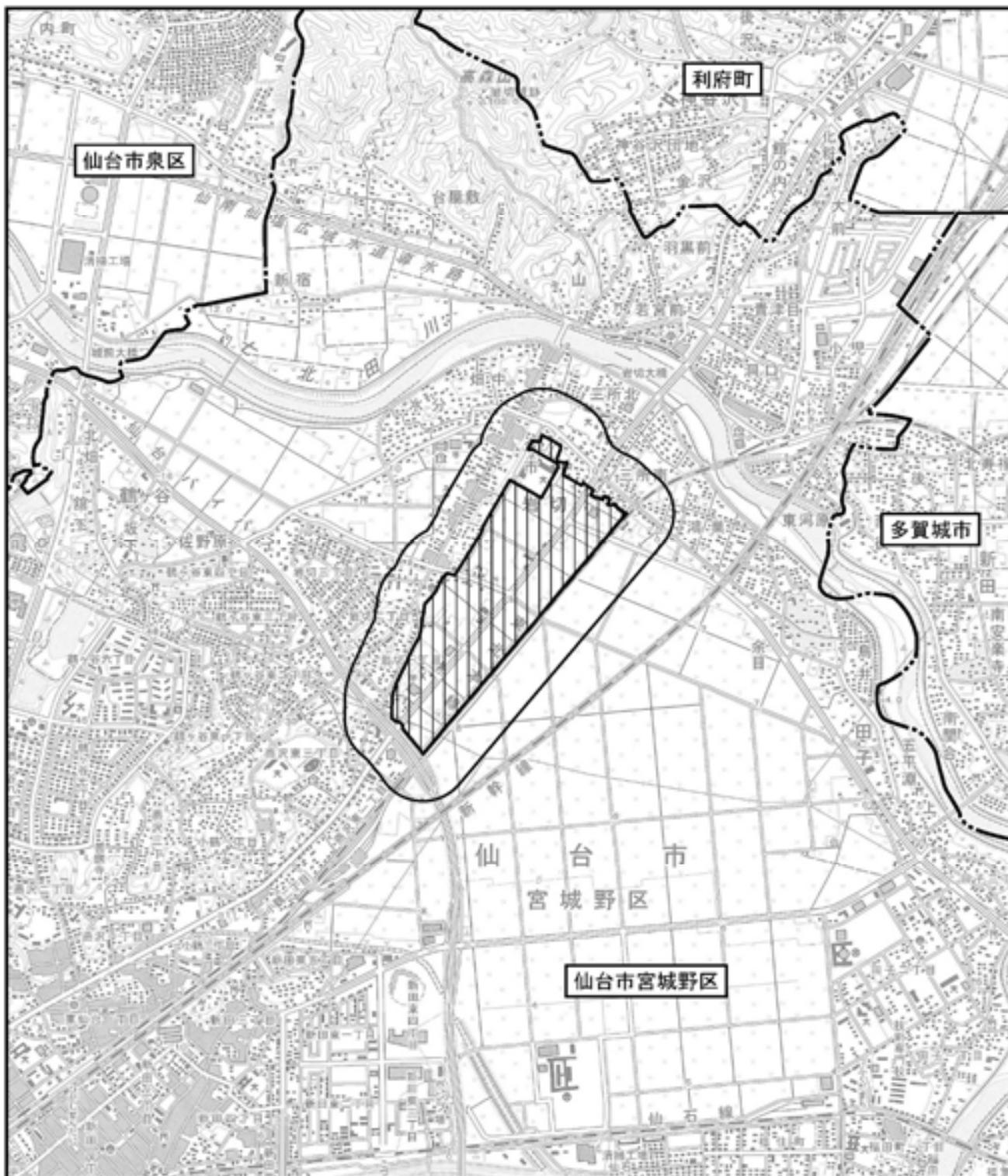
表4-8 事後調査の内容（植物）

		調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
存在による影響	工改変後の地形及び出現	・植物相及び注目すべき種	現地調査の方法に準拠する。	事業区域及びその周辺200mの範囲とする（図4-4参照）。	工事完了後（組合解散前）の令和9年7月～令和10年4月の春季、夏季、秋季の3季とする。
		・植生及び注目すべき群落			工事完了後（組合解散前）の令和9年7月の夏季とする。
	環境保全措置の実施状況		現地調査及び実施記録の確認等を行う。	事業区域とする。	工事完了後（組合解散前）とする。

表4-9 事後調査の内容（動物）

		調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	び行工盛土・掘削等	・動物相及び注目すべき種並びに注目すべき生息地	現地調査の方法に準拠する。	事業区域内及びその周辺200mの範囲とする。	盛土造成中である（令和3年10月～令和4年8月）の秋季、冬季、春季、夏季の4季とする。
		環境保全措置の実施状況		現地調査及び実施記録の確認等を行う。	事業区域内とする。
存在による影響	の及改出及び変現工後の物地形	・動物相及び注目すべき種並びに注目すべき生息地	現地調査の方法に準拠する。	事業区域内及びその周辺200mの範囲とする（図4-4参照）。	工事完了後（組合解散前）の令和9年7月～令和10年4月の春季、夏季、秋季、冬季の4季とする。
		環境保全措置の実施状況		現地調査及び実施記録の確認等を行う。	事業区域内とする。

注) 網掛けは、事後調査報告書（工事中その1）で報告済みの項目である。



凡例

- | | |
|--|---|
|  事業区域 |  事後調査地域(事業区域から200mの範囲) |
|  市町界 | |
|  区界 | |

注) 図中の番号は、表4-8~10に対応する。

図4-4 事後調査地域の位置 (植物、動物、生態系)

S=1/25,000
0 200 400 600 800 1,000m



表4-10 事後調査の内容（生態系）

		調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	び行工 盛土、重機 ・掘削等の稼働 及車両の走	・地域を特徴づける生態系	現地調査の方法に準拠する。	事業区域内及びその周辺200mの範囲とする。	盛土造成中である（令和3年10月～令和4年8月）の秋季、冬季、春季、夏季の4季とする。
		環境保全措置の実施状況	現地調査及び実施記録の確認等を行う。	事業区域内とする。	工事期間全体（令和3年4月～令和9年3月）とする。
存在による影響	の及改 出及び変 現工後 作の地 物地形	・地域を特徴づける生態系	現地調査の方法に準拠する。	事業区域内及びその周辺200mの範囲とする（図4-4参照）。	工事完了後（組合解散前）の令和9年7月～令和10年4月の春季、夏季、秋季、冬季の4季とする。
		環境保全措置の実施状況	現地調査及び実施記録の確認等を行う。	事業区域内とする。	工事完了後（組合解散前）とする。

注) 網掛けは、事後調査報告書（工事中その1）で報告済みの項目である。

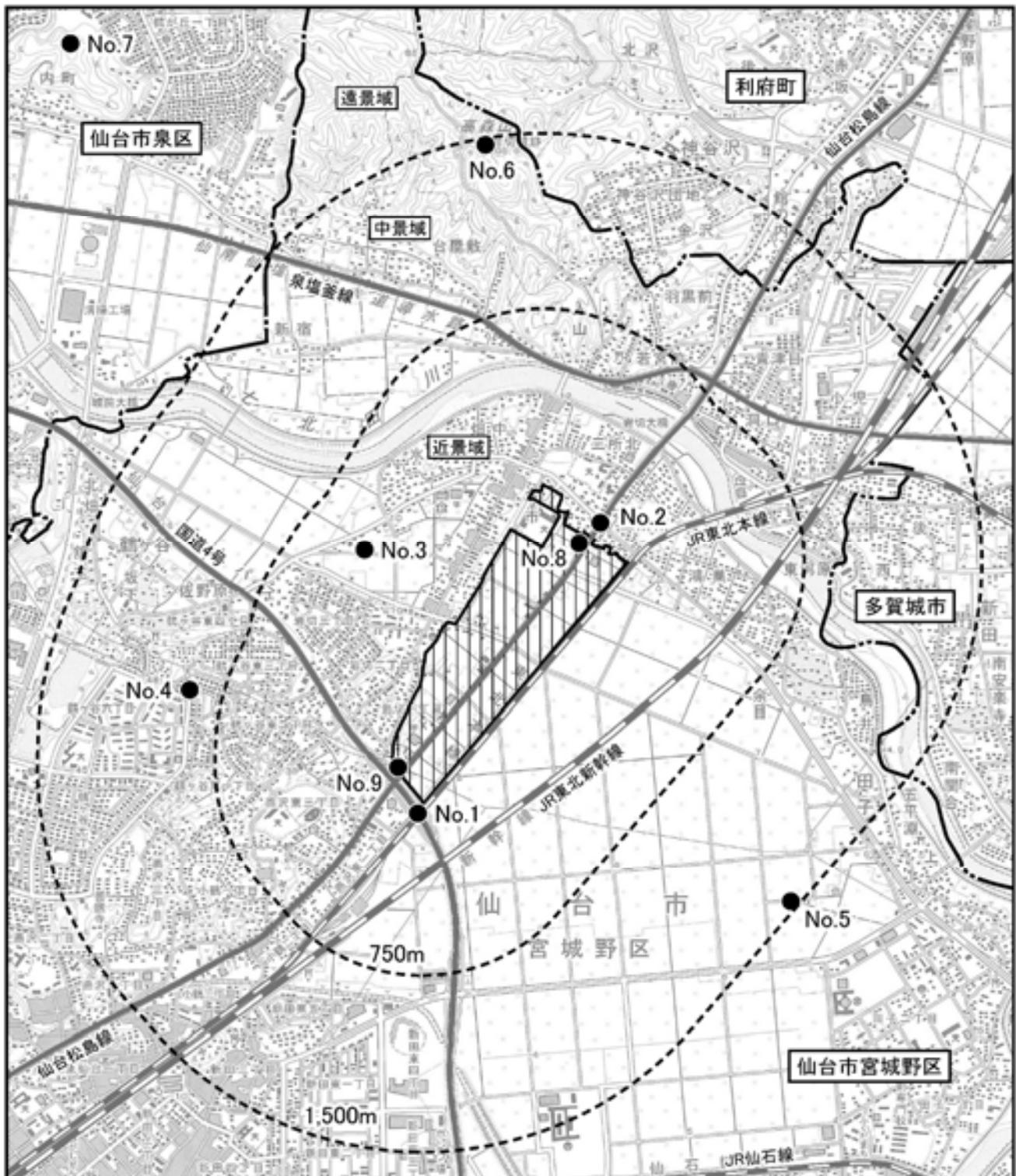
表4-11 事後調査の内容（景観）

		調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
存在による影響	工改 作変 物後 等の地 出形現 及及び	・主要な眺望景観	現地調査の方法に準拠する。	予測地点と同一の9地点とする（図4-5参照）。 【No.1～9】	工事完了後（組合解散前）の着葉期及び落葉期とする。 ・着葉期：令和9年7月 ・落葉期：令和10年2月
		環境保全措置の実施状況	現地調査及び実施記録の確認等を行う。	事業区域内とする。	

表4-12 事後調査の内容（廃棄物等）

		調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等
工事による影響	盛土 ・掘削等	・廃棄物の発生量 ・廃棄物削減状況	工事記録の確認を行う。 また、必要に応じてヒアリング調査を行う。	事業区域内とする。	工事期間全体（令和3年4月～令和9年3月）とする。
		環境保全措置の実施状況	実施記録の確認等を行う。 また、必要に応じてヒアリング調査を行う。		

注) 太枠は、本報告書で報告する項目である。



凡例

- | | | |
|--|---|--|
|  事業区域 |  主要道路 |  事後調査地点 |
|  市町界 |  JR新幹線 | |
|  区界 |  JR在来線 | |

注) 図中の番号は、表4-11に対応する。

図4-5 事後調査地点の位置（景観）



表4-13 事後調査の内容（温室効果ガス等）

	調査項目	調査方法	調査地域等	調査期間・頻度等	
工事による影響	及び重機 工事用車両の稼働 走行	・二酸化炭素 ・メタン ・一酸化二窒素	工事記録により、軽油・ガソリン等の液体燃料使用量を確認し、二酸化炭素、メタン及び一酸化二窒素の排出量を推定する。	事業区域から資材等の搬入出場所まで及び事業区域内とする。	工事期間全体（令和3年4月～令和9年3月）とする。
	環境保全措置の 実施状況	実施記録の確認を行う。また、必要に応じてヒアリング調査を実施する。	事業区域内とする。		
供用による影響	走行 施設 関連 車両の	・二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素（施設等の立地状況）	住宅、商業施設及び業務施設の立地状況について現地調査を行う。	事業区域内とする。	想定される施設の事業活動が定常になる時期（組合解散前）の令和10年2月とする。
	環境保全措置の 実施状況	現地調査及び実施記録の確認等を行う。		工事完了後（組合解散前）とする。	

注) 太枠は、本報告書で報告する項目である。

4.2 事後調査のスケジュール

事後調査のスケジュールは、表4-14に示すとおり、事業工程及び工事工程から計画した。なお、工事により生じる環境への影響を早期の段階から可能な限り回避又は低減するため、事後調査を最大限活用するものとし、調査時期等は、工事工程の変更に応じて変更する。

(空白ページ)

4.3 事後調査報告書の提出時期

事後調査報告書の提出時期は、表4-15に示すとおりとする。

事後調査報告書は表4-16に示すとおり、評価書では令和3年1月～令和6年5月の工事期間中において、令和5年4月に第1回（工事中その1）を、令和6年11月に第2回（工事中その2）を、令和8年3月に第3回（供用時）を提出する計画であった。

しかしながら、「1.5.12 事業工程計画」に示したとおり、令和4年7月より工事が中断となったため、第1回（工事中その1）の事後調査報告書は、令和6年3月に報告することとなった。今回の第2回（工事中その2）報告の後は、第3回（工事中その3）は令和9年9月頃に、第4回（供用時）は令和10年9月頃に事後調査報告書を提出する予定である。

表4-15 事後調査報告書の提出時期等の変更

回	時期・項目	評価書	令和6年11月時点
第1回 （工事中その1）	提出時期	令和5年4月	令和6年3月
	調査項目	大気質、騒音、振動、地盤沈下（地下水の変化）、動物、生態系、廃棄物等、温室効果ガス等	大気質（粉じんのみ）、地盤沈下（地下水の変化）、動物、生態系、廃棄物等、温室効果ガス等
第2回 （工事中その2）	提出時期	令和6年11月頃	令和7年3月
	調査項目	大気質（粉じんのみ）、水質、地盤沈下（地下水の変化）、廃棄物等、温室効果ガス等	大気質、騒音、振動、地盤沈下（地下水の変化）、廃棄物等、温室効果ガス等
第3回 （工事中その3）	提出時期	—	令和9年9月頃
	調査項目	—	大気質（粉じんのみ）、水質、地盤沈下（地下水の変化）、廃棄物等、温室効果ガス等
第4回 （供用時）	提出時期	令和8年3月頃	令和10年9月頃
	調査項目	大気質、騒音、振動、水象、地形・地質、地盤沈下（地盤沈下）、植物、動物、生態系、景観、温室効果ガス等	大気質、騒音、振動、水象、地形・地質、地盤沈下（地盤沈下）、植物、動物、生態系、景観、温室効果ガス等

5. 事後調査の結果及び予測結果の検証

5.1 大気質

5.1.1 事後調査の方法等及び結果

(1) 調査項目

工事用車両の走行及び重機の稼働による大気質への影響を把握するため、工事用車両のピーク日走行台数が最大となる時期、重機の稼働が最大となる時期における以下の項目について調査を行った。また、盛土・掘削等により発生する粉じんの大気質への影響を把握するため、砂埃等が立ちやすい風（風向・風速）の状況について調査を行った。

なお、交通量については、騒音及び振動の調査に併せて実施しており、「5.2 騒音」に示すとおりである。

- ・ 二酸化窒素濃度
- ・ 浮遊粒子状物質濃度
- ・ 気象の状況
- ・ 交通量
- ・ 重機の稼働状況
- ・ 粉じん（風向・風速）

(2) 調査期間

調査期間は表5.1-1に示すとおりである。

評価書での予測時には、工事用車両の走行台数と重機の稼働台数のピーク時期は重なると想定していたが、工事の進捗等から、ピーク時期がずれたため、2時期に分けて調査を行った。ただし、重機の稼働については、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既にピーク時期を過ぎており、ピーク時期は、令和6年3月であったことが判明した（p.86参照）。

表5.1-1 調査期間

調査項目		調査期間
工事用車両の走行	二酸化窒素濃度	公定法：令和6年3月9日(土) 0:00～15日(金) 24:00 簡易法：令和6年3月8日(金) 12:00～16日(土) 12:00
	浮遊粒子状物質濃度	公定法：令和6年3月9日(土) 0:00～15日(金) 24:00 岩切測定局観測データ： 令和6年3月9日(土) 0:00～15日(金) 24:00
	風向・風速	令和6年3月9日(土) 0:00～15日(金) 24:00
重機の稼働	二酸化窒素濃度	令和6年5月22日(水) 0:00～28日(火) 24:00
	浮遊粒子状物質濃度	
	風向・風速	令和6年5月22日(水)
盛土・掘削等	重機の稼働状況	令和6年5月22日(水)
	粉じん (風向・風速)	令和3年4月（着工）～令和6年7月 ※ 令和4年7月～令和5年6月は工事が中断していたため、調査期間から除外した。

注) 工事用車両の走行及び重機の稼働による複合影響については、予測結果において重機の稼働による負荷が大きかったことから、重機の稼働による影響の調査期間と同じとした。

(3) 調査地点

調査地点は、表5.1-2及び図5.1-1(1)～(3)に示すとおりである。なお、評価書で予測地点としていたNo.2地点（国道4号沿道）は、実際には国道4号が工事用車両ルートとして使用されなかったため、事後調査は実施しないこととした。

また、No.3～5地点は、評価書ではそれぞれ上り側及び下り側の2ヶ所で予測しているが、事後調査では予測結果で濃度の高かった側の1ヶ所で調査を行った。

なお、No.3～5地点は道路沿道の地点であることから、公定法による調査が実施できなかった。そのため、工事用車両の走行による浮遊粒子状物質濃度として、岩切測定局における観測データも整理することとした。

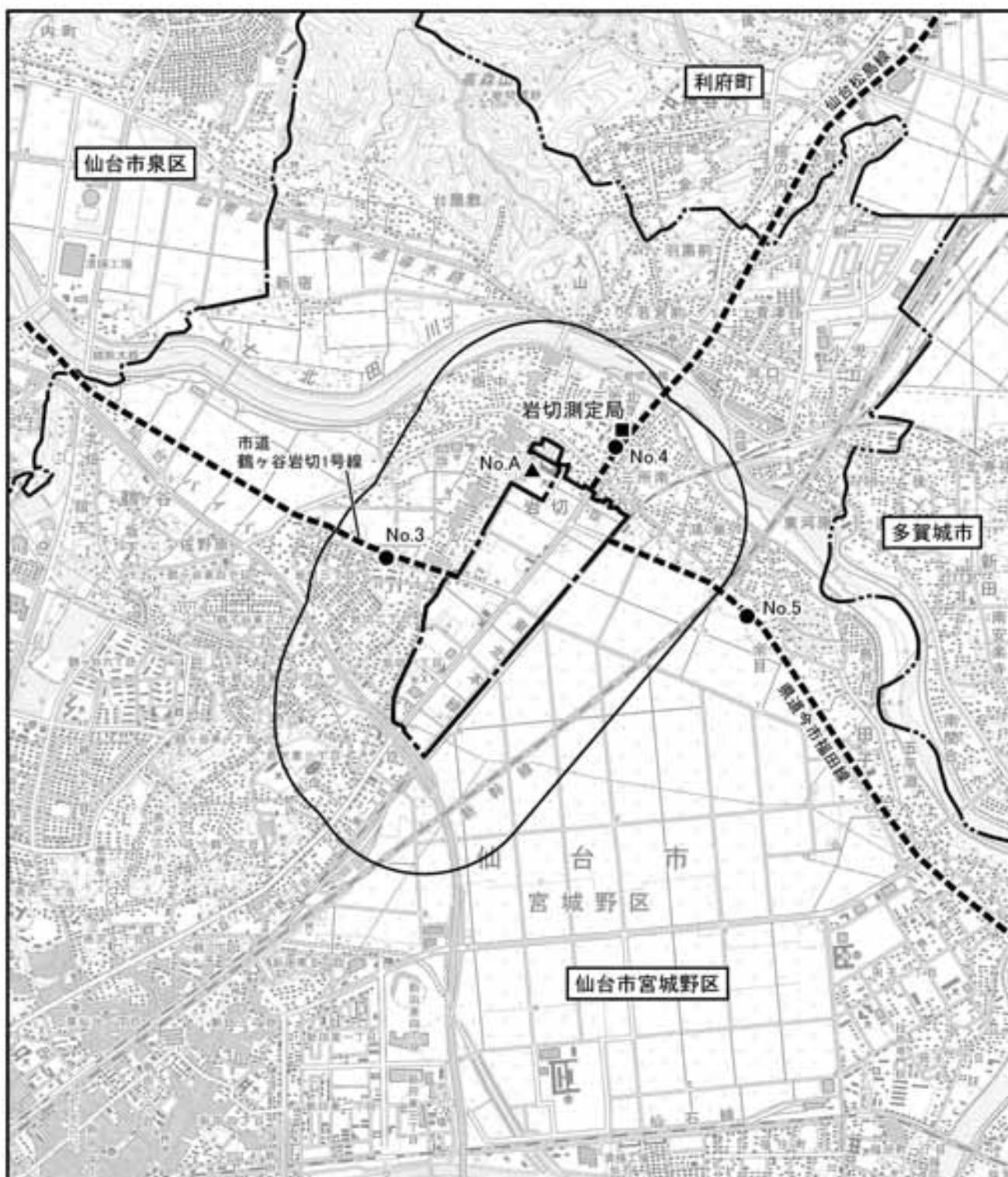
重機の稼働状況は、事業区域及びその周辺とした。

表5.1-2 調査地点

調査項目	調査地点		調査項目
工事用車両の走行	No.A	岩切小学校 (事業区域近隣)	二酸化窒素（公定法、簡易法） 浮遊粒子状物質（公定法）
	No.3	宮城野区岩切二丁目地内 (市道鶴ヶ谷岩切1号線：上り側)	二酸化窒素（簡易法）
	No.4	仙台市宮城野区岩切山神北 (仙台松島線：下り側)	
	No.5	宮城野区字余目南地内 (県道今市福田線：上り側)	
	—	岩切測定局 (一般環境大気測定局： 事業区域北東約270m)	浮遊粒子状物質
重機の稼働	No.A	岩切小学校	風向・風速
	No.①		二酸化窒素（公定法） 浮遊粒子状物質（公定法）
	No.②	仙台東脳神経外科病院	二酸化窒素（公定法） 浮遊粒子状物質（公定法）
	No.③	岩切病院	
	No.④	事業区域西側民家*	
	No.⑤	最大着地濃度出現地点付近	
工事用車両の走行及び重機の稼働による複合的な影響	No.A	岩切小学校 (No.4及びNo.①の複合影響)	二酸化窒素（公定法） 浮遊粒子状物質（公定法）
	No.B	仙台東脳神経外科病院 (No.4及びNo.②の複合影響)	
	No.C	岩切病院 (No.4及びNo.③の複合影響)	
	No.D	事業区域西側民家* (No.3及びNo.④の複合影響)	
盛土・掘削等	—	岩切測定局 (一般環境大気測定局： 事業区域北東約270m)	風向・風速

※ 予測地点では調査が実施できず、予測地点の北東約300mの地点へと変更した。

注) 地点No.は、図5.1-1(1)～(3)に対応する。なお、No.AとNo.①は、同位置である。岩切測定局の位置は、図5.1-1(4)に示すとおりである。

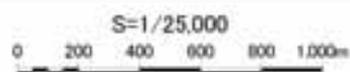


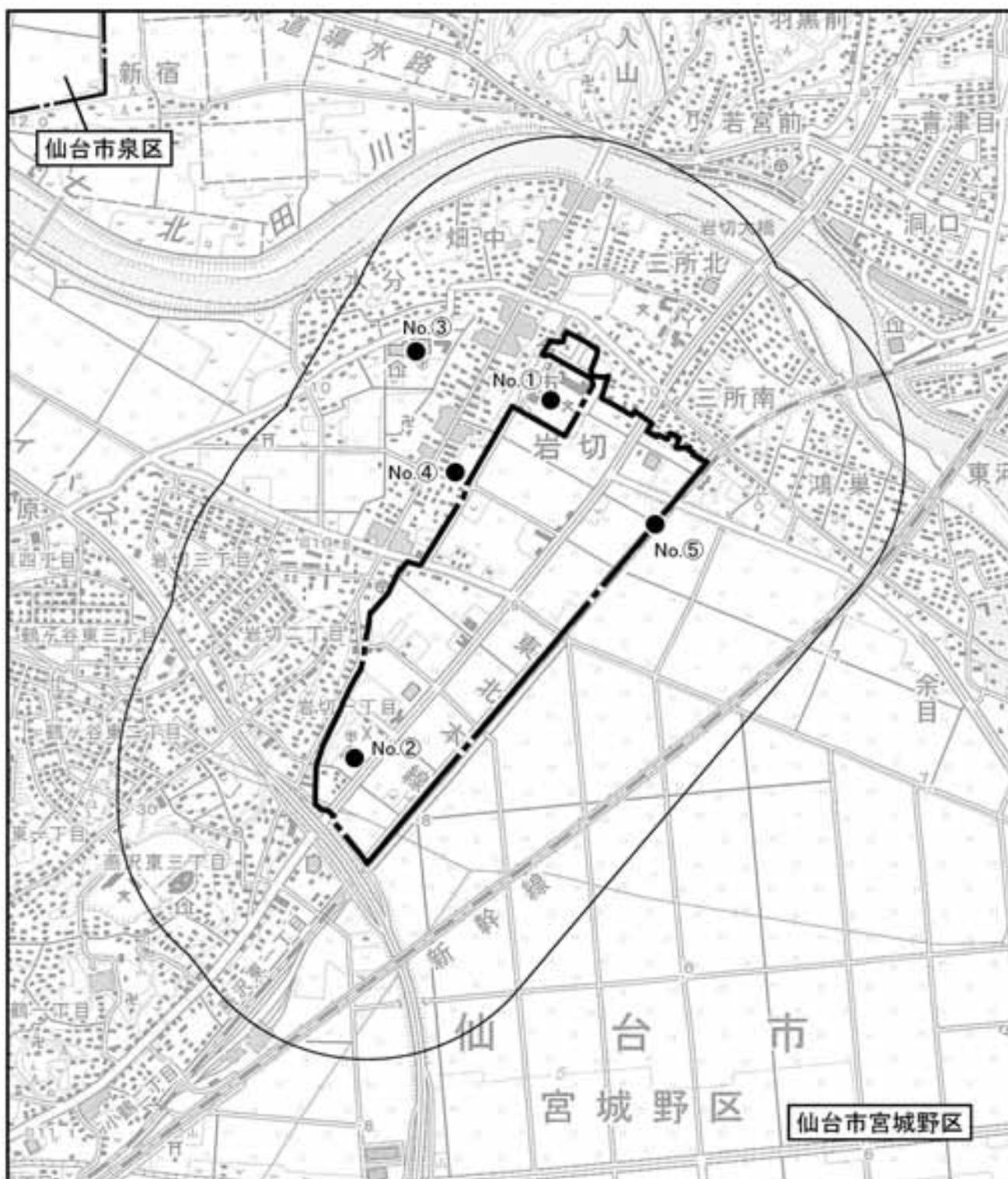
凡例

- | | |
|----------|-----------------------|
| --- 事業区域 | ○ 調査地域(事業区域から500mの範囲) |
| --- 市町界 | ▲ 調査地点(事業区域近隣: No.A) |
| --- 区界 | ● 調査地点(道路沿道: No.3~5) |
| | --- 主要な走行ルート |

注) 図中の番号は、表5.1-2に対応する。

図5.1-1(1) 大気質調査地点 (工事用車両の走行)





凡例

--- 事業区域

○ 調査範囲(事業区域から500mの範囲)

--- 区界

● 調査地点

(保全対象: No.①~④、最大着地濃度出現地点付近: No.⑤)

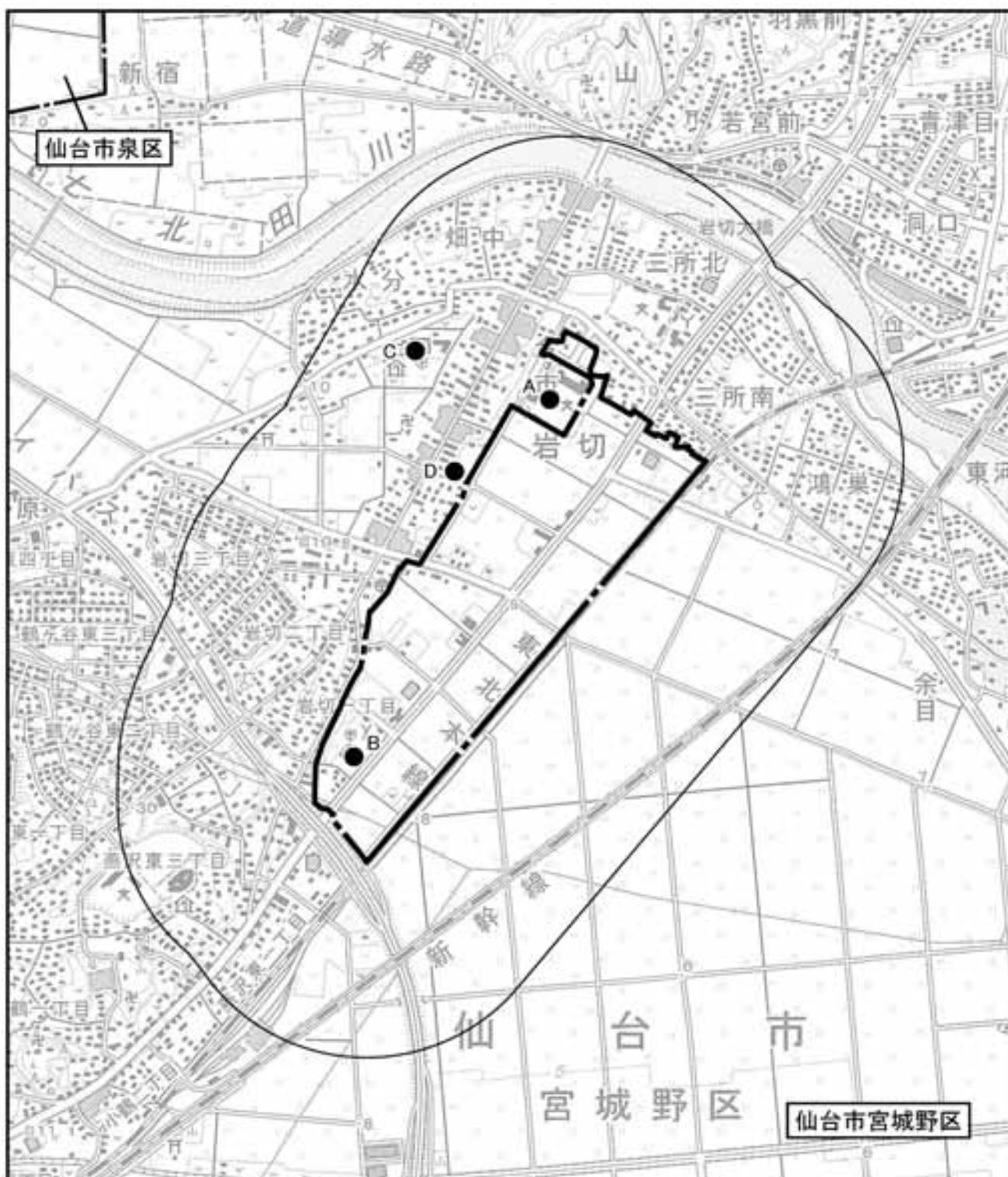
注) 図中の番号は、表5.1-2に対応する。

図5.1-1(2) 大気質調査地点 (重機の稼働)

S=1/15,000

0 100 200 300 400 500m





凡例

- 事業区域

--- 区界
- 調査範囲(事業区域から500mの範囲)

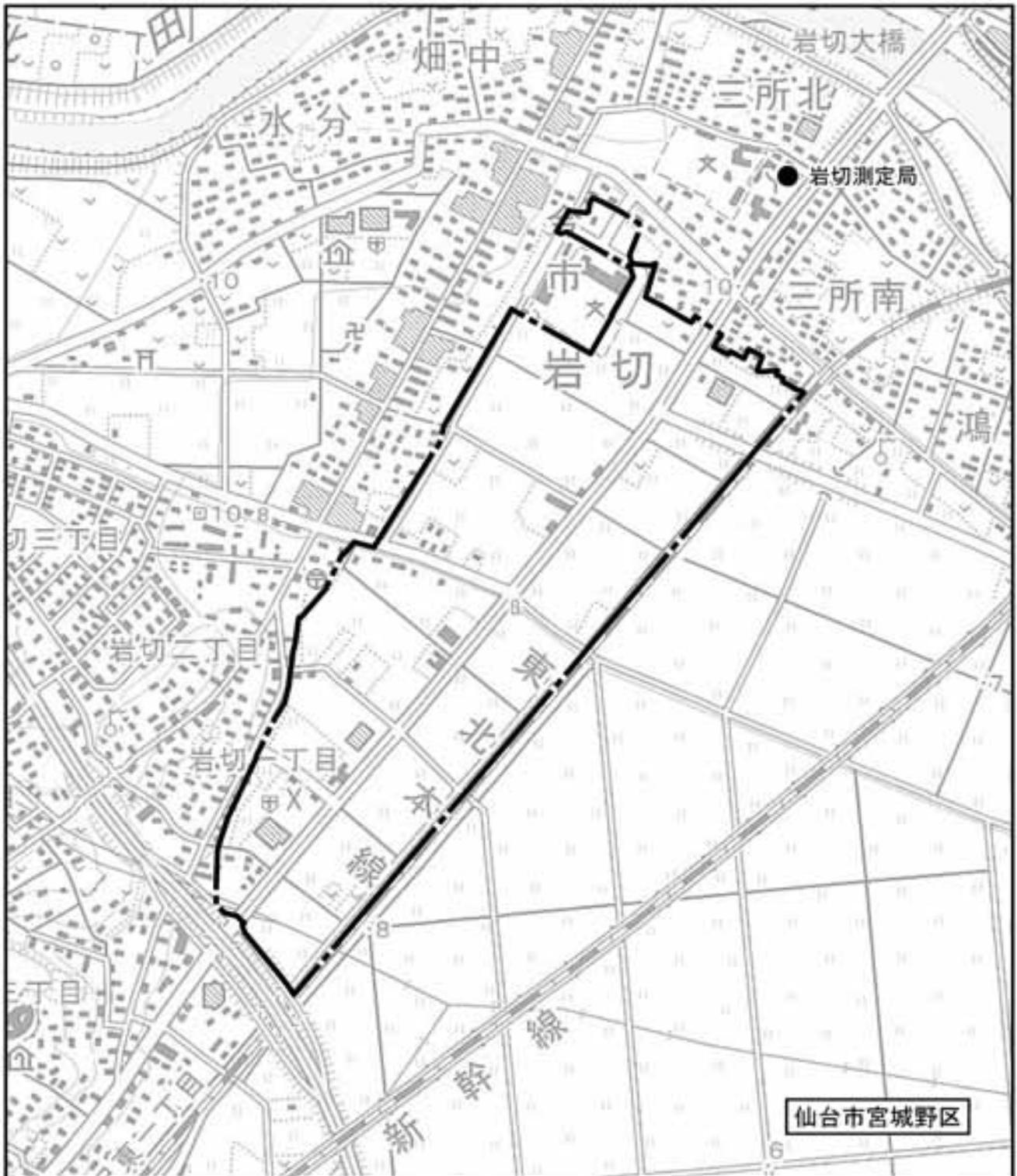
● 調査地点(工事による影響の合成)(保全対象)(No.A~D)

注) 図中の番号は、表5.1-2に対応する。

図5.1-1(3) 大気質調査地点(工事による影響の合成)

S=1/15,000
0 100 200 300 400 500m





凡例

- 事業区域
- 調査地点

図5.1-1(4)
大気質(粉じん)調査地点(盛土・掘削等)

S=1/10,000
0 100 200 300 400 500m



(4) 調査方法

1) 二酸化窒素及び浮遊粒子状物質

調査方法は表5.1-3に、使用した測定機器は表5.1-4に示すとおりである。

二酸化窒素（窒素酸化物）の測定は「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53.7.11環告38）に、浮遊粒子状物質の測定は「大気汚染に係る環境基準について」（昭和48.5.8環告25）に定める方法に準拠した。

表5.1-3 大気質の調査方法

調査項目	測定方法		サンプリング高度
二酸化窒素 (窒素酸化物)	公定法	オゾンを用いる化学発光法に基づく「大気中の窒素酸化物自動計測器」（JIS B 7953）により、NO濃度、NO ₂ 濃度及びNO _x 濃度を1時間単位で連続測定した。	地上高1.5m
	簡易法	パッシブサンプラー内に装着した捕集エレメント（ろ紙）を室内にてフローインジェクション分析法により分析した。	
浮遊粒子状物質	公定法	β線吸収法に基づく「大気中の浮遊粒子状物質自動計測器」（JIS B 7954）により、SPM濃度を1時間単位で連続測定した。また、分粒装置により粒径10μmを超える粒子状物質を除去した。	地上高3.0m
	観測データ整理	岩切測定局の観測データを整理した。	—

表5.1-4 使用測定機器

測定項目	測定機器	メーカー・型式	測定範囲
二酸化窒素 (窒素酸化物)	窒素酸化物自動計測器	紀本電子工業(株) NA-623	0~10ppm
浮遊粒子状物質	浮遊粒子状物質自動計測器	紀本電子工業(株) SPM-613	0~5mg/m ³

2) 風向・風速

岩切測定局の風向・風速データ（速報値）を整理した。

3) 粉じん（風向・風速）

風向・風速の1時間値の観測データの整理とした。なお、風速が0.4m/s以下の風向は、Calm（静穏）として整理した。

また、風力階級別、風向別の出現頻度について整理し、表5.1-5に示すビューフォート風力階級表に基づき、砂埃が立つとされる風速（5.5m/s以上）の発生頻度を確認した。

表5.1-5 ビューフォート風力階級表

風力階級	相当風速 (m/s)	地表物の状態 (陸上)
0	0.3m/s 未満	静穏。煙はまっすぐに昇る。
1	0.3m/s 以上 1.6m/s 未満	風向きは煙がなびくのでわかるが、風見には感じない。
2	1.6m/s 以上 3.4m/s 未満	顔に風を感じる。木の葉が動く。風見も動き出す。
3	3.4m/s 以上 5.5m/s 未満	木の葉や細かい小枝がたえず動く。軽く旗が開く。
4	5.5m/s 以上 8.0m/s 未満	砂埃がたち、紙片が舞い上がる。小枝が動く。
5	8.0m/s 以上 10.8m/s 未満	葉のある灌木がゆれはじめる。池や沼の水面に波頭がたつ。
6	10.8m/s 以上 13.9m/s 未満	大枝が動く。電線が鳴る。傘はさしにくい。
7	13.9m/s 以上 17.2m/s 未満	樹木全体がゆれる。風に向かっては歩きにくい。
8	17.2m/s 以上 20.8m/s 未満	小枝が折れる。風に向かっては歩けない。
9	20.8m/s 以上 24.5m/s 未満	人家にわずかの損害がおこる。
10	24.5m/s 以上 28.5m/s 未満	陸地の内部ではめずらしい。樹木が根こそぎになる。人家に大損害がおこる。
11	28.5m/s 以上 32.7m/s 未満	めったに起こらない広い範囲の破壊を伴う。
12	32.7m/s 以上	—

出典：「気象観測ガイドブック」（平成30年3月改定、気象庁）

(5) 調査結果

1) 工事用車両の走行

ア. 二酸化窒素濃度

二酸化窒素の調査結果は表5.1-6(1)～(2)に、詳細は資料編 (p.資-1,3) に、風向別平均濃度は図5.1-2に示すとおりである。

測定期間中の二酸化窒素の期間平均値は、公定法では0.006ppm、簡易法では0.005～0.011ppmであった。また、日平均値の最高値は、公定法では0.010ppm、簡易法では0.012～0.020ppmであった。測定期間中の日平均値は、公定法及び簡易法の全地点で環境基準を達成していた。

また、風向と平均濃度とに明確な関連はみられなかった。

主な発生源は、調査地点周辺における道路交通である。

表5.1-6(1) 二酸化窒素濃度調査結果 (公定法)

調査地点	有効測定日数	測定時間	期間平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		環境基準等
	日	時間	ppm	ppm	ppm	日	%	日	%	
No.A	7	168	0.006	0.032	0.010	0	0.0	0	0.0	【環境基準】 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。 【仙台市定量目標(仙台市環境基本計画)】 0.04ppm以下

表5.1-6(2) 二酸化窒素濃度調査結果 (簡易法)

調査地点	有効測定日数	測定時間	期間平均値	日平均値の最高値	日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		環境基準等
	日	時間	ppm	ppm	日	%	日	%	
No.A	8	192	0.005	0.012	0	0.0	0	0.0	【環境基準】 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。 【仙台市定量目標(仙台市環境基本計画)】 0.04ppm以下
No.3	8	192	0.006	0.013	0	0.0	0	0.0	
No.4	8	192	0.011	0.020	0	0.0	0	0.0	
No.5	8	192	0.008	0.018	0	0.0	0	0.0	

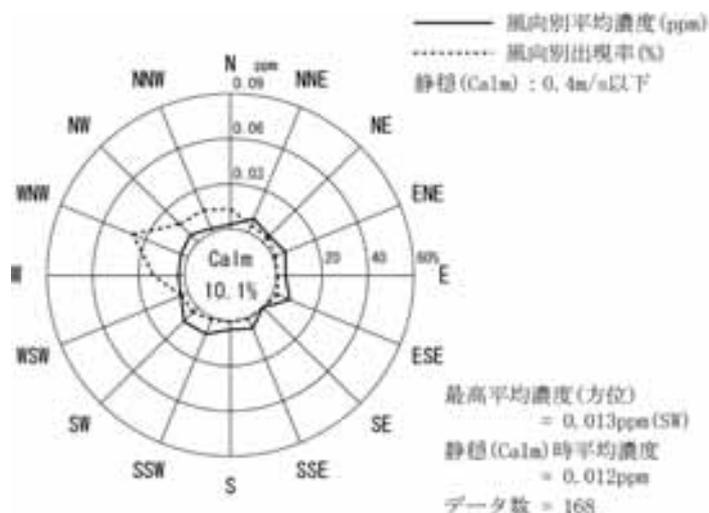


図5.1-2 二酸化窒素 (NO₂) の風向別平均濃度

イ. 浮遊粒子状物質濃度

浮遊粒子状物質の調査結果は表5.1-7に、詳細は資料編 (p.資-2) に、風向別平均濃度は図5.1-3に示すとおりである。

No.A地点における測定期間中の浮遊粒子状物質の期間平均値は0.013mg/m³、1時間値の最高値は0.038mg/m³、日平均値の最高値は0.025mg/m³であった。また、それと同じ期間における岩切測定局の浮遊粒子状物質の期間平均値は0.009mg/m³、1時間値の最高値は0.035mg/m³、日平均値の最高値は0.021mg/m³であり、両地点ともに、測定期間中の1時間値及び日平均値は環境基準を達成していた。

また、風向と平均濃度とに明確な関連はみられなかった。

主な発生源は、調査地点周辺における道路交通である。

表5.1-7 浮遊粒子状物質濃度調査結果

調査地点	有効測定日数 (日)	測定時間 (時間)	期間平均値 (mg/m ³)	1時間値の最高値 (mg/m ³)	日平均値の最高値 (mg/m ³)	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		環境基準及び 仙台市定量目標 (仙台市環境基本計画)
						(時間)	(%)	(日)	(%)	
No.A (公定法)	7	168	0.013	0.038	0.025	0	0.0	0	0.0	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。
岩切測定局※	7	168	0.009	0.035	0.021	0	0.0	0	0.0	

※ 「仙台市大気環境情報サイト」 (令和6年8月閲覧、仙台市ホームページ) より集計した。

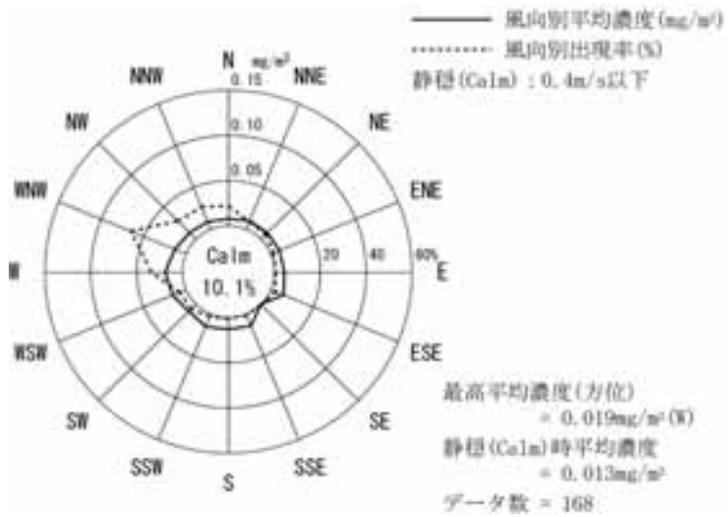


図5.1-3 浮遊粒子状物質 (SPM) の風向別平均濃度

ウ. 風向・風速

風向・風速の調査結果は表5.1-8及び図5.1-4に、詳細は資料編 (p.資-14) に示すとおりである。

測定期間中の風向・風速は、平均風速が2.4m/s、最多風向が西北西 (26.2%)、静穏率が10.1%であった。また、最大風速は7.4m/s、その時の風向は西北西であった。

表5.1-8 風向・風速調査結果

調査地点	有効測定日数 (日)	測定時間 (時間)	1時間値(m/s)			日平均値(m/s)		最大風速(m/s) (風向)	最多風向 (出現率(%))	静穏率 (%)
			平均	最高	最低	最高	最低			
No.A	7	168	2.4	7.4	0.1	3.9	1.1	7.4 (WNW)	WNW (26.2)	10.1

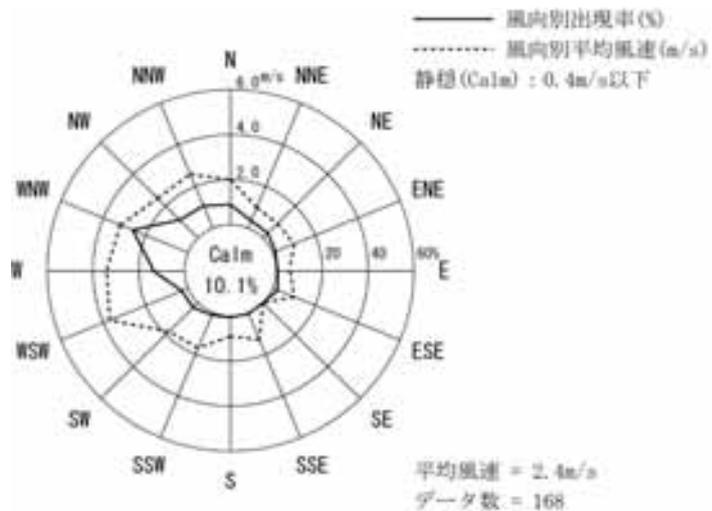


図5.1-4 風配図

2) 重機の稼働

ア. 二酸化窒素濃度

二酸化窒素の調査結果は表5.1-9に、詳細は資料編 (p.資-6~8) に、風向別平均濃度は図5.1-5(1)~(5)に示すとおりである。

測定期間中の期間平均値は0.003~0.005ppm、日平均値の最高値は0.004~0.008ppmであった。測定期間中の日平均値は、全ての地点で環境基準及び仙台市定量目標を下回っていた。

また、風向と平均濃度とに明確な関連はみられなかった。

主な発生源は、調査地点周辺における本事業建設工事及び道路交通である。

表5.1-9 二酸化窒素濃度調査結果

調査地点	有効測定日数(日)	測定時間(時間)	期間平均値(ppm)	1時間値の最高値(ppm)	日平均値の最高値(ppm)	日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		環境基準	仙台市定量目標(仙台市環境基本計画)
						(日)	(%)	(日)	(%)		
① 岩切小学校	7	168	0.004	0.016	0.008	0	0.0	0	0.0	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下
② 仙台東脳神経外科病院	7	168	0.005	0.012	0.008	0	0.0	0	0.0		
③ 岩切病院	7	168	0.005	0.015	0.008	0	0.0	0	0.0		
④ 事業区域西側民家	7	168	0.004	0.013	0.007	0	0.0	0	0.0		
⑤ 最大着地濃度出現地点付近	7	168	0.003	0.009	0.004	0	0.0	0	0.0		

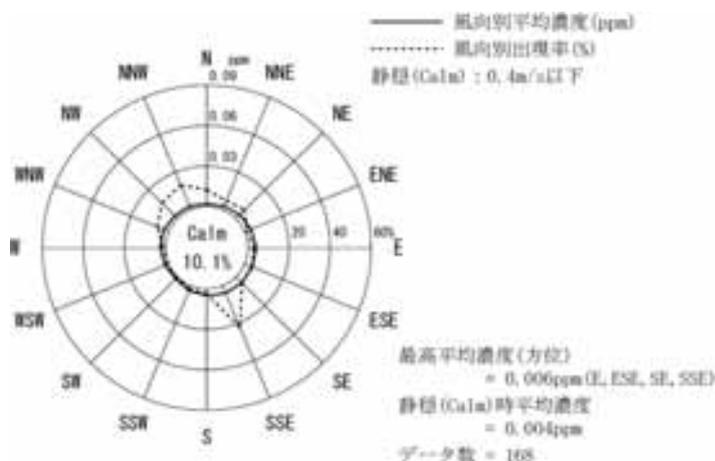


図5.1-5(1) 二酸化窒素 (NO₂) の風向別平均濃度 (No. 地点)

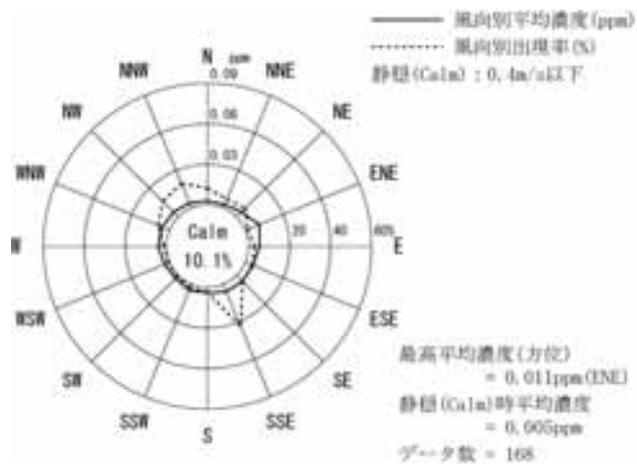


図5.1-5(2) 二酸化窒素 (NO₂) の風向別平均濃度 (No. 地点)

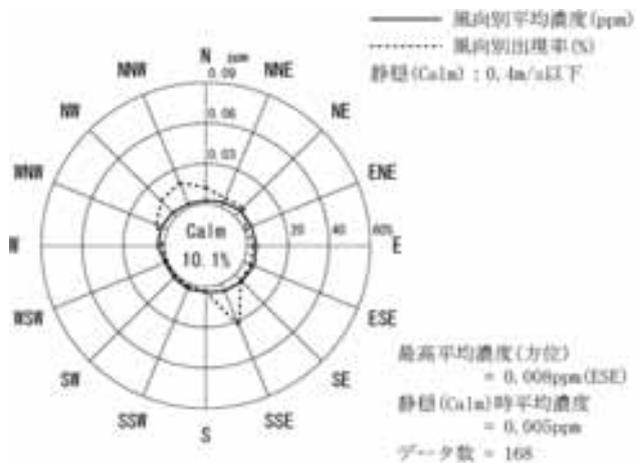


図5.1-5(3) 二酸化窒素 (NO₂) の風向別平均濃度 (No. 地点)

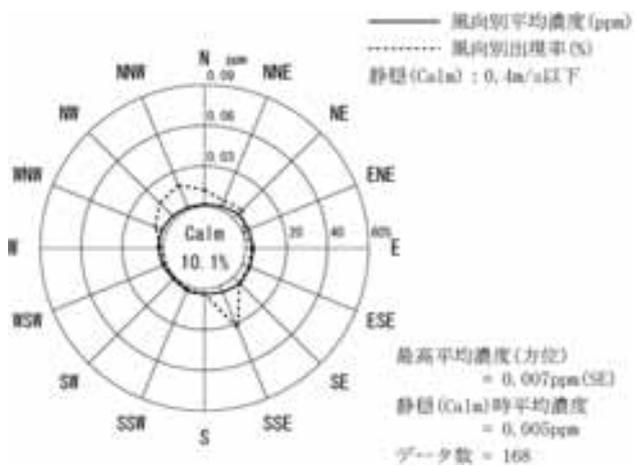


図5.1-5(4) 二酸化窒素 (NO₂) の風向別平均濃度 (No. 地点)

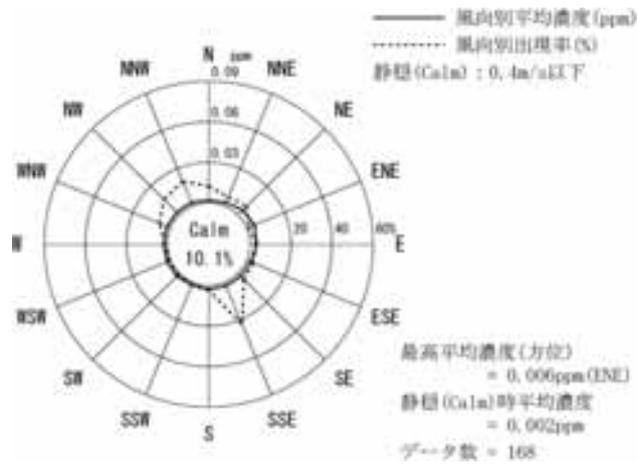


図5.1-5(5) 二酸化窒素 (NO₂) の風向別平均濃度 (No. 地点)

イ. 浮遊粒子状物質濃度

調査結果は表5.1-10に、詳細は資料編 (p.資-11~13) に、風向別平均濃度は、図5.1-5(1)~(5)に示すとおりである。

測定期間中の期間平均値は0.011~0.017mg/m³、1時間値の最高値は0.029~0.041mg/m³、日平均値の最高値は0.018~0.030mg/m³であった。測定期間中の1時間値及び日平均値は、全ての地点で環境基準及び仙台市定量目標を下回っていた。

また、風向と平均濃度とに明確な関連はみられなかった。

主な発生源は、調査地点周辺における本事業建設工事及び道路交通である。

表5.1-10 浮遊粒子状物質濃度調査結果

調査地点	有効測定日数 (日)	測定時間 (時間)	期間平均値 (mg/m ³)	1時間値の最高値 (mg/m ³)	日平均値の最高値 (mg/m ³)	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		環境基準及び仙台市定量目標 (仙台市環境基本計画)
						(時間)	(%)	(日)	(%)	
① 岩切小学校	7	168	0.017	0.039	0.030	0	0.0	0	0.0	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。
② 仙台東脳神経外科病院	7	168	0.013	0.036	0.018	0	0.0	0	0.0	
③ 岩切病院	7	168	0.017	0.041	0.028	0	0.0	0	0.0	
④ 事業区域西側民家	7	168	0.015	0.030	0.024	0	0.0	0	0.0	
⑤ 最大着地濃度出現地点付近	7	168	0.011	0.029	0.019	0	0.0	0	0.0	

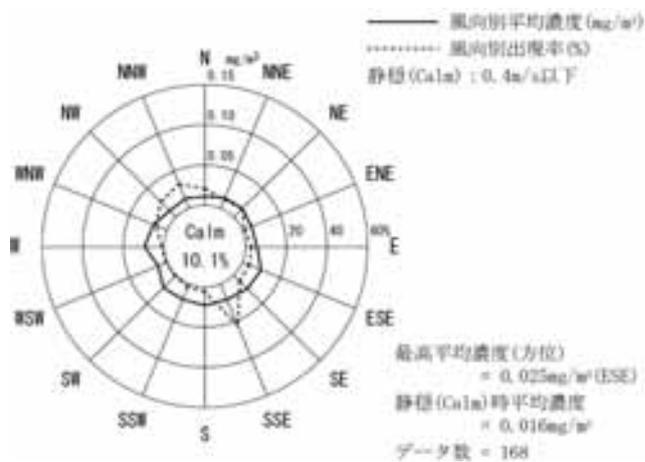


図5.1-6(1) 浮遊粒子状物質 (SPM) の風向別平均濃度 (No. 地点)

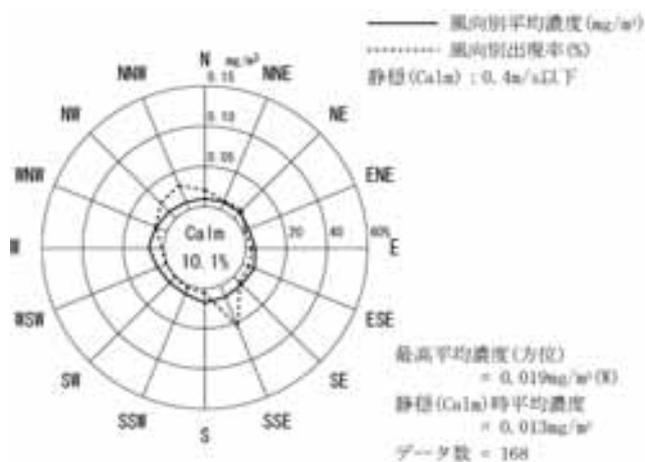


図5.1-6(2) 浮遊粒子状物質 (SPM) の風向別平均濃度 (No. 地点)

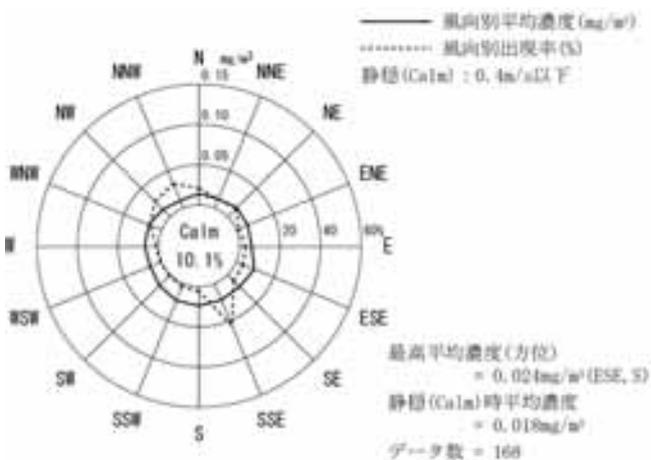


図5.1-6(3) 浮遊粒子状物質 (SPM) の風向別平均濃度 (No. 地点)

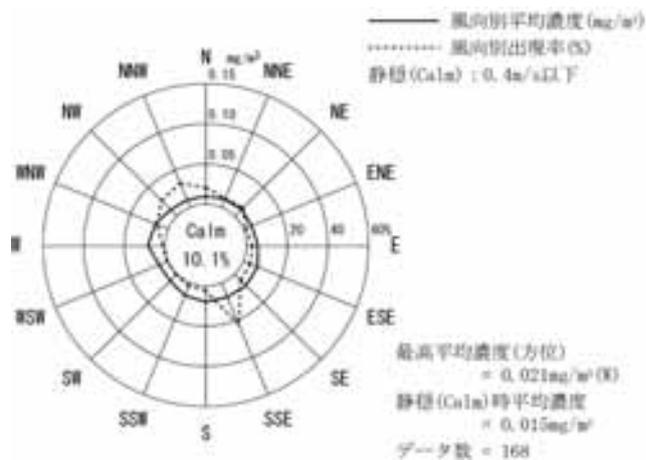


図5.1-6(4) 浮遊粒子状物質 (SPM) の風向別平均濃度 (No. 地点)

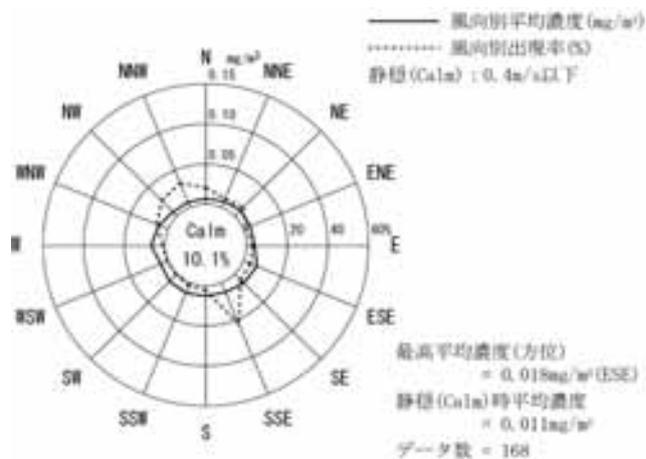


図5.1-6(5) 浮遊粒子状物質 (SPM) の風向別平均濃度 (No. 地点)

ウ. 風向・風速

風向・風速の調査結果は表5.1-11及び図5.1-4に、詳細は資料編 (p.資-15) に示すとおりである。

測定期間中の風向・風速は、平均風速が1.8m/s、最多風向が南南東 (22.6%)、静穏率が10.1%であった。また、最大風速は6.4m/s、その時の風向は北北西であった。

表5.1-11 風向・風速調査結果

調査地点	有効測定日数 (日)	測定時間 (時間)	1時間値(m/s)			日平均値(m/s)		最大風速(m/s) (風向)	最多風向 (出現率(%))	静穏率 (%)
			平均	最高	最低	最高	最低			
No.A	7	168	1.8	6.4	0.0	3.0	1.1	6.4 (NNW)	SSE (22.6)	10.1

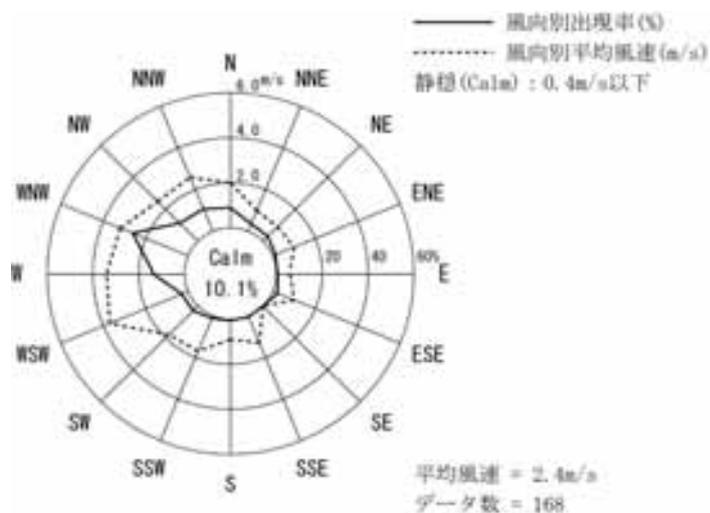


図5.1-4 風配図

エ. 重機の稼働状況

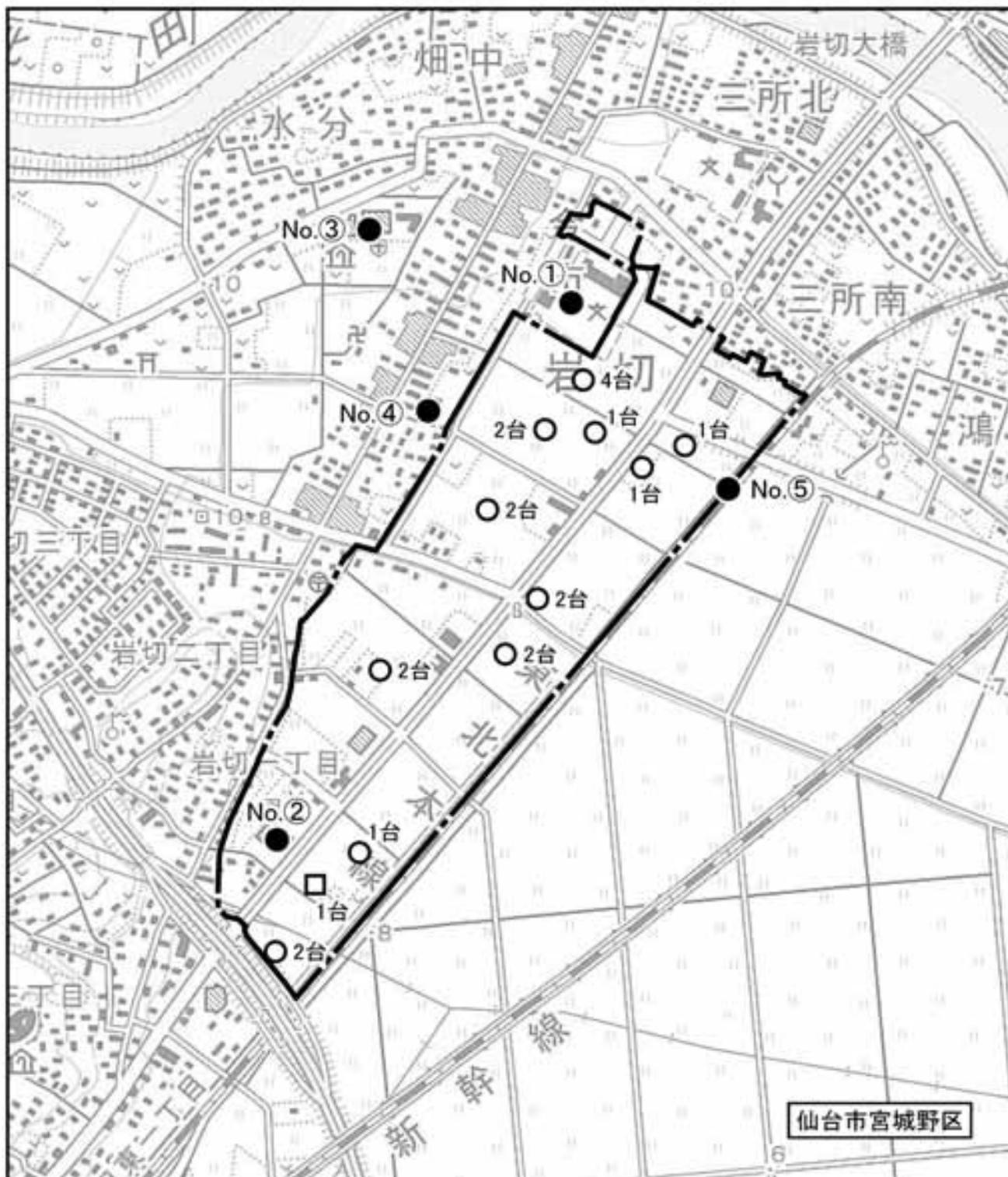
事後調査時には、雨水・汚水排水工、側溝工、調整池工等が実施されており、稼働していた主な重機はバックホウであった。全工区において重機が稼働しており、その中でも、事業区域内北側付近での稼働がやや多い傾向がみられた。なお、調査日には既に稼働のピーク時期は過ぎていたが（p.86参照）、事業区域内全体に渡って稼働していた。

重機の稼働状況は、表5.1-12及び図5.1-5に示すとおりである。

表5.1-12 重機の稼働状況

単位：台

重機の種類	台数
バックホウ	20
ラフテレーンクレーン	1
合計	21



凡 例

- 事業区域
- 調査地点

重機の稼働位置

- バックホウ
- ラフテレーンクレーン

図5.1-5 重機の稼働状況（令和6年5月22日）

S=1/10,000
0 100 200 300 400 500m



3) 工車用車両の走行及び重機の稼働による複合影響

評価書の予測結果において、重機の稼働による負荷が大きかったことから、複合影響としては、重機の稼働台数がピークとなる時期を調査対象とした。

なお、評価書においては、工車用車両の走行台数及び重機の稼働台数のピーク時期が重なる想定していたが、実際には、双方のピーク時期はずれており、予測時点とは異なる状況となった（表 1-14(2)参照）。

また、重機の稼働については、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既にピーク時期を過ぎていたことが判明した（p.86 参照）。

ア. 二酸化窒素濃度

二酸化窒素の調査結果は表5.1-13に示すとおりであり、測定期間中の期間平均値は0.004～0.005ppm、日平均値の最高値は0.007～0.008ppmであった。

また、測定期間中の日平均値は、全ての地点で環境基準及び仙台市定量目標を下回っていた。

主な発生源は、調査地点周辺における本事業建設工事及び道路交通である。

表5.1-13 二酸化窒素濃度調査結果

調査地点	有効測定日数(日)	測定時間(時間)	期間平均値(ppm)	1時間値の最高値(ppm)	日平均値の最高値(ppm)	日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		環境基準	仙台市定量目標(仙台市環境基本計画)
						(日)	(%)	(日)	(%)		
A 岩切小学校	7	168	0.004	0.016	0.008	0	0.0	0	0.0	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下
B 仙台東脳神経外科病院	7	168	0.005	0.012	0.008	0	0.0	0	0.0		
C 岩切病院	7	168	0.005	0.015	0.008	0	0.0	0	0.0		
D 事業区域西側民家	7	168	0.004	0.013	0.007	0	0.0	0	0.0		

イ. 浮遊粒子状物質濃度

調査結果は表5.1-14に示すとおりであり、測定期間中の期間平均値は0.013～0.017mg/m³、1時間値の最高値は0.030～0.041mg/m³、日平均値の最高値は0.018～0.030mg/m³であった。

また、測定期間中の1時間値及び日平均値は、全ての地点で環境基準及び仙台市定量目標を下回っていた。

主な発生源は、調査地点周辺における本事業建設工事及び道路交通である。

表5.1-14 浮遊粒子状物質濃度調査結果

調査地点	有効測定日数(日)	測定時間(時間)	期間平均値(mg/m ³)	1時間値の最高値(mg/m ³)	日平均値の最高値(mg/m ³)	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		環境基準及び仙台市定量目標(仙台市環境基本計画)
						(時間)	(%)	(日)	(%)	
A 岩切小学校	7	168	0.017	0.039	0.030	0	0.0	0	0.0	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。
B 仙台東脳神経外科病院	7	168	0.013	0.036	0.018	0	0.0	0	0.0	
C 岩切病院	7	168	0.017	0.041	0.028	0	0.0	0	0.0	
D 事業区域西側民家	7	168	0.015	0.030	0.024	0	0.0	0	0.0	

4) 切土・盛土・掘削等 (粉じん)

岩切測定局における令和3年4月から令和6年7月までの風力階級別風向別の出現頻度は表5.1-15に、砂埃が立つとされる風速5.5m/s（風力階級4）以上の月別風向別出現回数は表5.1-16に示すとおりである。

砂埃が立つとされる条件は1,021回出現し、全階級の観測回数20,429回のうち約5.0%であった。風向別では西南西が最も多く、次いで西北西、西であった。また、年による変動はあるものの、概ね冬から春にかけて風速が速い傾向がみられた。

表5.1-15 風力階級別風向別出現率

単位：%

風力階級	風速(m/s)	風向																計		
		N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW		Calm	
0	WS<0.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.1	2.1
1	0.3≤WS<1.6	2.6	1.8	1.6	1.6	1.9	2.0	3.0	1.7	0.8	0.7	1.2	3.0	5.8	3.2	2.6	2.4	2.9	39.0	39.0
2	1.6≤WS<3.4	2.3	0.9	0.9	1.4	2.8	4.0	6.1	2.1	0.7	0.3	0.5	2.9	4.9	2.7	3.7	3.2	0.0	39.3	39.3
3	3.4≤WS<5.5	0.4	0.1	0.1	0.2	0.5	0.8	1.8	0.6	0.2	0.0	0.4	1.9	1.4	1.7	2.9	1.6	0.0	14.7	14.7
4	5.5≤WS<8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	1.4	0.8	1.0	0.5	0.1	0.0	4.4	4.4
5	8.0≤WS<10.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5
6	10.8≤WS<13.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	13.9≤WS<17.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計		5.3	2.8	2.6	3.2	5.2	6.9	11.0	4.5	1.7	1.1	2.3	9.4	13.1	8.7	9.8	7.3	5.0	100.0	100.0

注1) calm (静穏) は、風速が0.4m/s以下の風である。

注2) 数値は四捨五入であるため、合計の整合は取れないことがある。

注3) 「仙台市大気環境情報サイト」(令和6年8月閲覧、仙台市ホームページ)より集計した。

表5.1-16 風力階級4以上の月別風向別出現回数

単位：回

年	月	全階級の観測回数計	風力階級4以上の出現回数																
			N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	計
令和3年	4月	720	2	0	0	0	0	0	7	3	0	0	0	25	21	21	19	2	100
	5月	741	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	18	6	3	2	0	35
	6月	720	0	1	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	1	1	0	10
	7月	744	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
	8月	744	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	8
	9月	720	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	0	5
	10月	740	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	2	17	4	1	32
	11月	720	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	1	2	1	0	14
	12月	744	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	34	11	6	3	0	56
令和4年	1月	744	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	25	19	10	4	0	60	
	2月	672	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	31	11	2	2	0	48	
	3月	740	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	27	22	17	5	2	76
	4月	720	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	6	7	3	5	28	
	5月	741	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	8	6	2	0	0	21
	6月	720	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	3	6	3	4	7	2	31
令和4年7月～令和5年6月：工事中断期間																			
令和5年	7月	744	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	4
	8月	744	0	0	0	0	1	6	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	13
	9月	720	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	10月	726	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	4	6	0	0	0	32
	11月	720	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	16	8	7	2	0	0	38
	12月	744	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	8	9	1	2	0	36
令和6年	1月	744	0	0	1	4	0	0	0	0	0	2	26	10	10	9	1	0	63
	2月	696	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	8	14	49	12	0	0	88
	3月	744	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	8	43	25	24	17	2	121
	4月	716	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6	15	18	10	1	0	51
	5月	744	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2	4	3	12	8	2	34
	6月	720	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
	7月	737	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	2	0	0	0	9
計	20,429	2	2	7	7	1	8	23	17	3	1	39	345	200	231	113	22	1,021	

注) 「仙台市大気環境情報サイト」(令和6年8月閲覧、仙台市ホームページ)より集計した。

5.1.2 予測結果と事後調査結果の比較

(1) 工事用車両の走行

1) 二酸化窒素濃度

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.1-17に示すとおりであり、二酸化窒素濃度の事後調査結果は、いずれの地点でも予測結果を0.002～0.003ppm下回っていた。

なお、予測条件としていた交通量及び事後調査における交通量の比較は、「5.2 騒音 5.2.2 予測結果と事後調査結果の比較 (1) 工事用車両の走行 2) 交通量」に示すとおりであり、No.3地点及びNo.5地点では、大型車、小型車ともに事後調査結果は予測結果より少なく、No.4地点では、大型車、小型車ともに事後調査結果は予測結果より多くなっていた。

表5.1-17 予測結果と事後調査結果の比較

単位：ppm

	調査地点	予測結果	事後調査結果
3	市道鶴ヶ谷岩切1号線：上り側	0.009	0.006
4	仙台松島線：下り側	0.013	0.011
5	県道今市福田線：上り側	0.011	0.008

注) 予測結果は年平均値、事後調査結果は期間平均値である。

2) 浮遊粒子状物質濃度

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.1-18に示すとおりである。また、予測条件としていた交通量及び事後調査における交通量の比較は、「1) 二酸化窒素濃度」に示したとおりである。

評価書で予測地点としたNo.3～5地点は道路沿道であり、浮遊粒子状物質濃度測定のための機器が設置できず、事後調査が実施できなかった。そのため、参考までにNo.4地点の予測結果とNo.4地点に比較的近いNo.A地点及び岩切測定局の調査・観測データを比較したところ、No.A地点事後調査結果及び岩切測定局の観測データともにNo.4地点の予測結果を下回っていた。

表5.1-18 予測結果と事後調査結果の比較

単位：mg/m³

	調査地点	予測結果	事後調査結果
3	市道鶴ヶ谷岩切1号線：上り側	0.016	-
4	仙台松島線：下り側	0.017	-
5	県道今市福田線：上り側	0.016	-
A	岩切小学校	—	0.013
—	岩切測定局	—	0.009

注) 予測結果は年平均値、事後調査結果は期間平均値である。

(2)重機の稼働

1)重機の稼働状況

評価書において設定した予測条件（稼働台数が最大となる工事着手後18ヶ月目の台数）と事後調査結果の比較は、表5.1-19に示すとおりである。

予測条件では3台稼働するとしていたラフテレーンクレーンが事後調査では1台、合計12台稼働するとしていたバックホウが事後調査では20台稼働していた。予測条件において稼働するとしていた他の重機は、事後調査では稼働していなかった。

予測条件とした工事着手後18ヶ月目には、仮設沈砂池工、盛土工、水路・管渠工及び道路工が実施されるとしていた。事後調査ではこれとほぼ同様であるものの、盛土工が実施されていなかったこともあり、ダンプトラック（場内）の稼働がなかったと考えられる。

また、予測条件では水路工・管渠工が2つの工区で実施されるとしていたが、事後調査時には全工区の計10ヶ所以上で雨水・汚水排水工、側溝工、調整池工等が実施されていたことから、バックホウの稼働台数が予測条件より多くなったものと考えられる。

なお、ブルドーザや振動ローラ等は、事後調査時期の工種においても使用される重機ではあるが、調査日には稼働していなかった。

表5.1-19 予測条件と事後調査結果の比較

単位：台/日

重機	規格	予測条件 (工事着手後18ヶ月目)	事後調査結果
ラフテレーンクレーン	20t以上	3	1
バックホウ	0.8m ³ 級	6	0
バックホウ	0.45m ³ 級	6	0
バックホウ	不明	—	20
ブルドーザ	21t級	3	0
振動ローラ	10t以上	3	0
ダンプトラック（場内）	10t	8	0
ダンプトラック（場内）	2~4t以上	10	0
ハンドローラ	600kg	7	0

2) 二酸化窒素濃度

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.1-20に示すとおりである。

事後調査結果は予測結果を0.005～0.007ppm下回っていた。

「1) 重機の稼働状況」に示したとおり、事後調査では、予測条件と比較しバックホウは8台増えたものの、予測条件では実施されるとしていた盛土工が事後調査時には実施されておらず、予測条件で18台としていたダンプトラック（場内）の稼働がなかったことも、予測結果を大きく下回った要因の一つと考えられる。

なお、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既に稼働のピーク時期を過ぎていたことが判明しており（p.86参照）、調査は稼働のピーク時期に実施できていない。

ただし、予測結果は、配置される全ての重機が同時に稼働すると想定した安全側の数値であるが、工事に際しては可能な限り平準化を図っていることもあり、実際には全てが同時に稼働することはなく、調査実施日にも同様の状況であった。また、予測においては、計画地近傍の一般環境大気測定局の年平均値0.009ppmをバックグラウンド濃度として加味していることからやや高い値となっていたが、本事業による寄与濃度としては0.00064～0.00469ppmとわずかであると予測しており、事後調査実施日においても、寄与濃度は同様であったと考えられる。

表5.1-20 予測結果と事後調査結果の比較

単位：ppm

調査地点		予測結果	事後調査結果
①	岩切小学校	0.011	0.004
②	仙台東脳神経外科病院	0.012	0.005
③	岩切病院	0.010	0.005
④	事業区域西側民家	0.011	0.004

注) 予測結果は年平均値、事後調査結果は期間平均値である。

3) 浮遊粒子状物質

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.1-21に示すとおりである。

No.②地点及びNo.④地点においては、事後調査結果は予測結果を下回っていたが、No.①地点及びNo.③地点においては、それぞれ0.001mg/m³上回っていた。No.①地点については、調査期間中にNo.①地点近くの岩切小学校の外周付近において、本事業による調整池工事及び雨水汚水排水管の埋設工事が行われていたことから、その影響があった可能性が考えられる。しかしながら、評価書時点の夏季の現地調査結果を見ると、No.①地点において調査期間平均値0.023mg/m³であり、事後調査結果はそれより大幅に低い値となっていた。また、No.③地点については、調査地点至近ではないものの、来院者等用の大きな駐車場における車両の出入りがあることから、その影響があった可能性が考えられる。

なお、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既に稼働のピーク時期を過ぎていたことが判明しており（p.86参照）、調査は稼働のピーク時期に実施できていない。

ただし、予測結果は、配置される全ての重機が同時に稼働すると想定した安全側の数値であるが、工事に際しては可能な限り平準化を図っていることもあり、実際には全てが同時に稼働することはなく、調査実施日にも同様の状況であった。また、予測においては、計画地近傍の一般環境大気測定局の年平均値0.016mg/m³をバックグラウンド濃度として加味し、本事業による寄与濃度は0.00009～0.00062mg/m³とわずかであると予測しており、事後調査実施日においても寄与濃度は同様であったと考えられる。

参考として、事業区域最寄りの一般環境大気測定局である岩切測定局（事業区域北東約270m）における令和6年2～6月の浮遊粒子状物質濃度の測定結果は、表5.1-22に示すとおりである。重機の稼働がピークであったとみられる時期（令和6年3月）、事後調査の実施時期（令和6年5月）及びその前後の時期の測定結果に大きな差はみられなかった。

表5.1-21 予測結果と事後調査結果の比較

単位：mg/m³

調査地点		予測結果	事後調査結果
①	岩切小学校	0.016	0.017
②	仙台東脳神経外科病院	0.016	0.013
③	岩切病院	0.016	0.017
④	事業区域西側民家	0.016	0.015

注) 予測結果は年平均値、事後調査結果は期間平均値である。

表5.1-22 岩切測定局測定結果と事後調査結果の比較

単位：mg/m³

調査地点		測定（調査）年月				
		令和6年2月	令和6年3月	令和6年4月	令和6年5月	令和6年6月
岩切測定局		0.003	0.005	0.008	0.007	0.007
事後調査地点	①岩切小学校	-	-	-	0.017	-
	②仙台東脳神経外科病院	-	-	-	0.013	-
	③岩切病院	-	-	-	0.017	-
	④事業区域西側民家	-	-	-	0.015	-
備考			重機の稼働のピークであったとみられる時期		事後調査実施時期	

注) 岩切測定局測定結果は月平均値、事後調査結果は期間平均値である。

(3) 工事用車両の走行及び重機の稼働による複合影響

1) 二酸化窒素

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.1-23に示すとおりである。

事後調査結果は予測結果を0.009～0.013ppm下回っていた。

なお、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既に稼働のピーク時期を過ぎていたことが判明しており（p.86参照）、調査は稼働のピーク時期に実施できていない。

ただし、予測結果は、配置される全ての重機が同時に稼働すると想定した安全側の数値であるが、工事に際しては可能な限り平準化を図っていることもあり、実際には全てが同時に稼働することはない、調査実施日にも同様の状況であった。

表5.1-23 予測結果と事後調査結果の比較

単位：ppm

調査地点		予測結果	事後調査結果
A	岩切小学校	0.016	0.004
B	仙台東脳神経外科病院	0.018	0.005
C	岩切病院	0.015	0.005
D	事業区域西側民家	0.013	0.004

注) 予測結果は年平均値、事後調査結果は期間平均値である。

2) 浮遊粒子状物質

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.1-24に示すとおりである。

事後調査結果は予測結果と同値もしくは予測結果を0.001～0.004mg/m³下回っていた。

なお、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既に稼働のピーク時期を過ぎていたことが判明しており（p.86参照）、調査は稼働のピーク時期に実施できていない。

ただし、予測結果は、配置される全ての重機が同時に稼働すると想定した安全側の数値であるが、工事に際しては可能な限り平準化を図っていることもあり、実際には全てが同時に稼働することはない、調査実施日にも同様の状況であった。

表5.1-24 予測結果と事後調査結果の比較

単位：mg/m³

調査地点		予測結果	事後調査結果
①	岩切小学校	0.017	0.017
②	仙台東脳神経外科病院	0.017	0.013
③	岩切病院	0.017	0.017
④	事業区域西側民家	0.016	0.015

注) 予測結果は年平均値、事後調査結果は期間平均値である。

(4)切土・盛土・掘削等（粉じん）

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.1-25に示すとおりである。予定工事期間6年間（令和3年4月～令和9年3月）のうち、着工から40ヶ月目（令和6年7月）までの風速5.5m/s以上の風の発生頻度は約5.0%であり、予測結果よりやや高くなっていた。

表5.1-25 予測結果と調査結果の比較

単位：%

	予測結果	事後調査結果 (工事中その1)
風速5.5m/s以上の 風の発生頻度	3.8	5.0

5.1.3 追加の環境保全措置の検討

事後調査の結果、工事用車両の走行、重機の稼働ともに二酸化窒素濃度は予測結果を下回っていた。浮遊粒子状物質は重機の稼働において一部で予測結果を上回る地点があったものの、環境基準は達成していた。事後調査結果が予測結果を上回っていたのは、調査地点直近で工事が行われていたことや大きな駐車場があることにより影響があった可能性が考えられる。

また、粉じんによる影響については、事後調査の結果、風速5.5m/s以上の風の発生頻度は予測結果より高くなっていた。

ただし、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既に稼働のピーク時期を過ぎていたことが判明しており、調査は稼働のピーク時期に実施できていない。予測結果は、配置される全ての重機が同時に稼働すると想定した安全側の数値であるが、工事に際しては可能な限り平準化を図っていることもあり、実際には全てが同時に稼働することはないものの、今後も周辺地域の大気質への影響を軽減させるよう、「4. 環境の保全及び創造のための措置の実施状況」において示した「低排出ガス認定自動車・排出ガス対策型の建設機械の使用に努める」、「吹き流し等により、砂ぼこりが立つ条件（風速5.5m/s以上）が予想される場合は、工事区域へ散水する」等の環境保全措置の実施を継続していくものとする。

5.2 騒音

5.2.1 事後調査の方法等及び結果

(1) 調査項目

工事用車両の走行及び重機の稼働による騒音への影響を把握するため、工事用車両のピーク日走行台数が最大となる時期、重機の稼働が最大となる時期における以下の項目について現地調査を行った。

- ・騒音レベル（道路交通騒音、建設作業騒音）
- ・交通量
- ・重機の稼働状況

(2) 調査期間

調査期間は表5.2-1に示すとおりである。

評価書での予測時には、工事用車両の走行台数と重機の稼働台数のピーク時期は重なる想定していたが、工事の進捗等から、ピーク時期がずれたため、2時期に分けて調査を行った。ただし、重機の稼働については、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既にピーク時期を過ぎており、ピーク時期は、令和6年3月であったことが判明した（p.86参照）。

表5.2-1 調査期間

調査項目		調査期間
工事用車両の走行	道路交通騒音	令和6年3月14日(木) 7:00～19:00
	交通量	令和6年3月13日(水) 19:00～14日(木) 19:00
重機の稼働	建設作業騒音	令和6年5月22日(水) 7:00～19:00
	重機の稼働状況	令和6年5月22日(水)

注) 工事用車両の走行及び重機の稼働による複合影響については、予測結果において重機の稼働による負荷が大きかったことから、重機の稼働による影響の調査期間と同じとした。

(3) 調査地点

調査地点は、表5.2-2及び図5.2-1(1)～(3)に示すとおりである。なお、評価書で予測地点としていたNo.2地点（国道4号沿道）は、実際には国道4号が工事用車両ルートとして使用されなかったため、事後調査は実施しないこととした。

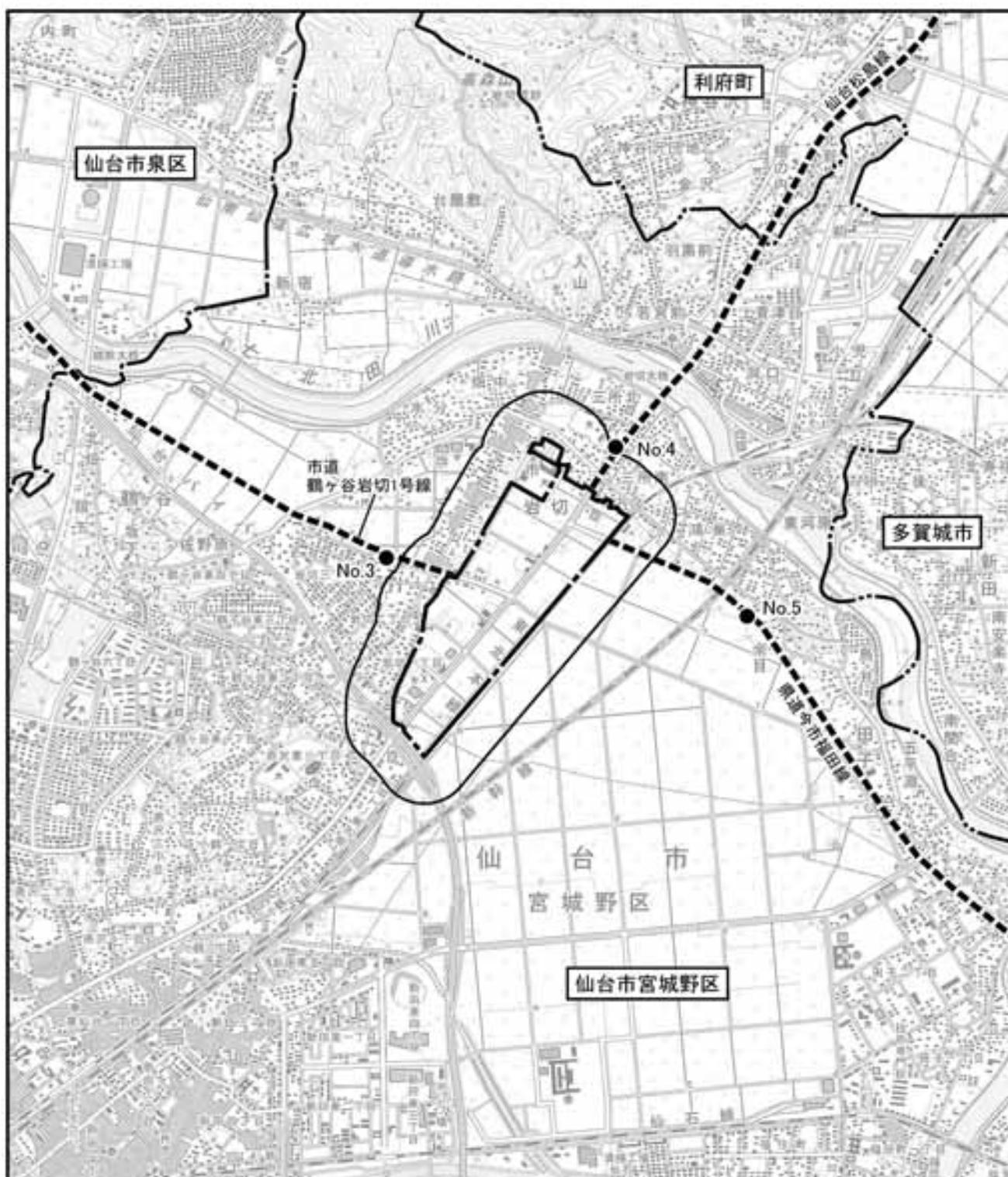
重機の稼働状況は、事業区域及びその周辺とした。

表5.2-2 調査地点

調査項目	調査地点		調査項目
工事用車両の走行	No.3	宮城野区岩切二丁目地内 (市道鶴ヶ谷岩切1号線)	交通量
	No.4	仙台市宮城野区岩切山神北 (仙台松島線)	道路交通騒音、交通量
	No.5	宮城野区字余目南地内 (県道今市福田線)	交通量
重機の稼働	No.①	岩切小学校	建設作業騒音
	No.②	仙台東脳神経外科病院	
	No.③	岩切病院	
	No.④	事業区域西側民家*	
	No.⑤	最大騒音レベル出現地点付近	
工事用車両の走行及び重機の稼働による複合的な影響	No.A	岩切小学校 (No.4及びNo.①の複合影響)	道路交通騒音、建設作業騒音
	No.B	仙台東脳神経外科病院 (No.4及びNo.②の複合影響)	
	No.C	岩切小学校 (No.4及びNo.③の複合影響)	
	No.D	事業区域西側民家* (No.3及びNo.④の複合影響)	

※ 予測地点では調査が実施できず、予測地点の北東約300mの地点へと変更した。

注) 地点No.は、図5.2-1(1)～(3)に対応する。



凡例

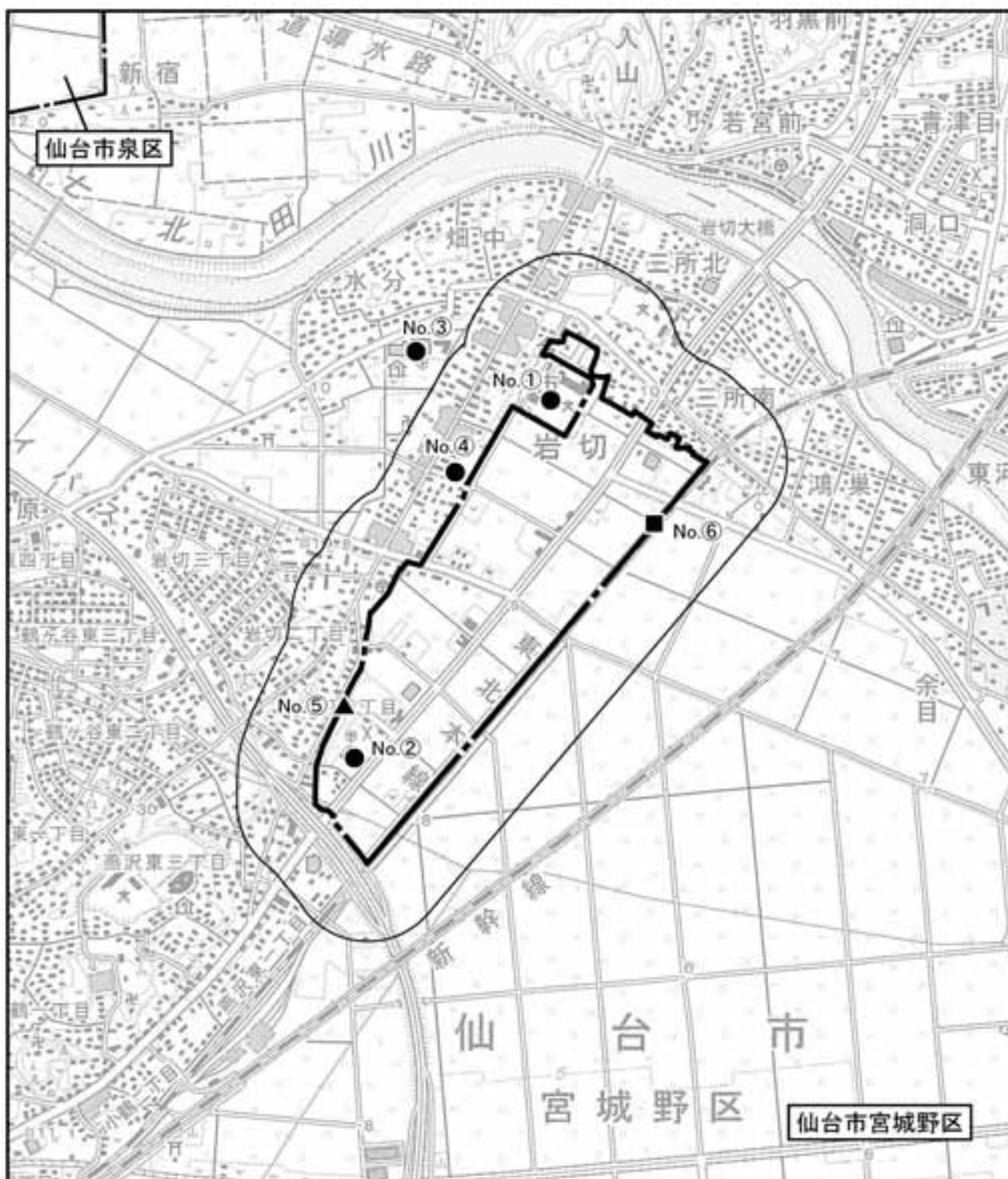
- | | |
|-------------|-----------------------|
| --- 事業区域 | ○ 調査地域(事業区域から200mの範囲) |
| - · - · 市町界 | ● 調査地点(道路沿道 : No.3~5) |
| - · - · 区界 | --- 主要な走行ルート |

注) 図中の番号は、表5.2-2及び表5.3-2に対応する。

図5.2-1(1) 騒音・振動調査地点(工事用車両の走行)

S=1/25,000
0 200 400 600 800 1,000m





凡例

- 事業区域
- 区界

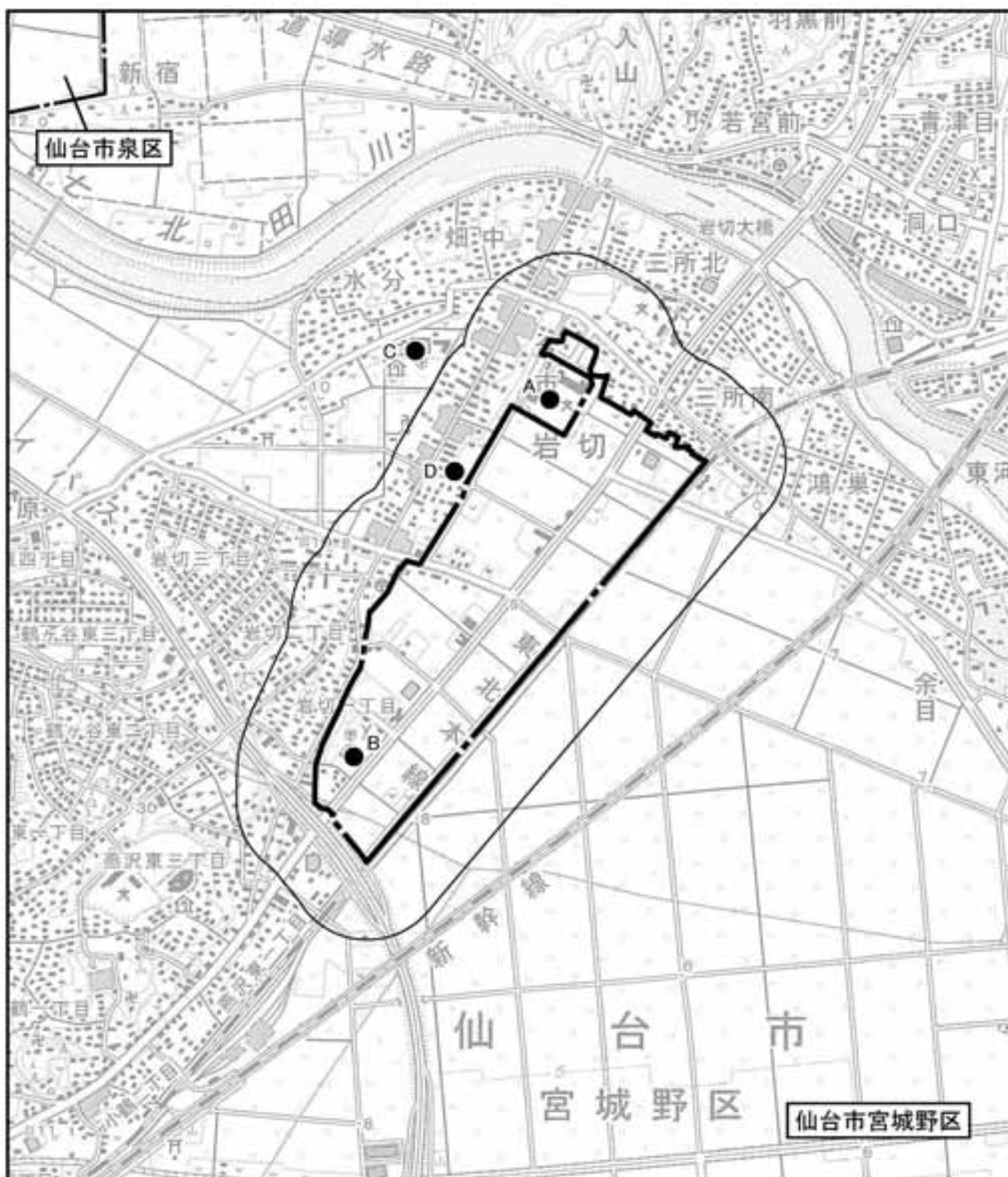
- 調査範囲(事業区域から200mの範囲)
- 調査地点(騒音・振動) (保全対象: No.①~④)
- ▲ 調査地点(騒音) (最大騒音レベル出現地点付近: No.⑤)
- 調査地点(振動) (最大振動レベル出現地点付近: No.⑥)

注) 図中の番号は、表5.2-2及び表5.3-2に対応する。

図5.2-1(2) 騒音・振動調査地点(重機の稼働)

S=1/15,000
0 100 200 300 400 500m





凡例

- 事業区域
- 区界
- 調査範囲(事業区域から200mの範囲)
- 調査地点(工事による影響の合成)(保全対象)(No.A~D)

注) 図中の番号は、表5.2-2及び表5.3-2に対応する。

図5.2-1(3)
騒音・振動調査地点(工事による影響の合成)

S=1/15,000
0 100 200 300 400 500m



(4) 調査方法

1) 騒音レベル

調査方法は表5.2-3に、使用した測定機器は表5.2-4に示すとおりである。

騒音レベルの測定は、JIS Z 8731「環境騒音の表示・測定方法」に定める方法に準拠した。

表5.2-3 騒音の調査方法

調査項目	測定方法	マイクロホン高
騒音レベル	調査地点に騒音計を設置し、現況騒音を測定した。測定は、周波数補正がA特性、動特性がFASTで行った。	地上高1.2m

表5.2-4 使用測定機器

測定項目	測定機器	メーカー・型式	測定範囲
騒音レベル	精密騒音計	リオン(株) NL-62	A特性：28～130dB

2) 交通量

ハンドカウンターを用いて、時間帯別、車種別、方向別に自動車台数を測定した。

車種分類は、表5.2-5に示す3車種分類とし、目視によりプレートを確認し、区分した。

表5.2-5 車種別交通量の車種分類

車種分類	細分類	対応するプレート番号
大型車	普通貨物自動車 特殊用途自動車 乗合自動車	大型番号標（縦220mm×横440mm） 中型番号標（縦165mm×横330mm） 1,10～19及び100～199 8,80～89及び800～899 2,20～29及び200～299
小型車	軽乗用車 乗用車 軽貨物車 小形貨物車 貨客車 特殊車*	中型番号標（縦165mm×横330mm） 3,30～39及び300～399 5,50～59及び500～599 7,70～79及び700～799 4,40～49及び400～499 8,80～89及び800～899
二輪車	二輪自動車 原動機付自転車	小型番号標（縦125mm×横230mm）

注) 特殊自動車の中で、改造前の自動車（乗用車、小型貨物車）と同程度の大きさのものは小型車にカウントした。例：パトカー、小型キャンピングカー等

(5) 調査結果

1) 工事用車両の走行

ア. 騒音レベル（道路交通騒音）

調査結果は表5.2-6に、詳細は資料編（p.資-18～20）に示すとおりである。

等価騒音レベルは65～70dBであり、No.3地点で環境基準を達成していなかったが、No.4地点及びNo.5地点では達成していた。なお、No.3地点では、評価書時点の現地調査においても、環境基準を達成していなかった。

主な騒音源は、調査地点周辺における道路交通である。

表5.2-6 騒音レベル調査結果（道路交通騒音）（ L_{Aeq} ）

単位：dB

調査地点	時間区分 ^{※1}	等価騒音レベル	環境基準 ^{※2}	要請限度
No.3	昼間	65	60以下	70
No.4		70	70以下	75
No.5		69	70以下	75

※1 昼間：6時～22時

※2 No.3地点は“道路に面する地域の騒音に係る環境基準(A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域)”，No.4,5地点は“幹線交通を担う道路に近接する空間”における環境基準を示す。

注) 網かけは、環境基準を達成していないことを示す。

イ. 交通量

調査結果は、表5.2-7に示すとおりであり、自動車類の断面交通量は5,908～45,436台、大型車混入率は4.4～18.5%であった。

表5.2-7 交通量調査結果総括表

調査地点		時間区分	大型車 (台)	小型車 (台)	計 (台)	大型車混入率 (%)
No.3	市道鶴ヶ谷岩切1号線	昼間	259	5,649	5,908	4.4
No.4	仙台松島線		5,635	39,801	45,436	12.4
No.5	県道今市福田線		2,086	9,176	11,262	18.5

※ 昼間：6～22時

2) 重機の稼働

ア. 騒音レベル（建設作業騒音）

調査結果は表5.2-8に、詳細は資料編（p.資-21～25）に示すとおりである。騒音レベル（ L_{A5} ）の最大値は53～77dBであった。最大騒音レベルが出現されると予測したNo.⑤地点においては、騒音規制法の特定建設作業騒音に係る規制基準及び仙台市公害防止条例の指定建設作業騒音に係る基準ともに下回っていた。

主な騒音源は、調査地点周辺における本事業建設工事及び道路交通である。

表5.2-8 騒音レベル調査結果（建設作業騒音）（ L_{A5} 、 L_{Aeq} ）

調査地点	測定高 (m)	建設作業 騒音レベル L_{A5} (dB)		騒音規制法 特定建設作業騒音 に係る基準 (dB)	仙台市公害防止条例 指定建設作業騒音 に係る基準 (dB)	建設作業 等価騒音 レベル L_{Aeq} (dB)
		平均値	最大値			
① 岩切小学校	1.2	59	63	—	—	56
② 仙台東脳神経外科病院		76	77	—	—	72
③ 岩切病院		51	53	—	—	48
④ 事業区域西側民家		50	55	—	—	47
⑤ 最大騒音レベル 出現地点付近		65	68	85以下	80以下	59

注) 騒音規制法の特定建設作業騒音に係る規制基準及び仙台市公害防止条例の特定建設作業騒音に係る基準は工事区域の敷地境界上での基準であるため、No.①～④地点には適用しない。

イ. 重機の稼働状況

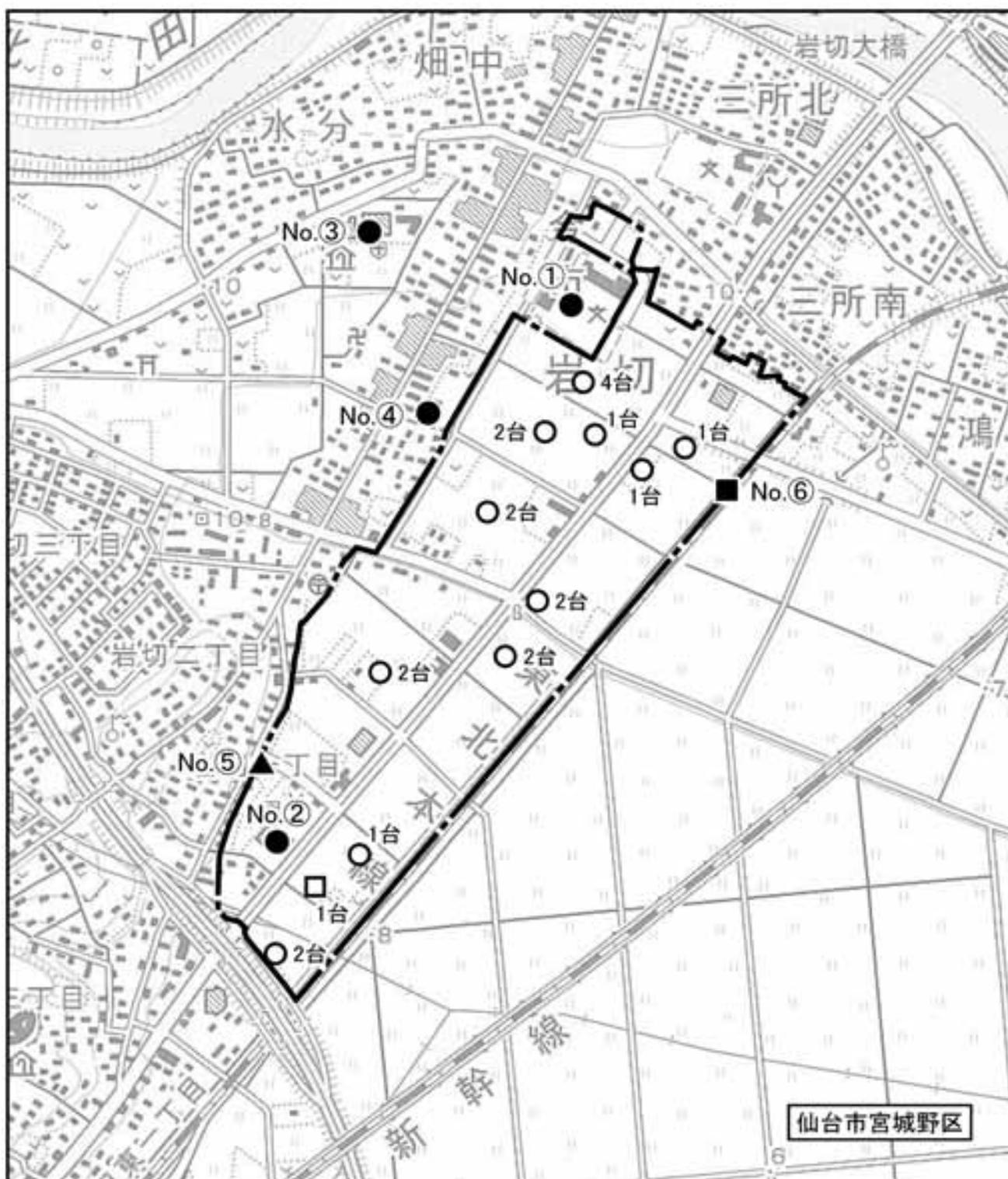
事後調査時には、雨水・汚水排水工、側溝工、調整池工等が実施されており、稼働していた主な重機はバックホウであった。全工区において重機が稼働しており、その中でも、事業区域内北側付近での稼働がやや多い傾向がみられた。なお、調査日には既に稼働のピーク時期は過ぎていたが（p.86参照）、事業区域内全体に渡って稼働していた。

重機の稼働状況は、表5.2-9及び図5.2-2に示すとおりである。

表5.2-9 重機の稼働状況

単位：台

重機の種類	台数
バックホウ	20
ラフテレーンクレーン	1
合計	21



凡 例

--- 事業区域

● 調査地点(騒音・振動)

▲ 調査地点(騒音)

■ 調査地点(振動)

重機の稼働位置

○ バックホウ

□ ラフテレーンクレーン

図5.2-2 重機の稼働状況 (令和6年5月22日)

S=1/10,000
0 100 200 300 400 500m



3) 工車用車両の走行及び重機の稼働による複合影響

評価書の予測結果において、重機の稼働による負荷が大きかったことから、複合影響としては、重機の稼働台数がピークとなる時期を調査対象とした。

なお、評価書においては、工車用車両の走行台数及び重機の稼働台数のピーク時期が重なる想定していたが、実際には、双方のピーク時期はずれており、予測時点とは異なる状況となった（表 1-14(2)参照）。

また、重機の稼働については、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既にピーク時期を過ぎていたことが判明した（p.86 参照）。

ア. 騒音レベル（道路交通騒音及び建設作業騒音）

調査結果は表5.2-10に示すとおりであり、騒音レベル（ L_{Aeq} ）は47～72dBであった。

主な騒音源は、調査地点周辺における本事業建設工事及び道路交通である。

表5.2-10 騒音レベル調査結果（道路交通騒音及び建設作業騒音）（ L_{Aeq} ）

調査地点		測定高 (m)	調査結果 (L_{Aeq}) (dB)	環境基準 (dB)	騒音規制法 特定建設作業騒音 に係る基準 (dB)	仙台市公害防止条例 指定建設作業騒音 に係る基準 (dB)
A	岩切小学校	1.2	56	70	—	—
B	仙台東脳神経外科病院		72	70	—	—
C	岩切病院		48	70	—	—
D	事業区域西側民家		47	60	—	—

注1) A～C地点は“幹線交通を担う道路に近接する空間”、D地点は“道路に面する地域（A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域）”における環境基準を示す。

注2) 騒音規制法の特定建設作業騒音に係る規制基準及び仙台市公害防止条例指定建設作業騒音に係る基準は工事区域の敷地境界上での基準であるため、No.A～D地点には適用しない。

5.2.2 予測結果と事後調査結果の比較

(1) 工事用車両の走行

1) 騒音レベル（道路交通騒音）

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.2-11に示すとおりである。また、予測条件としていた交通量及び事後調査における交通量の比較は、「2)交通量」に示すとおりである。

No.3地点及びNo.5地点では、大型車、小型車の台数とも事後調査結果は予測条件より少なく、騒音レベルも予測結果を1dB下回っていたが、No.4地点では、大型車、小型車の台数とも事後調査結果は予測条件より多く、騒音レベルも予測結果を4dB上回っていた。

表5.2-11 予測結果と事後調査結果の比較

単位：dB

調査地点	時間区分 ^{※1}	予測結果 ^{※2}	事後調査結果
No.3	昼間	66.0 (66)	65
No.4		66.1 (66)	70
No.5		70.1 (70)	69

※1 昼間：6時～22時

※2 ()内は、整数に四捨五入した値を示す。

2) 交通量

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.2-12に示すとおりである。

地点別にみると、工事用車両の主要なルート上にあたるNo.4地点においては、予測条件に対し大型車で104.8%、小型車で109.7%と多くなっていた。No.3地点及びNo.5地点は、大型車、小型車ともに、予測条件に比べ事後調査結果が少なかった。

表5.2-12 予測条件及び事後調査時の交通量

単位：台/日

調査地点	車種分類	予測条件	事後調査結果
No.3	大型車	431	259
	小型車	5,796	5,649
	合計	6,227	5,908
No.4	大型車	5,375	5,635
	小型車	36,289	39,801
	合計	41,664	45,436
No.5	大型車	2,724	2,086
	小型車	14,798	9,176
	合計	17,522	11,262

(2)重機の稼働

1)重機の稼働状況

評価書において設定した予測条件（稼働台数が最大となる工事着手後18ヶ月目の台数）と事後調査結果の比較は、表5.2-13に示すとおりである。

予測条件では3台稼働するとしていたラフテレーンクレーンが事後調査では1台、合計12台稼働するとしていたバックホウが事後調査では20台稼働していた。予測条件において稼働するとしていた他の重機は、事後調査では稼働していなかった。

予測条件とした工事着手後18ヶ月目には、仮設沈砂池工、盛土工、水路・管渠工及び道路工が実施されるとしていた。事後調査ではこれとほぼ同様であるものの、盛土工が実施されていなかったこともあり、ダンプトラック（場内）の稼働がなかったと考えられる。

また、予測条件では水路工・管渠工が2つの工区で実施されるとしていたが、事後調査時には全工区の計10ヶ所以上で雨水・汚水排水工、側溝工、調整池工等が実施されていたことから、バックホウの稼働台数が予測条件より多くなったものと考えられる。

なお、ブルドーザや振動ローラ等は、事後調査時期の工種においても使用される重機ではあるが、調査日には稼働していなかった。

表5.2-13 予測条件と事後調査結果の比較

単位：台/日

重機	規格	予測条件 (工事着手後18ヶ月目)	事後調査結果
ラフテレーンクレーン	20t以上	3	1
バックホウ	0.8m ³ 級	6	0
バックホウ	0.45m ³ 級	6	0
バックホウ	不明	—	20
ブルドーザ	21t級	3	0
振動ローラ	10t以上	3	0
ダンプトラック（場内）	10t	8	0
ダンプトラック（場内）	2~4t以上	10	0
ハンドローラ	600kg	7	0

2) 騒音レベル（建設作業騒音）

予測結果と事後調査結果の比較は表5.2-13に示すとおりである。

No.①,③～⑤地点においては、事後調査結果は予測結果を6～15dB下回っていた。「1) 重機の稼働状況」に示したとおり、事後調査では、予測条件と比較しバックホウは8台増えたものの、予測条件では実施されるとしていた盛土工が事後調査時には実施されておらず、予測条件で18台としていたダンプトラック（場内）の稼働がなかったことも、予測結果を下回った要因の一つと考えられる。

No.②地点においては12dB上回っていたが、時間ごとの変動を見ると、本事業の工事が行われていない7時台及び18時台でもそれぞれ77dB及び75dBであったことから、仙台松島線の道路交通騒音が支配的であったと考えられる。なお、No.②地点は本事業の工事用車両の走行ルート沿道にはあたらないことから、仙台松島線における本事業以外の車両の走行による影響が大きいものと考えられる。

なお、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既に稼働のピーク時期を過ぎていたことが判明しており（p.86参照）、調査は稼働のピーク時期に実施できていない。

ただし、予測結果は、配置される全ての重機が同時に稼働すると想定した安全側の数値であるが、工事に際しては可能な限り平準化を図っていることもあり、実際には全てが同時に稼働することはなく、調査実施日にも同様の状況であった。また、予測においては、重機は数ヶ所ごとに密に配置される条件としていたが、事後調査実施日を含め、実際の工事中には、重機同士の間隔をあけて事業区域内全体に配置されており、予測条件に比べ、騒音は下がる配置となっている（図5.2-2参照）。

表5.2-13 予測結果と事後調査結果の比較（ L_{A5} ）

調査地点		測定高 (m)	予測結果※ (dB)	事後調査結果 (dB)
①	岩切小学校	1.2	61.5 (62)	59
②	仙台東脳神経外科病院		63.8 (64)	76
③	岩切病院		56.7 (57)	51
④	事業区域西側民家		62.2 (62)	50
⑤	最大騒音レベル出現地点付近		68.3 (68)	65

注) 予測結果及び事後調査結果ともに最大値を示す。

※ ()内は、整数に四捨五入した値を示す。

(3) 工事用車両の走行及び重機の稼働による複合影響

予測結果と事後調査結果の比較は、表 5.2-14 に示すとおりである。

No.A,C,D地点においては、事後調査結果は予測結果を2～12dB下回っていた。No.B地点においては、12dB上回っていたが、仙台松島線に近接しており、その道路交通騒音が支配的であること、本事業の工事用車両の走行ルート沿道にはあたらないことから、仙台松島線における本事業以外の車両の走行による影響が大きいものと考えられる。

なお、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既に重機の稼働のピーク時期を過ぎていたことが判明しており（p.86参照）、調査は稼働のピーク時期に実施できていない。

ただし、予測結果は、配置される全ての重機が同時に稼働すると想定した安全側の数値であるが、工事に際しては可能な限り平準化を図っていることもあり、実際には全てが同時に稼働することはない。調査実施日にも同様の状況であった。また、予測においては、重機は数ヶ所ごとに密に配置される条件としていたが、事後調査実施日を含め、実際の工事中には、重機同士の間隔をあけて事業区域内全体に配置されており、予測条件に比べ、騒音は下がる配置となっている（図5.2-2参照）。

表5.2-14 予測結果と事後調査結果の比較（ L_{Aeq} ）

調査地点		予測結果※ (dB)	事後調査結果 (dB)
A	岩切小学校	57.9 (58)	56
B	仙台東脳神経外科病院	60.2 (60)	72
C	岩切病院	53.1 (53)	48
D	事業区域西側民家	58.6 (59)	47

注) 予測結果及び事後調査結果ともに最大値を示す。

※ ()内は、整数に四捨五入した値を示す。

5.2.3 追加の環境保全措置の検討

事後調査の結果、工事用車両の走行による道路交通騒音は1地点において予測結果を上回っていたものの、環境基準は達成していた。事後調査結果が予測結果を上回ったのは、大型車、小型車の交通量自体が予測条件より多かったためと考えられる。

また、重機の稼働による建設作業騒音は1地点において予測結果を上回っていたが、仙台松島線における本事業以外の車両の走行による影響が大きいものと考えられる。現時点では、本事業による騒音について、当該地点からの問い合わせ等もない。

ただし、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既に稼働のピーク時期を過ぎていたことが判明しており、調査は稼働のピーク時期に実施できていない。予測結果は、配置される全ての重機が同時に稼働すると想定した安全側の数値であるが、工事に際しては可能な限り平準化を図っていることもあり、実際には全てが同時に稼働することはない。実際の工事中には、重機同士の間隔もあけて事業区域内全体に配置されているものの、今後も周辺地域への騒音の影響を軽減させるよう、「4. 環境の保全及び創造のための措置の実施状況」において示した「工事用車両及び重機の点検・整備を十分に行う」、「工事を平準化し、計画的かつ効率的な運行を行う等、環境の保全に努める」等の環境保全措置の実施を継続していくものとする。

5.3 振動

5.3.1 事後調査の方法等及び結果

(1) 調査項目

工事用車両の走行及び重機の稼働による振動への影響を把握するため、工事用車両のピーク日走行台数が最大となる時期、重機の稼働が最大になる時期における以下の項目について現地調査を行った。

- ・振動レベル（道路交通振動、建設作業振動）
- ・交通量
- ・重機の稼働状況

(2) 調査期間

調査期間は表5.3-1に示すとおりである。

評価書での予測時には、工事用車両の走行台数と重機の稼働台数のピーク時期は重なる想定していたが、工事の進捗等から、ピーク時期がずれたため、2時期に分けて調査を行った。ただし、重機の稼働については、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既にピーク時期を過ぎており、ピーク時期は、令和6年3月であったことが判明した（p.86参照）。

表5.3-1 調査期間

調査項目		調査期間
工事用車両の走行	道路交通振動	令和6年3月14日(木) 7:00～19:00
	交通量	令和6年3月13日(水) 19:00～14日(木) 19:00
重機の稼働	建設作業振動	令和6年5月22日(水) 7:00～19:00
	重機の稼働状況	令和6年5月22日(水)

注) 工事用車両の走行及び重機の稼働による複合影響については、予測結果において重機の稼働による負荷が大きかったことから、重機の稼働による影響の調査期間と同じとした。

(3) 調査地点

調査地点は、表5.3-2及び図5.2-1(1)～(3)に示すとおりである。なお、評価書で予測地点としていたNo.2地点（国道4号沿道）は、実際には国道4号が工事用車両ルートとして使用されなかったため、事後調査は実施しないこととした。

重機の稼働状況は、事業区域及びその周辺とした。

表5.3-2 調査地点

調査項目	調査地点		調査項目
工事用車両の走行	No.3	宮城野区岩切二丁目地内 (市道鶴ヶ谷岩切1号線)	交通量
	No.4	仙台市宮城野区岩切山神北 (仙台松島線)	道路交通振動、交通量
	No.5	宮城野区字余目南地内 (県道今市福田線)	交通量
重機の稼働	No.①	岩切小学校	建設作業振動
	No.②	仙台東脳神経外科病院	
	No.③	岩切病院	
	No.④	事業区域西側民家※	
	No.⑥	最大振動レベル出現地点付近	
工事用車両の走行及び重機の稼働による複合的な影響	No.A	岩切小学校 (No.4及びNo.①の複合影響)	道路交通振動、建設作業振動
	No.B	仙台東脳神経外科病院 (No.4及びNo.②の複合影響)	
	No.C	岩切小学校 (No.4及びNo.③の複合影響)	
	No.D	事業区域西側民家※ (No.3及びNo.④の複合影響)	

※ 予測地点では調査が実施できず、予測地点の北東約300mの地点へと変更した。
注) 地点No.は、図5.2-1(1)～(3)に対応する。

(4) 調査方法

1) 振動レベル

調査方法は表5.3-3に、使用した測定機器は表5.3-4に示すとおりである。

振動レベルの測定は、JIS Z 8735「振動レベル測定方法」に定める方法に準拠した。

表5.3-3 振動の調査方法

調査項目	測定方法
振動レベル	調査地点に振動レベル計を設置し、現況振動を測定した。測定は、測定高さが地盤高、測定方向が鉛直方向、振動感覚補正が鉛直振動特性で行った。

表5.3-4 使用測定機器

測定項目	測定機器	メーカー・型式	測定範囲
振動レベル	振動レベル計	リオン(株) VM-55	25～120dB

2) 交通量

調査方法は、「5.2 騒音」に示したとおりである (p.136参照)。

(5) 調査結果

1) 工事用車両の走行

ア. 振動レベル（道路交通振動）

調査結果は表5.3-5に、詳細は資料編（p.資-26～28）に示すとおりである。

振動レベルは、昼間は40～51dB、夜間は36～49dBであり、全地点の昼間、夜間とも振動規制法に定める要請限度を下回っていた。

主な振動源は、調査地点周辺における道路交通である。

表5.3-5 振動レベル調査結果（道路交通振動）（ L_{10} ）

単位：dB

調査地点	時間区分 ^{※1}	振動レベル ^{※2}	要請限度 ^{※3}
No.3	昼間	43	60
	夜間	43	55
No.4	昼間	51	65
	夜間	49	60
No.5	昼間	40	60
	夜間	36	55

※1 昼間：8～19時、夜間：7～8時

※2 1時間値の最大値を示す。

※3 No.3地点及びNo.5地点は第一種区域、No.4地点は第二種区域の要請限度を示す。

イ. 交通量

調査結果は、「5.2 騒音」に示したとおりである（p.137参照）。

2) 重機の稼働

ア. 振動レベル（建設作業振動）

調査結果は表5.3-6に、詳細は資料編（p.資-29～33）に示すとおりであり、振動レベルの1時間値の最大値は、No.①～④地点においては、昼間は32～46dB、夜間は27～42dBであった。最大振動レベルが出現されると予測したNo.⑥地点において、1時間値の平均値は47dB、1時間値の最大値は55dBであり、振動規制法の特定建設作業振動に係る規制基準及び仙台市公害防止条例の指定建設作業振動に係る基準ともに下回っていた。

主な振動源は、調査地点周辺における本事業建設工事及び道路交通である。

表5.3-6 振動レベル調査結果（建設作業振動）（ L_{10} ）

単位：dB

地点	時間区分※	調査結果		特定建設作業振動に係る基準 (振動規制法)	指定建設作業振動に係る基準 (仙台市公害防止条例)
		1時間値の平均値	1時間値の最大値		
① 岩切小学校	夜間	—	27	—	—
	昼間	—	36	—	—
② 仙台東脳神経外科病院	夜間	—	42	—	—
	昼間	—	46	—	—
③ 岩切病院	夜間	—	28	—	—
	昼間	—	32	—	—
④ 事業区域西側民家	夜間	—	33	—	—
	昼間	—	41	—	—
⑥ 最大振動レベル出現地点付近	—	47	55	75以下	75以下

注) 振動規制法の特定建設作業振動に係る規制基準及び仙台市公害防止条例の指定建設作業振動に係る基準は工事区域の敷地境界上での基準であるため、No.①～④地点には適用しない。

※ 夜間：7～8時、昼間：8～19時

イ. 重機の稼働状況

重機の稼働状況は、「5.2 騒音」に示したとおりである（p.138参照）。

5.3.2 予測結果と事後調査結果の比較

(1) 工事用車両の走行

1) 振動レベル（道路交通振動）

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.3-7に示すとおりである。

No.4地点の昼間及び夜間、No.5地点の夜間は、事後調査結果が予測結果を下回るか同値であったが、No.3地点の昼間及び夜間、No.5地点の昼間では、事後調査結果が予測結果を2～7dB上回った。

表5.3-7 予測結果と事後調査結果の比較

単位：dB

調査地点	時間区分※	予測結果	事後調査結果
No.3	昼間	39.1 (39)	43
	夜間	36.1 (36)	43
No.4	昼間	52.3 (51)	51
	夜間	50.0 (50)	49
No.5	昼間	38.1 (38)	40
	夜間	39.0 (39)	36

※ 昼間：8～19時、夜間：7～8時

注1) 予測結果、事後調査結果ともに1時間値の最大値を示す。

注2) ()内は、整数に四捨五入した値を示す。

2) 交通量

予測結果と事後調査結果の比較は、「5.2 騒音」に示したとおりである（p.141参照）。

(2) 重機の稼働

1) 重機の稼働状況

重機の稼働状況は、「5.2 騒音」に示したとおりである（p.142参照）。

2) 振動レベル（建設作業振動）

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.3-9に示すとおりである。

事後調査結果は、全ての地点で予測結果を上回った。

ただし、No.②地点ではほぼ同値であり、本事業の工事に係る重機の稼働の影響はほとんど受けていないものと考えられる。また、時間ごとの変動を見ると、No.③地点においてはほぼ変動がなく低い数値で推移していることから、本事業の建設工事に係る重機の稼働の影響は受けていないものと考えられる。No.①,④,⑥地点においては影響を受けていたものと考えられるが（資料編p.29,32～33参照）、最大振動レベルが出現されると予測したNo.⑥地点において、1時間値の平均値は47dB、1時間値の最大値は55dBであり、振動規制法の特定建設作業振動に係る規制基準及び仙台市公害防止条例の指定建設作業振動に係る基準ともに下回っていた。

なお、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既に稼働のピーク時期を過ぎていたことが判明しており（p.86参照）、調査は稼働のピーク時期に実施できていない。

表5.3-9 予測結果と事後調査結果の比較 (L₁₀)

単位：dB

調査地点		予測結果※	事後調査結果
①	岩切小学校	32.4 (32)	36
②	仙台東脳神経外科病院	45.4 (45)	46
③	岩切病院	—	32
④	事業区域西側民家	25.4 (25)	41
⑥	最大振動レベル出現地点付近	46.9 (47)	55

注1) 予測結果及び事後調査結果ともに1時間値の最大値を示す。

注2) 「—」は、振動レベルとしては無効な低値であったことを示す。

※ ()内は、整数に四捨五入した値を示す。

(3) 工事用車両の走行及び重機の稼働による複合影響

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.3-10に示すとおりであり、ほぼ同値か下回っていた。

なお、調査実施後に工事台帳等で改めて工事進捗状況等を確認したところ、調査期間には既に重機の稼働のピーク時期を過ぎていたことが判明しており (p.86参照)、調査は稼働のピーク時期に実施できていない。

表5.3-10 予測結果と事後調査結果の比較 (L₁₀)

調査地点		予測結果※ (dB)	事後調査結果 (dB)
A	岩切小学校	52.4 (52)	36
B	仙台東脳神経外科病院	53.1 (53)	46
C	岩切病院	52.3 (52)	32
D	事業区域西側民家	39.5 (40)	41

注) 予測結果及び事後調査結果ともに1時間値の最大値を示す。

※ ()内は、整数に四捨五入した値を示す。

5.3.3 追加の環境保全措置の検討

事後調査の結果、工事用車両の走行による道路交通振動は一部の地点及び時間帯で予測結果を上回っていたものの、いずれも振動規制法に定める要請限度を下回っていた。

事後調査結果が予測結果を上回ったのは、大型車、小型車の交通量自体が予測条件より多かったためと考えられる。

また、重機の稼働による建設作業騒振動は、全ての地点において予測結果を上回っていたが、最大振動レベル出現地点においても、振動規制法の特定建設作業振動に係る規制基準及び仙台市公害防止条例の指定建設作業振動に係る基準ともに下回っていた。

なお、本事業の工事中に、調査地点No.②,Bである仙台東脳神経外科病院より振動についての問い合わせが1件あったため、工事实施日及び工事休止日の2回、振動調査を実施した。その結果、両日の振動レベルにほとんど差はなく、本事業による振動の影響はほとんどないと考えられた。結果については、仙台東脳神経外科病院に説明をし、理解を得た。

今後も周辺地域への振動の影響を軽減させるよう、「4. 環境の保全及び創造のための措置の実施状況」において示した「工事用車両及び重機の点検・整備を十分に行う」、「工事を平準化し、計画的かつ効率的な運行を行う等、環境の保全に努める」等の環境保全措置の実施を継続していくものとする。

5.4 地盤沈下（地下水の変化）

5.4.1 事後調査の方法等及び結果

(1) 調査項目

盛土・掘削工事等による地盤沈下への影響を把握するため、地下水の変化について調査を行った。

(2) 調査期間

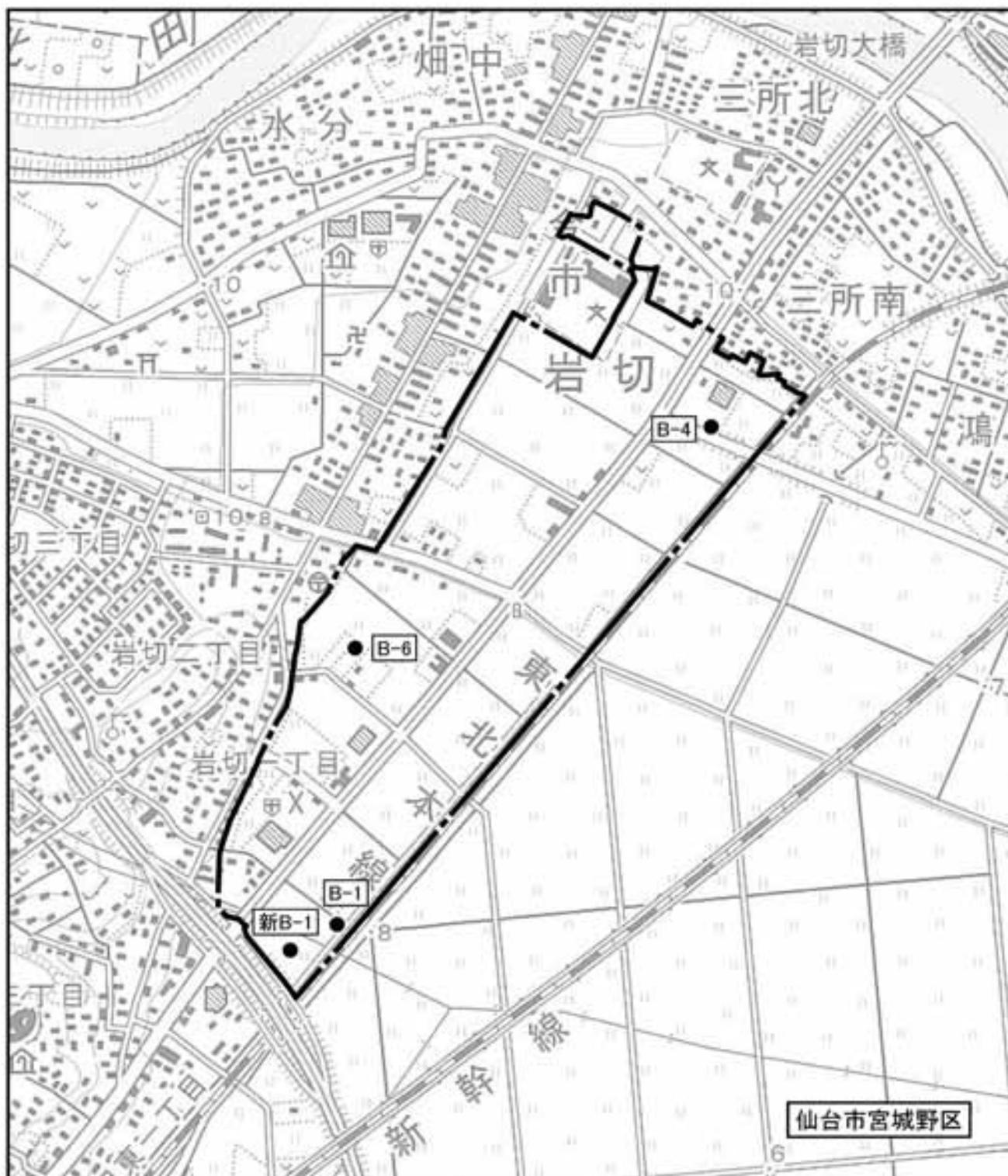
工事期間全体を対象とする調査時期のうち、令和3年4月から令和6年7月までの期間について調査を行った。なお、上記期間のうち、令和4年7月から令和4年8月までは工事を中断しているが、地下水の変化については連続観測を行っている。

(3) 調査地点

調査地点は、図5.4-1に示す事業区域内3地点とした。なお、B-1地点については、道路工事の施工箇所にかかることとなったため、令和5年12月に移設した。新旧両地点で並行して観測し、水位及び水位変動に大きな違いがないことを確認したのち、令和6年1月には新B-1地点のみでの観測に移行した。

(4) 調査方法

調査方法は、地下水位計による連続観測とし、概ねひと月に1度、データ回収を行った。



凡例

- 事業区域
- 調査地点

注) B-1地点は、令和5年12月に新B-1地点に移設した。

図5.4-1 地盤沈下(地下水)調査地点

S=1/10,000
0 100 200 300 400 500m



(5) 調査結果

各月1日における地下水の調査結果は表5.4-1(1)～(3)に、連続観測結果は図5.4-2に示すとおりである。図5.4-2には、事業区域の南西約4kmに位置する仙台管区気象台の日降水量を併せて表示した。

工事中断期間を除く期間の地下水位は、B-1地点はGL-2.24m～-1.27m、B-4地点はGL-1.68m～-0.38m、B-6地点はGL-1.78m～-0.43mで推移しており、ほぼ降水量を反映した変動を示していた。また、3地点ともに、降水量が減少する秋から冬にかけては地下水位が低下し、3月頃から徐々に上昇していく傾向がみられた。現況からの変化は、B-1地点は-0.44m～+0.53m、B-4地点はGL-0.77m～+0.53m、B-6地点はGL-0.26m～+1.09mで推移していた。

地下水位が最も低下したのは、B-1地点で令和5年9月18日、B-4地点で令和6年1月20日、B-6地点で令和3年4月16日であった。

低下の要因としては、B-1地点及びB-4地点においては、調整池の建設工事に伴い、滲出した地下水の汲み上げがあったためと考えられる。B-6地点においては、仙台管区気象台においては、令和3年4月1日から4月16日までの16日間のうち、降水量なし、もしくは0.1mm未満の日が14日間あり、16日間の合計降水量を見ても4mm未満と少雨であった。事業区域においても同様に少雨であったことによると考えられる。

表5.4-1(1) 地下水位 (B-1地点)

単位 : m

調査日	水位 -GL	現況からの水位変化	備考	
令和3年	4月1日	1.80	—	
	5月1日	1.60	+0.20	
	6月1日	1.74	+0.06	
	7月1日	1.74	+0.06	
	8月1日	1.62	+0.18	
	9月1日	1.55	+0.25	
	10月1日	1.64	+0.16	
	11月1日	1.53	+0.27	
	12月1日	1.55	+0.25	
令和4年	1月1日	1.60	+0.20	
	2月1日	1.78	+0.02	
	3月1日	1.78	+0.02	
	4月1日	1.60	+0.20	
	5月1日	1.48	+0.32	
	6月1日	1.47	+0.33	
	6月7日	1.27	+0.53	工事中の最高水位
	7月1日	1.56	+0.24	工事中
	8月1日	1.47	+0.33	
	9月1日	1.53	+0.27	
	10月1日	1.62	+0.18	
	11月1日	1.87	-0.07	
	12月1日	1.91	-0.11	
令和5年	1月1日	1.70	+0.10	
	2月1日	1.95	-0.15	
	3月1日	1.72	+0.08	
	4月1日	1.62	+0.18	
	5月1日	1.68	+0.12	
	6月1日	1.58	+0.22	
	7月1日	1.43	+0.37	
	8月1日	1.45	+0.35	
	9月1日	1.69	+0.11	
	9月18日	2.24	-0.44	工事中の最低水位
	10月1日	1.59	+0.21	
	11月1日	1.83	-0.03	
	12月1日	1.61	+0.19	
令和6年	1月1日	1.50	+0.30	令和6年12月19日に地点移設したため、これ以降、新地点での測定。
	2月1日	1.46	+0.34	
	3月1日	2.03	-0.23	
	4月1日	1.43	+0.37	
	5月1日	1.58	+0.22	
	6月1日	1.51	+0.29	
	7月1日	1.65	+0.15	

表5.4-1(2) 地下水位 (B-4地点)

単位 : m

調査日	水位 -GL	現況からの水位変化	備考
令和3年	4月1日	0.91	—
	5月1日	0.68	+0.23
	6月1日	0.97	-0.06
	7月1日	0.85	+0.06
	8月1日	0.74	+0.17
	9月1日	0.75	+0.16
	10月1日	0.84	+0.07
	11月1日	0.71	+0.20
	12月1日	0.84	+0.07
令和4年	1月1日	0.91	+0.00
	2月1日	1.14	-0.23
	3月1日	1.19	-0.28
	4月1日	1.09	-0.18
	5月1日	0.77	+0.14
	6月1日	0.82	+0.09
	7月1日	1.01	-0.10
	8月1日	0.72	+0.19
	9月1日	0.66	+0.25
	10月1日	0.79	+0.12
	11月1日	1.16	-0.25
	12月1日	0.90	+0.01
令和5年	1月1日	1.11	-0.20
	2月1日	1.48	-0.57
	3月1日	1.35	-0.44
	4月1日	1.03	-0.12
	5月1日	1.14	-0.23
	6月1日	1.01	-0.10
	7月1日	0.77	+0.14
	8月1日	0.84	+0.07
	9月1日	1.19	-0.28
	10月1日	0.80	+0.11
	11月1日	1.25	-0.34
	12月1日	1.18	-0.27
令和6年	1月1日	1.00	-0.09
	1月20日	1.68	-0.77
	2月1日	1.10	-0.19
	3月1日	0.72	+0.19
	4月1日	0.48	+0.43
	5月1日	0.76	+0.15
	6月1日	0.78	+0.13
	7月1日	0.76	+0.15
7月28日	0.38	+0.53	

工事中

工事中の最低水位

工事中の最高水位

表5.4-1(3) 地下水位 (B-6地点)

単位 : m

調査日	水位 -GL	現況からの水位変化	備考
令和3年	4月1日	1.52	—
	4月16日	1.78	-0.26
	5月1日	1.38	+0.14
	6月1日	1.53	-0.01
	7月1日	1.55	-0.03
	8月1日	1.34	+0.18
	9月1日	1.00	+0.52
	10月1日	1.05	+0.47
	12月1日	1.00	+0.52
令和4年	1月1日	1.06	+0.46
	2月1日	1.23	+0.29
	3月1日	1.25	+0.27
	4月1日	1.30	+0.22
	5月1日	1.13	+0.39
	6月1日	1.22	+0.30
	7月1日	1.30	+0.22
	7月16日	0.63	+0.89
	8月1日	1.06	+0.46
	9月1日	0.98	+0.54
	10月1日	1.09	+0.43
	11月1日	1.42	+0.10
	12月1日	1.23	+0.29
令和5年	1月1日	1.35	+0.17
	2月1日	1.73	-0.21
	3月1日	1.43	+0.09
	4月1日	1.29	+0.23
	5月1日	1.43	+0.09
	6月1日	1.18	+0.34
	7月1日	0.80	+0.72
	8月1日	0.99	+0.53
	9月1日	1.58	-0.06
	10月1日	0.86	+0.66
	11月1日	1.17	+0.35
	12月1日	1.12	+0.40
令和6年	1月1日	1.02	+0.50
	2月1日	0.87	+0.65
	3月1日	0.89	+0.63
	4月1日	0.71	+0.81
	4月9日	0.43	+1.09
	5月1日	1.01	+0.51
	6月1日	1.12	+0.40
	7月1日	1.11	+0.41

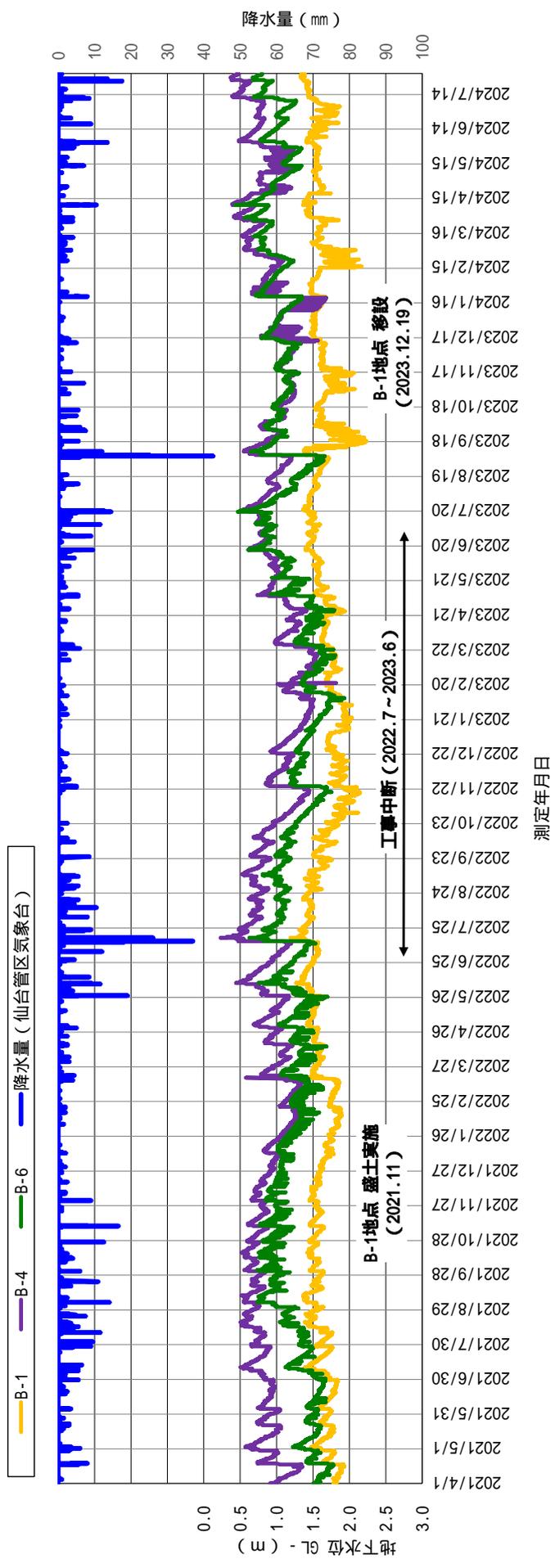


图5.4-2 地下水水位連続観測結果

5.4.2 現地調査結果と事後調査結果の比較

評価書における現地調査結果と事後調査結果の比較は、表5.4-2及び図5.4-3に示すとおりである。

両調査結果ともに、地下水位はほぼ降水量を反映した変動を示していた。また、降水量が減少する秋から冬にかけて地下水位が低下し、3月頃から徐々に上昇していく傾向も両調査結果とも同様に見られた。

事業区域においては、調整池の建設工事に伴い滲出した地下水の汲み上げ等により、降水量に連動しない水位の変動は一時的にあったものの、調整池の建設工事が終了した際には、水位は安定するものと考えられる。なお、盛土は一部終了していないが、評価書における現地調査結果の水位と比較しても大きな変動はない。

以上のことから、工事による地下水位への影響は小さいと考えられる。

表5.4-2 現地調査結果（評価書）と事後調査結果との比較

単位：m

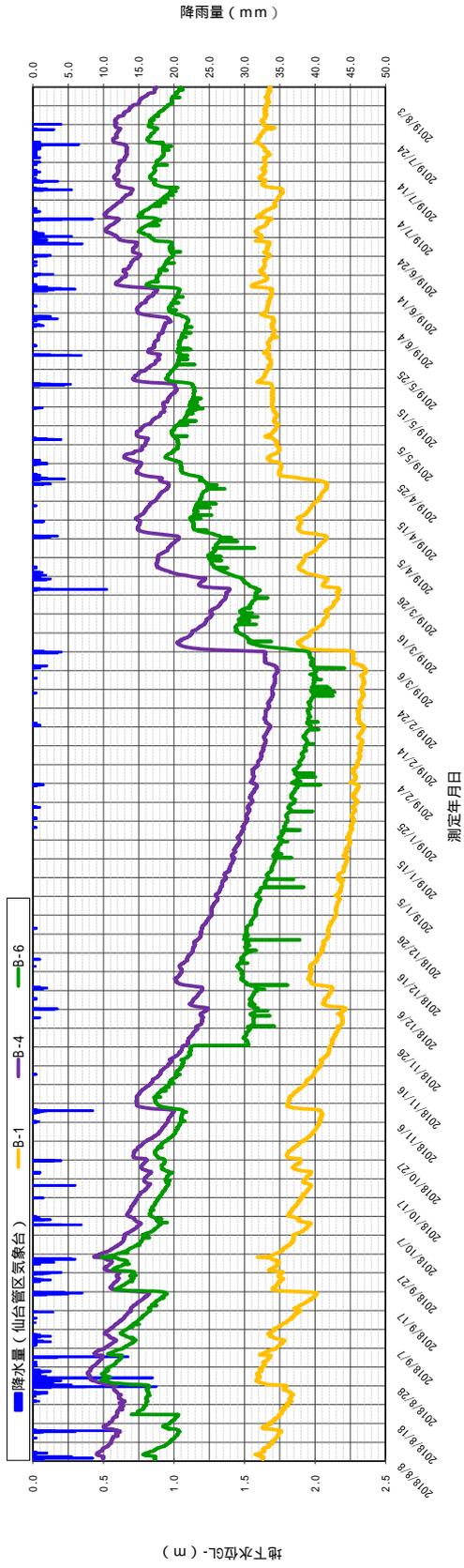
地点	水位	現地調査結果(評価書) -GL	事後調査結果 -GL	現地調査結果との差
B-1	最低	2.37	2.24	+0.13
	最高	1.55	1.27	+0.28
B-4	最低	1.74	1.68	+0.06
	最高	0.39	0.38	+0.01
B-6	最低	2.21	1.78	+0.43
	最高	0.48	0.43	+0.05

5.4.3 追加の環境保全措置の検討

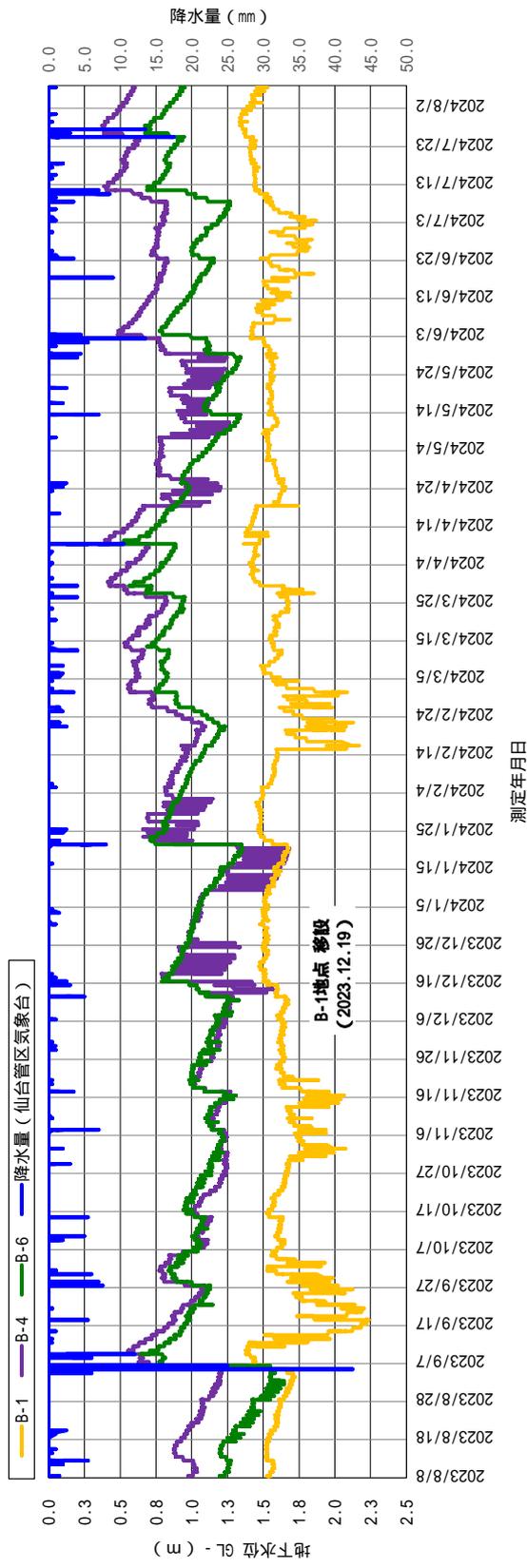
事後調査の結果、工事による地下水位への影響は小さいと考えられる。

今後も地盤沈下による周辺地域への影響を軽減させるよう、「4. 環境の保全及び創造のための措置の実施状況」において示した「事業区域の地盤高を測量し、動態観測を行う等、その変動を把握しながら工事を進める」等の環境保全措置の実施を継続していくものとする。

【現地調査結果】平成30年8月8日～令和元年8月7日



【事後調査結果】令和5年8月8日～令和6年8月7日



注) 地下水は地表面からの距離である。図に示す期間内には盛土等が行われており、現地調査時点とは地表面の状態が異なる。

図5.4-3 現地調査（評価書）結果と事後調査結果との比較

5.5 廃棄物等

5.5.1 事後調査の方法等及び結果

(1) 調査項目

盛土・掘削等に伴い発生する廃棄物の発生量及び廃棄物削減状況について調査を行った。

(2) 調査期間

工事期間全体を対象とする調査時期のうち、令和3年4月から令和6年7月までの期間について調査を行った。なお、上記期間のうち、令和4年7月から令和5年6月まで工事が中断となったため、その期間は調査期間の対象外とする。

(3) 調査地域

調査地域は、事業区域内とした。

(4) 調査方法

調査は、工事記録の確認及びヒアリングにより行った。

(5) 調査結果

事業区域内の盛土・掘削等により発生した廃棄物の発生量及び削減状況は、表5.5-1に示すとおりである。

盛土・掘削等により発生した廃棄物で最も多かったのはコンクリートがら1,168.0tであり、次いでアスコンがら483.2t、木くず48.0m³ (26.4t)、廃プラスチック類46.0m³ (16.1t)、管理型混合廃棄物32.8m³ (8.5t)の順であった。

これらの発生した廃棄物は、処理業者により回収された後、宮城県内の中間処理施設において全量破碎され、木くず、廃プラスチック類及び管理型混合廃棄物は発電燃料として、紙くずは製紙原料として、建設汚泥はセメントを混ぜて流動化処理土として、その他がれき類は碎石等として再資源化されている。

なお、本事業では造成による切土は、盛土材として事業区域内で利用しているため、残土は発生していない。

表5.5-1 廃棄物発生量及び再資源化率

種類	数量	再資源化率
アスコンがら	483.2t	100.0%
コンクリートがら	1,168.0t	100.0%
木くず	48.0m ³ (26.4t)	100.0%
紙くず	11.6m ³ (3.5t)	100.0%
廃プラスチック類	46.0m ³ (16.1t)	100.0%
建設汚泥(泥土)	5.3m ³ (5.8t)	100.0%
建設汚泥(泥水)	1.7m ³ (1.8t)	100.0%
その他がれき類	2.5m ³ (3.7t)	100.0%
管理型混合廃棄物	32.8m ³ (8.5t)	約70%

()内は、表5.5-2に示す重量換算係数により、重量に換算した値を示す。
注) 再資源化率は処理業者からのヒアリングによる。

表5.5-2 産業廃棄物の種類ごとの重量換算係数

種類	換算係数
木くず	0.55
紙くず	0.30
廃プラスチック類	0.35
建設汚泥（泥土）	1.10
建設汚泥（泥水）	1.10
その他がれき類	1.48
管理型混合廃棄物	0.26

出典：「産業廃棄物の種類ごとの集計単位と重量換算係数 Ver.1.5（令和3年8月16日適用）」（公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター（JWセンター）ホームページ、令和6年10月閲覧）

5.5.2 予測結果と事後調査結果の比較

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.5-3に示すとおりである。

予定工事期間6年（令和3年4月～令和9年3月）のうち着工後40ヶ月目（令和6年7月）までの廃棄物発生量は、予定工事期間全体の予測結果に対し、アスファルト塊が約10.2%、コンクリート塊が約31.6%となっており、いずれも今後の工事の継続に伴いさらなる発生が考えられる。

また、発生量の予測が困難であり、評価書には記載していなかった木くず、紙くず、廃プラスチック、建設汚泥（泥土、泥水）その他がれき類及び管理型混合廃棄物が発生した。建設汚泥は污水排水管の推進工で竪坑を掘った際に発生したものの、その他がれき類は既存の地中埋設物として発生したものであった。それ以外の品目は、資材の梱包や仮設資材によるものであった。伐採材及び金属については、現時点では発生していない。

再資源化率については、アスファルト塊及びコンクリート塊ともに予測結果を上回る100%を確保していた。評価書に記載していなかったその他の品目については、管理型混合廃棄物の約70%を除いては、100%であった。

表5.5-3 予測結果と事後調査結果の比較

種 類	予測結果		事後調査結果 (工事中その2)	
	発生量 (t)	再資源化率 (%)	発生量 (t)	再資源化率 (%)
アスファルト塊	4,723	99.5	483.2 (10.2%)	100.0
コンクリート塊	3,691	99.3	1,168.0 (31.6%)	100.0
木くず	-	-	26.4	100.0
伐採材	51	100.0	-	100.0
紙くず	-	-	3.5	100.0
廃プラスチック	-	-	16.1	100.0
金属	23	100.0	-	100.0
建設汚泥(泥土)	-	-	5.8	100.0
建設汚泥(泥水)	-	-	1.8	100.0
その他がれき類	-	-	3.7	100.0
管理型混合廃棄物			8.5	約70.0

予測結果に対する比率を示す。

5.5.3 追加の環境保全措置の検討

事業区域内については、造成工事が完了していないため、今後も廃棄物の発生が考えられるが、廃棄物等の抑制と再資源化を図るため、「4. 環境の保全及び創造のための措置の実施状況」において示した「使用する部材等は、工場等での一部加工品や完成品を可能な限り採用し、廃棄物等の抑制に努める」等の環境保全措置の実施を継続していくものとする。

5.6 温室効果ガス等

5.6.1 事後調査の方法等及び結果

(1) 調査項目

工事用車両の走行及び重機の稼働に伴い発生する温室効果ガス等について調査を行った。

(2) 調査期間

工事期間全体を対象とする調査時期のうち、令和3年3月から令和6年7月までの期間について調査を行った。なお、上記期間のうち、令和4年7月から令和5年6月まで工事が中断となったため、その期間は調査期間の対象外とする。また、大型車類（工事用車両）の走行は令和3年6月からであった。

(3) 調査地点

調査地域は、事業区域内とした。

(4) 調査方法

1) 工事用車両の走行

調査方法は、工事記録の確認及びヒアリングにより、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル（Ver5.0）」（令和6年2月、環境省・経済産業省）に基づき、表5.6-1に示す計算式より、エネルギー起源の二酸化炭素及びその他の温室効果ガス（メタン及び一酸化二窒素）の排出量を算出した。次に、各温室効果ガスの排出量に係数を乗じ、温室効果ガス排出量の合計を算出した。

表5.6-1 温室効果ガス排出量の計算式

二酸化炭素（CO ₂ ）排出量（tCO ₂ ） （ ）	= 燃料使用量（KL）× 単位発熱量（GJ/KL） × 排出係数（tC/GJ）× 44/12
メタン（CH ₄ ）排出量（t） （ ）	= 燃料使用量（KL）× 単位発熱量（GJ/KL） × 排出係数（kg CH ₄ /GJ）/1,000
一酸化二窒素（N ₂ O）排出量（t） （ ）	= 燃料使用量（KL）× 単位発熱量（GJ/KL） × 単位発熱量当たりの排出量（kg N ₂ O /GJ）/1,000
温室効果ガス排出量合計（tCO ₂ ）	= × 1 + × 28 + × 265 注) 乗じている数値は、地球温暖化係数である。

工事用車両の燃料は、大型車類は軽油、小型車類はガソリンとした。燃料ごとの単位発熱量は表5.6-2に、燃料ごとの二酸化炭素及びその他の温室効果ガスの排出係数は表5.6-3に示すとおりである。燃料使用量等は、評価書と同様に工事期間中の工事用車両台数、平均走行距離及び燃費から表5.6-4に示すとおり設定した。

表5.6-2 燃料ごとの単位発熱量

燃料の種類	単位発熱量 (GJ/kl)
軽油	38.0
ガソリン	33.4

出典：「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル (Ver5.0)」
(令和6年2月、環境省・経済産業省)

表5.6-3 燃料ごとの二酸化炭素及びその他の温室効果ガスの排出係数

燃料の種類	排出係数		
	二酸化炭素 CO ₂ (tC/GJ)	メタン CH ₄ (kg/km)	一酸化二窒素 N ₂ O (kg/km)
軽油	0.0188	0.000015	0.000014
ガソリン	0.0187	0.000010	0.000029

注) メタン及び一酸化二窒素に係る自動車の区分は、軽油が“普通自動車のうち、貨物の輸送の用に供するもの”、ガソリンが“普通自動車または小型自動車のうち人の運送の用に供するもの(乗車定員10人以下)”とした。

出典：「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル (Ver5.0)」(令和6年2月、環境省・経済産業省)、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」(平成11年4月政令第143号)

表5.6-4 工事用車両の燃料使用量

車種分類	車両台数 (台)	平均走行距離 (km/台)	総走行距離 (km) = ×	燃料	燃費 (km/L)	燃料使用量 (kL) / /1,000
大型車類	89,326	10	893,260	軽油	3.00	297.8
小型車類	18,126	5	90,630	ガソリン	6.51	13.9

大型車は、土工事施工業者への聞き取り及び使用した土砂運搬車両のカタログ値の燃費を用いた。小型車は、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル (Ver5.0)」(令和6年2月、環境省・経済産業省)から、小型車類(ガソリン)が最大積載量500kg以上1,500kg未満(事業用)とした。

注) 大型車は土砂運搬車両とし、走行距離は土取場まで片道10kmと設定した。小型車は工事関係者の通勤車両とし、片道5kmと設定した。

2) 重機の稼働

調査方法は、工事記録の確認及びヒアリングにより、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル (Ver5.0)」(令和6年2月、環境省・経済産業省)に基づき、表5.6-1に示した計算式より、エネルギー起源の二酸化炭素及びその他の温室効果ガス(メタン及び一酸化二窒素)の排出量を算出した。次に、各温室効果ガスの排出量に係数を乗じ、温室効果ガス排出量の合計を算出した。

重機の燃料は、軽油とした。燃料ごとの単位発熱量は、表5.6-2に示したとおりである。また、燃料ごとの二酸化炭素及びその他の温室効果ガスの排出係数は表5.6-5に示すとおりである。燃料使用量は、評価書と同様に工事期間中の重機の稼働台数、稼働時間及び燃費から表5.6-6に示すとおり設定した。

表5.6-5 燃料ごとの二酸化炭素及びその他の温室効果ガスの排出係数

燃料の種類	排出係数		
	二酸化炭素 CO ₂ (tC/GJ)	メタン CH ₄ (kg/km)	一酸化二窒素 N ₂ O (kg/km)
軽油	0.0187	排出なし	0.0000022

燃料の燃焼の用に供する施設は、ディーゼル機関とみなした。

注) 単位発熱量は37.7GJ/kLとした。

出典：「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver5.0)」(令和6年2月、環境省・経済産業省)

表5.6-6 重機の燃料使用量

主要建設機械	延べ稼働台数 (台)	定格出力 (kw)	燃料消費率 (L/kw-h)	稼働時間 (h/台)	稼働率 (%)	燃料消費量 (L/h) = ×	燃料使用量 (kL) × ×(/100) × /1,000
ダンプトラック(2~4t以上)	309	179	0.040	7	35	7.2	5.4
ダンプトラック(10t以上)	1,495	385	0.040	7	35	15.4	56.4
バックホウ(0.1m ³ 以下級)	525	41	0.153	7	35	6.3	8.1
バックホウ(0.45m ³ 級)	1,892	74	0.144	7	35	10.7	49.4
バックホウ(0.8m ³ 級)	3,127	116	0.144	7	35	16.7	128.0
ブルドーザ(4~10t級以上)	469	78	0.144	7	35	12.9	12.9
ブルドーザ(21t級)	16	152	0.144	7	35	21.9	0.9
振動ローラー(10t以上)	65	56	0.128	7	35	7.2	1.1
タイヤローラー(8~20t未満)	378	71	0.098	7	35	7.0	6.4
ラフテレーンクレーン (20t吊以上)	25	193	0.075	7	35	14.5	0.9
ラフテレーンクレーン (50~70t吊未満)	13	221	0.045	7	35	9.9	0.3
高所作業車(ブーム型)	6	110	0.037	7	35	4.1	0.1
計							269.9

注1) 定格出力及び燃料消費率は、「令和6年度版 建設機械等損料表」(令和6年4月、一般社団法人日本建設機械施工協会)によった。

注2) 建設機械ごとの燃料使用量は四捨五入であるため、各算出結果の整合は取れないことがある。

(5) 調査結果

1) 工事用車両の走行

表5.6-1に示した計算式により算出した温室効果ガス排出量は、表5.6-7に示すとおりである。工事用車両の走行による排出量は、約802.1tCO₂となった。

表5.6-7 温室効果ガス排出量

車種分類	区分	排出量 (t)	地球温暖化係数	温室効果ガス排出量 (tCO ₂) ×
大型車類	二酸化炭素(CO ₂)	769.8	1	769.8
	メタン(CH ₄)	0.01未満	28	0.1未満
	一酸化二窒素(N ₂ O)	0.01未満	265	0.1未満
小型車類	二酸化炭素(CO ₂)	32.3	1	32.3
	メタン(CH ₄)	0.01未満	28	0.1未満
	一酸化二窒素(N ₂ O)	0.01未満	265	0.1未満
計				802.1

注) 区分ごとの排出量は四捨五入であるため、各算出結果の整合は取れないことがある。

2)重機の稼働

表5.6-1に示した計算式により算出した温室効果ガス排出量は、表5.6-8に示すとおりである。重機の稼働による排出量は、704.3tCO₂となった。

表5.6-8 温室効果ガス排出量

区分	排出量 (t)	地球温暖化係数	温室効果ガス排出量 (tCO ₂) ×
二酸化炭素 (CO ₂)	697.6	1	697.6
メタン (CH ₄)	排出なし	28	排出なし
一酸化二窒素 (N ₂ O)	0.0	265	6.7
計			704.3

注) 区分ごとの排出量は四捨五入であるため、各算出結果の整合は取れないことがある。

5.6.2 予測結果と事後調査結果の比較

(1)工事用車両の走行

1)工事用車両の走行台数

予測条件とした計画台数と事後調査結果の比較は、表5.6-9に示すとおりである。

表5.6-9 予測条件と事後調査結果の比較

単位：台

車種分類	予測条件 (工事期間全体)	事後調査結果 (工事中その2)
大型車類	149,600	89,326
小型車類	52,935	18,126

2)温室効果ガス排出量

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.6-10に示すとおりである。予定工事期間6年間(令和3年4月～令和9年3月)のうち、着工後40ヶ月目(令和6年7月)までの温室効果ガス排出量は、予定工事期間全体の予測結果に対し64.8%にあたる802tCO₂となっており、今後の工事の継続に伴いさらなる排出が考えられる。

表5.6-10 予測結果と事後調査結果の比較

単位：tCO₂

車種分類	区分	温室効果ガス排出量	
		予測結果 (工事期間全体)	事後調査結果 (工事中その2)
大型車類	二酸化炭素 (CO ₂)	1,144	770
	メタン (CH ₄)	0.1未満	0.1未満
	一酸化二窒素 (N ₂ O)	0.1未満	0.1未満
小型車類	二酸化炭素 (CO ₂)	94	32
	メタン (CH ₄)	0.1未満	0.1未満
	一酸化二窒素 (N ₂ O)	0.1未満	0.1未満
計		1,238	802

予測において、平均走行距離を2倍にする等の誤りがあったため、改めて算出した。

(2)重機の稼働

1)重機の稼働台数

予測条件とした計画台数と事後調査結果の比較は、表5.6-11に示すとおりである。

表5.6-11 予測条件と事後調査結果の比較

単位：台

主要建設機械		予測条件 (工事期間全体)	事後調査結果 (工事中その2)
ダンプトラック	2～4t以上	5,124	309
	10t以上	1,526	1,495
バックホウ	0.1m ³ 以下級	-	525
	0.45 m ³ 級	2,515	1,892
	0.8 m ³ 級	1,246	3,127
ブルドーザ	4～10t 級以上	550	469
	21t 級	628	16
モーターグレーダー	-	176	-
振動ローラー	10t 以上	739	65
タイヤローラー	8～20t 未満	528	378
ハンドローラー	600kg	2,242	-
ラフテレーンクレーン	20t 吊以上	1,070	25
	50t～70t 吊未満	368	13
高所作業車(ブーム型)	-	-	6
アスファルトフィニッシャー	3.2～6.0m	30	-

2)温室効果ガス排出量

予測結果と事後調査結果の比較は、表5.6-12に示すとおりである。予定工事期間6年間(令和3年4月～令和9年3月)のうち、着工後40ヶ月目(令和6年7月)までの温室効果ガス排出量は、予定工事期間全体の予測結果に対し19.0%にあたる704tCO₂となっており、今後の工事の継続に伴いさらなる排出が考えられる。

表5.6-12 予測結果と事後調査結果の比較

単位：tCO₂

区分	温室効果ガス排出量	
	予測結果 (工事期間全体)	事後調査結果 (工事中その2)
二酸化炭素(CO ₂)	3,670	698
メタン(CH ₄)	排出なし	排出なし
一酸化二窒素(N ₂ O)	27	7
計	3,697	704

注) 区分ごとの排出量は四捨五入であるため、各算出結果の整合は取れないことがある。

5.6.3 追加の環境保全措置の検討

事業区域内については、建設工事が完了していないため、今後も温室効果ガスの排出が考えられる。そのため、今後も温室効果ガスによる周辺地域への影響を低減させるよう、「4. 環境の保全及び創造のための措置の実施状況」において示した「工事用車両及び重機の点検・整備を十分に行う」、「燃費基準達成車の採用や排出ガス対策型の重機の採用に努める」、「工事の平準化等に努める」等の環境保全措置の実施を継続していくものとする。

6. 環境影響評価事後調査の委託を受けた者の名称等

受託者の名称：株式会社オオバ 東北支店

代表者の氏名：支店長 大宮 正浩

主たる事務所の所在地：宮城県仙台市青葉区一番町二丁目2-13 仙建ビル4階

資料編

1. 調査項目ごとの結果の詳細等

1.1 大気質

1.1.1 窒素酸化物及び浮遊粒子状物質

(1) 令和6年3月9日～15日(工事用車両の走行)

表1.1-1(1) 一酸化窒素測定結果詳細表 (No.A)

測定期間：令和6年3月9日(土)0時～3月15日(金)24時

調査地点：No.A

単位：ppm

日(曜) 時	9日 (土)	10日 (日)	11日 (月)	12日 (火)	13日 (水)	14日 (木)	15日 (金)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
2	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
3	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
4	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
5	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.001
6	0.000	0.000	0.001	0.002	0.000	0.004	0.000	7	0.004	0.000	0.001	0.007
7	0.001	0.001	0.005	0.002	0.000	0.006	0.003	7	0.006	0.000	0.003	0.018
8	0.002	0.000	0.016	0.007	0.001	0.006	0.007	7	0.016	0.000	0.006	0.039
9	0.001	0.000	0.012	0.008	0.001	0.004	0.015	7	0.015	0.000	0.006	0.041
10	0.002	0.000	0.004	0.004	0.001	0.002	0.002	7	0.004	0.000	0.002	0.015
11	0.001	0.000	0.005	0.005	0.001	0.003	0.001	7	0.005	0.000	0.002	0.016
12	0.001	0.000	0.001	0.013	0.001	0.001	0.001	7	0.013	0.000	0.003	0.018
13	0.000	0.000	0.001	0.006	0.000	0.001	0.000	7	0.006	0.000	0.001	0.008
14	0.000	0.000	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.003
15	0.000	0.000	0.002	0.001	0.000	0.000	0.000	7	0.002	0.000	0.000	0.003
16	0.000	0.000	0.002	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.002	0.000	0.000	0.002
17	0.000	0.000	0.001	0.000	0.001	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.002
18	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.001
19	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.001
20	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.001
21	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
22	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
23	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
24	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.002	0.001	0.016	0.013	0.001	0.006	0.015		0.016			
最低	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000			0.000		
平均	0.000	0.000	0.002	0.002	0.000	0.001	0.001		0.002	0.000	0.001	
合計	0.008	0.001	0.054	0.050	0.007	0.027	0.029					0.176

*印: 日平均値の最高値

定量下限値未满是、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-1(2) 二酸化窒素測定結果詳細表 (No.A)

測定期間：令和6年3月9日(土)0時～3月15日(金)24時

調査地点：No.A

単位：ppm

日(曜) 時	9日 (土)	10日 (日)	11日 (月)	12日 (火)	13日 (水)	14日 (木)	15日 (金)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.006	0.004	0.004	0.010	0.002	0.007	0.002	7	0.010	0.002	0.005	0.035
2	0.003	0.005	0.010	0.009	0.001	0.009	0.002	7	0.010	0.001	0.006	0.039
3	0.004	0.003	0.007	0.007	0.001	0.011	0.011	7	0.011	0.001	0.006	0.044
4	0.003	0.004	0.011	0.005	0.001	0.010	0.006	7	0.011	0.001	0.006	0.040
5	0.003	0.005	0.008	0.007	0.002	0.009	0.011	7	0.011	0.002	0.006	0.045
6	0.003	0.003	0.010	0.009	0.002	0.025	0.010	7	0.025	0.002	0.009	0.062
7	0.009	0.004	0.021	0.012	0.003	0.022	0.022	7	0.022	0.003	0.013	0.093
8	0.009	0.002	0.022	0.019	0.003	0.018	0.023	7	0.023	0.002	0.014	0.096
9	0.006	0.002	0.017	0.022	0.003	0.010	0.032	7	0.032	0.002	0.013	0.092
10	0.006	0.003	0.008	0.018	0.003	0.007	0.009	7	0.018	0.003	0.008	0.054
11	0.003	0.002	0.011	0.019	0.002	0.007	0.003	7	0.019	0.002	0.007	0.047
12	0.002	0.002	0.003	0.026	0.002	0.003	0.003	7	0.026	0.002	0.006	0.041
13	0.002	0.002	0.002	0.022	0.002	0.003	0.002	7	0.022	0.002	0.005	0.035
14	0.002	0.001	0.003	0.005	0.002	0.003	0.002	7	0.005	0.001	0.003	0.018
15	0.002	0.001	0.006	0.010	0.001	0.003	0.003	7	0.010	0.001	0.004	0.026
16	0.002	0.001	0.008	0.005	0.002	0.003	0.003	7	0.008	0.001	0.003	0.024
17	0.001	0.001	0.008	0.004	0.002	0.004	0.003	7	0.008	0.001	0.003	0.023
18	0.002	0.001	0.011	0.004	0.003	0.002	0.003	7	0.011	0.001	0.004	0.026
19	0.002	0.001	0.013	0.005	0.002	0.002	0.003	7	0.013	0.001	0.004	0.028
20	0.004	0.002	0.011	0.004	0.002	0.002	0.003	7	0.011	0.002	0.004	0.028
21	0.003	0.004	0.013	0.002	0.002	0.002	0.003	7	0.013	0.002	0.004	0.029
22	0.002	0.004	0.013	0.002	0.004	0.002	0.003	7	0.013	0.002	0.004	0.030
23	0.002	0.006	0.013	0.001	0.006	0.002	0.003	7	0.013	0.001	0.005	0.033
24	0.002	0.005	0.009	0.002	0.011	0.002	0.002	7	0.011	0.002	0.005	0.033
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.009	0.006	0.022	0.026	0.011	0.025	0.032		0.032			
最低	0.001	0.001	0.002	0.001	0.001	0.002	0.002			0.001		
平均	0.003	0.003	0.010	0.010	0.003	0.007	0.007		0.010	0.003	0.006	
合計	0.083	0.068	0.242	0.229	0.064	0.168	0.167					1.021

*印: 日平均値の最高値

定量下限値未满是、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-1(3) 窒素酸化物測定結果詳細表 (No.A)

測定期間：令和6年3月9日(土)0時～3月15日(金)24時

調査地点：No.A

単位:ppm

日(曜) 時	9日 (土)	10日 (日)	11日 (月)	12日 (火)	13日 (水)	14日 (木)	15日 (金)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.006	0.004	0.004	0.010	0.002	0.007	0.002	7	0.010	0.002	0.005	0.035
2	0.003	0.005	0.010	0.009	0.001	0.009	0.002	7	0.010	0.001	0.006	0.039
3	0.004	0.003	0.007	0.007	0.001	0.011	0.011	7	0.011	0.001	0.006	0.044
4	0.003	0.004	0.011	0.005	0.001	0.010	0.006	7	0.011	0.001	0.006	0.040
5	0.003	0.005	0.008	0.008	0.002	0.009	0.011	7	0.011	0.002	0.007	0.046
6	0.003	0.003	0.011	0.011	0.002	0.029	0.010	7	0.029	0.002	0.010	0.069
7	0.010	0.005	0.026	0.014	0.003	0.028	0.025	7	0.028	0.003	0.016	0.111
8	0.011	0.002	0.038	0.026	0.004	0.024	0.030	7	0.038	0.002	0.019	0.135
9	0.007	0.002	0.029	0.030	0.004	0.014	0.047	7	0.047	0.002	0.019	0.133
10	0.008	0.003	0.012	0.022	0.004	0.009	0.011	7	0.022	0.003	0.010	0.069
11	0.004	0.002	0.016	0.024	0.003	0.010	0.004	7	0.024	0.002	0.009	0.063
12	0.003	0.002	0.004	0.039	0.003	0.004	0.004	7	0.039	0.002	0.008	0.059
13	0.002	0.002	0.003	0.028	0.002	0.004	0.002	7	0.028	0.002	0.006	0.043
14	0.002	0.001	0.004	0.006	0.003	0.003	0.002	7	0.006	0.001	0.003	0.021
15	0.002	0.001	0.008	0.011	0.001	0.003	0.003	7	0.011	0.001	0.004	0.029
16	0.002	0.001	0.010	0.005	0.002	0.003	0.003	7	0.010	0.001	0.004	0.026
17	0.001	0.001	0.009	0.004	0.003	0.004	0.003	7	0.009	0.001	0.004	0.025
18	0.002	0.001	0.012	0.004	0.003	0.002	0.003	7	0.012	0.001	0.004	0.027
19	0.002	0.001	0.014	0.005	0.002	0.002	0.003	7	0.014	0.001	0.004	0.029
20	0.004	0.002	0.012	0.004	0.002	0.002	0.003	7	0.012	0.002	0.004	0.029
21	0.003	0.004	0.013	0.002	0.002	0.002	0.003	7	0.013	0.002	0.004	0.029
22	0.002	0.004	0.013	0.002	0.004	0.002	0.003	7	0.013	0.002	0.004	0.030
23	0.002	0.006	0.013	0.001	0.006	0.002	0.003	7	0.013	0.001	0.005	0.033
24	0.002	0.005	0.009	0.002	0.011	0.002	0.002	7	0.011	0.002	0.005	0.033
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.011	0.006	0.038	0.039	0.011	0.029	0.047		0.047			
最低	0.001	0.001	0.003	0.001	0.001	0.002	0.002			0.001		
平均	0.004	0.003	0.012	0.012	0.003	0.008	0.008		0.012	0.003	0.007	
合計	0.091	0.069	0.296	0.279	0.071	0.195	0.196					1.197

*印:日平均値の最高値

定量下限値未满是、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-1(4) 浮遊粒子状物質測定結果詳細表 (No.A)

測定期間：令和6年3月9日(土)0時～3月15日(金)24時

調査地点：No.A

単位:mg/m³

日(曜) 時	9日 (土)	10日 (日)	11日 (月)	12日 (火)	13日 (水)	14日 (木)	15日 (金)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.012	0.006	0.008	0.005	0.007	0.012	0.019	7	0.019	0.005	0.010	0.069
2	0.014	0.010	0.009	0.006	0.007	0.010	0.017	7	0.017	0.006	0.010	0.073
3	0.013	0.007	0.011	0.010	0.006	0.010	0.021	7	0.021	0.006	0.011	0.078
4	0.010	0.008	0.006	0.008	0.008	0.011	0.015	7	0.015	0.006	0.009	0.066
5	0.010	0.009	0.006	0.006	0.012	0.011	0.015	7	0.015	0.006	0.010	0.069
6	0.011	0.009	0.009	0.009	0.013	0.011	0.021	7	0.021	0.009	0.012	0.083
7	0.011	0.009	0.011	0.013	0.018	0.012	0.017	7	0.018	0.009	0.013	0.091
8	0.007	0.007	0.007	0.010	0.017	0.013	0.013	7	0.017	0.007	0.011	0.074
9	0.004	0.006	0.015	0.011	0.012	0.013	0.024	7	0.024	0.004	0.012	0.085
10	0.007	0.009	0.007	0.016	0.009	0.015	0.034	7	0.034	0.007	0.014	0.097
11	0.009	0.007	0.020	0.022	0.010	0.011	0.023	7	0.023	0.007	0.015	0.102
12	0.013	0.008	0.004	0.015	0.011	0.018	0.020	7	0.020	0.004	0.013	0.089
13	0.009	0.002	0.011	0.019	0.006	0.019	0.022	7	0.022	0.002	0.013	0.088
14	0.004	0.016	0.010	0.014	0.007	0.015	0.023	7	0.023	0.004	0.013	0.089
15	0.003	0.006	0.013	0.010	0.008	0.017	0.026	7	0.026	0.003	0.012	0.083
16	0.004	0.007	0.014	0.014	0.006	0.014	0.028	7	0.028	0.004	0.012	0.087
17	0.010	0.008	0.019	0.010	0.007	0.015	0.033	7	0.033	0.007	0.015	0.102
18	0.007	0.004	0.012	0.007	0.007	0.021	0.031	7	0.031	0.004	0.013	0.089
19	0.007	0.011	0.013	0.012	0.006	0.018	0.027	7	0.027	0.006	0.013	0.094
20	0.010	0.007	0.013	0.013	0.008	0.019	0.030	7	0.030	0.007	0.014	0.100
21	0.007	0.008	0.011	0.011	0.007	0.019	0.038	7	0.038	0.007	0.014	0.101
22	0.007	0.010	0.014	0.011	0.007	0.020	0.038	7	0.038	0.007	0.015	0.107
23	0.009	0.008	0.008	0.007	0.011	0.021	0.035	7	0.035	0.007	0.014	0.099
24	0.010	0.006	0.009	0.006	0.009	0.016	0.031	7	0.031	0.006	0.012	0.087
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.014	0.016	0.020	0.022	0.018	0.021	0.038		0.038			
最低	0.003	0.002	0.004	0.005	0.006	0.010	0.013			0.002		
平均	0.009	0.008	0.011	0.011	0.009	0.015	0.025		0.025	0.008	0.013	
合計	0.208	0.188	0.260	0.265	0.219	0.361	0.601					2.102

*印:日平均値の最高値

定量下限値未满是、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-1(5) 簡易測定による二酸化窒素濃度測定結果詳細表 (No.A,3~5)

単位 : ppm

調査日		No.A	No.3	No.4	No.5
1日目	3/ 8 12時 ~ 3/ 9 12時	0.007	0.010	0.013	0.010
2日目	3/ 9 12時 ~ 3/10 12時	0.001	0.001	0.003	0.004
3日目	3/10 12時 ~ 3/11 12時	0.004	0.005	0.011	0.007
4日目	3/11 12時 ~ 3/12 12時	0.012	0.013	0.020	0.018
5日目	3/12 12時 ~ 3/13 12時	0.003	0.002	0.008	0.005
6日目	3/13 12時 ~ 3/14 12時	0.008	0.008	0.016	0.011
7日目	3/14 12時 ~ 3/15 12時	0.007	0.009	0.014	0.011
8日目	3/15 12時 ~ 3/16 12時	0.001	0.000	0.002	0.001
期間の平均値		0.005	0.006	0.011	0.008
最高値		0.012	0.013	0.020	0.018
最低値		0.001	0.000	0.002	0.001

(2)令和6年5月22日~28日 (重機の稼働)

1)一酸化窒素

表1.1-2(1) 一酸化窒素測定結果詳細表 (No.A)

測定期間 : 令和6年5月22日(水)0時~5月28日(火)24時

調査地点 : No. A

単位 : ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
2	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
3	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
4	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
5	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
6	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.001	0.004
7	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.001	0.004
8	0.000	0.002	0.001	0.000	0.000	0.002	0.000	7	0.002	0.000	0.001	0.005
9	0.001	0.003	0.002	0.000	0.001	0.002	0.002	7	0.003	0.000	0.002	0.011
10	0.002	0.002	0.002	0.000	0.001	0.003	0.000	7	0.003	0.000	0.001	0.010
11	0.002	0.002	0.001	0.000	0.000	0.004	0.000	7	0.004	0.000	0.001	0.009
12	0.001	0.001	0.002	0.000	0.000	0.003	0.000	7	0.003	0.000	0.001	0.007
13	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.001	0.004
14	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.001	0.004
15	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000	0.001	0.001	7	0.001	0.000	0.001	0.004
16	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000	0.001	0.001	7	0.001	0.000	0.001	0.004
17	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.003
18	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
19	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
20	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
21	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
22	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
23	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
24	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.002	0.003	0.002	0.000	0.001	0.004	0.002		0.004			
最低	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000			0.000		
平均	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000	0.001	0.000		0.001	0.000	0.000	
合計	0.013	0.017	0.012	0.000	0.002	0.021	0.004					0.069
	*	*	*			*						

*印:日平均値の最高値

定量下限値未滿は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-2(2) 一酸化窒素測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時
 調査地点：No.

単位：ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.000	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000	0.001	7	0.001	0.000	0.000	0.003
2	0.001	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.002
3	0.000	0.001	0.001	0.000	0.000	0.002	0.001	7	0.002	0.000	0.001	0.005
4	0.001	0.002	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.002	0.000	0.001	0.004
5	0.001	0.003	0.002	0.000	0.000	0.005	0.000	7	0.005	0.000	0.002	0.011
6	0.002	0.002	0.002	0.001	0.001	0.002	0.001	7	0.002	0.001	0.002	0.011
7	0.002	0.005	0.003	0.001	0.001	0.009	0.001	7	0.009	0.001	0.003	0.022
8	0.002	0.005	0.003	0.001	0.001	0.005	0.003	7	0.005	0.001	0.003	0.020
9	0.004	0.004	0.002	0.001	0.001	0.004	0.003	7	0.004	0.001	0.003	0.019
10	0.002	0.003	0.002	0.001	0.001	0.003	0.001	7	0.003	0.001	0.002	0.013
11	0.003	0.002	0.002	0.001	0.001	0.004	0.000	7	0.004	0.000	0.002	0.013
12	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	0.004	0.001	7	0.004	0.001	0.002	0.012
13	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.002	0.000	7	0.002	0.000	0.001	0.008
14	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.002	7	0.002	0.001	0.001	0.010
15	0.002	0.002	0.001	0.000	0.000	0.002	0.002	7	0.002	0.000	0.001	0.009
16	0.001	0.001	0.000	0.000	0.001	0.002	0.002	7	0.002	0.000	0.001	0.007
17	0.001	0.001	0.000	0.000	0.001	0.001	0.002	7	0.002	0.000	0.001	0.006
18	0.001	0.001	0.000	0.000	0.001	0.001	0.001	7	0.001	0.000	0.001	0.005
19	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.003
20	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.002
21	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
22	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.002
23	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.001
24	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.003
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.004	0.005	0.003	0.001	0.001	0.009	0.003		0.009			
最低	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000			0.000		
平均	0.001	0.002	0.001	0.000	0.001	0.002	0.001		0.002	0.000	0.001	
合計	0.032	0.040	0.023	0.009	0.015	0.051	0.021					0.191

*印：日平均値の最高値

定量下限値未達は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-2(3) 一酸化窒素測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時
 調査地点：No.

単位：ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
2	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
3	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
4	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
5	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
6	0.002	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.002	0.000	0.001	0.004
7	0.002	0.002	0.002	0.000	0.000	0.002	0.000	7	0.002	0.000	0.001	0.008
8	0.000	0.004	0.002	0.000	0.000	0.002	0.000	7	0.004	0.000	0.001	0.008
9	0.001	0.004	0.003	0.000	0.001	0.002	0.000	7	0.004	0.000	0.002	0.011
10	0.002	0.002	0.002	0.000	0.000	0.002	0.001	7	0.002	0.000	0.001	0.009
11	0.002	0.002	0.002	0.000	0.000	0.002	0.001	7	0.002	0.000	0.001	0.009
12	0.001	0.001	0.002	0.000	0.000	0.002	0.000	7	0.002	0.000	0.001	0.006
13	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.001
14	0.001	0.002	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.002	0.000	0.001	0.004
15	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	7	0.001	0.000	0.000	0.003
16	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.002
17	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.001
18	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
19	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
20	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
21	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
22	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
23	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
24	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.002	0.004	0.003	0.000	0.001	0.002	0.001		0.004			
最低	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000			0.000		
平均	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000	0.001	0.000		0.001	0.000	0.000	
合計	0.013	0.021	0.015	0.000	0.001	0.013	0.003					0.066

*印：日平均値の最高値

定量下限値未達は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-2(4) 一酸化窒素測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時

調査地点：No.

単位：ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
2	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
3	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
4	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
5	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.001
6	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.001
7	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000	0.002	0.000	7	0.002	0.000	0.001	0.005
8	0.000	0.003	0.001	0.000	0.000	0.002	0.000	7	0.003	0.000	0.001	0.006
9	0.000	0.003	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	7	0.003	0.000	0.001	0.004
10	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.001
11	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.001
12	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.001
13	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
14	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
15	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
16	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
17	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
18	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
19	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
20	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
21	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
22	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
23	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
24	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.000	0.000	0.000	0.000
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.001	0.003	0.001	0.000	0.000	0.002	0.000		0.003			
最低	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000			0.000		
平均	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000		0.000	0.000	0.000	
合計	0.001	0.008	0.002	0.000	0.000	0.009	0.000					0.020
	*	*	*	*	*	*	*					

*印：日平均値の最高値

定量下限値未達は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-2(5) 一酸化窒素測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時

調査地点：No.

単位：ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.003	0.000	0.000	0.000	0.002	0.000	0.000	7	0.003	0.000	0.001	0.005
2	0.002	0.000	0.002	0.000	0.001	0.000	0.003	7	0.003	0.000	0.001	0.008
3	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	7	0.001	0.000	0.000	0.001
4	0.000	0.002	0.003	0.000	0.000	0.000	0.002	7	0.003	0.000	0.001	0.007
5	0.001	0.002	0.003	0.000	0.001	0.002	0.001	7	0.003	0.000	0.001	0.010
6	0.003	0.003	0.002	0.000	0.001	0.002	0.000	7	0.003	0.000	0.002	0.011
7	0.003	0.003	0.003	0.002	0.000	0.005	0.001	7	0.005	0.000	0.002	0.017
8	0.001	0.004	0.004	0.002	0.000	0.005	0.002	7	0.005	0.000	0.003	0.018
9	0.002	0.006	0.006	0.001	0.000	0.019	0.007	7	0.019	0.000	0.006	0.041
10	0.006	0.009	0.009	0.002	0.004	0.011	0.010	7	0.011	0.002	0.007	0.051
11	0.005	0.007	0.010	0.001	0.000	0.010	0.009	7	0.010	0.000	0.006	0.042
12	0.005	0.006	0.009	0.001	0.002	0.014	0.006	7	0.014	0.001	0.006	0.043
13	0.005	0.005	0.004	0.000	0.002	0.006	0.008	7	0.008	0.000	0.004	0.030
14	0.005	0.002	0.008	0.001	0.000	0.005	0.004	7	0.008	0.000	0.004	0.025
15	0.004	0.002	0.002	0.002	0.000	0.007	0.003	7	0.007	0.000	0.003	0.020
16	0.004	0.002	0.000	0.001	0.002	0.004	0.002	7	0.004	0.000	0.002	0.015
17	0.005	0.005	0.001	0.002	0.000	0.005	0.003	7	0.005	0.000	0.003	0.021
18	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	0.001	7	0.001	0.000	0.000	0.002
19	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.003	0.000	7	0.003	0.000	0.001	0.004
20	0.006	0.000	0.000	0.002	0.000	0.003	0.001	7	0.006	0.000	0.002	0.012
21	0.000	0.002	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	7	0.002	0.000	0.000	0.003
22	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.003	0.000	7	0.003	0.000	0.001	0.004
23	0.000	0.001	0.002	0.002	0.000	0.002	0.010	7	0.010	0.000	0.002	0.017
24	0.002	0.000	0.000	0.000	0.000	0.003	0.002	7	0.003	0.000	0.001	0.007
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.006	0.009	0.010	0.002	0.004	0.019	0.010		0.019			
最低	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000			0.000		
平均	0.003	0.003	0.003	0.001	0.001	0.005	0.003		0.005	0.001	0.002	
合計	0.065	0.061	0.068	0.020	0.015	0.109	0.076					0.414
					*							

*印：日平均値の最高値

定量下限値未達は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

2)二酸化窒素

表1.1-3(1) 二酸化窒素測定結果詳細表 (No.A)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時

調査地点：No. A

単位：ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.003	0.004	0.005	0.001	0.004	0.005	0.007	7	0.007	0.001	0.004	0.029
2	0.003	0.004	0.005	0.001	0.003	0.004	0.003	7	0.005	0.001	0.003	0.023
3	0.003	0.004	0.005	0.001	0.003	0.004	0.003	7	0.005	0.001	0.003	0.023
4	0.003	0.004	0.004	0.001	0.003	0.003	0.002	7	0.004	0.001	0.003	0.020
5	0.004	0.004	0.006	0.001	0.003	0.005	0.002	7	0.006	0.001	0.004	0.025
6	0.005	0.004	0.004	0.001	0.003	0.005	0.002	7	0.005	0.001	0.003	0.024
7	0.004	0.003	0.005	0.001	0.002	0.008	0.002	7	0.008	0.001	0.004	0.025
8	0.003	0.008	0.007	0.001	0.002	0.009	0.004	7	0.009	0.001	0.005	0.034
9	0.005	0.009	0.009	0.002	0.003	0.008	0.005	7	0.009	0.002	0.006	0.041
10	0.007	0.008	0.009	0.002	0.003	0.014	0.003	7	0.014	0.002	0.007	0.046
11	0.006	0.007	0.009	0.001	0.003	0.016	0.003	7	0.016	0.001	0.006	0.045
12	0.005	0.007	0.009	0.001	0.003	0.011	0.002	7	0.011	0.001	0.005	0.038
13	0.004	0.006	0.006	0.001	0.003	0.006	0.002	7	0.006	0.001	0.004	0.028
14	0.005	0.008	0.009	0.001	0.002	0.006	0.004	7	0.009	0.001	0.005	0.035
15	0.005	0.008	0.005	0.001	0.002	0.008	0.005	7	0.008	0.001	0.005	0.034
16	0.004	0.007	0.002	0.001	0.002	0.010	0.004	7	0.010	0.001	0.004	0.030
17	0.004	0.006	0.003	0.001	0.002	0.008	0.007	7	0.008	0.001	0.004	0.031
18	0.002	0.004	0.002	0.001	0.002	0.006	0.005	7	0.006	0.001	0.003	0.022
19	0.002	0.007	0.001	0.001	0.002	0.006	0.004	7	0.007	0.001	0.003	0.023
20	0.004	0.010	0.001	0.001	0.004	0.010	0.003	7	0.010	0.001	0.005	0.033
21	0.005	0.009	0.001	0.001	0.003	0.011	0.003	7	0.011	0.001	0.005	0.033
22	0.005	0.009	0.001	0.002	0.003	0.010	0.001	7	0.010	0.001	0.004	0.031
23	0.005	0.007	0.001	0.002	0.003	0.009	0.001	7	0.009	0.001	0.004	0.028
24	0.005	0.005	0.001	0.003	0.003	0.007	0.001	7	0.007	0.001	0.004	0.025
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.007	0.010	0.009	0.003	0.004	0.016	0.007		0.016			
最低	0.002	0.003	0.001	0.001	0.002	0.003	0.001			0.001		
平均	0.004	0.006	0.005	0.001	0.003	0.008	0.003		0.008	0.001	0.004	
合計	0.101	0.152	0.110	0.030	0.066	0.189	0.078					0.726

*印：日平均値の最高値

定量下限値未滿は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-3(2) 二酸化窒素測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時

調査地点：No.

単位：ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.005	0.004	0.005	0.001	0.004	0.005	0.007	7	0.007	0.001	0.004	0.031
2	0.006	0.003	0.005	0.002	0.006	0.004	0.004	7	0.006	0.002	0.004	0.030
3	0.004	0.005	0.005	0.003	0.004	0.007	0.005	7	0.007	0.003	0.005	0.033
4	0.006	0.006	0.005	0.002	0.004	0.004	0.004	7	0.006	0.002	0.004	0.031
5	0.008	0.006	0.009	0.002	0.003	0.010	0.004	7	0.010	0.002	0.006	0.042
6	0.007	0.005	0.006	0.003	0.004	0.007	0.003	7	0.007	0.003	0.005	0.035
7	0.005	0.007	0.005	0.003	0.002	0.011	0.005	7	0.011	0.002	0.005	0.038
8	0.003	0.009	0.008	0.002	0.002	0.011	0.011	7	0.011	0.002	0.007	0.046
9	0.006	0.006	0.007	0.003	0.003	0.011	0.010	7	0.011	0.003	0.007	0.046
10	0.005	0.006	0.007	0.002	0.002	0.010	0.004	7	0.010	0.002	0.005	0.036
11	0.005	0.006	0.008	0.003	0.002	0.012	0.002	7	0.012	0.002	0.005	0.038
12	0.005	0.004	0.005	0.002	0.002	0.012	0.003	7	0.012	0.002	0.005	0.033
13	0.003	0.004	0.005	0.002	0.003	0.008	0.002	7	0.008	0.002	0.004	0.027
14	0.004	0.006	0.006	0.001	0.002	0.006	0.006	7	0.006	0.001	0.004	0.031
15	0.004	0.005	0.008	0.001	0.002	0.008	0.008	7	0.008	0.001	0.005	0.036
16	0.003	0.005	0.002	0.001	0.003	0.008	0.007	7	0.008	0.001	0.004	0.029
17	0.004	0.006	0.003	0.001	0.003	0.006	0.010	7	0.010	0.001	0.005	0.033
18	0.004	0.005	0.003	0.001	0.003	0.006	0.006	7	0.006	0.001	0.004	0.028
19	0.003	0.006	0.002	0.001	0.003	0.008	0.003	7	0.008	0.001	0.004	0.026
20	0.005	0.008	0.002	0.002	0.004	0.010	0.004	7	0.010	0.002	0.005	0.035
21	0.004	0.007	0.001	0.002	0.004	0.011	0.003	7	0.011	0.001	0.005	0.032
22	0.005	0.006	0.001	0.002	0.004	0.012	0.002	7	0.012	0.001	0.005	0.032
23	0.005	0.006	0.001	0.005	0.004	0.008	0.001	7	0.008	0.001	0.004	0.030
24	0.006	0.005	0.001	0.004	0.004	0.006	0.001	7	0.006	0.001	0.004	0.027
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.008	0.009	0.009	0.005	0.006	0.012	0.011		0.012			
最低	0.003	0.003	0.001	0.001	0.002	0.004	0.001			0.001		
平均	0.005	0.006	0.005	0.002	0.003	0.008	0.005		0.008	0.002	0.005	
合計	0.115	0.136	0.110	0.051	0.077	0.201	0.115					0.805

*印：日平均値の最高値

定量下限値未滿は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-3(3) 二酸化窒素測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時

調査地点：No.

単位：ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.004	0.005	0.006	0.000	0.005	0.005	0.010	7	0.010	0.000	0.005	0.035
2	0.004	0.004	0.006	0.001	0.004	0.005	0.003	7	0.006	0.001	0.004	0.027
3	0.002	0.005	0.006	0.000	0.003	0.006	0.004	7	0.006	0.000	0.004	0.026
4	0.004	0.004	0.006	0.001	0.004	0.005	0.003	7	0.006	0.001	0.004	0.027
5	0.004	0.004	0.008	0.000	0.003	0.007	0.002	7	0.008	0.000	0.004	0.028
6	0.005	0.004	0.004	0.002	0.004	0.006	0.003	7	0.006	0.002	0.004	0.028
7	0.005	0.003	0.005	0.002	0.002	0.011	0.003	7	0.011	0.002	0.004	0.031
8	0.003	0.008	0.007	0.001	0.003	0.010	0.005	7	0.010	0.001	0.005	0.037
9	0.004	0.010	0.009	0.002	0.003	0.007	0.006	7	0.010	0.002	0.006	0.041
10	0.006	0.007	0.008	0.002	0.003	0.010	0.005	7	0.010	0.002	0.006	0.041
11	0.004	0.006	0.007	0.002	0.003	0.012	0.004	7	0.012	0.002	0.005	0.038
12	0.004	0.006	0.005	0.002	0.003	0.009	0.004	7	0.009	0.002	0.005	0.033
13	0.003	0.006	0.005	0.001	0.003	0.005	0.004	7	0.006	0.001	0.004	0.027
14	0.004	0.007	0.007	0.002	0.002	0.005	0.004	7	0.007	0.002	0.004	0.031
15	0.004	0.008	0.006	0.002	0.003	0.007	0.004	7	0.008	0.002	0.005	0.034
16	0.004	0.008	0.003	0.002	0.003	0.009	0.005	7	0.009	0.002	0.005	0.034
17	0.004	0.007	0.004	0.002	0.003	0.008	0.008	7	0.008	0.002	0.005	0.036
18	0.002	0.006	0.003	0.001	0.003	0.007	0.006	7	0.007	0.001	0.004	0.028
19	0.002	0.008	0.002	0.001	0.003	0.009	0.004	7	0.009	0.001	0.004	0.029
20	0.005	0.012	0.001	0.002	0.004	0.011	0.003	7	0.012	0.001	0.005	0.038
21	0.006	0.011	0.001	0.001	0.004	0.015	0.004	7	0.015	0.001	0.006	0.042
22	0.006	0.010	0.000	0.001	0.004	0.014	0.001	7	0.014	0.000	0.005	0.036
23	0.005	0.010	0.000	0.002	0.005	0.012	0.001	7	0.012	0.000	0.005	0.035
24	0.006	0.007	0.000	0.003	0.005	0.007	0.001	7	0.007	0.000	0.004	0.029
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.006	0.012	0.009	0.003	0.005	0.015	0.010		0.015			
最低	0.002	0.003	0.000	0.000	0.002	0.005	0.001			0.000		
平均	0.004	0.007	0.005	0.001	0.003	0.008	0.004		0.008	0.001	0.005	
合計	0.100	0.166	0.109	0.035	0.082	0.202	0.097					0.791

*印：日平均値の最高値

定量下限値未满是、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-3(4) 二酸化窒素測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時

調査地点：No.

単位：ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.005	0.004	0.005	0.000	0.005	0.005	0.008	7	0.008	0.000	0.005	0.032
2	0.004	0.004	0.005	0.000	0.004	0.004	0.003	7	0.005	0.000	0.003	0.024
3	0.003	0.005	0.004	0.000	0.003	0.004	0.003	7	0.005	0.000	0.003	0.022
4	0.004	0.005	0.004	0.000	0.004	0.004	0.003	7	0.005	0.000	0.003	0.024
5	0.004	0.003	0.007	0.000	0.002	0.007	0.002	7	0.007	0.000	0.004	0.025
6	0.004	0.004	0.005	0.001	0.003	0.005	0.002	7	0.005	0.001	0.003	0.024
7	0.004	0.004	0.005	0.001	0.002	0.009	0.002	7	0.009	0.001	0.004	0.027
8	0.003	0.008	0.007	0.001	0.003	0.009	0.004	7	0.009	0.001	0.005	0.035
9	0.004	0.010	0.010	0.002	0.004	0.007	0.005	7	0.010	0.002	0.006	0.042
10	0.006	0.008	0.008	0.001	0.003	0.009	0.004	7	0.009	0.001	0.006	0.039
11	0.005	0.006	0.007	0.000	0.003	0.010	0.002	7	0.010	0.000	0.005	0.033
12	0.004	0.005	0.006	0.000	0.002	0.008	0.002	7	0.008	0.000	0.004	0.027
13	0.003	0.004	0.004	0.000	0.002	0.005	0.002	7	0.005	0.000	0.003	0.020
14	0.003	0.006	0.006	0.000	0.002	0.004	0.003	7	0.006	0.000	0.003	0.024
15	0.003	0.005	0.004	0.000	0.002	0.005	0.005	7	0.005	0.000	0.003	0.024
16	0.003	0.008	0.002	0.000	0.002	0.006	0.005	7	0.008	0.000	0.004	0.026
17	0.003	0.006	0.002	0.000	0.001	0.007	0.008	7	0.008	0.000	0.004	0.027
18	0.002	0.005	0.001	0.000	0.002	0.006	0.005	7	0.006	0.000	0.003	0.021
19	0.002	0.006	0.000	0.000	0.002	0.007	0.003	7	0.007	0.000	0.003	0.020
20	0.004	0.010	0.000	0.001	0.004	0.008	0.003	7	0.010	0.000	0.004	0.030
21	0.006	0.010	0.000	0.002	0.003	0.013	0.003	7	0.013	0.000	0.005	0.037
22	0.006	0.009	0.000	0.002	0.003	0.013	0.000	7	0.013	0.000	0.005	0.033
23	0.005	0.008	0.000	0.002	0.004	0.011	0.000	7	0.011	0.000	0.004	0.030
24	0.006	0.006	0.000	0.003	0.004	0.007	0.000	7	0.007	0.000	0.004	0.026
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.006	0.010	0.010	0.003	0.005	0.013	0.008		0.013			
最低	0.002	0.003	0.000	0.000	0.001	0.004	0.000			0.000		
平均	0.004	0.006	0.004	0.001	0.003	0.007	0.003		0.007	0.001	0.004	
合計	0.096	0.149	0.092	0.016	0.069	0.173	0.077					0.672

*印：日平均値の最高値

定量下限値未满是、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-3(5) 二酸化窒素測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時

調査地点：No.

単位：ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.005	0.003	0.004	0.000	0.004	0.002	0.005	7	0.005	0.000	0.003	0.023
2	0.003	0.003	0.003	0.002	0.003	0.002	0.003	7	0.003	0.002	0.003	0.019
3	0.003	0.003	0.004	0.002	0.003	0.002	0.002	7	0.004	0.002	0.003	0.019
4	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	7	0.003	0.003	0.003	0.021
5	0.003	0.003	0.004	0.002	0.003	0.004	0.004	7	0.004	0.002	0.003	0.023
6	0.002	0.002	0.003	0.002	0.002	0.003	0.002	7	0.003	0.002	0.002	0.016
7	0.003	0.002	0.002	0.001	0.002	0.004	0.004	7	0.004	0.001	0.003	0.018
8	0.002	0.003	0.003	0.001	0.002	0.003	0.004	7	0.004	0.001	0.003	0.018
9	0.003	0.003	0.006	0.002	0.002	0.007	0.007	7	0.007	0.002	0.004	0.030
10	0.004	0.007	0.005	0.001	0.002	0.006	0.008	7	0.008	0.001	0.005	0.033
11	0.001	0.002	0.006	0.002	0.002	0.003	0.006	7	0.006	0.001	0.003	0.022
12	0.004	0.001	0.008	0.001	0.004	0.009	0.007	7	0.009	0.001	0.005	0.034
13	0.004	0.005	0.003	0.002	0.002	0.005	0.005	7	0.005	0.002	0.004	0.026
14	0.002	0.003	0.006	0.001	0.001	0.005	0.004	7	0.006	0.001	0.003	0.022
15	0.001	0.002	0.005	0.001	0.002	0.005	0.002	7	0.005	0.001	0.003	0.018
16	0.002	0.003	0.003	0.002	0.001	0.006	0.003	7	0.006	0.001	0.003	0.020
17	0.005	0.000	0.003	0.001	0.004	0.001	0.005	7	0.005	0.000	0.003	0.019
18	0.001	0.002	0.002	0.001	0.001	0.005	0.005	7	0.005	0.001	0.002	0.017
19	0.000	0.004	0.002	0.002	0.003	0.004	0.004	7	0.004	0.000	0.003	0.019
20	0.000	0.007	0.001	0.002	0.002	0.003	0.003	7	0.007	0.000	0.003	0.018
21	0.002	0.005	0.001	0.002	0.001	0.006	0.002	7	0.006	0.001	0.003	0.019
22	0.002	0.005	0.001	0.000	0.003	0.008	0.002	7	0.008	0.000	0.003	0.021
23	0.003	0.005	0.001	0.003	0.002	0.006	0.000	7	0.006	0.000	0.003	0.020
24	0.003	0.005	0.001	0.004	0.001	0.004	0.002	7	0.005	0.001	0.003	0.020
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.005	0.007	0.008	0.004	0.004	0.009	0.008		0.009			
最低	0.000	0.000	0.001	0.000	0.001	0.001	0.000			0.000		
平均	0.003	0.003	0.003	0.002	0.002	0.004	0.004		0.004	0.002	0.003	
合計	0.061	0.081	0.080	0.040	0.055	0.106	0.092					0.515
						*	*					

*印：日平均値の最高値

定量下限値未満は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

3) 窒素酸化物

表1.1-4(1) 窒素酸化物測定結果詳細表 (No.A)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時

調査地点：No. A

単位：ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.003	0.004	0.005	0.001	0.004	0.005	0.007	7	0.007	0.001	0.004	0.029
2	0.003	0.004	0.005	0.001	0.003	0.004	0.003	7	0.005	0.001	0.003	0.023
3	0.003	0.004	0.005	0.001	0.003	0.004	0.003	7	0.005	0.001	0.003	0.023
4	0.003	0.004	0.004	0.001	0.003	0.003	0.002	7	0.004	0.001	0.003	0.020
5	0.004	0.004	0.006	0.001	0.003	0.005	0.002	7	0.006	0.001	0.004	0.025
6	0.006	0.005	0.005	0.001	0.003	0.006	0.002	7	0.006	0.001	0.004	0.028
7	0.005	0.004	0.006	0.001	0.002	0.009	0.002	7	0.009	0.001	0.004	0.029
8	0.003	0.010	0.008	0.001	0.002	0.011	0.004	7	0.011	0.001	0.006	0.039
9	0.006	0.012	0.011	0.002	0.004	0.010	0.007	7	0.012	0.002	0.007	0.052
10	0.009	0.010	0.011	0.002	0.004	0.017	0.003	7	0.017	0.002	0.008	0.056
11	0.008	0.009	0.010	0.001	0.003	0.020	0.003	7	0.020	0.001	0.008	0.054
12	0.006	0.008	0.011	0.001	0.003	0.014	0.002	7	0.014	0.001	0.006	0.045
13	0.005	0.007	0.007	0.001	0.003	0.007	0.002	7	0.007	0.001	0.005	0.032
14	0.006	0.009	0.010	0.001	0.002	0.007	0.004	7	0.010	0.001	0.006	0.039
15	0.006	0.009	0.005	0.001	0.002	0.009	0.006	7	0.009	0.001	0.005	0.038
16	0.005	0.008	0.002	0.001	0.002	0.011	0.005	7	0.011	0.001	0.005	0.034
17	0.005	0.007	0.003	0.001	0.002	0.009	0.007	7	0.009	0.001	0.005	0.034
18	0.002	0.004	0.002	0.001	0.002	0.006	0.005	7	0.006	0.001	0.003	0.022
19	0.002	0.007	0.001	0.001	0.002	0.006	0.004	7	0.007	0.001	0.003	0.023
20	0.004	0.010	0.001	0.001	0.004	0.010	0.003	7	0.010	0.001	0.005	0.033
21	0.005	0.009	0.001	0.001	0.003	0.011	0.003	7	0.011	0.001	0.005	0.033
22	0.005	0.009	0.001	0.002	0.003	0.010	0.001	7	0.010	0.001	0.004	0.031
23	0.005	0.007	0.001	0.002	0.003	0.009	0.001	7	0.009	0.001	0.004	0.028
24	0.005	0.005	0.001	0.003	0.003	0.007	0.001	7	0.007	0.001	0.004	0.025
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.009	0.012	0.011	0.003	0.004	0.020	0.007		0.020			
最低	0.002	0.004	0.001	0.001	0.002	0.003	0.001			0.001		
平均	0.005	0.007	0.005	0.001	0.003	0.009	0.003		0.009	0.001	0.005	
合計	0.114	0.169	0.122	0.030	0.068	0.210	0.082					0.795
						*	*					

*印：日平均値の最高値

定量下限値未満は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-4(2) 窒素酸化物測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時
 調査地点：No.

単位：ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.005	0.005	0.006	0.001	0.004	0.005	0.008	7	0.008	0.001	0.005	0.034
2	0.007	0.003	0.005	0.002	0.007	0.004	0.004	7	0.007	0.002	0.005	0.032
3	0.004	0.006	0.006	0.003	0.004	0.009	0.006	7	0.009	0.003	0.005	0.038
4	0.007	0.008	0.006	0.002	0.004	0.004	0.004	7	0.008	0.002	0.005	0.035
5	0.009	0.009	0.011	0.002	0.003	0.015	0.004	7	0.015	0.002	0.008	0.053
6	0.009	0.007	0.008	0.004	0.005	0.009	0.004	7	0.009	0.004	0.007	0.046
7	0.007	0.012	0.008	0.004	0.003	0.020	0.006	7	0.020	0.003	0.009	0.060
8	0.005	0.014	0.011	0.003	0.003	0.016	0.014	7	0.016	0.003	0.009	0.066
9	0.010	0.010	0.009	0.004	0.004	0.015	0.013	7	0.015	0.004	0.009	0.065
10	0.007	0.009	0.009	0.003	0.003	0.013	0.005	7	0.013	0.003	0.007	0.049
11	0.008	0.008	0.010	0.004	0.003	0.016	0.002	7	0.016	0.002	0.007	0.051
12	0.007	0.006	0.006	0.003	0.003	0.016	0.004	7	0.016	0.003	0.006	0.045
13	0.005	0.005	0.006	0.003	0.004	0.010	0.002	7	0.010	0.002	0.005	0.035
14	0.006	0.008	0.007	0.002	0.003	0.007	0.008	7	0.008	0.002	0.006	0.041
15	0.006	0.007	0.009	0.001	0.002	0.010	0.010	7	0.010	0.001	0.006	0.045
16	0.004	0.006	0.002	0.001	0.004	0.010	0.009	7	0.010	0.001	0.005	0.036
17	0.005	0.007	0.003	0.001	0.004	0.007	0.012	7	0.012	0.001	0.006	0.039
18	0.005	0.006	0.003	0.001	0.004	0.007	0.007	7	0.007	0.001	0.005	0.033
19	0.004	0.007	0.002	0.001	0.003	0.009	0.003	7	0.009	0.001	0.004	0.029
20	0.006	0.008	0.002	0.002	0.004	0.011	0.004	7	0.011	0.002	0.005	0.037
21	0.004	0.007	0.001	0.002	0.004	0.011	0.003	7	0.011	0.001	0.005	0.032
22	0.005	0.006	0.001	0.002	0.005	0.013	0.002	7	0.013	0.001	0.005	0.034
23	0.005	0.006	0.001	0.005	0.005	0.008	0.001	7	0.008	0.001	0.004	0.031
24	0.007	0.006	0.001	0.004	0.004	0.007	0.001	7	0.007	0.001	0.004	0.030
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.010	0.014	0.011	0.005	0.007	0.020	0.014		0.020			
最低	0.004	0.003	0.001	0.001	0.002	0.004	0.001			0.001		
平均	0.006	0.007	0.006	0.003	0.004	0.011	0.006		0.011	0.003	0.006	
合計	0.147	0.176	0.133	0.060	0.092	0.252	0.136					0.996

*印：日平均値の最高値

定量下限値未達は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-4(3) 窒素酸化物測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時
 調査地点：No.

単位：ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.004	0.005	0.006	0.000	0.005	0.005	0.010	7	0.010	0.000	0.005	0.035
2	0.004	0.004	0.006	0.001	0.004	0.005	0.003	7	0.006	0.001	0.004	0.027
3	0.002	0.005	0.006	0.000	0.003	0.006	0.004	7	0.006	0.000	0.004	0.026
4	0.004	0.004	0.006	0.001	0.004	0.005	0.003	7	0.006	0.001	0.004	0.027
5	0.004	0.004	0.008	0.000	0.003	0.007	0.002	7	0.008	0.000	0.004	0.028
6	0.007	0.005	0.005	0.002	0.004	0.006	0.003	7	0.007	0.002	0.005	0.032
7	0.007	0.005	0.007	0.002	0.002	0.013	0.003	7	0.013	0.002	0.006	0.039
8	0.003	0.012	0.009	0.001	0.003	0.012	0.005	7	0.012	0.001	0.006	0.045
9	0.005	0.014	0.012	0.002	0.004	0.009	0.006	7	0.014	0.002	0.007	0.052
10	0.008	0.009	0.010	0.002	0.003	0.012	0.006	7	0.012	0.002	0.007	0.050
11	0.006	0.008	0.009	0.002	0.003	0.014	0.005	7	0.014	0.002	0.007	0.047
12	0.005	0.007	0.007	0.002	0.003	0.011	0.004	7	0.011	0.002	0.006	0.039
13	0.003	0.006	0.005	0.001	0.003	0.006	0.004	7	0.006	0.001	0.004	0.028
14	0.005	0.009	0.008	0.002	0.002	0.005	0.004	7	0.009	0.002	0.005	0.035
15	0.005	0.009	0.006	0.002	0.003	0.007	0.005	7	0.009	0.002	0.005	0.037
16	0.005	0.009	0.003	0.002	0.003	0.009	0.005	7	0.009	0.002	0.005	0.036
17	0.004	0.008	0.004	0.002	0.003	0.008	0.008	7	0.008	0.002	0.005	0.037
18	0.002	0.006	0.003	0.001	0.003	0.007	0.006	7	0.007	0.001	0.004	0.028
19	0.002	0.008	0.002	0.001	0.003	0.009	0.004	7	0.009	0.001	0.004	0.029
20	0.005	0.012	0.001	0.002	0.004	0.011	0.003	7	0.012	0.001	0.005	0.038
21	0.006	0.011	0.001	0.001	0.004	0.015	0.004	7	0.015	0.001	0.006	0.042
22	0.006	0.010	0.000	0.001	0.004	0.014	0.001	7	0.014	0.000	0.005	0.036
23	0.005	0.010	0.000	0.002	0.005	0.012	0.001	7	0.012	0.000	0.005	0.035
24	0.006	0.007	0.000	0.003	0.005	0.007	0.001	7	0.007	0.000	0.004	0.029
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.008	0.014	0.012	0.003	0.005	0.015	0.010		0.015			
最低	0.002	0.004	0.000	0.000	0.002	0.005	0.001			0.000		
平均	0.005	0.008	0.005	0.001	0.003	0.009	0.004		0.009	0.001	0.005	
合計	0.113	0.187	0.124	0.035	0.083	0.215	0.100					0.857

*印：日平均値の最高値

定量下限値未達は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-4(4) 窒素酸化物測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時
 調査地点：No.

単位：ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.005	0.004	0.005	0.000	0.005	0.005	0.008	7	0.008	0.000	0.005	0.032
2	0.004	0.004	0.005	0.000	0.004	0.004	0.003	7	0.005	0.000	0.003	0.024
3	0.003	0.005	0.004	0.000	0.003	0.004	0.003	7	0.005	0.000	0.003	0.022
4	0.004	0.005	0.004	0.000	0.004	0.004	0.003	7	0.005	0.000	0.003	0.024
5	0.004	0.003	0.007	0.000	0.002	0.008	0.002	7	0.008	0.000	0.004	0.026
6	0.004	0.005	0.005	0.001	0.003	0.005	0.002	7	0.005	0.001	0.004	0.025
7	0.005	0.005	0.006	0.001	0.002	0.011	0.002	7	0.011	0.001	0.005	0.032
8	0.003	0.011	0.008	0.001	0.003	0.011	0.004	7	0.011	0.001	0.006	0.041
9	0.004	0.013	0.010	0.002	0.004	0.008	0.005	7	0.013	0.002	0.007	0.046
10	0.006	0.008	0.008	0.001	0.003	0.010	0.004	7	0.010	0.001	0.006	0.040
11	0.005	0.006	0.007	0.000	0.003	0.011	0.002	7	0.011	0.000	0.005	0.034
12	0.004	0.005	0.006	0.000	0.002	0.009	0.002	7	0.009	0.000	0.004	0.028
13	0.003	0.004	0.004	0.000	0.002	0.005	0.002	7	0.005	0.000	0.003	0.020
14	0.003	0.006	0.006	0.000	0.002	0.004	0.003	7	0.006	0.000	0.003	0.024
15	0.003	0.005	0.004	0.000	0.002	0.005	0.005	7	0.005	0.000	0.003	0.024
16	0.003	0.008	0.002	0.000	0.002	0.006	0.005	7	0.008	0.000	0.004	0.026
17	0.003	0.006	0.002	0.000	0.001	0.007	0.008	7	0.008	0.000	0.004	0.027
18	0.002	0.005	0.001	0.000	0.002	0.006	0.005	7	0.006	0.000	0.003	0.021
19	0.002	0.006	0.000	0.000	0.002	0.007	0.003	7	0.007	0.000	0.003	0.020
20	0.004	0.010	0.000	0.001	0.004	0.008	0.003	7	0.010	0.000	0.004	0.030
21	0.006	0.010	0.000	0.002	0.003	0.013	0.003	7	0.013	0.000	0.005	0.037
22	0.006	0.009	0.000	0.002	0.003	0.013	0.000	7	0.013	0.000	0.005	0.033
23	0.005	0.008	0.000	0.002	0.004	0.011	0.000	7	0.011	0.000	0.004	0.030
24	0.006	0.006	0.000	0.003	0.004	0.007	0.000	7	0.007	0.000	0.004	0.026
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.006	0.013	0.010	0.003	0.005	0.013	0.008		0.013			
最低	0.002	0.003	0.000	0.000	0.001	0.004	0.000			0.000		
平均	0.004	0.007	0.004	0.001	0.003	0.008	0.003		0.008	0.001	0.004	
合計	0.097	0.157	0.094	0.016	0.069	0.182	0.077					0.692

*印：日平均値の最高値

定量下限値未滿は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-4(5) 窒素酸化物測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時
 調査地点：No.

単位：ppm

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.008	0.003	0.004	0.000	0.006	0.002	0.005	7	0.008	0.000	0.004	0.028
2	0.005	0.003	0.005	0.002	0.004	0.002	0.006	7	0.006	0.002	0.004	0.027
3	0.004	0.003	0.004	0.002	0.003	0.002	0.002	7	0.004	0.002	0.003	0.020
4	0.003	0.005	0.006	0.003	0.003	0.003	0.005	7	0.006	0.003	0.004	0.028
5	0.004	0.005	0.007	0.002	0.004	0.006	0.005	7	0.007	0.002	0.005	0.033
6	0.005	0.005	0.005	0.002	0.003	0.005	0.002	7	0.005	0.002	0.004	0.027
7	0.006	0.005	0.005	0.003	0.002	0.009	0.005	7	0.009	0.002	0.005	0.035
8	0.003	0.007	0.007	0.003	0.002	0.008	0.006	7	0.008	0.002	0.005	0.036
9	0.005	0.009	0.012	0.003	0.002	0.026	0.014	7	0.026	0.002	0.010	0.071
10	0.010	0.016	0.014	0.003	0.006	0.017	0.018	7	0.018	0.003	0.012	0.084
11	0.006	0.009	0.016	0.003	0.002	0.013	0.015	7	0.016	0.002	0.009	0.064
12	0.009	0.007	0.017	0.002	0.006	0.023	0.013	7	0.023	0.002	0.011	0.077
13	0.009	0.010	0.007	0.002	0.004	0.011	0.013	7	0.013	0.002	0.008	0.056
14	0.007	0.005	0.014	0.002	0.001	0.010	0.008	7	0.014	0.001	0.007	0.047
15	0.005	0.004	0.007	0.003	0.002	0.012	0.005	7	0.012	0.002	0.005	0.038
16	0.006	0.005	0.003	0.003	0.003	0.010	0.005	7	0.010	0.003	0.005	0.035
17	0.010	0.005	0.004	0.003	0.004	0.006	0.008	7	0.010	0.003	0.006	0.040
18	0.001	0.002	0.002	0.002	0.001	0.005	0.006	7	0.006	0.001	0.003	0.019
19	0.001	0.004	0.002	0.002	0.003	0.007	0.004	7	0.007	0.001	0.003	0.023
20	0.006	0.007	0.001	0.004	0.002	0.006	0.004	7	0.007	0.001	0.004	0.030
21	0.002	0.007	0.001	0.002	0.001	0.006	0.003	7	0.007	0.001	0.003	0.022
22	0.003	0.005	0.001	0.000	0.003	0.011	0.002	7	0.011	0.000	0.004	0.025
23	0.003	0.006	0.003	0.005	0.002	0.008	0.010	7	0.010	0.002	0.005	0.037
24	0.005	0.005	0.001	0.004	0.001	0.007	0.004	7	0.007	0.001	0.004	0.027
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.010	0.016	0.017	0.005	0.006	0.026	0.018		0.026			
最低	0.001	0.002	0.001	0.000	0.001	0.002	0.002			0.000		
平均	0.005	0.006	0.006	0.003	0.003	0.009	0.007		0.009	0.003	0.006	
合計	0.126	0.142	0.148	0.060	0.070	0.215	0.168					0.929

*印：日平均値の最高値

定量下限値未滿は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

4)浮遊粒子状物質

表1.1-5(1) 浮遊粒子状物質測定結果詳細表 (No.A)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時
調査地点：No. A

単位:mg/m³

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.016	0.011	0.029	0.010	0.006	0.022	0.024	7	0.029	0.006	0.017	0.118
2	0.015	0.014	0.020	0.009	0.004	0.028	0.019	7	0.028	0.004	0.016	0.109
3	0.012	0.010	0.019	0.011	0.006	0.028	0.011	7	0.028	0.006	0.014	0.097
4	0.009	0.010	0.014	0.012	0.003	0.014	0.010	7	0.014	0.003	0.010	0.072
5	0.017	0.013	0.022	0.011	0.004	0.018	0.013	7	0.022	0.004	0.014	0.098
6	0.008	0.012	0.018	0.010	0.004	0.019	0.010	7	0.019	0.004	0.012	0.081
7	0.010	0.010	0.018	0.008	0.006	0.023	0.008	7	0.023	0.006	0.012	0.083
8	0.011	0.020	0.024	0.012	0.013	0.026	0.010	7	0.026	0.010	0.017	0.116
9	0.016	0.023	0.029	0.016	0.016	0.033	0.013	7	0.033	0.013	0.021	0.146
10	0.016	0.021	0.028	0.011	0.013	0.033	0.011	7	0.033	0.011	0.019	0.133
11	0.014	0.026	0.032	0.009	0.007	0.035	0.009	7	0.035	0.007	0.019	0.132
12	0.014	0.019	0.028	0.007	0.011	0.038	0.008	7	0.038	0.007	0.018	0.125
13	0.014	0.026	0.024	0.007	0.011	0.030	0.009	7	0.030	0.007	0.017	0.121
14	0.011	0.025	0.027	0.009	0.011	0.032	0.010	7	0.032	0.009	0.018	0.125
15	0.012	0.025	0.026	0.004	0.020	0.033	0.011	7	0.033	0.004	0.019	0.131
16	0.010	0.026	0.027	0.007	0.020	0.031	0.010	7	0.031	0.007	0.019	0.131
17	0.016	0.028	0.023	0.006	0.025	0.032	0.011	7	0.032	0.006	0.020	0.141
18	0.011	0.028	0.022	0.009	0.022	0.039	0.013	7	0.039	0.009	0.021	0.144
19	0.013	0.029	0.011	0.006	0.022	0.037	0.010	7	0.037	0.006	0.018	0.128
20	0.013	0.031	0.007	0.005	0.021	0.036	0.009	7	0.036	0.005	0.017	0.122
21	0.017	0.029	0.006	0.004	0.021	0.033	0.010	7	0.033	0.004	0.017	0.120
22	0.012	0.031	0.009	0.005	0.018	0.032	0.004	7	0.032	0.004	0.016	0.111
23	0.014	0.025	0.009	0.005	0.017	0.031	0.003	7	0.031	0.003	0.015	0.104
24	0.010	0.023	0.008	0.006	0.021	0.033	0.006	7	0.033	0.006	0.015	0.107
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.017	0.031	0.032	0.016	0.025	0.039	0.024		0.039			
最低	0.008	0.010	0.006	0.004	0.003	0.014	0.003			0.003		
平均	0.013	0.021	0.020	0.008	0.013	0.030	0.011		0.030	0.008	0.017	
合計	0.311	0.515	0.480	0.199	0.322	0.716	0.252					2.795

*印:日平均値の最高値

定量下限値未滿は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-5(2) 浮遊粒子状物質測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時
調査地点：No.

単位:mg/m³

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.016	0.011	0.013	0.012	0.006	0.023	0.015	7	0.023	0.006	0.014	0.096
2	0.015	0.011	0.014	0.006	0.005	0.010	0.017	7	0.017	0.005	0.011	0.078
3	0.013	0.013	0.018	0.009	0.008	0.016	0.010	7	0.018	0.008	0.012	0.087
4	0.011	0.013	0.016	0.009	0.009	0.011	0.007	7	0.016	0.007	0.011	0.076
5	0.013	0.010	0.015	0.009	0.007	0.014	0.009	7	0.015	0.007	0.011	0.077
6	0.017	0.016	0.022	0.015	0.011	0.011	0.011	7	0.022	0.011	0.015	0.103
7	0.021	0.018	0.026	0.009	0.012	0.013	0.006	7	0.026	0.006	0.015	0.105
8	0.021	0.027	0.036	0.012	0.015	0.017	0.007	7	0.036	0.007	0.019	0.135
9	0.018	0.027	0.029	0.009	0.013	0.021	0.009	7	0.029	0.009	0.018	0.126
10	0.015	0.004	0.014	0.007	0.008	0.013	0.014	7	0.015	0.004	0.011	0.075
11	0.014	0.021	0.021	0.012	0.006	0.020	0.004	7	0.021	0.004	0.014	0.098
12	0.005	0.020	0.034	0.008	0.001	0.016	0.012	7	0.034	0.001	0.014	0.096
13	0.023	0.012	0.018	0.008	0.011	0.018	0.013	7	0.023	0.008	0.015	0.103
14	0.021	0.019	0.016	0.008	0.011	0.026	0.012	7	0.026	0.008	0.016	0.113
15	0.010	0.012	0.024	0.004	0.009	0.016	0.009	7	0.024	0.004	0.012	0.084
16	0.009	0.015	0.023	0.004	0.011	0.019	0.007	7	0.023	0.004	0.013	0.088
17	0.010	0.012	0.024	0.007	0.010	0.021	0.012	7	0.024	0.007	0.014	0.096
18	0.008	0.016	0.021	0.005	0.011	0.015	0.012	7	0.021	0.005	0.013	0.088
19	0.009	0.015	0.008	0.008	0.011	0.018	0.009	7	0.018	0.008	0.011	0.078
20	0.012	0.015	0.005	0.009	0.013	0.021	0.007	7	0.021	0.005	0.012	0.082
21	0.006	0.014	0.007	0.009	0.014	0.015	0.005	7	0.015	0.005	0.010	0.070
22	0.008	0.015	0.007	0.008	0.014	0.020	0.006	7	0.020	0.006	0.011	0.078
23	0.013	0.018	0.017	0.006	0.015	0.017	0.003	7	0.018	0.003	0.013	0.089
24	0.010	0.011	0.009	0.006	0.011	0.020	0.008	7	0.020	0.006	0.011	0.075
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.023	0.027	0.036	0.015	0.015	0.026	0.017		0.036			
最低	0.005	0.004	0.005	0.004	0.001	0.010	0.003			0.001		
平均	0.013	0.015	0.018	0.008	0.010	0.017	0.009		0.018	0.008	0.013	
合計	0.318	0.365	0.437	0.199	0.242	0.411	0.224					2.196

*印:日平均値の最高値

定量下限値未滿は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-5(3) 浮遊粒子状物質測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時
 調査地点：No.

単位：mg/m³

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.012	0.012	0.021	0.008	0.005	0.021	0.028	7	0.028	0.005	0.015	0.107
2	0.010	0.011	0.021	0.009	0.006	0.025	0.016	7	0.025	0.006	0.014	0.098
3	0.015	0.014	0.020	0.010	0.006	0.025	0.012	7	0.025	0.006	0.015	0.102
4	0.011	0.012	0.016	0.012	0.004	0.013	0.011	7	0.016	0.004	0.011	0.079
5	0.013	0.009	0.019	0.010	0.005	0.017	0.011	7	0.019	0.005	0.012	0.084
6	0.015	0.017	0.021	0.011	0.007	0.019	0.005	7	0.021	0.005	0.014	0.095
7	0.030	0.030	0.038	0.016	0.024	0.023	0.011	7	0.038	0.011	0.025	0.172
8	0.026	0.034	0.041	0.022	0.019	0.029	0.016	7	0.041	0.016	0.027	0.187
9	0.020	0.024	0.030	0.016	0.014	0.033	0.013	7	0.033	0.013	0.021	0.150
10	0.019	0.024	0.025	0.008	0.002	0.025	0.010	7	0.025	0.002	0.016	0.113
11	0.005	0.024	0.030	0.011	0.013	0.027	0.009	7	0.030	0.005	0.017	0.119
12	0.024	0.035	0.030	0.000	0.020	0.039	0.013	7	0.039	0.000	0.023	0.161
13	0.019	0.032	0.021	0.021	0.014	0.041	0.012	7	0.041	0.012	0.023	0.160
14	0.021	0.023	0.031	0.011	0.020	0.033	0.009	7	0.033	0.009	0.021	0.148
15	0.018	0.028	0.013	0.008	0.016	0.035	0.010	7	0.035	0.008	0.018	0.128
16	0.013	0.018	0.025	0.007	0.021	0.029	0.011	7	0.029	0.007	0.018	0.124
17	0.004	0.023	0.034	0.000	0.009	0.025	0.014	7	0.034	0.000	0.016	0.109
18	0.006	0.017	0.014	0.000	0.017	0.027	0.009	7	0.027	0.000	0.013	0.090
19	0.011	0.024	0.004	0.004	0.019	0.031	0.010	7	0.031	0.004	0.015	0.103
20	0.011	0.027	0.004	0.000	0.020	0.036	0.008	7	0.036	0.000	0.015	0.106
21	0.013	0.030	0.007	0.002	0.020	0.033	0.007	7	0.033	0.002	0.016	0.112
22	0.015	0.025	0.009	0.002	0.020	0.032	0.000	7	0.032	0.000	0.015	0.103
23	0.011	0.023	0.009	0.002	0.023	0.030	0.003	7	0.030	0.002	0.014	0.101
24	0.012	0.024	0.010	0.004	0.022	0.030	0.003	7	0.030	0.003	0.015	0.105
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.030	0.035	0.041	0.022	0.024	0.041	0.028		0.041			
最低	0.004	0.009	0.004	0.000	0.002	0.013	0.000			0.000		
平均	0.015	0.023	0.021	0.008	0.014	0.028	0.010		0.028	0.008	0.017	
合計	0.354	0.540	0.493	0.194	0.346	0.678	0.251					2.856

*印：日平均値の最高値

定量下限値未滿は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-5(4) 浮遊粒子状物質測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時
 調査地点：No.

単位：mg/m³

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	0.016	0.012	0.023	0.010	0.003	0.020	0.023	7	0.023	0.003	0.015	0.107
2	0.012	0.013	0.020	0.009	0.007	0.021	0.015	7	0.021	0.007	0.014	0.097
3	0.012	0.012	0.021	0.007	0.003	0.019	0.010	7	0.021	0.003	0.012	0.084
4	0.012	0.012	0.020	0.010	0.003	0.015	0.006	7	0.020	0.003	0.011	0.078
5	0.011	0.014	0.023	0.010	0.000	0.020	0.009	7	0.023	0.000	0.012	0.087
6	0.017	0.013	0.023	0.009	0.005	0.015	0.005	7	0.023	0.005	0.012	0.087
7	0.019	0.013	0.026	0.010	0.010	0.022	0.009	7	0.026	0.009	0.016	0.109
8	0.017	0.019	0.028	0.010	0.007	0.018	0.010	7	0.028	0.007	0.016	0.109
9	0.026	0.024	0.029	0.013	0.018	0.027	0.011	7	0.029	0.011	0.021	0.148
10	0.019	0.020	0.028	0.008	0.017	0.024	0.008	7	0.028	0.008	0.018	0.124
11	0.011	0.015	0.017	0.008	0.006	0.024	0.003	7	0.024	0.003	0.012	0.084
12	0.016	0.025	0.024	0.003	0.010	0.024	0.010	7	0.025	0.003	0.016	0.112
13	0.014	0.020	0.028	0.006	0.012	0.025	0.008	7	0.028	0.006	0.016	0.113
14	0.014	0.026	0.027	0.005	0.010	0.025	0.011	7	0.027	0.005	0.017	0.118
15	0.014	0.027	0.025	0.005	0.014	0.026	0.010	7	0.027	0.005	0.017	0.121
16	0.013	0.025	0.030	0.007	0.020	0.026	0.010	7	0.030	0.007	0.019	0.131
17	0.011	0.019	0.030	0.005	0.015	0.028	0.014	7	0.030	0.005	0.017	0.122
18	0.004	0.015	0.014	0.000	0.015	0.028	0.011	7	0.028	0.000	0.012	0.087
19	0.006	0.017	0.002	0.000	0.012	0.027	0.010	7	0.027	0.000	0.011	0.074
20	0.010	0.023	0.002	0.003	0.017	0.026	0.007	7	0.026	0.002	0.013	0.088
21	0.013	0.023	0.006	0.002	0.016	0.026	0.007	7	0.026	0.002	0.013	0.093
22	0.011	0.024	0.010	0.006	0.018	0.028	0.000	7	0.028	0.000	0.014	0.097
23	0.009	0.025	0.008	0.003	0.019	0.027	0.001	7	0.027	0.001	0.013	0.092
24	0.011	0.024	0.009	0.001	0.018	0.027	0.000	7	0.027	0.000	0.013	0.090
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	0.026	0.027	0.030	0.013	0.020	0.028	0.023		0.030			
最低	0.004	0.012	0.002	0.000	0.000	0.015	0.000			0.000		
平均	0.013	0.019	0.020	0.006	0.011	0.024	0.009		0.024	0.006	0.015	
合計	0.318	0.460	0.473	0.150	0.275	0.568	0.208					2.452

*印：日平均値の最高値

定量下限値未滿は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

表1.1-5(5) 浮遊粒子状物質測定結果詳細表 (No.)

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時

調査地点：No.

単位：mg/m³

時	日(曜)	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1		0.008	0.006	0.017	0.007	0.005	0.015	0.016	7	0.017	0.005	0.011	0.074
2		0.009	0.008	0.014	0.006	0.000	0.018	0.009	7	0.018	0.000	0.009	0.064
3		0.010	0.006	0.012	0.008	0.002	0.014	0.007	7	0.014	0.002	0.008	0.059
4		0.008	0.007	0.013	0.006	0.000	0.010	0.003	7	0.013	0.000	0.007	0.047
5		0.010	0.007	0.012	0.005	0.001	0.012	0.011	7	0.012	0.001	0.008	0.058
6		0.010	0.010	0.013	0.008	0.006	0.011	0.004	7	0.013	0.004	0.009	0.062
7		0.016	0.016	0.013	0.005	0.005	0.015	0.008	7	0.016	0.005	0.011	0.078
8		0.016	0.016	0.015	0.005	0.004	0.014	0.008	7	0.016	0.004	0.011	0.078
9		0.012	0.017	0.018	0.006	0.005	0.019	0.009	7	0.019	0.005	0.012	0.086
10		0.009	0.012	0.018	0.004	0.007	0.021	0.008	7	0.021	0.004	0.011	0.079
11		0.007	0.008	0.019	0.006	0.006	0.021	0.008	7	0.021	0.006	0.011	0.075
12		0.007	0.013	0.023	0.004	0.006	0.021	0.006	7	0.023	0.004	0.011	0.080
13		0.009	0.015	0.018	0.004	0.007	0.020	0.009	7	0.020	0.004	0.012	0.082
14		0.010	0.014	0.019	0.001	0.008	0.021	0.006	7	0.021	0.001	0.011	0.079
15		0.009	0.018	0.018	0.006	0.011	0.021	0.005	7	0.021	0.005	0.013	0.088
16		0.006	0.017	0.022	0.002	0.012	0.015	0.007	7	0.022	0.002	0.012	0.081
17		0.007	0.019	0.019	0.004	0.012	0.020	0.009	7	0.020	0.004	0.013	0.090
18		0.003	0.015	0.012	0.003	0.012	0.026	0.006	7	0.026	0.003	0.011	0.077
19		0.008	0.018	0.005	0.002	0.013	0.029	0.007	7	0.029	0.002	0.012	0.082
20		0.008	0.019	0.005	0.001	0.014	0.028	0.005	7	0.028	0.001	0.011	0.080
21		0.007	0.019	0.007	0.003	0.015	0.022	0.001	7	0.022	0.001	0.011	0.074
22		0.009	0.019	0.006	0.003	0.011	0.023	0.000	7	0.023	0.000	0.010	0.071
23		0.007	0.018	0.008	0.002	0.014	0.024	0.002	7	0.024	0.002	0.011	0.075
24		0.007	0.017	0.006	0.002	0.015	0.019	0.002	7	0.019	0.002	0.010	0.068
測定数		24	24	24	24	24	24	24	168				
最高		0.016	0.019	0.023	0.008	0.015	0.029	0.016		0.029			
最低		0.003	0.006	0.005	0.001	0.000	0.010	0.000			0.000		
平均		0.009	0.014	0.014	0.004	0.008	0.019	0.007		0.019	0.004	0.011	
合計		0.212	0.334	0.332	0.103	0.191	0.459	0.156					1.787
							*						

*印：日平均値の最高値

定量下限値未満は、「0.000」と表示し、集計値の算出においては0として計算した。

1.1.2 風向・風速

(1)令和6年3月9日～15日(工事用車両の走行)

表1.1-6(1) 地上風向測定結果詳細表(No.A)

測定期間：令和6年3月9日(土)0時～3月15日(金)24時
調査地点：No.A

時	日(曜)	9日(土)	10日(日)	11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)	測定数	最多風向	風向	頻度	出現率(%)
1		NNW	ESE	WSW	CaIm	NW	NE	WNW	7	NW	N	15	8.9
2		NNW	CaIm	NW	WNW	NNW	NNW	CaIm	7	NNW	NNE	6	3.5
3		N	N	ENE	W	NNW	NW	CaIm	7	N	NE	5	3.0
4		N	WNW	CaIm	CaIm	NNW	N	CaIm	7	N	ENE	2	1.2
5		NNW	WNW	CaIm	WNW	NW	CaIm	NE	7	WNW	E	1	0.6
6		WNW	WNW	W	WNW	NW	NNE	CaIm	7	WNW	ESE	4	2.4
7		CaIm	NW	WNW	NW	WNW	WNW	NNE	7	WNW	SE	0	0.0
8		WNW	NW	SW	WNW	WNW	SW	CaIm	7	WNW	SSE	1	0.6
9		W	WNW	SSW	CaIm	WNW	SW	ESE	7	WNW	S	1	0.6
10		WNW	WNW	SW	CaIm	WNW	SSW	W	7	WNW	SSW	2	1.2
11		WNW	W	WSW	CaIm	WNW	WSW	W	7	W	SW	5	3.0
12		WNW	W	W	CaIm	WNW	W	WSW	7	W	WSW	5	3.0
13		WNW	WNW	WNW	NW	NW	W	W	7	WNW	W	23	13.7
14		N	WNW	ESE	SW	NNW	W	WSW	7	W	WNW	44	26.2
15		N	WNW	S	CaIm	N	WNW	W	7	WNW	NW	19	11.3
16		N	WNW	SSE	N	NW	W	W	7	W	NNW	18	10.7
17		NNW	WNW	ESE	NNW	NW	NW	W	7	NW	CaIm	17	10.1
18		NNW	NNW	NW	N	NW	W	W	7	NNW	合計	168	100.0
19		N	N	NW	NNW	N	WNW	W	7	N			
20		NE	NNW	WNW	NNW	WNW	WNW	W	7	WNW			
21		NE	NE	WNW	NNW	NNE	WNW	W	7	WNW			
22		N	W	WNW	NW	NNE	WNW	WNW	7	WNW			
23		N	NNE	NW	NNW	E	WNW	WNW	7	WNW			
24		NNE	NW	WNW	NNW	ENE	W	WNW	7	WNW			
測定数		24	24	24	24	24	24	24	168				
最多風向		N	WNW	WNW	NNW	NW	WNW	W		WNW			

注) 最多風向は、「地上気象観測指針」に準拠した。
静穏(CaIm)：風速0.4m/s以下
出現率は合計が100.0となるよう調整している。

表1.1-6(2) 地上風速測定結果詳細表(No.A)

測定期間：令和6年3月9日(土)0時～3月15日(金)24時
調査地点：No.A

単位:m/s

時	日(曜)	9日(土)	10日(日)	11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)	測定数	最高	最低	平均	合計
1		1.4	1.2	0.7	0.3	2.5	0.8	1.7	7	2.5	0.3	1.2	8.6
2		1.8	0.3	0.7	0.7	3.8	0.5	0.2	7	3.8	0.2	1.1	8.0
3		0.7	0.6	0.5	0.9	2.9	0.9	0.2	7	2.9	0.2	1.0	6.7
4		1.7	0.7	0.2	0.3	3.2	0.7	0.1	7	3.2	0.1	1.0	6.9
5		2.2	0.8	0.1	1.0	6.4	0.2	0.6	7	6.4	0.1	1.6	11.3
6		1.7	0.9	0.6	0.7	5.6	0.5	0.4	7	5.6	0.4	1.5	10.4
7		0.4	2.6	0.9	1.2	5.6	0.5	0.7	7	5.6	0.4	1.7	11.9
8		1.5	2.4	0.7	0.9	4.4	2.3	0.2	7	4.4	0.2	1.8	12.4
9		1.1	2.7	1.5	0.3	5.2	3.1	0.6	7	5.2	0.3	2.1	14.5
10		1.6	2.4	1.4	0.3	5.9	1.8	3.2	7	5.9	0.3	2.4	16.6
11		3.5	2.1	2.8	0.2	7.4	3.2	4.9	7	7.4	0.2	3.4	24.1
12		4.4	2.6	1.9	0.4	6.0	4.5	5.5	7	6.0	0.4	3.6	25.3
13		4.8	2.5	3.1	2.2	6.1	5.9	3.6	7	6.1	2.2	4.0	28.2
14		3.4	3.9	1.6	1.7	5.0	4.0	6.1	7	6.1	1.6	3.7	25.7
15		3.2	3.6	0.9	0.3	4.7	5.9	6.2	7	6.2	0.3	3.5	24.8
16		2.9	4.7	1.3	1.8	3.6	3.3	5.5	7	5.5	1.3	3.3	23.1
17		3.2	4.0	0.6	2.5	1.7	2.5	4.8	7	4.8	0.6	2.8	19.3
18		2.3	2.7	0.9	1.8	2.7	3.6	4.9	7	4.9	0.9	2.7	18.9
19		1.8	1.0	0.5	2.2	1.5	3.9	4.3	7	4.3	0.5	2.2	15.2
20		0.9	1.4	1.1	2.8	5.0	4.8	4.8	7	5.0	0.9	3.0	20.8
21		1.5	0.9	0.9	4.4	0.8	5.9	4.0	7	5.9	0.8	2.6	18.4
22		1.5	1.1	1.5	3.6	1.2	3.7	3.6	7	3.7	1.1	2.3	16.2
23		2.1	0.8	1.4	2.2	0.6	3.1	6.0	7	6.0	0.6	2.3	16.2
24		2.0	0.7	1.0	2.2	1.4	1.5	6.0	7	6.0	0.7	2.1	14.8
測定数		24	24	24	24	24	24	24	168				
最高		4.8	4.7	3.1	4.4	7.4	5.9	6.2		7.4			
最低		0.4	0.3	0.1	0.2	0.6	0.2	0.1			0.1		
平均		2.2	1.9	1.1	1.5	3.9	2.8	3.3		3.9	1.1	2.4	
合計		51.6	46.6	26.8	34.9	93.2	67.1	78.1					398.3

*印: 日平均値の最高値

(2) 令和6年5月22日～28日（重機の稼働）

表1.1-7(1) 地上風向測定結果詳細表（No.A）

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時
 調査地点：No. A

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最多風向	風向	頻度	出現率 (%)
1	NNW	CalM	WNW	NNW	NNW	SSE	NE	7	NNW	N	14	8.3
2	CalM	NNW	CalM	NNW	NNW	SSW	NE	7	NNW	NNE	8	4.8
3	WSW	NW	NW	NNW	NW	WNW	ESE	7	NW	NE	10	5.9
4	NW	NW	N	NNW	NW	CalM	NE	7	NW	ENE	2	1.2
5	WNW	WNW	NW	NW	NW	NW	NW	7	NW	E	5	3.0
6	WNW	WNW	WNW	NW	NNW	CalM	NW	7	WNW	ESE	6	3.6
7	NW	CalM	CalM	N	CalM	SSE	NE	7	N	SE	7	4.2
8	ESE	SSE	SSE	N	SSE	SSE	ENE	7	SSE	SSE	38	22.6
9	SSE	SE	SSE	NNW	S	NNW	ENE	7	SSE	S	4	2.4
10	SSE	SE	SSE	NNW	SSE	SSE	NE	7	SSE	SSW	3	1.8
11	SSE	SSE	SSE	N	SSE	SSE	NE	7	SSE	SW	1	0.6
12	SSE	SSE	SSE	NNW	SSE	N	NNE	7	SSE	WSW	1	0.6
13	SSE	SSE	SSE	NW	SSE	SSW	NE	7	SSE	W	2	1.2
14	SSE	SSE	SSE	N	S	S	E	7	SSE	WNW	10	5.9
15	SSE	SSE	W	N	SSE	SSE	SE	7	SSE	NW	18	10.7
16	SSE	SE	WNW	N	SSE	SSE	E	7	SSE	NNW	22	13.1
17	SSE	SE	NW	NNE	NNW	SSE	E	7	SSE	CalM	17	10.1
18	SSE	SE	NNW	NNE	NNE	SE	NNW	7	NNW	合計	168	100.0
19	CalM	ESE	NNW	NNW	SW	ESE	N	7	NNW			
20	CalM	NNE	NNW	CalM	SE	CalM	E	7	NNW			
21	CalM	NE	N	CalM	W	ESE	NNE	7	NNE			
22	WNW	CalM	NNE	SSW	NNE	E	NE	7	NNE			
23	WNW	CalM	N	NW	N	NE	N	7	N			
24	NNW	NNW	N	NW	CalM	S	NNW	7	NNW			
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最多風向	SSE	SSE	SSE	NNW	SSE	SSE	NE		SSE			

注) 最多風向は、「地上気象観測指針」に準拠した。
 静穏(CalM)：風速0.4m/s以下
 出現率は合計が100.0となるよう調整している。

表1.1-7(2) 地上風速測定結果詳細表（No.A）

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時
 調査地点：No. A

単位:m/s

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	1.4	0.1	0.6	2.7	0.9	1.1	0.5	7	2.7	0.1	1.0	7.3
2	0.4	0.5	0.3	1.9	0.6	0.6	1.4	7	1.9	0.3	0.8	5.7
3	0.5	0.9	1.7	2.1	1.4	1.3	0.9	7	2.1	0.5	1.3	8.8
4	1.3	1.5	0.5	2.5	1.7	0.1	1.3	7	2.5	0.1	1.3	8.9
5	1.7	1.0	1.6	2.0	1.6	1.3	1.6	7	2.0	1.0	1.5	10.8
6	1.7	0.6	1.1	2.8	1.3	0.0	1.7	7	2.8	0.0	1.3	9.2
7	1.6	0.2	0.2	4.3	0.4	2.1	0.9	7	4.3	0.2	1.4	9.7
8	0.9	1.5	0.7	3.8	1.6	0.9	0.8	7	3.8	0.7	1.5	10.2
9	0.9	2.4	1.2	4.3	0.9	0.5	1.6	7	4.3	0.5	1.7	11.8
10	2.9	1.3	2.1	5.5	1.7	1.5	2.1	7	5.5	1.3	2.4	17.1
11	4.4	3.3	1.1	5.2	2.8	1.3	2.6	7	5.2	1.1	3.0	20.7
12	3.2	1.9	2.5	6.0	1.3	0.7	0.9	7	6.0	0.7	2.4	16.5
13	2.3	1.9	3.1	4.3	2.3	2.3	1.8	7	4.3	1.8	2.6	18.0
14	3.5	2.5	2.3	4.7	1.3	1.6	1.9	7	4.7	1.3	2.5	17.8
15	3.0	3.7	5.7	4.5	1.2	0.8	2.8	7	5.7	0.8	3.1	21.7
16	3.0	2.6	2.5	3.8	1.1	2.1	2.2	7	3.8	1.1	2.5	17.3
17	2.4	2.4	4.6	3.9	1.0	3.1	1.4	7	4.6	1.0	2.7	18.8
18	1.4	2.1	3.9	3.3	0.9	1.8	0.8	7	3.9	0.8	2.0	14.2
19	0.4	1.9	4.7	2.3	0.7	2.3	0.8	7	4.7	0.4	1.9	13.1
20	0.1	1.0	6.4	0.3	0.5	0.1	2.8	7	6.4	0.1	1.6	11.2
21	0.2	0.8	4.3	0.1	0.5	0.9	2.0	7	4.3	0.1	1.3	8.8
22	1.3	0.2	3.2	0.6	0.6	0.9	2.7	7	3.2	0.2	1.4	9.5
23	0.8	0.4	2.9	0.5	0.5	1.5	2.2	7	2.9	0.4	1.3	8.8
24	0.5	0.6	2.5	0.8	0.2	0.5	4.4	7	4.4	0.2	1.4	9.5
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	4.4	3.7	6.4	6.0	2.8	3.1	4.4		6.4			
最低	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.0	0.5			0.0		
平均	1.7	1.5	2.5	3.0	1.1	1.2	1.8		3.0	1.1	1.8	
合計	39.8	35.3	59.7	72.2	27.0	29.3	42.1					305.4

*印: 日平均値の最高値

1.1.3 気温・相対湿度

(1) 令和6年3月9日～15日（工事用車両の走行）

表1.1-8(1) 地上気温測定結果詳細表（No.A）

測定期間：令和6年3月9日（土）0時～3月15日（金）24時
調査地点：No.A

単位：

時	日(曜)	9日(土)	10日(日)	11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)	測定数	最高	最低	平均	合計
1		0.6	-1.2	0.1	3.2	5.3	0.4	7.0	7	7.0	-1.2	2.2	15.4
2		0.9	-1.9	-0.4	2.9	5.6	-0.3	5.5	7	5.6	-1.9	1.8	12.3
3		0.1	-2.1	-1.4	3.4	5.4	-0.1	2.7	7	5.4	-2.1	1.1	8.0
4		0.3	-2.6	-1.4	2.8	5.0	0.4	1.7	7	5.0	-2.6	0.9	6.2
5		0.2	-1.3	-0.8	2.9	4.9	0.0	2.1	7	4.9	-1.3	1.1	8.0
6		-0.3	-0.6	-0.5	2.6	4.0	0.0	2.2	7	4.0	-0.6	1.1	7.4
7		0.4	0.5	0.5	3.5	4.6	1.8	3.9	7	4.6	0.4	2.2	15.2
8		0.5	0.9	3.9	5.1	5.1	5.6	8.5	7	8.5	0.5	4.2	29.6
9		1.7	1.5	6.5	6.5	5.5	7.6	11.0	7	11.0	1.5	5.8	40.3
10		4.3	2.5	8.2	7.4	6.2	8.7	13.1	7	13.1	2.5	7.2	50.4
11		5.4	3.7	9.6	8.4	7.4	10.7	13.7	7	13.7	3.7	8.4	58.9
12		6.4	4.3	10.9	9.5	7.6	11.8	14.7	7	14.7	4.3	9.3	65.2
13		5.6	6.3	11.4	10.6	5.8	9.4	14.9	7	14.9	5.6	9.1	64.0
14		3.7	7.2	12.1	9.4	5.3	11.2	15.1	7	15.1	3.7	9.1	64.0
15		4.1	7.0	10.7	7.7	4.9	7.6	15.4	7	15.4	4.1	8.2	57.4
16		4.0	5.7	10.2	6.1	6.1	9.6	14.6	7	14.6	4.0	8.0	56.3
17		2.9	4.5	9.8	5.1	5.1	9.9	13.8	7	13.8	2.9	7.3	51.1
18		2.2	3.0	8.4	4.4	4.6	9.1	13.2	7	13.2	2.2	6.4	44.9
19		1.4	2.3	6.5	4.0	3.9	9.1	13.1	7	13.1	1.4	5.8	40.3
20		1.0	1.6	6.3	2.9	4.6	8.8	13.0	7	13.0	1.0	5.5	38.2
21		0.5	0.8	4.9	2.4	3.5	8.4	12.0	7	12.0	0.5	4.6	32.5
22		0.4	0.6	4.7	3.1	2.3	8.5	12.0	7	12.0	0.4	4.5	31.6
23		0.2	0.2	4.0	3.7	2.1	7.6	11.5	7	11.5	0.2	4.2	29.3
24		-0.1	-0.3	3.7	4.4	0.9	7.4	10.6	7	10.6	-0.3	3.8	26.6
測定数		24	24	24	24	24	24	24	168				
最高		6.4	7.2	12.1	10.6	7.6	11.8	15.4		15.4			
最低		-0.3	-2.6	-1.4	2.4	0.9	-0.3	1.7			-2.6		
平均		1.9	1.8	5.3	5.1	4.8	6.4	10.2		10.2	1.8	5.1	
合計		46.4	42.6	127.9	122.0	115.7	153.2	245.3					853.1
		**						*					

*印：日平均値の最高値 **印：日平均値の最低値

表1.1-8(2) 相対湿度測定結果詳細表（No.A）

測定期間：令和6年3月9日（土）0時～3月15日（金）24時
調査地点：No.A

単位：%

時	日(曜)	9日(土)	10日(日)	11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)	測定数	最高	最低	平均	合計
1		88	78	78	74	79	73	52	7	88	52	75	522
2		77	78	76	75	75	78	58	7	78	58	74	517
3		76	80	82	67	72	78	71	7	82	67	75	526
4		71	80	84	72	68	76	77	7	84	68	75	528
5		72	74	84	72	69	80	74	7	84	69	75	525
6		76	84	84	73	70	82	76	7	84	70	78	545
7		75	79	75	70	55	77	71	7	79	55	72	502
8		75	82	66	62	55	55	55	7	82	55	64	450
9		79	74	48	56	56	49	45	7	79	45	58	407
10		70	73	44	50	48	47	36	7	73	36	53	368
11		47	62	35	50	37	40	32	7	62	32	43	303
12		46	65	33	41	42	37	28	7	65	28	42	292
13		53	50	32	48	52	55	28	7	55	28	45	318
14		74	40	41	57	57	50	27	7	74	27	49	346
15		64	43	44	75	60	73	26	7	75	26	55	385
16		63	47	47	91	52	58	28	7	91	28	55	386
17		63	52	50	91	62	51	31	7	91	31	57	400
18		63	61	57	93	62	50	35	7	93	35	60	421
19		69	63	66	94	59	42	36	7	94	36	61	429
20		72	69	65	94	45	41	40	7	94	40	61	426
21		72	74	69	95	51	43	51	7	95	43	65	455
22		72	72	69	93	57	41	44	7	93	41	64	448
23		73	74	71	91	57	48	35	7	91	35	64	449
24		72	80	70	89	70	48	35	7	89	35	66	464
測定数		24	24	24	24	24	24	24	168				
最高		88	84	84	95	79	82	77		95			
最低		46	40	32	41	37	37	26			26		
平均		69	68	61	74	59	57	45		74	45	62	
合計		1,662	1,634	1,470	1,773	1,410	1,372	1,091					10,412
					*			**					

*印：日平均値の最高値 **印：日平均値の最低値

(2) 令和6年5月22日～28日（重機の稼働）

表1.1-9(1) 地上気温測定結果詳細表（No.A）

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時
調査地点：No. A

単位：

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	11.0	12.8	16.9	14.2	10.3	17.7	19.8	7	19.8	10.3	14.7	102.7
2	10.7	12.4	16.6	13.6	9.6	17.3	19.7	7	19.7	9.6	14.3	99.9
3	9.8	12.2	15.7	13.5	9.1	16.2	19.3	7	19.3	9.1	13.7	95.8
4	9.1	11.8	15.0	13.4	8.6	16.0	19.3	7	19.3	8.6	13.3	93.2
5	8.7	12.0	15.1	13.6	8.9	16.2	19.1	7	19.1	8.7	13.4	93.6
6	10.3	13.6	16.5	14.8	11.3	17.1	18.5	7	18.5	10.3	14.6	102.1
7	13.6	16.9	19.3	15.6	14.1	18.9	17.6	7	19.3	13.6	16.6	116.0
8	15.8	19.4	21.8	17.6	16.0	20.6	17.6	7	21.8	15.8	18.4	128.8
9	17.9	21.2	24.6	18.2	18.5	21.2	17.0	7	24.6	17.0	19.8	138.6
10	19.3	21.8	25.5	18.1	18.4	20.6	16.3	7	25.5	16.3	20.0	140.0
11	18.7	22.0	26.9	18.7	19.6	21.4	16.1	7	26.9	16.1	20.5	143.4
12	19.3	23.0	25.8	20.1	20.2	22.8	16.3	7	25.8	16.3	21.1	147.5
13	19.9	24.0	25.7	20.7	21.6	25.6	16.2	7	25.7	16.2	22.0	153.7
14	19.4	23.9	24.2	20.8	21.3	24.9	16.4	7	24.9	16.4	21.6	150.9
15	18.6	22.6	25.9	20.4	22.3	25.6	15.9	7	25.9	15.9	21.6	151.3
16	18.2	23.2	25.0	21.0	21.6	26.1	15.8	7	26.1	15.8	21.6	150.9
17	18.2	22.3	23.7	19.3	22.0	23.2	15.4	7	23.7	15.4	20.6	144.1
18	17.8	21.3	20.8	17.7	21.1	21.5	15.4	7	21.5	15.4	19.4	135.6
19	17.2	20.6	19.0	16.3	20.0	20.8	15.2	7	20.8	15.2	18.4	129.1
20	16.9	19.7	17.6	14.7	19.3	21.0	15.3	7	21.0	14.7	17.8	124.5
21	16.3	18.9	17.0	13.6	19.1	21.2	15.1	7	21.2	13.6	17.3	121.2
22	15.1	18.0	16.2	13.4	19.0	20.4	14.8	7	20.4	13.4	16.7	116.9
23	14.4	17.8	15.6	12.2	18.5	20.9	14.4	7	20.9	12.2	16.3	113.8
24	13.5	17.2	15.0	11.0	18.3	19.8	14.2	7	19.8	11.0	15.6	109.0
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	19.9	24.0	26.9	21.0	22.3	26.1	19.8		26.9			
最低	8.7	11.8	15.0	11.0	8.6	16.0	14.2			8.6		
平均	15.4	18.7	20.2	16.4	17.0	20.7	16.7		20.7	15.4	17.9	
合計	369.7	448.6	485.4	392.5	408.7	497.0	400.7					3002.6
	**					*						

*印：日平均値の最高値

**印：日平均値の最低値

表1.1-9(2) 相対湿度測定結果詳細表（No.A）

測定期間：令和6年5月22日(水)0時～5月28日(火)24時
調査地点：No. A

単位：%

日(曜) 時	22日 (水)	23日 (木)	24日 (金)	25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	測定数	最高	最低	平均	合計
1	61	90	95	60	66	89	86	7	95	60	78	547
2	68	92	95	64	70	95	81	7	95	64	81	565
3	75	91	93	67	73	90	84	7	93	67	82	573
4	76	91	95	65	75	89	70	7	95	65	80	561
5	80	91	92	66	75	89	81	7	92	66	82	574
6	71	85	85	61	66	86	75	7	86	61	76	529
7	64	75	80	58	58	82	88	7	88	58	72	505
8	54	67	65	46	53	77	85	7	85	46	64	447
9	43	65	54	44	50	75	86	7	86	43	60	417
10	46	61	49	44	58	80	90	7	90	44	61	428
11	57	63	38	39	58	82	88	7	88	38	61	425
12	54	59	47	36	58	71	91	7	91	36	59	416
13	44	60	49	30	57	57	92	7	92	30	56	389
14	43	62	57	25	60	58	94	7	94	25	57	399
15	53	71	42	28	61	56	91	7	91	28	57	402
16	56	70	48	26	64	54	92	7	92	26	59	410
17	65	73	54	34	64	68	92	7	92	34	64	450
18	66	77	67	37	69	78	97	7	97	37	70	491
19	72	80	67	38	75	81	99	7	99	38	73	512
20	79	83	65	41	80	79	100	7	100	41	75	527
21	84	87	66	44	81	79	100	7	100	44	77	541
22	83	92	67	47	80	82	97	7	97	47	78	548
23	84	92	57	53	85	84	99	7	99	53	79	554
24	89	95	55	64	86	87	99	7	99	55	82	575
測定数	24	24	24	24	24	24	24	168				
最高	89	95	95	67	86	95	100		100			
最低	43	59	38	25	50	54	70			25		
平均	65	78	66	47	68	78	90		90	47	70	
合計	1,567	1,872	1,582	1,117	1,622	1,868	2,157					11,785
				**			*					

*印：日平均値の最高値

**印：日平均値の最低値

1.2 騒音

1.2.1 時間別騒音レベル

(1) 令和6年3月14日（工事用車両の走行）

表1.2-1(1)時間別騒音レベル（No.3）

単位：dB(A)

昼夜区分	時間帯	騒音レベル							環境基準	規制基準
		L_{Aeq}	L_{A5}	L_{A10}	L_{A50}	L_{A90}	L_{A95}	L_{Amax}		
昼間	7時	65.5	72	69	60	48	46	82	-	-
	8時	66.0	73	70	59	46	43	84		
	9時	65.1	72	69	56	45	43	82		
	10時	65.6	72	70	55	44	43	89		
	11時	64.5	71	69	56	47	45	82		
	12時	64.1	71	68	56	48	47	81		
	13時	64.1	71	68	55	46	45	82		
	14時	64.9	71	69	57	50	49	81		
	15時	65.8	72	70	58	49	48	87		
	16時	65.4	72	69	58	47	46	84		
	17時	65.8	72	70	60	49	47	81		
	18時	64.7	71	69	59	49	47	81		
昼間	平均	65	72	69	57	47	46	83	60以下	70以下
	最大	66	73	70	60	50	49	89		
	最小	64	71	68	55	44	43	81		

調査日時：令和6年3月14日(木)7時～19時

環境基準：「騒音に係る環境基準」（平成10年9月30日、環境庁告示第64号）における「道路に面する地域の騒音に係る環境基準（A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域）」

規制基準：「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」（平成12年3月2日、総理府令第15号）における「自動車騒音の要請限度（a区域のうち2車線以上の道路に面する区域）」

備考1 平均値 L_{Aeq} は「パワー平均」、平均値 L_{AX} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて30未満の場合は30未満とし、30以上の1時間値を含む場合は30未満を30として平均した。

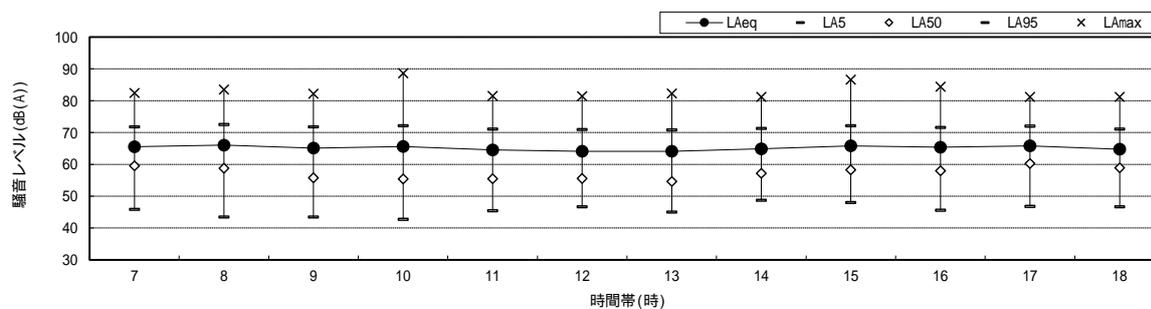


図1.2-1(1) 時間別騒音レベル（No.3）

表1.2-1(2)時間別騒音レベル (No.4)

単位：dB(A)

昼夜区分	時間帯	騒音レベル							環境基準	規制基準
		L_{Aeq}	L_{A5}	L_{A10}	L_{A50}	L_{A90}	L_{A95}	L_{Amax}		
昼間	7時	69.2	73	72	68	59	57	85	-	-
	8時	71.2	76	75	70	59	57	82		
	9時	70.4	75	73	69	59	57	87		
	10時	68.3	73	72	67	58	56	80		
	11時	70.8	75	74	70	57	54	85		
	12時	70.3	75	74	69	57	54	84		
	13時	70.6	75	74	69	56	53	82		
	14時	69.7	74	73	68	57	55	83		
	15時	70.4	75	73	69	60	58	85		
	16時	71.3	76	74	71	59	57	82		
	17時	69.0	72	72	68	61	58	83		
	18時	66.3	70	69	65	59	57	79		
昼間	平均	70	74	73	68	58	56	83	70以下	75以下
	最大	71	76	75	71	61	58	87		
	最小	66	70	69	65	56	53	79		

調査日時：令和6年3月14日(木)7時～19時

環境基準：「騒音に係る環境基準」(平成10年9月30日、環境庁告示第64号)における「道路に面する地域の騒音に係る環境基準(A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域)」

規制基準：「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」(平成12年3月2日、総理府令第15号)における「自動車騒音の要請限度(a区域のうち2車線以上の道路に面する区域)」

備考1 平均値 L_{Aeq} は「パワー平均」、平均値 L_{AX} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて30未満の場合は30未満とし、30以上の1時間値を含む場合は30未満を30として平均した。

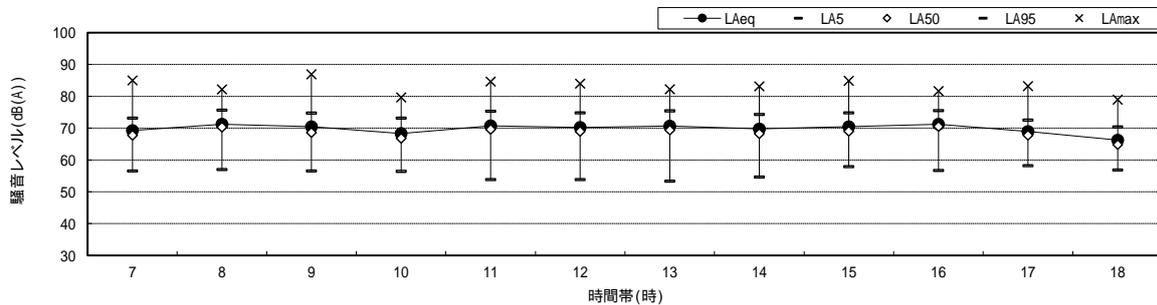


図1.2-1(2) 時間別騒音レベル (No.4)

表1.2-1(3) 時間別騒音レベル (No.5)

単位: dB(A)

昼夜区分	時間帯	騒音レベル							環境基準	規制基準
		L_{Aeq}	L_{A5}	L_{A10}	L_{A50}	L_{A90}	L_{A95}	L_{Amax}		
昼間	7時	68.8	74	73	65	55	53	86	-	-
	8時	69.3	75	73	66	54	51	83		
	9時	69.3	75	73	65	53	51	85		
	10時	70.2	76	74	65	53	50	85		
	11時	69.3	76	73	64	53	50	85		
	12時	69.0	75	72	64	53	51	85		
	13時	69.6	76	73	65	53	51	87		
	14時	69.4	75	73	65	55	53	89		
	15時	70.4	76	74	67	57	55	88		
	16時	69.7	75	73	66	56	54	87		
	17時	68.5	74	72	64	55	52	90		
	18時	67.6	73	71	64	56	53	83		
昼間	平均	69	75	73	65	54	52	86	70以下	75以下
	最大	70	76	74	67	57	55	90		
	最小	68	73	71	64	53	50	83		

調査日時: 令和6年3月14日(木)7時~19時

環境基準: 「騒音に係る環境基準」(平成10年9月30日、環境庁告示第64号)における「道路に面する地域の騒音に係る環境基準(A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域)」

規制基準: 「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」(平成12年3月2日、総理府令第15号)における「自動車騒音の要請限度(a区域のうち2車線以上の道路に面する区域)」

備考1 平均値 L_{Aeq} は「パワー平均」、平均値 L_{AX} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて30未満の場合は30未満とし、30以上の1時間値を含む場合は30未満を30として平均した。

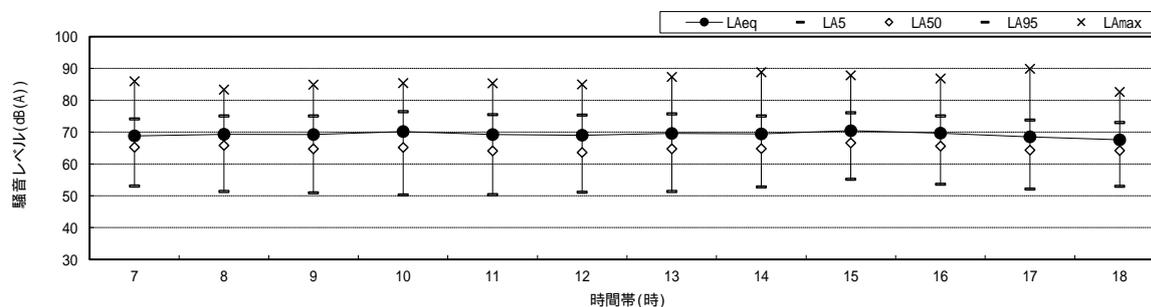


図1.2-1(3) 時間別騒音レベル (No.5)

(2)令和6年5月22日(重機の稼働)

表1.2-2(1) 時間別騒音レベル(No.)

単位: dB(A)

時間帯	騒音レベル						
	L_{Aeq}	L_{A5}	L_{A10}	L_{A50}	L_{A90}	L_{A95}	L_{Amax}
7時	52.3	55	49	40	37	37	78
8時	53.2	57	53	46	42	42	76
9時	53.2	56	52	47	44	44	77
10時	55.3	58	55	50	46	46	83
11時	54.4	58	55	50	48	47	74
12時	53.1	56	52	47	44	43	76
13時	55.4	59	56	51	48	47	80
14時	56.6	61	57	51	48	48	81
15時	59.4	63	60	54	50	49	86
16時	58.5	62	60	54	50	49	83
17時	55.8	61	58	52	47	46	76
18時	54.7	60	56	47	43	42	74
平均	56	59	55	49	46	45	79
最大	59	63	60	54	50	49	86
最小	52	55	49	40	37	37	74

調査日時: 令和6年5月22日(水)7時 ~ 19時

備考1 平均値 L_{Aeq} は「パワー平均」、平均値 L_{AX} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて30未満の場合は30未満とし、30以上の1時間値を含む場合は30未満を30として平均した。

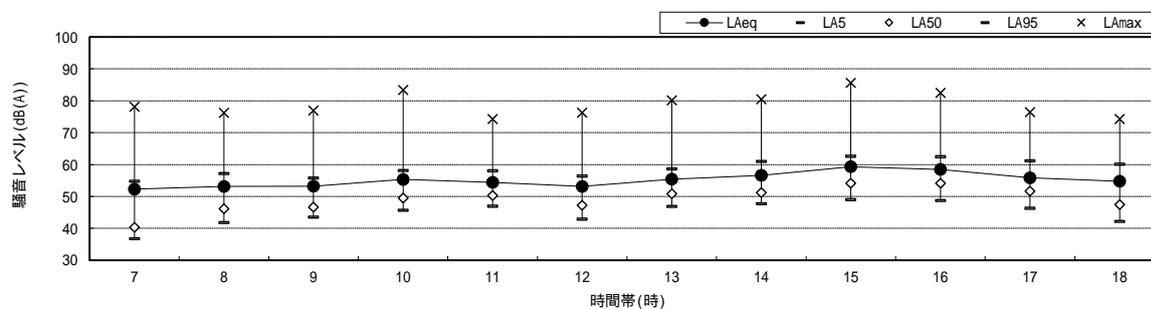


図1.2-2(1) 時間別騒音レベル(No.)

表1.2-2(2) 時間別騒音レベル (No.)

単位：dB(A)

時間帯	騒音レベル						
	L_{Aeq}	L_{A5}	L_{A10}	L_{A50}	L_{A90}	L_{A95}	L_{Amax}
7時	72.5	77	76	71	60	58	84
8時	72.1	77	76	70	60	59	84
9時	71.9	77	76	70	61	59	85
10時	72.2	77	76	70	62	60	84
11時	71.6	77	75	69	61	60	86
12時	71.2	76	75	69	60	59	84
13時	71.3	76	75	69	61	59	83
14時	71.5	76	75	69	60	59	85
15時	71.4	76	75	69	61	60	83
16時	71.3	76	75	70	61	59	84
17時	71.9	76	75	71	62	60	85
18時	71.0	75	74	70	61	59	83
平均	72	76	75	70	61	59	84
最大	73	77	76	71	62	60	86
最小	71	75	74	69	60	58	83

調査日時：令和6年5月22日(水)7時 ~ 19時

備考1 平均値 L_{Aeq} は「パワー平均」、平均値 L_{AX} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて30未満の場合は30未満とし、30以上の1時間値を含む場合は30未満を30として平均した。

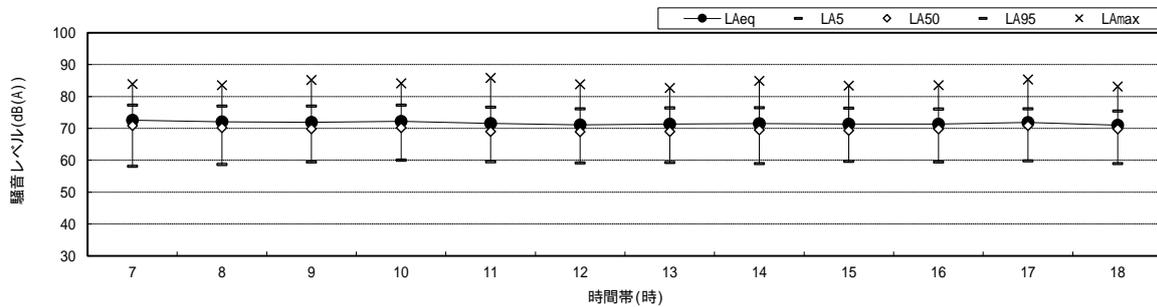


図1.2-2(2) 時間別騒音レベル (No.)

表1.2-2(3) 時間別騒音レベル (No.)

単位：dB(A)

時間帯	騒音レベル						
	L_{Aeq}	L_{A5}	L_{A10}	L_{A50}	L_{A90}	L_{A95}	L_{Amax}
7時	44.4	47	44	41	39	39	66
8時	44.3	47	44	42	40	40	65
9時	49.5	50	48	44	43	42	78
10時	50.3	52	50	47	45	44	76
11時	49.6	53	51	47	45	45	70
12時	47.4	50	49	46	45	44	64
13時	48.2	51	49	46	45	44	69
14時	50.2	53	50	47	45	45	72
15時	48.8	52	51	48	46	45	64
16時	49.3	53	51	47	45	45	67
17時	48.0	51	49	46	44	44	70
18時	46.7	49	47	44	42	42	73
平均	48	51	49	45	44	43	69
最大	50	53	51	48	46	45	78
最小	44	47	44	41	39	39	64

調査日時：令和6年5月22日(水)7時～19時

備考1 平均値 L_{Aeq} は「パワー平均」、平均値 L_{AX} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて30未満の場合は30未満とし、30以上の1時間値を含む場合は30未満を30として平均した。

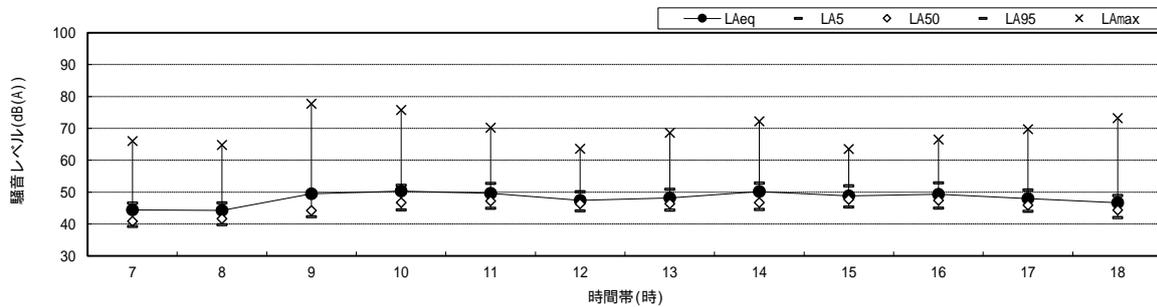


図1.2-2(3) 時間別騒音レベル (No.)

表1.2-2(4) 時間別騒音レベル (No.)

単位：dB(A)

時間帯	騒音レベル						
	L_{Aeq}	L_{A5}	L_{A10}	L_{A50}	L_{A90}	L_{A95}	L_{Amax}
7時	45.4	48	46	42	39	39	74
8時	44.3	47	46	41	40	39	72
9時	45.7	49	48	44	42	42	64
10時	50.6	55	53	48	44	43	73
11時	48.2	51	49	46	44	43	70
12時	45.8	49	47	44	42	41	63
13時	47.4	50	49	46	44	44	73
14時	48.8	52	50	47	45	44	75
15時	48.5	51	50	47	45	44	67
16時	48.1	51	50	47	45	44	75
17時	47.3	50	49	46	44	43	74
18時	45.4	49	47	44	42	41	69
平均	47	50	49	45	43	42	71
最大	51	55	53	48	45	44	75
最小	44	47	46	41	39	39	63

調査日時：令和6年5月22日(水)7時～19時

備考1 平均値 L_{Aeq} は「パワー平均」、平均値 L_{AX} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて30未満の場合は30未満とし、30以上の1時間値を含む場合は30未満を30として平均した。

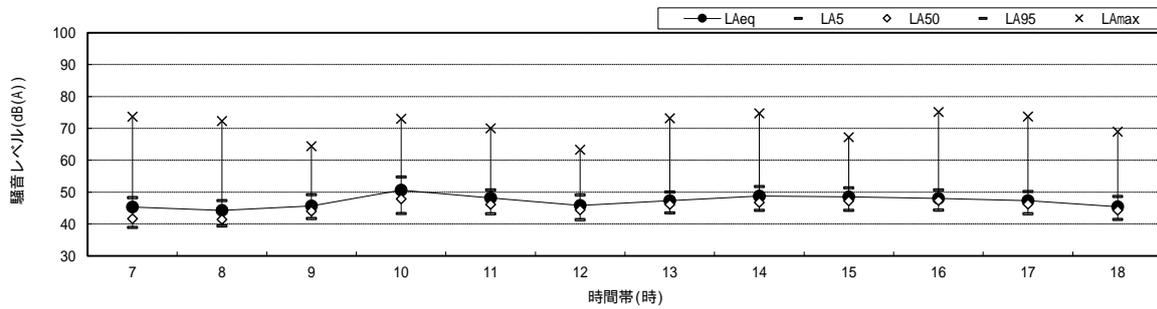


図1.2-2(4) 時間別騒音レベル (No.)

表1.2-2(5) 時間別騒音レベル (No.)

単位：dB(A)

時間帯	騒音レベル						
	L_{Aeq}	L_{A5}	L_{A10}	L_{A50}	L_{A90}	L_{A95}	L_{Amax}
7時	60.4	68	64	52	43	42	78
8時	59.1	66	62	51	45	44	79
9時	58.4	65	61	50	46	45	80
10時	58.3	64	61	52	48	47	81
11時	58.2	64	60	53	49	48	75
12時	58.3	63	60	53	48	48	80
13時	58.1	63	60	53	49	48	79
14時	57.5	63	60	53	49	49	78
15時	59.6	65	62	55	51	50	80
16時	60.0	65	62	54	50	49	84
17時	60.4	66	63	55	50	49	84
18時	60.0	65	63	56	49	48	79
平均	59	65	62	53	48	47	80
最大	60	68	64	56	51	50	84
最小	58	63	60	50	43	42	75

調査日時：令和6年5月22日(水)7時～19時

備考1 平均値 L_{Aeq} は「パワー平均」、平均値 L_{AX} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて30未満の場合は30未満とし、30以上の1時間値を含む場合は30未満を30として平均した。

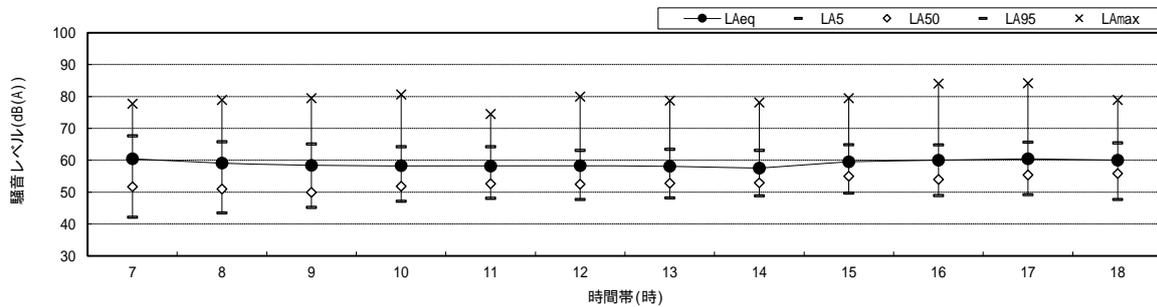


図1.2-2(5) 時間別騒音レベル (No.)

1.3 振動

1.3.1 時間別振動レベル

(1) 令和6年3月14日（工事用車両の走行）

表1.3-1(1) 時間別振動レベル（No.3）

単位：dB

昼夜区分	時間帯	振動レベル						規制基準
		L_{V5}	L_{V10}	L_{V50}	L_{V90}	L_{V95}	L_{Vmax}	
夜間	7時	45	43	29	25未満	25未満	63	60以下
昼間	8時	45	42	26	25未満	25未満	62	65以下
	9時	46	42	25未満	25未満	25未満	63	
	10時	48	43	25未満	25未満	25未満	65	
	11時	45	41	25未満	25未満	25未満	65	
	12時	45	41	25未満	25未満	25未満	72	
	13時	44	40	25未満	25未満	25未満	61	
	14時	46	41	25未満	25未満	25未満	63	
	15時	45	41	25未満	25未満	25未満	66	
	16時	46	42	25未満	25未満	25未満	60	
	17時	45	42	27	25未満	25未満	64	
昼間	18時	43	40	26	25未満	25未満	60	-
	平均	45	42	25	25未満	25未満	64	
	最大	48	43	27	25未満	25未満	72	
夜間	最小	43	40	25未満	25未満	25未満	60	-
	平均	45	43	29	25未満	25未満	63	
	最大	45	43	29	25未満	25未満	63	
夜間	最小	45	43	29	25未満	25未満	63	-

調査日時：令和6年3月14日(木)7時～19時

規制基準：「振動規制法施行規則」（昭和51年11月10日、総理府令第58号 改正：平成23年11月30日 環境省令第32号）第12条における「道路交通振動の要請限度（第一種区域）」

備考1 平均値 L_{Vx} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて25未満の場合は25未満とし、25以上の1時間値を含む場合は25未満を25として平均した。

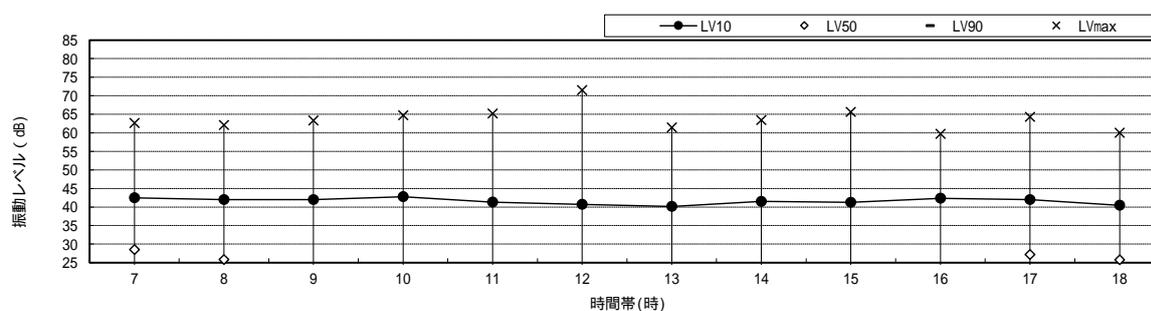


図1.3-1(1) 時間別振動レベル（No.3）

表1.3-1(2) 時間別振動レベル (No.4)

単位：dB

昼夜区分	時間帯	振動レベル						規制基準
		L_{V5}	L_{V10}	L_{V50}	L_{V90}	L_{V95}	L_{Vmax}	
夜間	7時	51	49	40	30	27	63	65以下
昼間	8時	53	51	41	31	28	67	
	9時	54	51	43	31	28	68	
	10時	53	51	43	31	28	67	
	11時	54	51	42	29	26	66	
	12時	52	49	40	28	26	64	
	13時	53	50	41	29	26	66	
	14時	53	50	42	31	28	65	
	15時	51	49	41	28	26	64	
	16時	52	50	41	29	27	67	
	17時	48	45	37	30	28	67	
18時	45	42	35	28	26	62		
昼間	平均	52	49	41	30	27	66	-
	最大	54	51	43	31	28	68	
	最小	45	42	35	28	26	62	
夜間	平均	51	49	40	30	27	63	-
	最大	51	49	40	30	27	63	
	最小	51	49	40	30	27	63	

調査日時：令和6年3月14日(木)7時～19時

規制基準：「振動規制法施行規則」(昭和51年11月10日、総理府令第58号 改正：平成23年11月30日 環境省令第32号) 第12条における「道路交通振動の要請限度(第一種区域)」

備考1 平均値 L_{Vx} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて25未満の場合は25未満とし、25以上の1時間値を含む場合は25未満を25として平均した。

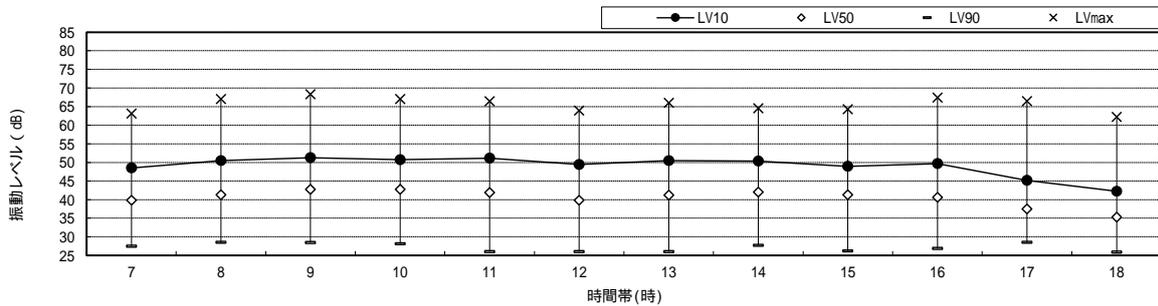


図1.3-1(2) 時間別振動レベル (No.4)

表1.3-1(3) 時間別振動レベル (No.5)

単位：dB

昼夜区分	時間帯	振動レベル						規制基準
		L_{V5}	L_{V10}	L_{V50}	L_{V90}	L_{V95}	L_{Vmax}	
夜間	7時	40	36	25	25未満	25未満	53	60以下
昼間	8時	42	39	28	25未満	25未満	54	
	9時	42	39	27	25未満	25未満	55	
	10時	43	40	28	25未満	25未満	58	
	11時	42	39	26	25未満	25未満	55	
	12時	40	36	26	25未満	25未満	54	
	13時	41	38	26	25未満	25未満	56	
	14時	41	38	27	25未満	25未満	55	
	15時	41	37	27	25未満	25未満	55	
	16時	39	36	26	25未満	25未満	52	
17時	38	35	26	25未満	25未満	54		
18時	36	33	25未満	25未満	25未満	56		
昼間	平均	41	37	27	25未満	25未満	55	-
	最大	43	40	28	25未満	25未満	58	
	最小	36	33	25未満	25未満	25未満	52	
夜間	平均	40	36	25	25未満	25未満	53	-
	最大	40	36	25	25未満	25未満	53	
	最小	40	36	25	25未満	25未満	53	

調査日時：令和6年3月14日(木)7時～19時

規制基準：「振動規制法施行規則」(昭和51年11月10日、総理府令第58号 改正：平成23年11月30日 環境省令第32号) 第12条における「道路交通振動の要請限度(第一種区域)」

備考1 平均値 L_{Vx} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて25未満の場合は25未満とし、25以上の1時間値を含む場合は25未満を25として平均した。

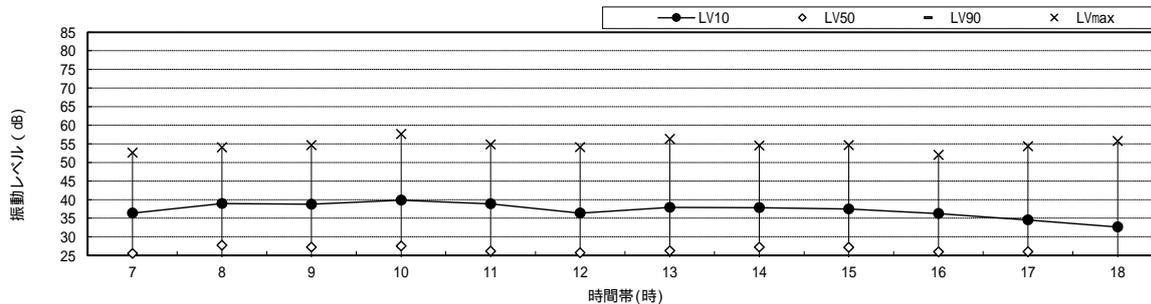


図1.3-1(3) 時間別振動レベル (No.5)

(2) 令和6年5月22日 (重機の稼働)

表1.3-1(4) 時間別振動レベル (No.)

単位: dB

時間帯	振動レベル					
	L_{V5}	L_{V10}	L_{V50}	L_{V90}	L_{V95}	L_{Vmax}
7時	29	27	25未満	25未満	25未満	52
8時	35	33	28	25未満	25未満	44
9時	36	35	30	26	25	47
10時	37	35	30	27	26	50
11時	36	35	30	26	25未満	47
12時	31	29	25未満	25未満	25未満	49
13時	37	36	32	28	28	51
14時	37	36	32	29	28	54
15時	38	36	31	27	26	48
16時	38	36	30	26	25未満	48
17時	34	32	26	25未満	25未満	49
18時	33	31	25未満	25未満	25未満	47
平均	35	33	29	26	26	49
最大	38	36	32	29	28	54
最小	29	27	25未満	25未満	25未満	44

調査日時: 令和6年5月22日(水)7時~19時

備考1 平均値 L_{Vx} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて25未満の場合は25未満とし、25以上の1時間値を含む場合は25未満を25として平均した。

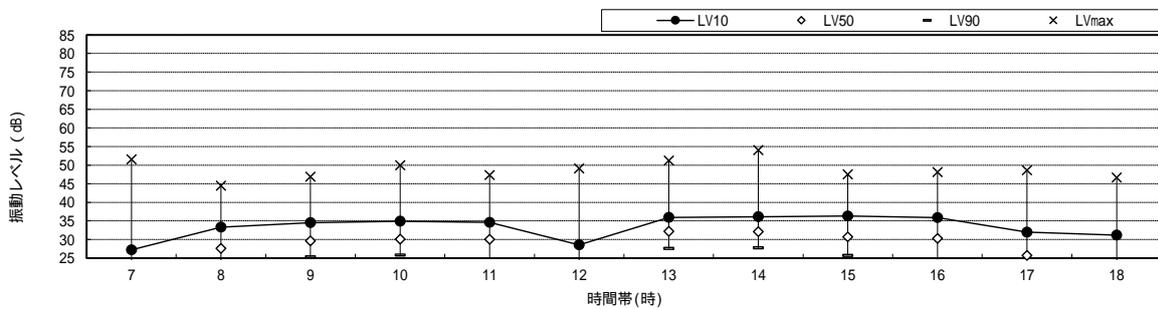


図1.3-1(4) 時間別振動レベル (No.)

表1.3-1(5) 時間別振動レベル (No.)

単位：dB

時間帯	振動レベル					
	L_{V5}	L_{V10}	L_{V50}	L_{V90}	L_{V95}	L_{Vmax}
7時	46	42	33	26	25未満	59
8時	46	43	34	28	27	60
9時	48	45	36	30	29	60
10時	48	46	37	30	29	59
11時	47	44	36	31	29	60
12時	46	44	33	26	25未満	58
13時	48	45	35	29	27	62
14時	47	45	35	29	27	58
15時	47	44	34	28	27	58
16時	45	43	35	29	27	59
17時	42	38	32	25未満	25未満	57
18時	40	37	31	25未満	25未満	63
平均	46	43	34	28	27	59
最大	48	46	37	31	29	63
最小	40	37	31	25未満	25未満	57

調査日時：令和6年5月22日(水)7時～19時

備考1 平均値 L_{Vx} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて25未満の場合は25未満とし、25以上の1時間値を含む場合は25未満を25として平均した。

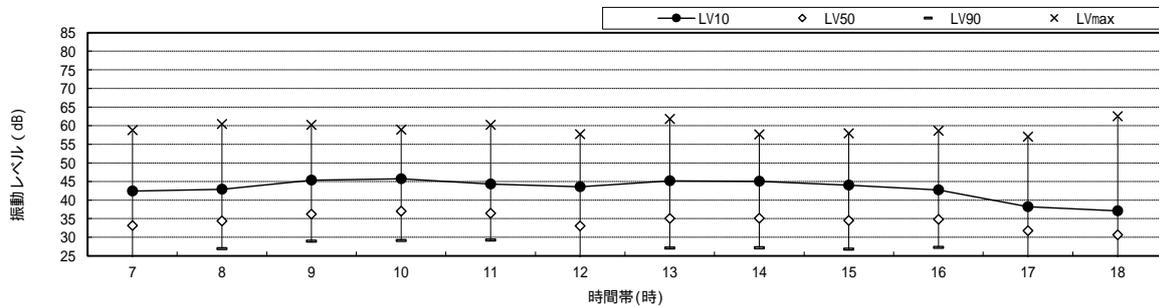


図1.3-1(5) 時間別振動レベル (No.)

表1.3-1(6) 時間別振動レベル (No.)

単位：dB

時間帯	振動レベル					
	L_{V5}	L_{V10}	L_{V50}	L_{V90}	L_{V95}	L_{Vmax}
7時	30	28	26	25	25未満	55
8時	30	28	26	25	25	51
9時	31	29	27	26	26	72
10時	33	30	27	26	26	67
11時	32	30	28	26	26	59
12時	30	30	28	27	27	54
13時	32	31	31	30	30	57
14時	33	32	31	30	30	64
15時	33	32	31	30	30	56
16時	32	31	31	30	30	54
17時	32	31	30	30	30	55
18時	32	31	30	30	30	61
平均	32	30	29	28	28	59
最大	33	32	31	30	30	72
最小	30	28	26	25	25未満	51

調査日時：令和6年5月22日(水)7時～19時

備考1 平均値 L_{Vx} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて25未満の場合は25未満とし、25以上の1時間値を含む場合は25未満を25として平均した。

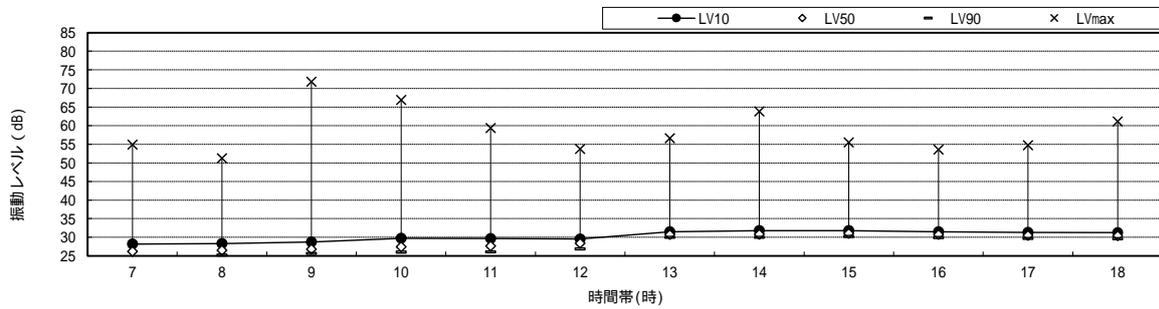


図1.3-1(6) 時間別振動レベル (No.)

表1.3-1(7) 時間別振動レベル (No.)

単位：dB

時間帯	振動レベル					
	L_{V5}	L_{V10}	L_{V50}	L_{V90}	L_{V95}	L_{Vmax}
7時	36	33	28	25	25未満	50
8時	38	36	31	27	26	53
9時	40	38	32	29	28	53
10時	39	37	33	29	29	48
11時	40	38	33	29	28	54
12時	33	31	26	25未満	25未満	51
13時	42	41	35	31	30	51
14時	42	41	36	32	31	54
15時	41	40	34	30	29	52
16時	41	39	33	29	28	52
17時	34	31	26	25未満	25未満	50
18時	35	32	26	25未満	25未満	52
平均	38	36	31	28	27	52
最大	42	41	36	32	31	54
最小	33	31	26	25未満	25未満	48

調査日時：令和6年5月22日(水)7時～19時

備考1 平均値 L_{Vx} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて25未満の場合は25未満とし、25以上の1時間値を含む場合は25未満を25として平均した。

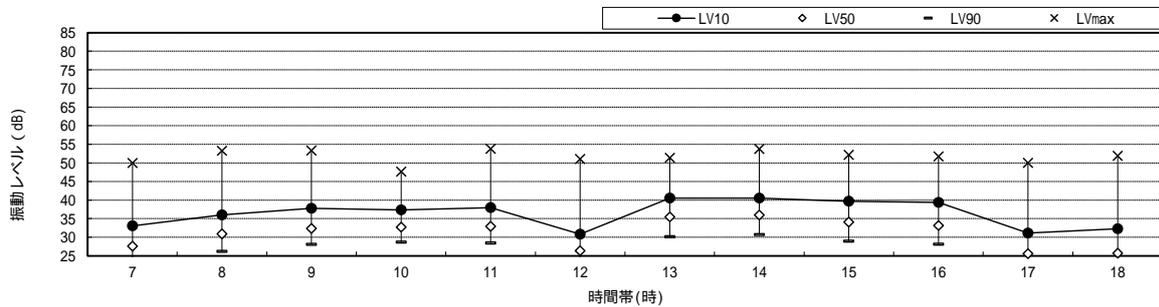


図1.3-1(7) 時間別振動レベル (No.)

表1.3-1(8) 時間別振動レベル (No.)

単位：dB

時間帯	振動レベル					
	L_{V5}	L_{V10}	L_{V50}	L_{V90}	L_{V95}	L_{Vmax}
7時	46	43	39	37	37	63
8時	51	47	42	39	39	65
9時	51	48	43	40	40	65
10時	50	47	42	39	39	64
11時	52	48	43	40	39	64
12時	50	47	40	38	37	64
13時	55	54	48	44	43	65
14時	55	53	47	43	42	65
15時	57	55	47	41	40	68
16時	50	47	41	38	38	64
17時	43	40	36	35	34	63
18時	43	39	36	35	35	64
平均	50	47	42	39	39	64
最大	57	55	48	44	43	68
最小	43	39	36	35	34	63

調査日時：令和6年5月22日(水)7時～19時

備考1 平均値 L_{Vx} は「算術平均」とした。

2 平均の算出は、1時間値がすべて25未満の場合は25未満とし、25以上の1時間値を含む場合は25未満を25として平均した。

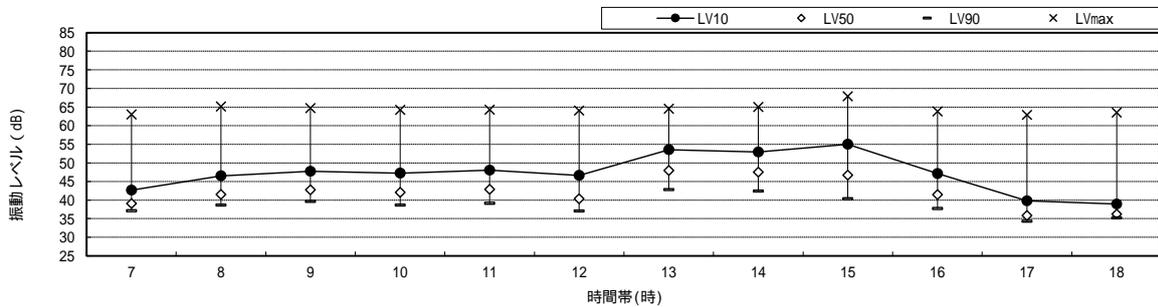


図1.3-1(8) 時間別振動レベル (No.)